2

0024448000

0024448-000

特２２８－３４１

共栄圏発展案内書

三平将晴・著

大日本海外青年会

昭和１７

ADE

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２３日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

KYOEIKEN HATTEN AN NAI SHO

共榮圈發展案內書

三平將晴著

DAINIPPON KAIGAI SEI NEN KAI

青年よ建設に雄飛せよ

大日本海外青年會

米英の壓政下に光明なき奴隷として、鐵鎖に繋がれてゐたアジア被壓迫民族を、米英の暴虐より開放、大東亞共榮圈確立の興亞の大進軍は開始されつつある。

我無敵陸、海、空軍の征くところ難攻不落を誇る敵の牙城も、鐵袖一觸にして屠り、行手を遮る者無く、今や米英の敵性撃を潜めて瞳若たり、渺々たる太平洋、寶刀一度、納走れば妖雲忽ち霽る。

聞け、南方に湧き上る住民の歓呼の聲に包まれ、占領地は今や感激も新たに脈々たる生氣を受けて、起ち上る十億のアジア人のアジア建設の雄叫びを、古き秩序を破壊して、清浄なる大地の上に、若きアジアの鼓動は世界に響いてゐる。

今こそ尊き戰果の後を受け、われら青年が建設の榮誉を擔つて雄飛の時は來た、猫額大の城廓に戀々として、寸土を墨守するより、汪洋たる未開の新天地に雄飛し建設に活躍の全力を注げ、島國根生を一擲し暢達な氣宇と雄渾な構想を以つて鵬翼圖南の時は來た。

見よ、北に東亞の大寶庫滿支大陸あり、南に秋と多なき豐沃の樂土共榮圈大南洋あり、我等の雄飛を待つ豐土沃地豈洋々たるものならずや。

我等はこれら未開の新天地の開發に當り、アジア建設に挺身協力、以つて天業を恢弘し八紘一宇の大理想の顯現に邁進、人類の大自然開發の使命を果さねばならぬ。

顧つて現下の我國に於ける海外雄飛指導施設をみるに、未だ完全といふを得ざるの實情にあり、爲めに折角の雄圖を抱き乍らも無爲に過す結果となる青年の極めて多きは邦家の爲め最も遺憾とする所なり。

われ等この實情に鑑み、微力を省みず紀元二千五百九十四年二月十一日帝國建國の佳辰をトし大日本海外青年會を創立し、以來九星霜海外雄飛思想の普及に努め、研究指導相談に當り、今日滿支大陸に、大南洋にと幾多拓人を雄飛せしめ會務愈々隆盛を加へ、今や會員內外を通じ十萬を號し、本邦に於ける民間唯一の海外雄飛啓蒙機關と稱されるに至れり。

今ぞ光輝ある新アジア建設の世紀の大業に際し、諸子の如き熱烈なる同志を得たり、益々之が研鑽邁進し國策に順應して神州青年の海外發展の實を擧げ、以つて大日本帝國の國威發揚に盡さんとする所以なり。

特228
341

共榮圈發展案內書

三平將晴著

大日本海外青年會發行

共榮圈發展案内書總目次

〔大南洋〕

南洋群島篇……一
　位置・地勢・面積
　沿革……二
　　群島の發見と西班牙領時代・マリアナ群島・カロリン群島・マーシャル群島・獨逸領時代・我國との交渉・占領前の邦人の進出・氣候・人口
　各主要島の情勢……七
　　テニアン島・ロタ島・パラオ島・ヤップ島・トラック島・ポナペ島・ヤルート島・新占領のグワム島・大島島・各主要島の人口
　行政の一般……一三
　　沿革・南洋廳・地方制度・警務・司法行刑・衛生・教育・通信
　主要産業事情……一七
　　概說・農業・牧畜・林業・鑛業・商業・水產業・產業施設
　島民の生業狀態……二五
　各島の主要產業……二六
　　農業・鑛業・牧畜・林業・水產業・工業
　各主要島案內……六二
　　ジヤバ島・スマトラ島・ボルネオ島・セレベス島・ニューギニア島
　邦人團體名簿……七五
　　スマトラ島・ジヤバ島・ボルネオ島・セレベス島・大東州諸島
　進出する事業會社……七九

舊英領ボルネオ篇……八二

　舊英領ボルネオ・氣候・衛生
（一）舊英領北ボルネオ事情……八三
　地勢・住民
　主要產業事情……八四
　　農業・林業・牧畜・水產業
　主要都市……八六
　　サンダカン・タワオ・ゼツセルトン・邦人の發展狀況
（二）サラワク事情……八七
　住民・サラワクの歷史
　各島の主要產業……八九
　　農業・鑛業・牧畜・林業・水產業・工業
　各主要島案內……九一
　　ジヤバ島・スマトラ島・ボルネオ島・セレベス島・ニューギニア島
　邦人團體名簿……九三
　　スマトラ島・ジヤバ島・ボルネオ島・セレベス島・大東州諸島
　進出する事業會社……九四

舊英領ボルネオ篇……九二

　舊英領ボルネオ・氣候・衛生
（一）舊英領北ボルネオ事情……九三
　地勢・住民
　主要產業事情……九四
　　農業・林業・牧畜・水產業
　主要都市……九六
　　ブルネイ・クアラベライト
　邦人團體名簿……九七
　進出する事業會社……九七

マレー篇……一〇一

　地域・面積・地勢・住民・氣候・衛生・言語・教育・宗教
　主要產業事情……一〇一
　　農業・牧畜・林業・鑛業・水產・工業
　主要都市……一〇五
　　昭南島・ピナン・マラツカ・クアラルムプール・イポー・タイピン・スレムバン・ジヨホールバル

ベトバハ・コタバル・邦人の發展狀況

邦人團體名簿……一〇九
進出する事業會社……一一一

フイリツピン篇……一一〇
地位・面積・氣候・沿革・人種と言語
主要産業事情……一一三
農業・林業・牧畜業・鑛業・水産業・工業
邦人の發展地ミンダナオ島……一一四
商業・林業・水産業
太田恭三郎氏の功績……一一六
主要都市……一一七
マニラ市・バギオ・セブ・ダバオ・レガスピ・イロイロ市・ザンボアンガ
邦人發展の狀況……一一八
邦人團體名簿……一一九
進出する邦人事業會社……一二〇
佛領印度支那篇……一二一
位置・面積・地勢・人口・風俗・言語・宗教・氣候
主要産業事情……一二七
概說・農業・鑛業・林業・畜産・貿易
主要都市……一二一
ラングーン・マンダレー・メイミヨ・プローム・モールメン・日本人會名簿
進出する邦人事業商社……一二五

印度篇……一二六
面積・人口・住民・言語・宗教・複雜な住民・土侯國・英國の侵略・壓政の史實・英國の統治・獨立運動・氣候
主要産業事情……一二一
農業・畜産業・鑛業
主要都市……一二三
カルカツタ市・ボンベイ市・ニューデリー市
セイロン島……一二四
人口・宗教・産業・コロンボ

濠洲篇……一二五
濠洲の略史・面積人口・氣候・英國の壓政・白濠主義
主要産業事情……一二九
概說・牧畜業・農業・鑛業・林業・水産業・工業
濠洲・はアジアへ

南洋渡航案内篇……一三四
內南洋と外南洋・渡航前の心構へ・渡航後の注意
渡航事情・就職の事情・南方訓練學校訓練所・南方拓士中央訓練所・自由渡航者
渡航の手續……一三八
旅券の下附・査證・入國金其他・渡航前後の届出・佛領印度渡航案內・タイ國渡航案內
占領地の渡航……一三九
渡航船賃・船會社の所在地
旅行上の注意……一四一
乘船から上陸まで・兵役關係・郵便・貨幣・携帶品

南方進出案內篇……一四六
南方建設隊軍屬の手續。ボルネオの護謨園……一四六
比律賓の貿易商社　南洋群島へ農業移民……一四六…一四七
大東亞海の汽船海員。比律賓の林業會社……一四七
南洋土木建築業界へ。タイピスト女事務員……一四八
南方行通譯の申込。拓南塾の申込事情……一四八
南方拓士訓練所。タイの林業。比律賓の工場へ…一四九

南洋の水産漁業へ。南方の鐵工、機械工場……一九九
マレーのゴム園に就職。ジャバのパパート……二〇〇
北ボルネオの邦人會社　ダバオの事業會社……二〇〇
佛印の鑛業へ就職。北ボルネオの農園……二〇一
昭南島の邦人商店。ボルネオの石油……二〇一
比律賓で麻栽培。洋服、理髪で南方發展……二〇一
南方の花嫁……二〇一
南洋の眞珠採取に發展……二〇二
東印度の事業會社……二〇三
南洋拓殖挺進隊。比律賓の大商店へ……二〇三
佛印の商業學院。南方の邦人收入……二〇四
マレー鑛業に就職。南方職業紹介所……二〇四
南洋の食物……二〇四
農業で南方發展。南洋邦字新聞……二〇五
熱帶産業研究所……二〇五
南方の言葉……二〇六
寶庫ニューギニアへ雄飛……二〇六
南方發展學校、養成所……二〇六
勞務登録者の南方發展……二〇六
青年南方派遣隊　海外中央同胞會……二〇七
海南島の農業移民手續……二〇七
共榮圈關係主要公共團體名簿……二〇八

〔大陸〕

滿洲篇……一
滿洲國地理概說……一
地域・面積・地形、山岳・平野・河川・氣候・降水量・住民・人口・種族別人口・各省別面積人口
滿洲國主要産業……五
農業耕地・耕地・農家戸數・主要作物・農業施設
農事試驗場・畜産・林業・水産・鑛業・大豆工業
食料品工業・纖維工業・化學工業・金屬工業・機械器具工業・其他の工業
滿洲國主要都市……一三
新京・奉天・哈爾濱・大連・吉林・公主嶺・新站
齊々哈爾・兆南・北安・海倫・綏化・佳木斯・牡丹江・寧安・呼蘭・延吉・通化・安東・撫順・營口・四平街・本溪湖・鐵嶺・瓦房店・開原・遼陽
蘇家屯・鞍山・熊岳城・西安・鄭家屯・大石橋・錦州・朝陽・阜新・興城・北票・山海關・赤峰・王爺廟・通遼・札蘭屯・旅順・金州・普蘭店
在滿洲株式會社名鑑……四三
滿洲國就職事情……五〇

就職の方法・滿洲國の就職機關・物價と收入・渡航者の覺悟
滿洲渡航の手引……五三
渡滿のコース・服裝・携帶品の證明・通貨・關の兩替・稅關の檢査・入國者携帶煙草制限量・旅館・撮影禁止・特別地帶旅行者への注意
兵役法在滿特別規定摘要……五七
徵兵檢査・召集・其他・注意
朝鮮の滿洲農業移民……五八
幹部指導者の應募規定・中堅開拓民應募規定
青少年義勇隊・その他
滿洲農業開拓民申込内容事情……五九
拓け滿蒙・應募者の資格・申込みから移民するまで・政府の補助・移住地・氣候・開拓地・移民の衣、食、住・移民團の組織・産業の施設・移民村建設の順序・經農の方針・移民の收支狀態・年齢の制限に就いて・健康に就いて・結婚に就いて・職業・移民の大體の規準・供託金其他に就いて・申込の時期に就いて・訓練に就いて・移民の携帶品一覽・先語隊とはどんなものか・本隊渡滿後の兵役・むすび
滿蒙開拓青少年義勇軍申込内容事情……六九

北支篇

支那……七五
面積・氣候・人口・年號と年數
「華北」北支那……七八
面積・人口
北支の主要産業……七九
農業・主要農産物及産額・棉花の增産計畫・牧畜
林業・鑛業・鹽業・工業
北支那主要都市……八〇
北京・天津・青島・濟南・通州・芝罘・秦皇島・唐山・太沽・保定・定州・石家莊・彰德・新鄉・鄭州・滄州・兗州・臨城・棗莊・朔縣・太原・臨汾運城・海州・徐州・開封『蒙疆都市』厚和・張家口・包頭・大同・宣化・張北
北支那邦系事業會社……八九
金融業・電氣業・開發投資・交通・航空・航運・

鑛業・洋灰業・化學工業・鹽業・棉花・製紙・煙草・土地・建物・其他工業
北支に進出する邦系商社工場……一〇五
北支への就職に就いて……一〇八
支那の勞働事情・就職の方法・北支に於ける就職の機關
北支進出案內……一一二
渡航の手續・北支行のコース・奥地への料金・汽船・航空渡航者の心得・旅裝と稅關・旅館に就いて・支那渡航者の兵役關係・支那の度量衡

中支篇……一一六

「華中」中支那……一一六
面積・人口
中支の主要產業……一一六
農業・中支主要農產物・畜產・林業・水產業・鹽業・鑛業・工業・化學工業・油脂工業・窯業・重工業・食料品工業・其他工業
中支那主要都市……一三五
上海・蘇州・杭州・無錫・鎭江・南京・蕪湖・安慶・九江・武漢三鎭・沙市・宜昌・重慶・成都
中支那邦系事業會社・商社・工場……一四六
振興關係・銀行・金融・貿易商社・百貨店・紡績工業・金屬工業・化學工業・食料關係・窯業・木材・石材・製紙・印刷・纖維染色・其他・船舶運輸
中支に於ける就職に就いて……一六一
上海の勞働事情・中支の勞働賃銀・中支の就職事情
中支進出案內……一六二
渡航の手續・中支へのコース・航空・旅裝・その他・渡航後の注意

南支篇……一六五

「華南」南支那……一六五
南支の氣候・人口・面積
南支那の產業……一六七
農業・鑛業・林產・水產・工業・南支各省別主要產物
廣東省の事情……一七一
地勢・主なる河川・港灣・半島・島嶼・我が國との關係・農業・養蠶業・畜產・林產・水產・工業・鑛業

福建省の事情……一七六
地勢・河川と海岸線・我が國との關係・農業・家畜・林業・水產・鑛業
南支那主要都市……一八〇
廣東・汕頭・揭陽・潮陽・潮安・佛山・中山・新會・北海・福州・厦門・三都澳・永春・莆田・長汀・齋溪・吾州・南寧・桂林・廣州灣・澳門
新生の香港島……一八八
南支進出邦系事業會社……一八九
南支進出案內……一九一
渡航手續・南支へのコース・支那への航路・服裝その他・主要都市在留邦人數

海南島篇……一九三

位置・地勢・氣候・面積・人口・住民・教育と文化
主要都市……一九七
海口市・瓊州市・嘉積市・金江市・便民市・新英市・那大市・新興市・南豐市・萬寧市・和樂市・博鰲市・北關市・藤橋市・三亞市
產業事情……二〇〇
農業・海南島の地價・勞働賃銀・牧畜・林業・漁業・鹽業・鑛業・工業・商業
海南島各縣案內……二〇七
瓊山縣・定安縣・文昌縣・瓊東縣・樂會縣・澄邁縣・臨高縣・儋縣・昌江縣・感恩縣・崖縣・陵水縣・萬寧縣
渡航方法……二一六
進出する邦系事業……二一七

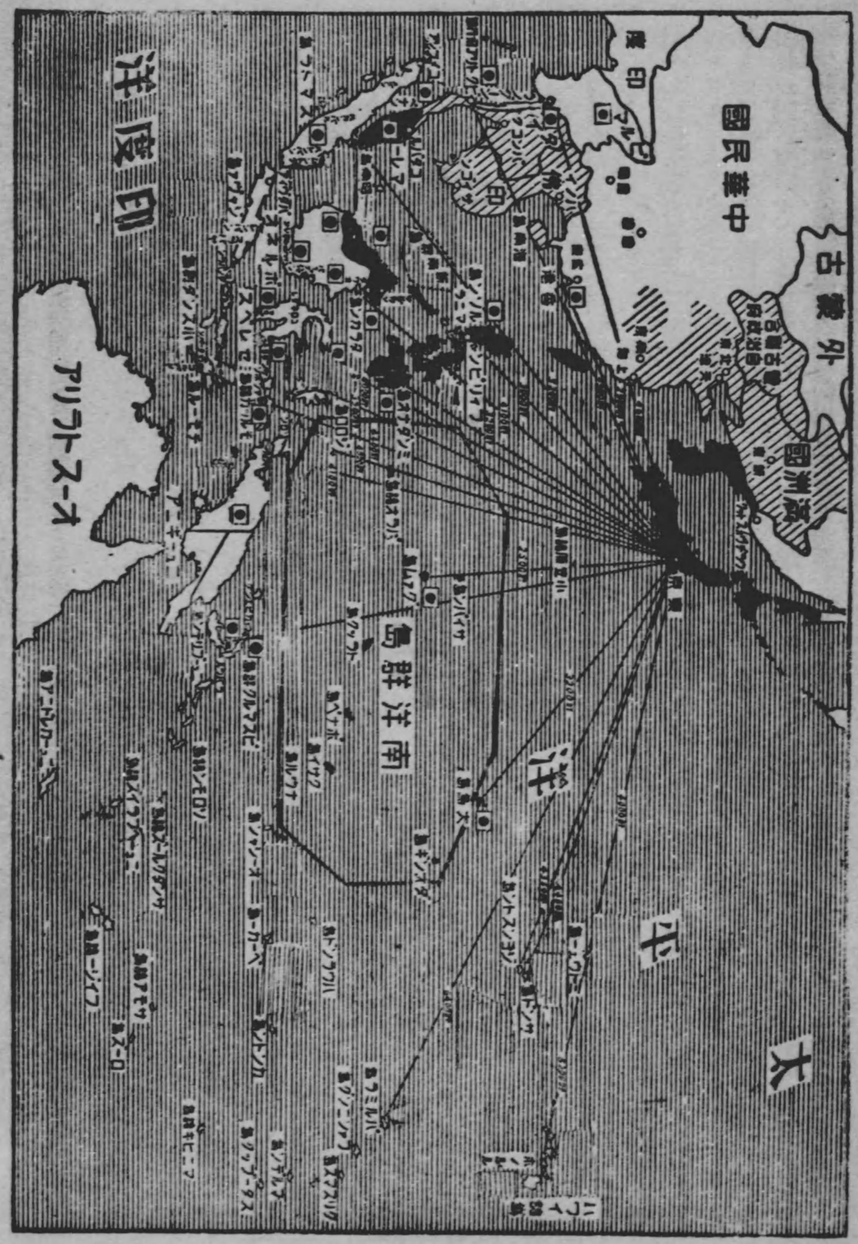
大陸進出案內篇……二一九

滿鐵の見習社員。半島青年の滿洲開拓……二一九
大陸の自動車運轉手。昭和製鋼所入所希望……二一九
稅關吏になりたし。滿洲國警官。滿洲警察界へ……二二〇
大工、左官で大陸へ。滿洲の鐵道員……二二一
大陸で藥劑師として發展。滿鐵社員に就職希望……二二二
產業技術官。林業に發展したし。鑛山に就職希望……二二二
農林技術員。稅務官吏。專賣局職員……二二二
開拓士。大陸の自動車、飛行機會社……二二三
電氣技術者。滿洲官界に雄飛。滿洲の職指導所……二二四
營利職業紹介所。內地より就職するには……二二五
滿洲の邦字新聞。林業製材方面。中等教員……二二五
鐵道警護隊。義勇軍。義勇軍幹部。大陸で看護婦……二二六
大陸の商工業界希望。滿洲國の軍人……二二七

共榮圈發展案内書

大南洋

義勇軍の寮母の手續。大陸か南洋で印刷工……二二七
開拓醫學院。滿洲の小學教員……二二八
滿支のデパート店員。渡支の手續……二二八
北支行のコース。上陸地より奥地への汽車賃……二二九
渡航者の心得。書葉に就いて。商品見本と商品……二三〇
商買道具の持參。タイピスト、電話交換手……二三〇
看護婦、産婆は。支那で醫院開設。鍼灸で大陸へ……二三一
勞働目的で大陸へ。醫師として就職……二三二
支那の鑛山に進出。現地除隊後の就職……二三二
北支で棉花を。商店に就職したい。洋服職人……二三二
理髪職人。支那の土木技術者希望。滿洲北支物價……二三二
一旗組。北支の職業指導所は。北支鐵道警務員……二三三
軍屬の申込手續。大陸の花嫁訓練所……二三四
女事務で大陸へ。北支鐵道員。支那貿易界に活躍……二三四
大陸で速記者。宣撫班員となるには……二三五
支那の官吏になりたし。支那語通譯になるには……二三五
渡支後の指導機關。支那で大學に入學……二三五
上海のコース。鐵道院希望の少年。支那の鐵
工場へ……二三六
上海工部局巡査。日本人小學校教員。中支鐵
道會社……二三七
飲食店開業。支那學童教育に從事。支那の邦
字新聞……二三七
無線電信員。支那の紡績會社。南支廣東へ渡
るには……二三九
廣東で求めてゐる人々。中南支那で農業……二三九
南支か海南島で牧畜業。中南支で電氣屋……二四〇
南支で洗濯屋。軍屬として大陸へ。牧畜業に就職……二四〇
海南島の漁業へ。海南島の護謨園。鑛業へ就職……二四一
海南島の電氣事業。海南島へ農業移民……二四一
農業に進出邦人會社。林業事業……二四二
海南島へ農業で發展。大商店に就職……二四二
海南島の電氣通信。海南島の自動車へ就職……二四二
海南島の會社事務員。海南島の渡航……二四三
海南島への徑路。海南島行の訓練所……二四三
相談申込規定……二四四



南洋群島篇

位置

——南洋篇——

南洋群島とは小笠原島の南方、赤道以北の太平洋上に散在する舊獨逸領たりしマリアナ、カロリン、マーシャルの三群島を總稱したるものにして、東經百三十度より百七十五度、北緯零度より二十二度に及び、其包容する海面は東西二千七百浬(約千里)、南北一千三百浬(約五百里)に達してゐる。

之を大觀すれば、北東遙かに米領布哇を望み、西は比律賓群島及セレベス島に、南はニューギニアに對し、北は小笠原諸島及硫黄島に連つてゐる。

地勢

南洋群島の地勢は、マリアナ群島は小笠原諸島に連りて北より南に走り、カロリン、マーシャルの二群島は赤道と平行して東西に連り、三群島の布置は逆T字型をなす。

南洋群島の各島は火山岩及珊瑚礁より成るものにして、唯ヤツプ島のみは古紀變質岩類系の結晶變岩類より成つてゐる。

南洋群島は、島嶼數は實に一千四百餘を算するも、その總面積は約二千百四十九粁にして、沖繩縣若しくは東京府の面積に相伯仲してゐる。最も大なるはポナペ島及パラオ本島等にして、三百七十方粁(約二十四方里)に過ぎない。從つて地勢として特筆すべきものなけれども、地質上火山岩より成るものと、珊瑚礁より成るものとに依りて、全くその趣を異にす。即ちマーシャル群島は、いづれも珊瑚礁にして、水面上僅かに五呎內外の低平なる陸地であるが、マリアナ、カロリンの兩群島は、火山岩を母岩としてゐるに依り、地勢一般に急峻狀である。小群島中に無人島も少くない。

山嶽は概して低く、七百五十米を超ゆるものなく又河川は大なるものなく、溪流にして舟楫の便はない。

面積

南洋群島の群島、島數及びその主要島の面積を表示すれば次の如くである。

群島別面積及島數

群島別	島數	面積(方粁)
マリアナ(舊米領グアム島含まず)	一四	六三九
カロリン	五四九	一、三二〇
マーシヤル	六〇(更に八百餘の礁島に別れる)	一九〇
計	六二三	二、一四九

支廳管區別面積と島數

支廳別	島數	面積(方粁)
サイパン	一四	六三九
ヤップ	八五	二二六
パラオ	一〇九	四七八
トラック	二四五	一三二
ポナペ	一三八	五〇四
ヤルート	三二	一七〇
計	六二三	二、一四九

主要島別面積

		方粁
マリアナ群島	サイパン島	一八五
同	テニアン島	九八
同	ロタ島	一二五
西カロリン群島	ヤップ島	二一六
同	パラオ本島(パベル・ダオブ島)	三七〇
同	コロール島	八
同	アンガウル島	八
東カロリン群島	春島	二二
同	夏島	九
同	水曜島	二三
同	ポナペ島	三七五
同	クサイ島	一一六
マーシヤル群島	ヤルート島	八

沿革

群島の發見と西班牙領時代

今を去る事三百五十年、第十六世紀の頃歐洲に於て航海術の發達するや、西班牙、葡萄牙の探檢者は競ふて東西に航し、前人未踏の陸地の發見に從事したりしが、我が南洋群島も亦これ等の探檢者により發見せられたものである。然れども茫洋たる太平洋上に散在する孤島なるを以つて、發見の時期同じからず、三群島中マリアナ群島は最も早く他の二群島中カロリン群島はマリアナ群島と殆んど同時代に屬するも、文明人が之に手を着けたるは最も後代に發見せられたるマーシヤル群島と殆んど同時期にして、今より僅かに五十餘年前の事である。

マリアナ群島

本群島は南洋群島中最初に發見せられたるものにして、西曆千五百二十一年葡萄牙の航海者マゼランにより發見せられ、千五百六十五年始めて西班牙國の領有になれるもので、當時西班牙皇帝フイリツプ第四世の皇后マリアナが、土人敎化事業に力を注ぎたることあり、其の恩德を頌たんが爲に、同皇后の名を冠し、マリアナと命名したりと傳へらる。

當時西班牙は、比律賓及グアム島經營の餘勢を以つて本群島の施政に當り、敎化、開拓に力めたるが、その施政宜敷きを得ざりしためか、屢々土人の叛逆に遭ひ、大虐殺を行ひたる結果、土人の人口激減したりと傳へらる。斯くて西班牙は本群島に於て何等見るべきものなく、空しく領有の名を有するに過ぎざりしが、一八九九年米西戰爭起り、敗北の結果、グアム島を米國に割讓するの止むなきに至りたるのみならず、戰後財政の困難甚だしく、獨逸の提議により遂に本群島及カロリン群島を併せて、西貨二千五百萬ペセタ邦貨九百六十萬圓を以つて、之を獨逸に賣却せるものなり。

カロリン群島

本群島はマリアナ群島發見後六年、西曆千五百二十七年葡萄牙人ティエゴ・ダ・ロシヤに依り發見せられ、次いで西班牙人によりヤップ以東トラック、ポナペ、クサイの島々を發見したりと謂はる。當時西班牙國王カロロ第二世の名を採りてカロリン群島と名づけられた。爾來西班牙は比律賓を根據地として、同國舊敎に屬する宣敎師を送りて土人の敎化に力めしも、殺戮相次ぎ布敎意の如くならず居りしが、千八百八十五年當時植民地獲得に汲々たる獨逸は、マーシヤル經營の餘勢を驅つてその領域を擴張せんとし、軍艦を派して中心のヤップ島を占領するに及び、獨、西兩國間の爭奪葛藤を生じ、遂に時の羅馬法王レオの仲介に依り獨逸の商權を認むると共に貯炭所設置を認容して、本群島は西班牙領と爲し、漸くその局を收めたり。その後西班牙政府は、官吏宣敎師等を派してその敎化開拓に當れるも政策酷に失して治績擧らず、却つてポナペに於て土人の叛亂に遭ひ、これが防禦警備に暇なき狀態におかれてゐた。偶々米西戰爭に逢着し敗戰後にマリアナ群島と併せて遂に之を獨逸に賣却するに至つた。

マーシヤル群島

本群島は南洋群島中最南端に位し、その歷史も亦異る。その發見せられたるは、千五百年代なりとも或は千七百年代なりとも謂はれ、正確でないが、廣く世に紹介せられたるは千七百八十一年英國船長マーシヤルの探檢により發見せられ、初め英領なりしも、その領有根據薄弱たるに乘じ、獨逸は千八百七十七年軍艦を派遣して酋長と交歡を結び、

夏に千八百八十五年遂にヤルート島、その他の諸島を完全に略取するに至れり。次いで千八百八十八年英獨協商の結果ギルバート諸島及ナウル島は獨領と定めた。斯くして南洋群島は獨逸の掌握する處となつた。

獨逸領有時代

南洋群島が文明人に交渉を有したる跡を求むるに、マリアナ群島に於ける西班牙人の足跡は、約三百五十年の昔に遡り得べしと雖も、その傳ふる所は土人の暴動とその虐殺の口碑にのみ、事蹟は歳月と共に湮滅して今にして、探ね得ざるもの多し。

茲に南洋群島の歴史を敍せんとせば、マリアナ、カロリン兩群島に在りては、西暦千八百八十八年に西班牙國の主權の確立に、マーシヤル群島にありては同じくその前年に於ける獨逸の完全なる領有に、その紀元を置かなければならない。マーシヤルに於ける獨逸の施設は姑く置き、マリアナ、カロリンの二群島に於ける西班牙の經營は、その對策宜しきを得ざりしか、或ひは衝に當るに、その人を得ざりしか、領有十四年間にして治績の尋ぬべきものなく、唯ヤップ島ボナペ島とに叛亂に備へた防禦的施設を殘してゐるに過ぎない。これに反して獨逸の保護領となりし以來その獲得に熱心なりしだけ、その經營に努力の跡見え、領有十六年間に於ける施設經營今にして事績見るべきもの少しとしない。

以上の如く獨逸が統治する事十六年、西暦千九百十四年我が大正三年、歐洲大戰の結果我國は日英同盟の約を以つて我が海軍南遣支隊の占領する所となり、以來我國の統治領となり施政するに至つたのである。

我國との交渉

南洋群島と我國とは水路一直、南下すれば八丈島、小笠原島とに連りたる地域にあり、有史前或は有史後、我國と何等か交渉ありたる事を思はしむるものあるも文獻に徵すべきものなく、唯僅かに口碑傳説による以外にない。近世に至り我國と南洋群島との交渉を摘記すると、

軍艦の寄港　明治十七年軍艦龍驤が海軍兵學校卒業生を乘せて遠洋航海の途次ボナペ管内のクサイ島に寄港せり、酋長は我が軍艦を見るや大いに悦び來訪して曰く「口碑の傳ふるところに依れば我等の祖先は日本人なり、我等は實は日本人の子孫なり」と誠意を披きて歡迎したりと謂ふ。この事實は内外に傳へられ「クサイ」は九州の訛音なりといふ者ありたりといふ。

邦人の虐殺事件　同じく明治十七年、横濱澁洲間を交通する英國帆船エーダ號はマーシヤル群島、ラエ島にて漂流日本人の虐殺せられたるを報ず。外務省はこの報を得て御用係後藤猛太郎、鈴木經勳の兩氏等をエーダ號に便乘事件を調査せしむるに決し、一行は九月一日横濱出帆、同月二十三日マーシヤル群島ウジヤエに到着し、酋長に談判して

謝罪せしめた。この事件を報じたるエーダ號には數名の日本人が水夫として乘組居れりといふから、邦人は當時屢々南洋群島に往來したるものと思はれる。

尚明治二十九年宮城縣人、赤山柏次郎氏は當時スペイン領水曜島に於て土人に虐殺された事件あり、この時スペインより一萬五千圓の賠償金をとり解決せり。この南洋開拓の犧牲者赤山氏の爲、榎本武揚子は「海客埋骨の碑」と題した墓碑を建立した。

占領前の邦人進出

我が邦人の南洋方面發展は故榎本武揚子及田口卯吉博士等の南洋發展論を唱導したる前後より起りたるものにして地理上最も本邦に接近したるマリアナ群島は占領當時既に邦人商人の勢力範圍に在りて外國人の侵入の餘地なき狀態にありたりと謂はれ、西部カロリンに於ても邦人は常に獨逸商人との競爭に打ち勝つの趨勢にあつた。

その最も有力なる貿易業者は南洋貿易株式會社である。同社は明治二十六年、和歌山縣の人三本氏等が資本僅かに二千餘圓を以つて、南洋貿易組合を組織したるに始まり、以來幾多の困難と戰ひつゝ奮闘を續け、事業漸次隆盛を加へ、後十五萬圓の株式會社に改めて椰子の買入れや雜貨の輸出販賣を營み、東京に本社を、サイパン、トラック、ボナペ、ヤップ、パラォの諸島に支店出張所を設け、獨逸商人と商戰を爭ひ、壓迫に堪え、巧みに島民を收攬して勢力の扶植に努めた。大正三年我國の占領成るや、多年扶植せる商權を擁して群島貿易に雄飛し、今日の飛躍を見たものである。

それよりも早く明治二十三年田口卯吉氏、東京府士族授産資金四萬四千圓を以つて南島商會を組織し、帆船天佑丸九十一噸を購入して鈴木經勳外十數名と共に乘組み、横濱を出帆、小笠原からグアム、ヤップ、パラオ、ボナペ等の諸島を巡航し、行く先々で物々交換の交易を行つて歸國した。この時ボナペに南島商會の支店を設け、邦人活動の一礎石を置いたのは邦人商店の嚆矢であつた。その後業務を一屋商會の商號に之を繼續したが、收支相償はず明治二十八年頃解散となつた。

同じく明治二十三年横尾東作氏の恒信社が本社を東京に支社をパラオ、トラックに置き、貿易事業に從事した。一時資本金を五萬圓にして南洋貿易船グアム丸の所有者上田某と合併經營にしたるも、事業振はず、大正三年我が占領前までその事業を繼續してゐた。

明治二十五年頃小林富次郎、服部新助、原元義氏といふ人等が共同で相陽丸といふ三十噸の船にて群島貿易に從事物々交換で交易せる事もあり、明治三十年頃日本橋小網町の野中萬助氏が、二百噸の帆船湊川丸にてグアム、サイパン、ニューギニア方面まで進出をした事なども傳へられてゐる。

その他に單獨にて群島に進出拓植に從事せるものも少く

ないが、當時西班牙及獨逸領にして彼等の壓迫諺からず。ために幾多の邦人が苦闘し、受難と犧牲と勇壯な活躍を南洋開拓史に殘してゐる。

氣候

南洋群島は、其位置赤道に接し、全島悉く熱帶圏内にある故、半熱帶の臺灣などと異なり、我版圖中では異彩を放つてゐる。溫帶地の如く四季の別なく、一年を通じて溫帶夏季の氣候にして所謂「常夏の國」である。然しながら各島とも太平洋上に碁布星座する島なる故、海風常に島上に吹き、純然たる海洋性氣候にして、晝夜の別による氣候の差も極めて少い。

熱帶焦熱の氣候を想像して渡來する者の齊しく意外とするところである。群島は熱帶特有の風土病マラリヤなく、又毒蛇、猛獸の棲息するものなく、年中夏衣一枚で過せるといふ天惠の地である。

全群島を通じて殆ど氣溫は同じく、又一年を通じての變化も極めて尠く、一日中の最高溫度は平均攝氏二十九度四にして、最低溫度は二十四、五度、平均は二十六度内外である。

雨量は全群島を通じて降雨量極めて多く、各地多少の差あるも、之を平均して一年三、〇〇〇粍以上に達する。之を内地の平均雨量一、七〇〇粍に比すれば、約二倍に相當する事になる。

日々數度の降雨があり、一抹の黑雲現るゝや沛然車軸を流す如く降つて、忽ちからりと霽れ渡る。これがいはゆる「スコール」であつて、一方には農作物の灌漑にもなり、他方には炎熱の緩和劑にもなるのである。

ボナペ島は群島中一番雨量多く、一年四、〇〇〇粍に達するのを常としてゐる。群島は乾濕期の劃然たるものなきも、概して毎年七月から九月頃までを雨期とし、一月から三月頃までを乾燥期とされてゐる。又十一月から翌年四月頃まで北東若くは東の一定した風が吹く、之が即ち貿易風「モンスーン」である。

群島は目下天水を貯藏して飲料水としてゐるのが普通である。

南洋群島は氣象の變化少く、偶々颱風の發生すべき變化を起すことがあるが、其の低氣壓は概ね幼年期に屬し、從つて暴風に達することは稀である。

人口

南洋群島に於ける最近の調査による人口は全部で約十一萬五千人で、中島民は約四萬四百人、邦人は七萬五千人、外國人は約百二十人である。

島民人口四萬四百人中カナカ族の人口は三萬六千七百人にして、その大部分を占め、チヤモロ族は僅かに三千七百人に過ぎない。チヤモロ族は人口增加率高きもカナカ族は甚だ低く、全群島を通じて現狀維持の狀態に在る。殊にヤ

ップ支廳管内のカナカ族の如きは逐年減少の傾向にある。

邦人は大正三年占領當時僅かに數千名に過ぎざりしが、漸次飛躍的發展を示し、現在七萬五千人に達してゐる、うち男は四萬五千人、女は約三萬人である。その大部分はサイパン支廳管内に居住し、多くは農業に從事してゐるが、近時パラオ、ポナペ等の産業發展に伴ひ進出者は增加されつつある。これを本籍別にすれば沖繩縣最も多く、福島、鹿兒島之に次ぎ、殆ど全府縣に亙つてゐる。朝鮮、臺灣、樺太に籍を有する者も現在數百人に達してゐる。

外國人は占領當時獨逸人宣教師最も多く、商人等約百名の在留ありたるも、其後獨人は退島し、僅かに英、米人等十四名に過ぎなかつた事がある。大正十年西班牙宣教師修道士等三十餘名來島の外、白耳義、獨逸人等次第に入島し現在上記の數となり、大半は宗教關係者にして、その他は椰子栽培、コプラの仲買等で農林業又は商業に從事する者である。

主要島の情勢

サイパン島

サイパン島は南洋群島中一番内地に近く、横濱より航路一二八五浬、六日目に到着する島である。群島第一の發展地にして面積は十二方里、約二萬町歩、本島は獨逸領時代より開發せられ、我國占領當時既に南洋興發の前身である西村拓植、南洋殖産會社等によつて企業せられた島にして植民史上に古き歷史を有してゐる。

土地は比較的平坦にして地味肥沃なれば、その多くは農耕地に利用され、南洋興發株式會社を始め南興農産、南洋タピオカ、南洋コーヒー、太洋商店、太平洋貿易等の主なる事業會社は本社を此の地に置き、商戰に或ひは工場、農場を經營に活躍してゐる。

水産業も近來旺んにして鮪漁業、眞珠貝等に企業會社も數會社が發展されてゐる。

ガラパン町は電信、電話、電燈は勿論乘合自動車等の施設も完備し、各種商工業は急激に發展し、逐年繁盛を見せてゐる。

主なる社會施設としてはサイパン支廳、地方法院、彩帆神社、郵便局、醫院、熱帶産業研究所、實業學校、彩帆高等女學校、國民學校、公學校、日刊新聞には南洋每日新聞あり、常設映畫館二、劇場も一つある。

チヤランカに南洋興發會社の本社及農場（第一第二第三農場）製糖工場があつて、これ等從業員の住宅地は小市街

ゐる。

南洋興發は本島に製糖工場を經營し、約二千町歩の甘蔗耕作を經營する外、南洋ココア會社其の他の産業會社が本島を舞臺にキヤツサバ、カカオ、パパイヤ等の農場及工場を有して活躍してゐる。

最近同島高地サバナに於て埋藏量三十萬噸の燐鑛が發見せられ、興發により採鑛事業が開始され、同島の新興事業として早くも活況を見せてゐる。

ロタ島は群島中珍らしく水源に惠まれた島で、市街地や農場等には水道が敷設されてゐる。市街も整備されてをり郵便局、公會堂を始め、映畫館等の娯樂機關も設けられてゐる。商店街は多くはサイパン、テニアン島の支店になつてゐる。

パラオ島

パラオとは一般にパラオ、コロール町と云はれてゐるコロール島及パラオ本島等の總稱である。

コロール島は面積〇、五方里の島であるが、南洋廳の所在地にして、群島行政の中樞である。

コロールには南洋廳を始めパラオ支廳、高等法院、地方法院、郵便局、醫院、觀測所、高等女學校、國民學校、公學校等の官公衙の外南洋拓殖株式會社を始め、その傍系會社たる南洋アルミニユーム、南洋鳳梨、南洋汽船、南拓興業、豐南産業、南洋電氣、東洋電化等の諸會社、南洋貿易

を形成もて發展してゐる。

テニアン島

サイパン島より一八浬航路二時間半で行ける島である。面積は六方里三五、約一萬町歩の島である。南洋興發の主たる事業地であり、全島の七千町歩が甘蔗耕作地となり、甘蔗六億斤を生産する有力なる糖産地である。在住人口のその大半は興發關係の者といつた島である。

テニアン島は昭和二年頃までは邦人は僅か十數名、山に野豚が住んでゐたといふ島であるが、昭和三年に製糖業が開始され、今では全工場製糖能力二、二〇〇英噸、東洋一の製糖工場を有する島となつた。

テニアン町は昭和五年新市街地を施いた町で、殊にカーヒー、チューロー等が小市街を形成してゐる。

各會社、商店の多くはサイパンの延長の如くであるが、新進の商人も多く、今後の發展を期待されてゐる。

サイパン支廳出張所、郵便局、天仁安神社、國民學校、映畫館一、劇場一、曹洞宗布教所、眞宗布教所、尚有名なタガ族の遺跡がある。

ロタ島

ロタ島は面積は八方里の島である。本島の市街地は、島民を一ケ所に纏め、邦人を以つて市街地を形成してゐるが、市街地美は勿論、島民の指導敎化に良き結果を擧げて

株式會社の本社があり、各種産業團體の本部が設置されてゐる。新聞日刊「南洋新報」があり、コプラ、鰹節、眞珠貝その他の集散地として、各種商工業も年々發達を示してゐる。

パラオ本島は面積二十四方里餘でボナペに次ぎ、群島最大の島にして、各事業會社の事業經營地であり生産地で、アルミニユームの原鑛たるボーキサイト採掘、南洋鳳梨の罐詰工場、豐南産業の栽培農場、南洋拓殖等の事業が盛に進出され、本島開拓は進捗されつつあり、南洋廳の區劃植民地瑞穗村、朝日村、清水村、大和村等が設定される等拓殖事業は一大進展を見せ飛躍されつつある。

離島のマラカル及アラカベサンの二島の鰹節製造事業は盛大を極め、南興水産、パラオ水産等其の他數社が活躍され、鰹節製造工場、製氷工場等の各種施設が完備繁盛されてゐる。

アンガウル島は燐鑛島として名高く、現在南洋拓殖會社により、採鑛が進行されてゐる。燐鑛は內地に移出され、製肥工場に於て硫酸を混和して、過燐酸石灰肥料として使用される重要資源である。

ヤップ島

ヤップ島は總面積十四方里、島民は未だ原始的の域を去る事遠からずで、生活は原始的であり、服裝は今尚裸體跣足を風としてゐる。男子は褌一點、婦人は草木の纖維をも

つて造つた腰蓑を腰部に纏ひ、上半身は裸體の風である。

邦人の進出は未だ少く、その殆どは未開墾地であるが、愈々南洋拓殖株式會社が本島の開拓に乘り出し、現在開拓が進められつつあり、南洋鳳梨會社のパインアップル罐詰工場の進出等により産業開發は進捗されつつある。その他牧畜及水産等の計畫もされて居り、今後の發展は各方面に大いに期待されてゐる。近時邦人は次第に進出され新企業が進められてゐる。

産業としてはコプラ、高瀨貝、鰹節を産す。コロニーは南洋支廳の所在地にして、南洋支廳、郵便局、醫院、國民學校、公學校その他がある、邦人雜貨商の多くはパラオの支店である。

猶群島海底電信の中心地として有名な地である。

南洋拓殖によりヤップ開拓のため南洋開拓挺身隊を組織し、青年拓士を以つて開墾事業が進められてゐる。

トラツク島

トラツク支廳管內は島數二四五に達するも、面積は全部で八方里にして比較的大なる島には四季、七曜の名を附したるものがあり、その中、春島一、四三方里、夏島〇、五八方里、水曜島の一、五一方里等が大なるものである。

トラツク島はサイパンの東南六六〇浬、パラオ島とヤルート島の稍々中間に位す。南は皇軍の占領したビスマルク群島に對峙してゐる。將來日滿貿易開始の曉は重要なる地

點である。現に南太平洋への遠洋漁業の據點として刮目されてゐる。

各島は土地狹く、陸産物としてはコプラ等が主要産物にして椰子葉の帽子原料、香料植物等である。水産業は近時活況を呈し、鰹、鮪等の海洋資源多く、群島水産界に重要なる立場を占めてゐる。

トラック島民は群島中比較的智能發達が低く、野生の生活の風習が行はれてゐる。これは從來交通至便ならず、文化に接する機會尠なかりしによるものであらう。島民は一萬五千で群島中一番多く、カナカ族である。

南洋廳支廳は夏島に在る。市街に國民學校、公學校、醫院、郵便局等公共施設は完備されてゐる。

ポナペ島

ポナペ島はその面積二四、三四方里にして南洋群島第一の大きな島である。

本島は最近各種新産業が勃興され、南洋興發、南洋拓殖、南洋貿易、南拓鳳梨、南洋産業、南洋拓殖興業等の各會社が續々と進出新事業開始を見、今や群島の新寶庫として飛躍的發展を爲し新興ポナペとして躍進してゐる。

南洋興發はタピオカ澱粉製造所を設け本島を舞臺に活躍し、南洋貿易は椰子樹の植栽に進出、南洋産業のキヤツサバ、トバ等の新特産物生産に、南拓鳳梨はパイン罐詰工業等、その他水産業も近時活潑なる進出を爲しつつあり、海に陸にと本島の開發は進められ、今後の發展は一般に期待されてゐる島である。

春木村は南洋廳の選定植民地にして米作、棉作、鳳梨、タピオカその他特産物の栽培盛であり、南洋鳳梨の繊詰工場等諸種の産業施設も完備されあり、將來ポナペ産業の中心をなすであらう。

島内には山あり、川あり、谷あり、瀧ありで、地味も肥沃である。水利による水力電氣、製氷等も既に實施されてゐる。

ポナペ島の公共施設として支廳、地方法院、觀測所、郵便局、醫院、熱帶産業研究所、國民學校、公學校等で、各事業會社の本支社、及製産工場等がある。市街地の商工業も逐年發展し、邦人も年々激增されてゐる。

ヤルート島

ヤルート諸島は南洋群島の最南端にありて、島數三十二でその總面積十一方里である。

ヤルートはその面積〇、五一方里にして全島悉く珊瑚礁よりなつてゐる。島の地面低く海面上僅かに五呎を出でない島である。

本島はその風土最も椰子樹の生育に好適され、到る處繁茂し、亭々たる樹幹は海面を壓してゐて、さながら椰子島を思はしむるものがある。

コプラの産額は、群島全産額の大半は本島に於て占め、

群島産業の主要地である。商人もコプラの買入れを中心に內外人が多く入り込んで貿易が盛である。

本島には獨逸領時代にヤルート會社を置き、群島開拓の根據地とした所であり、島民は早くより、文化人に接する機會多かりし關係上、その生活程度は群島中最も高く、島民にして洋服をつける者あり、業器を奏なでる者も中にはある。

主なる施設としては支廳、郵便局、醫院、國民學校、公學校、觀測所出張所其の他各企業會社がこの地に支店を置いてゐる。

新占領のグワム島

我が統治領南洋群島の中に只一島、星條旗を掲げ、米國の東亞前線基地として難攻不落を誇つたグワム島も、大東亞戰勃發するや昭和十六年十二月十二日我が皇軍の猛烈果敢なる敵前上陸により占領した。グワム島とはどんな處か位置は北緯一三度二六分、東經一四四度四三分、サイパン島の南にある長さ三二哩、幅四乃至一〇哩でその面積二二五方哩、我が內南洋群島中一番大きい島となつた。

人口は昭和十五年の調査によれば、二萬二千人、その中大部分を占めるはチヤモロ族で二萬五百、比律賓人が約二百人、歐米人が八十人、邦人が四十三人でその他は米國軍人官吏等であつた。

産業の主なるものとしては農業であつて、甘蔗の栽培に好適され、現在製糖はサイパン、テニアンで年産百萬ピクルであるが、グワムを開拓したならば二百萬ピクル內外の生産をあげる事が出來るであらうと云はれてゐる。コプラの年産は一萬五千噸でその一部は島內の工場で石鹸に加工されてゐる。

地下資源としては、燐礦とマンガンが有望な資源となつてゐる。

現在耕地は約三萬町歩で多少の水田はあるが島內の食糧の自給には遠く、現在佛印よりサイゴン米が輸入されてゐるが將來邦人の手により開發するなれば自給の見込みは十分であるとされてゐる。

未だ詳密なる調査なきも今後專門的立場より調査するならば産業的價値も多く、南洋群島の女王として發展されるであらう。

大鳥島

宿敵米國が東亞進攻の中間基地として恃むウエーキ島に對し、昭和十六年十二月二十三日午前十時我が陸戰隊が敵前上陸を敢行、完全にこれを占領した。

同島は北緯十九度十八分、東經百六十六度三十五分で、ビール、ウイルクス、ウエーキの三小島よりなり、全面積は僅か二平方哩、占領後これを大鳥島と改稱せる島で產業的價値はなく、軍事的島である。

主要島人口

支廳別	島名	邦人 男	邦人 女	島民 男	島民 女
南洋	サイパン	二、三三三	一〇、四五五	一、六九九	一、五四一
同	テニアン	九、一四四	六、四二一	三	二
同	ロタ	二、四〇一	二、〇五〇	四〇一	三四三
同	パガン	一四〇	四六	七五	二八
同	ヤップ	六四八	三九四	一、八二二	一、六四〇
同	パラオ	一、九五〇	一、〇八五	一、四八七	一、四四〇
同	コロール	四、七九八	三、二四四	五四三	三二七
同	アンガウル	九六九	三五三	六四三	三三五
トラック	春島	一〇四四	六四四	一、三四五	一、一二九
同	夏島	一、〇四八	三二七	七三三	五九九
同	秋島	三〇四四	一五九	六六一	六三三
同	冬島	三五五	三一	四五二	三二八
同	月曜島	六	四	二三五	二四七
同	水曜島	四六三	二一〇	八八一	八八〇
同	金曜島	二	二	二一七	二三三
ポナペ	ポナペ	三、〇四八	一、八四七	三、一〇六	二、六六六
同	クサイ	一四五	五〇	六八八	六七七
ヤルート	ヤルート	二八五	一七七	六九五	六五一

註（外國人ハ少數ニ付省略ス）

行政の一般

沿革

大正三年歐洲大戰勃發し、日獨の國交破るるや、我が海軍の南遣枝隊は直に南洋を衝き、當時獨逸の保護領たる太平洋中赤道以北に散在する南洋群島を占領し、同時に軍政を布き、臨時の治安維持に任じた。時に大正三年十月にして南洋群島に於ける帝國施政の肇である。次いで同年十二月臨時南洋群島防備隊條令發布せられ司令部をトラック島に置き、全群島を分つて五民政區と爲し、各區に守備隊を置き、守備隊長をして軍政廳長とし民政事務を兼掌せしめ玆に軍政の基礎を確立するに至つた。大正七年六月民政職員設置に關する勅令公布せられ、臨時南洋群島防備隊司令

官の下に民政部を設け、新に民政部長及事務官その他の職員を任令して從來の軍政廳を改め民政署と爲し、事務官を以つて民政署長に充て、各管內の民政事務に當らしめ、守備隊は專ら地方警備の任に當り、玆に群島民政の端緒を開くに至つた。

大正八年六月交戰國間に平和條約成立し、主たる同盟及聯合國の決議に依り、南洋群島は委任統治の名の許に永久に我が國の統治領と成れり。玆に於て帝國政府は南洋群島に於ける施政制度を根本的に改革するの必要を認め、行政廳設置の準備として、大正十年七月民政部を司令部と分離し、之をパラオ、コロール島に移轉、翌十一年三月從來の臨時南洋防備隊條令を廢し、軍隊を撤去すると同時に四月新に南洋廳を設置して今日に及ぶ。我國占領以來既に二十有餘年、その間、教育に、文化に、產業に、行政にと啓蒙開發に努力され、逐年飛躍的發展を示し、今やその面目は一新され、我國熱帶產業の寶庫として躍進途上に發展されつつある。

南洋廳

南洋廳官制は大正十一年三月勅令を以つて公布せられ、その後數次の改正を見た。現行官制は南洋廳に南洋廳長官を置き、拓務大臣の指揮監督を受けて部內の政務を管理することになつてゐる。うち郵便及電信に關する事務は遞信大臣、貨幣、銀行、關稅、度量衡及計量に關しては大藏、商工の各大臣の監督を承くる。

南洋廳の機構は長官官房の外、內務、拓殖の二部に分ち各部に部長を置き、長官官房には、秘書、文書、調査の三課、內務部には地方、稅務、財務、警務、土木の五課、拓殖部には農林、商工、水產、交通及遞信の五課並に物產陳列所を置き、各課に課長を、物產陳列所に所長を置き、事務官、警視、技師、屬又は通信書記を以つて之に充てゐる。

群島須要の島に支廳及支廳出張所を置き、戶籍、販恤、救濟、警務、衞生、徵稅、教育、宗教、產業、土木、港灣等其他の特別官制の權限に屬せる一切の行政事務を掌理せしめてゐる。

現在支廳はサイパン、パラオ、ヤップ、トラック、ポナペ、ヤルートの六ケ所に置き、サイパン支廳の出張所をテニアン島とロタ島に置いてゐる。醫院は六支廳所在地の外アンガウル島及クサイ島に、郵便局は六支廳の外アンガウル、テニアン、ロタの三箇所に、法院は高等法院をパラオに、地方法院をサイパン、パラオ、ポナペの三箇所に、氣象臺をパラオに、測候所を各支廳所在地に、熱帶產業研究所はパラオに置く、支所をサイパン、ポナペに置き、水產試驗所はパラオに置いてゐる。學校は各支廳所在地及その他の須要の地に設置されてゐる。

地方制度

邦人人口は產業發展により近年著しく增加され、漸次各地に集團部落を形成するに至つたので、昭和六年南洋群島部落規定を制定して、部落制度を設け部落內の公共的施設に當らしめ、又官廳事務を補助せしめてゐる。各部落には總代、副總代各一名を置き、且各部落に協議會を設けて諮問機關としてゐる。

島民にては島民中より村吏を任命して行政事務に關與せしめてゐる。チヤモロ族に對しては部落民の推擧による區長及助役を置き、カナカ族については舊慣により總村長及村長を置いてゐる。村吏の管轄區域は舊慣により定めてあり、その職務は舊慣に屬する事項の外、法規の周知、願書屆出の申達、支廳長よりの命令の傳達、又はその執行に關する事柄である。

警務

警察、衞生、消防、監獄等の事務は內務部警務課に於て管掌し、直接の執行事務は支廳である。特に重大なる事項を除く外は支廳長に警察權を與へ、部下職員の指揮監督に任じ之等事務を執行してゐる。

各支廳に警部補派出所、巡査駐在所及派出所を設置してゐる。又島民中より巡警を採用して之が補助をなさしめる等完璧を期してゐる。

司法行刑

裁判制度は地方、高等法院の二審制度、第一審たる地方法院はサイパン、パラオ、ポナペの三箇所に、高等法院はパラオに置き、民事刑事裁判及非訟事務を掌理してゐる。各法院に判事、檢事、書記を置いてゐるがポナペ地方法院にありては支廳警部をして檢事々務を取扱はしめてゐる。

支廳長及警視は、犯罪搜査に就いては司法警察官として地方法院檢事と同一の權限を有す。民事刑事の裁判事務は法院の取扱ふを原則として居り、法院の無い地では支廳長をして民事々件に關する一部の事務を取扱はしむる外、支廳長には輕微な刑事々件の卽決權を附與してゐる。

群島の犯罪は比較的單純な爲、科刑も一般に輕く、大部分は拘留科料程度のものが多い。サイパンには稍々完備した刑務所を設けて、長期受刑者を移監收容してゐる。

衞生

南洋群島は熱帶圈內に在りと雖も、氣候比較的良好にして居住に適し、他の熱帶地に見るが如き惡性の疾病少く、保健狀態良好である。唯、島內各島は多く狹小なる珊瑚礁島なるため、井水を得る事が困難で一般に貯溜天水を飲用することと、雨量多く濕度高きため、罹病の素因たる樣にして、又季節風は島により多少差異あるも、概して十一月より四月迄の間は北風又は東風常時あり、これが終始期に氣候の惡化あるため往々感冒の流行を見ることあり、島民は一般に衞生思想乏しく、迷信を固持して傳染病に對して傳

染性を信ぜず、疾病は神の所業と信じ、或は不治のものとして受療を避くるの弊あり、その衞生思想は未だ極めて低級である。當局に於てはこれら島民の生活狀態及衞生思想の善導に不斷の努力を注がれてゐる結果漸次改善に向ひつつありと云ふも、永年の陋習は遽に拔き難きものがある。

地方病としてはアメーバ赤痢、デング熱、フランペシア等で時折各地に散發するが、病狀は一般に輕く、デング熱は時々流行することあるも、豫後は良好にして不幸轉歸を見るもの稀である。フランペシアは多く島民に侵入してゐるが、最近サルバルサンの注射により偉效を奏し、漸次減少されつつある。尙マラリヤ熱は殆どない。

衞生施設としては各支廳所在地とアンガウル島、クサイ島に官立醫院を設置して公衆の診療に當つてゐる。テニアン、ロタ及パラオ本島朝日村には公醫を置き、開業醫の中より任命して一般の診療に當らしめてゐる。尙醫療機關のない僻地離島には巡回診療を行ひ、或ひは各巡査駐在所、國民學校、公學校等に救急醫療藥品を常備し、應急の處置に遺憾なき樣期されてゐる。

尙一般衞生狀態改善向上を圖るため、講話、活動寫眞等により衞生思想の普及宣傳を爲し、食料水槽改善、上水道施設、住宅便所改良、海港檢疫等に努力せられ、逐年良好になりつつある。

「恩賜財團慈惠會」　本會は昭和二年に慈惠救濟の資に充つるため、聖旨を以つて御下賜あらせられた御內帑金を基金として設立されたもので、窮民及罹災者の救護、癩養護その他行路病者の保護、釋放者その他必要なる恤救事業に當つてゐる。受救者は何れも聖恩の鴻大なるに感泣してゐる。

教育

南洋群島の島民教育の沿革を見るに、西班牙領時代は島民教育に資する何等の設けなく、僅かにキリスト教傳導師が布教の傍ら、兒童を集めて讀書を授けたるに過ぎない有樣であつた。

ドイツ時代に於ても島民の教育は、大部分は傳導師の手に依りて行はれ、同國政府はこれ等宣教師に相當の補助便宜を與へて教育の普及に心を致せり。その養成したる島民傳導師も現はれる樣になつて、この島民傳導師が部落に於て兒童を集めて教育なせる者各地にあり、教科目は讀方、書方、算術、唱歌等にして、島語の耶蘇經典を教科書として布教を兼ねて教導せる程度のものにして、政府で設置せるはサイパンに一校ありたるに止る。大正三年我國占領するや、我海軍將卒は隨時島民兒童に國語、算術、唱歌等を教授せり。翌年十二月にはサイパン、パラオ、ヤップ、トラック、ポナペ、ヤルートの六ケ所に、修業年限四ケ年の學校を設置し、修身、國語、地理、歷史、理科、唱歌、農業、手工、裁縫等の科目を教育する樣になつた。

大正十一年四月南洋廳開設せらるるや公學校官制發布せられ、從來設置の島民學校及其の分校を公學校と改稱し、

日本國語を常用せざる者を收容して教育に當る樣になつたのである。

我が國施政に當り玆に二十有餘校を數へ、島民教育は初めて文化の恩惠に浴し、占領當時の野蠻次第に後を絶ち、教育その宜しきを以つて、邦語を使用するもの次第にその數を增して來てゐる。

「教育制度」 現行の教育制度を見るに、在留邦人兒童の教育には、須要地に國民學校の設置あり、島民兒童の教育のためには全群島に二十四の官立公學校と一私立學校があり、島民兒童の入學は强制的ではないが、島民の智能を向上せしむる爲に學用品の支給、食糧、被服の給與、離島遠隔の者には寄宿舍の設備等の便宜を計り、鋭意就學を奬勵しつつある。

國民學校及び公學校とも訓導(判任)をして兒童の教育に當らしめてゐる。公學校に於ては補助として島民助教員を採用して教育の完全を期してゐる。訓導は內地に於て國民學校教員たる資格を有する者の中より任用するを例とされてゐる。

「國民學校」 我が國が南洋群島を占領してより二十餘年、なるも、南洋廳開設前、卽ち軍政時代にありては拓植事業はいまだ進まず、邦人進出者としては官廳關係者を除く外は比較的少數にして、また家族を同行して渡航する者は極めて稀で、從つて兒童數も少なかつたが、大正十一年四月南洋廳開設以來、拓植事業の著しき進展に伴ひ在留邦人の數は次第に增加され、殊に最近は家族を同行するもの激增し小學兒童の數は急速に增加された結果、國民學校增設の必要に迫られ最初國民學校はサイパン、パラオ、トラックの三校だけなりしが現在二十五校にして昭和十六年四月より內地と同樣に國民學校と改稱された。尙修學年限や教科課程、教科書等は內地國民學校と同樣である。

「中等學校」 は邦人激增によりその必要を認められ、昭和八年サイパンに實業學校(三年制、內地實業學校と同一資格)が設立されてゐる。尙サイパンに彩帆高等女學校、パラオにパラオ高等女學校がある。

「公學校」 島民兒童の教育については深く思ひを島民生活の向上改善に致して、現に公學校二十六校を設置し、鋭意島民の教育に當つてゐる。

公學校は原則として本科三年の卒業を以つて一段落としてゐるが、支廳所在地の公學校には、修業年限二ケ年の補習科を設けて、實際生活上一層適切なる知識技能を授けてゐる。

本科及補習科を通じ、其の教科目は修身、國語、算術、地理、理科、圖畫、唱歌、體操、手工、農業、家事(女子)にして、中にも修身、算術、殊に國語の習熟に重きを置いてゐる。

「木工徒弟養成所」 島民に家屋建築技術を授くる養成所として大正十五年度よりパラオ島コロールに木工徒弟養成所を設置せるものなり。各支廳管內の志願者中から選拔し

て、島民大工さんの養成をなす所である。

「宗教學校」 島民兒童教育のため、政府設置の公學校の外に、內外宣教師の經營する宗教學校はサイパンに三ケ所、トラツクに六ケ所、パラオに二ケ所、ポナペに二ケ所、ヤルートに一ケ所がある。これ等學校は兒童期より宗教信念を扶植せんとする目的の下に設置せられたるものにして、其の教ふる所は殆ど宗教に關する事項であるが、中には普通教育を併せて授くる所もある。修業年限や學科目は定つてゐない樣である。

「教育會」 南洋群島に於ける教育の改善進步を圖るを目的として南洋群島教育會を設け、會長には現南洋廳長官を推戴し、各支廳所在地に支會を設置す。事業として、一、教育に關する意見の發表。二、教育及學藝に關する事項の研究並にその發表。三、教育事業に關する講演會又は講習會の開設。四、社會教育に關する施設及島民の生活改善に關する研究並に其の奬勵に當る。

「恩賜財團奬學會」 大正十三年一月二十六日 天皇陛下御成婚の佳辰に當り、長くも內閣總理大臣に賜りたる御沙汰の趣旨を奉戴し、同年二月二十九日兒童の教育學藝の奬勵を目的とする恩賜財團奬學會を設立し、會長には南洋廳長官を推戴し、恩賜金二千圓を基本金とし、其の利子及年々南洋廳より受くる補助金を以つて、優良兒童の表彰、兒童文庫の設置、留學生の學資給與、公學校卒業生に配付すべき奬勵雜誌の刊行等の奬學的事業に當る。

通信

本群島に於ける通信事業は、占領當時軍用郵便所及軍用無線電信所が設置され、當時の通信事務を爲せしが、大正十一年四月一日南洋廳に於てその事務を分掌してゐる現在郵便局は、サイパン、テニアン、ロタ、パラオ、ヤップ、トラック、ポナペ、ヤルート、アンガウルの九局である。

各局にて外國新聞電報その他の特殊場合のもの以外は殆ど內地同樣の事務を取扱つてゐる。電信は各郵便局で取扱ひ、土地柄、總て無線電信によるが、ヤップ島だけは海底電線の陸揚地であるため、ヤップ島那覇間に之を活用し、有線無線を併用してゐる。

電話はパラオ局、サイパン局、ポナペ局、トラック局、テニアン局等特に指定したる局で取扱ひする。

主要産業事情

概說

本群島は總面積二千方粁（百四十方里）ありと雖も、廣大なる太平洋上碁布星在する數百の島嶼より成れるものにして、其の內數島を除けば面積は概して狹少である。

元來群島民は文化程度極めて低きのみならず、我國領有以前に於ては適切なる指導奬勵を加へられたる事なく、島民は熱帶自然の天惠に依存して原始的生活を續け居る狀態に在り產業として見るべきものは殆ど近代までなかつた。

大正三年我國領有以來全群島に亙り企業投資を試みる者多かりしが、當時政府の助成なく、且熱帶產業に對する經驗乏しきため、一方經濟界の恐慌に遭遇したるを以つて、相次いで起る企業家は多く失敗の苦杯を繰返された。

大正十一年南洋廳設置以來、產業上の諸施設は完備され漸く各種產業は興隆を見るに至り、農業に、畜產に、林業に、水產に、鑛業にと各種產業は逐年飛躍的發展を遂げ、今は全產業機構に亙り活潑なる發展を遂げるに至つた。

中にも最も著しき發展を示せるは製糖業にして、マリアナ群島に於ける南洋興發株式會社がサイパン、テニアン、ロタ島に製糖工場設置、群島製糖事業に活躍を續け、今や年產額二千萬圓を示すに至つた。

之に次ぐ新興產業は水產業であり、中にも鰹漁業は第一の產額にして、これより產する鰹節は我國年產額の五割を群島產を以つて占めつつある。更に鮪漁等も相當の發展を見せ、その他將來の開拓の餘地極めて大である。農業に於ては米、鳳梨、キヤツサバその他の栽培、畜產の改良、椰子林の整理增植等が進められてゐる。

鑛業としては燐鑛はアンガウル島の外フアエス、ロタ、ペリリウ、トコベの各島にて採掘され、ボーキサイト等も產す。我國鑛業界に重要性を發揮してゐる。

工業としては前記製糖業の外鳳梨、タピオカ、パパイヤ等の企業工業も開始され、酒精、酒類、罐詰製造、鰹節製造等である。

群島には未だ相當の未墾地ありて、將來の施設宜しきを得れば拓植事業に、水產業に、商工業にと發展の餘地は各方面に在る。

昭和十一年、南洋資源開發を目指して設立された國策會社、南洋拓殖株式會社に依りて群島に於ける鑛業、水產業、拓植事業、交通、運輸方面へ、愈々活潑なる組織的發展を劃され、一層群島產業の飛躍に拍車をかけられてゐる。

農業

南洋群島は地積狹小なるも、熱帶圈內に屬し、氣溫の較差少く降雨量大なるため、年中好く植物の生育に好適され土地利用の程度大なるを以つて、地味多少劣れりと雖も、これを合理的に利用するなれば、一定面積の生產力は內地に比し寧ろ優れるものあり。然るに島民は熱帶天惠に浴する事多きを以つて、生存上必要なる衣食住に對する大なる

勞力を要せざれば、從つて農業たるや原始的にして、唯二三の食用作物を栽培し、鷄豚類を飼養するに過ぎない。近時邦人移住者の急激なる增加に伴ひ、群島農產業上に幾多の變遷を來して、始めて南洋群島をして熱帶產業地としてその面目を發揮するに至らしめたものである。

從來島民に依り頗る放任的に栽培されたるものを擧ぐれば、玉蜀黍、甘藷、キヤツサバ、蕃薯、煙草、甘蔗、鳳梨、バナナ、蜜柑、木瓜等であり、その收穫量も少く、品質亦著しく劣り、大いに改良增植の餘地は非常に多い。

我國領有以來、これが改良助成に努められたる結果、漸次發展されつつあり、コーヒー、キヤツサバ、パインアップル、カカオ、パパヤ等も新興產業として企業化されるに至り、其の他の改良增植、施設の助成等は逐年發展されてゐる。

蔬菜はその栽培種類少く、且生產量は人口增加に伴はず爲に在住民の需要を充す能はず、一部は內地より移入して其の需要に當ててゐる狀態にある。

次に群島に於ける主なる新興農業を記述すると、

「甘蔗」（砂糖原料）は十六世紀の頃より島民の生食用として栽培されたものであるが、西、獨領當時は糖業として企業は試みられなかつた。我國領有以來サイパン支廳管內が甘蔗栽培に好適され居るを認められ、西村拓植及南洋殖產の二製糖會社が進出して八工場を有し居りしが、大正十一年南洋興發株式會社が設立され、前記二社の事業を繼承して蔗作面積を增大し新式製糖工場を設立して斯業に雄飛し現在サイパン、テニアン、ロタ島に新式分蜜製糖工場ありて年產百數十萬擔と稱せらるるに至つた。

甘蔗は一度新植すれば二年（時として三年）收穫出來る。普通一月から六月までが植付時期で、收穫期は十二月下旬から翌年六月末迄である。

「鳳梨」（パインアップル）我國では臺灣のみで生產されてゐたが、群島に於て之が栽培は極めて好適し、近時新產業の一として發展を爲してゐる。

鳳梨は群島に於ては新植付後一ケ年前後より初顆を結び爾後六ケ月毎に一顆宛を生產されるから、臺灣の二年にして結實、一ケ年毎一顆と比較するなら倍の生產力を有してゐる。群島到る處これが栽培に適され、年々產額も飛躍してゐる。南洋鳳梨株式會社ではパラオ、ポナペに罐詰工場を設立、企業化されて逐年發展しつつある。

「タピオカ」群島特產物として注目されてゐるもので優良澱粉が豐富なれば、馬鈴薯澱粉の强敵とされてゐる。栽培は割合容易なもので莖六、七寸の長さに切りて逆倒にならぬ樣に頭部一、二寸を出して土に挿す。植付後年二回除草と培土を行ふ。一町歩約八千本植付けて約六千貫の收穫で一割八分內外の歩留を普通とされてゐる。一擔（百斤）十圓の價格とすれば、一町歩にして六百數十圓の收益となる。然しタピオカ澱粉は等級及品種によりて價格も著しく相異があるから一概には云はれない事情にある。澱粉製造はサ

イパンの南洋タピオカ株式會社及南洋興發會社のボナペ澱粉製造工場等がある。

「カカオ」　これも南洋特産物で、明治五年頃グアムより移植されたクロルテロシー系種のものである。カカオはその主根が長いものなれば深土でなければ栽培出來ないもので腐蝕の濕地が適地とされてゐる。

結實は栽培後四、五年目位からで地上二、三寸の所から結實し七、八年で成木し、一樹より年平均約三十顆の收穫で植付後手入はコーヒー同樣除草と害虫驅除等である。

「コーヒー」　南洋珈琲の企業生産に當り、國産コーヒーとして知られてゐる南洋珈琲株式會社がある。同會社は現在サイパン島のラウラウ、タツポウテフ、ホンタマテフ、ポートリコ、パーパコに農場を有し、コーヒー栽培に當りボンタマテフに約六千坪の工場を有して生産に當つてゐる。

「棉花」　棉花は群島到る所栽培に適され、ボナペの植民地に栽培されてゐる。尙ロタ島、サイパン島等にも個人栽培がされてゐる。棉は二年連作出來るもので、一町歩の生棉は約四百貫で、生棉は普通一貫目一圓以上で取引され、一町歩三百乃至四、五百圓である。布團棉に製せば約六、七百圓の收入と謂はれてゐるが未だ旺んでない。

「パパイヤ」　は熱帶植物で、その果實は生食のまま食用に供され、一般に賞味されてゐる。最近はこの果實、葉柄から、滲出する汁液を乾燥してパパインを製造する目的で栽培されてゐる。現在サイパン、ロタ、トラック島に於て栽培されてゐる。パパインは强力な蛋白質分解性能を有するを以つて用途は纖維類の精練用、化粧料用、石鹸化粧品クリーム用、麥酒の清透劑、寫眞、製乳、製菓其の他の藥用に使用されるもので、現在海外へ輸出されてゐる。

栽培は苗で植ゑるものと種子で植ゑるものとあり、この苗木は一町歩千本から千二百本の割合で植付後四ケ月に開花し七、八ケ月にして結實したる時、果肉に傷をつけ汁液を採取するものである。一本の樹より約一ポンド(百二十匁)內外を採取する。一ポンド四十錢內外であるから、一町歩より年收約四、五百圓內外といはれてゐる。

「トバ」　トバの栽培は群島新産業の一つで現在ボナペに於て栽培されてゐる。トバは一名デリスとも稱し、驅虫劑として除虫菊の强敵である。トバは害虫驅除劑として用途も廣く、藥分は根に最も多量に含む。この栽培は幹莖を斜に地に挿して植ゑる。地質、時期も構はず植付出來る。これが收支の概要を見ると一町歩より五百貫の根が生產され一貫目一圓五十錢內外と見て七百五十圓であるが、收穫は二ケ年を要するので、年收はその半額である。一戶五町歩を單位として年々一町五反の植換を爲して行くとせば、年收約五百圓といはれてゐる。

牧畜

群島に於ける畜產業は島民の生業狀態は前述せる如く、牧畜の必要も亦生活に資すべきが爲の必要も尠きを以て、

極めて原始的方法を行ひゐるに過ぎず。牧畜業としては殆ど謂ふべきものがなかつた。

南洋廳設置以來鋭意斯業の發展に努力せし結果、今日に於て副業として近時相當の發達を示すに至つた。

「牛」　群島中サイパン支廳管內にて最も多く飼育せられ殆ど在來種にして多く運搬農耕に使役せられる。近年農業の發展に伴ひ、その需要益々增加し、從つて屠殺に供せらるるものは主として老廢牛にして、僅かに七—八百頭に過ぎず。搾乳牛は飼育するもの少しと雖も邦人の增加するに從つて漸增の傾向を示せり。現在約六千五百頭と稱さる。

「豚」　は一般に飼育せられ群島畜產の首位を占む。最近人口の增加と共に肉類の需要益々增加し、屠殺頭數も激增の趨勢にある。現在約二萬五千頭。

「山羊」　パラオを主としてボナペ、トラック之に次ぐ。島民間に食用として珍重せられ椰子樹林間の放牧に好適するを以つて飼育頭數も漸增されつつある。現在約三千頭。

「鷄」　肉用及卵用として豚に次ぐ重要なるものにして、到る處飼養せられるも、優良種に乏しく在來種は產卵率低く肉量亦少し。約十一萬羽その他に鶩及吐綬鷄等も飼育せられるも少數である。

林業

南洋群島は到る處鬱蒼たる森林を以つて覆はれ、一目千古の美林の如く見ゆるも、其の樹木は雜木の混淆林にして有用樹種は極めて尠い狀態にある。これ海洋島にして大森林を構成するに足る要素に缺けてゐるによる。又一方從來住民に愛林補植造林の思想なく、亂伐せるの結果にして、唯海岸附近に椰子樹を植栽し、これをして彼等が唯一財產とされてゐる風あるも、一般樹木は殆ど顧みられず、その風習久しきに亙りたるによるものである。

然らば群島に於ては椰子樹の外に有用を目的とする一般林業は望みなきやと云へば決してそうでない。有用樹の殘木もあり、又外國より樹種を移植造林するにも、天惠的に雨量及び濕度に惠まれ、造林用地に適する面積も亦相當あるを以つて、これら天惠の要素を利し造林の方法樹種の選定の宜しきを得ば、椰子樹と共に有望視されてゐる。

椰子樹は一般に古くより植栽せられたるものの如く、發育も良好にして、之より生產するコプラは群島唯一の林產物として重要な移出品である。又島民の飲食物として日常生活上缺くべからざるものなれば、各離島に至るまで植栽されてゐる。南洋廳より目下椰子樹の增植、椰子林の整理が奬勵され來れるを以つて漸次增植、增產に進んでゐる。現在面積約三萬五千ヘクターにして、コプラ生產額は約一萬五千噸である。

椰子樹の外、林層をなしてゐるものに、紅樹があり、パラオ、トラック、ボナペ各支廳管內に相當の蓄積を有す。用途は建築補助材並に薪炭材なるが、近時諸工事の勃興、製炭業の發展に伴ひ、その利用量著しく增加し、濫伐に陷り

次第に林相を破壊し、蓄積を減少せしめつつある。

在來の優良樹種としては鐵刀木、紫檀、タマナ、モモタマナ、ウカール、アシモイ、プラツキーヨース、シヤターク等である。

鑛業

南洋群島に於ける主なる鑛物資源は熱帶特有の燐鑛、ボーキサイトの外マンガン、耐火粘土、硫化鐵鑛、硫黄、褐鐵鑛、大理石、石炭等である。

燐鑛　はアンガウル、サイパン、ヘリリウ、ロタ、トコベ、グリメス、フアイスの各島にては既に夫々採鑛に着手されてゐる。現在採鑛着手に進みつつあるもの及埋蔵鑛區はパラオ支廳管内のソンソル、パンナ、プール、サイパン支廳管内のテニアン、メデニーシヤ、アギーガン、ボナペ支廳管内のグリニツチ、ヤツプ支廳管内では、ピゲロツト、ヤルート支廳管内ではピカールの各島が主なるものである。

従來我國に於ける燐鑛は沖繩縣のラサ島、臺灣等に僅かに埋藏を見たるのみにして、南洋群島は我國唯一の燐鑛産地であるのみならず、世界四大燐産地として知られてゐるもので、全埋藏約五百萬噸と稱されてゐる。

ボーキサイト　はアルミニウムの原鑛にして、パラオ、ボナペ、クサイ、ヤツプの諸島に産し、既に夫々南洋アルミニウム鑛業株式會社により採鑛が進められてゐる。

南洋群島に於けるボーキサイトは品質優良にて、其の全埋藏鑛量は約五百萬噸と推定せらるるを以つて、我國に於ける不足鑛物資源を補強し、且つアルミニユウム工業の發展に參與する所極めて大である。

その他の鑛物資源としては硫黄、マンガン、褐炭層、石綿、大理石、硫化鐵、耐火粘土、瑪瑙等で、既に企業價値を確認されたるものも尠からずある。

商工業

群島に於ける商業は地理的關係上生活必需品が、食料品の一部を除くの外は、殆ど内地に需めなければならぬ事情にあるを以つて、商業も直接需要者を相手とする小賣商人の發達を見てゐる。

群島各地に邦人は大いに活躍されつつあり、商店は專門品販賣を目的とせるもの少く、數量少く品別を多種にせる所謂雜貨店が多い。島民は一般に購買力薄く、從つて島民相手の商人は割合少いが、島民文化の發展に伴ひ、次第に島民對手の商店も增加されて行くであらうが、現在は在住邦人十萬を對手とする邦人の動きが商業の中心をなしてゐる。近時邦人移住者も激增され、商業も亦急速なる發展を爲し、サイパン、テニアン、ロタ、パラオ、ボナペ等の主要島にては市街を形成し、相當繁榮を爲してゐる。雜貨店は日用品雜貨の販賣の傍らコプラの仲買を爲してゐるものが多い。主要島市街地に於ける商業部分は殆ど各業各部に

互つて進出されてゐる。

工業は地的關係に支配され、大規模なる企業の種類は極めて少く、島産物の加工製造の範圍に在るも、熱帶特有のものである製糖業を第一として、これに附帶する酒精工業、サイパン、ボナペ、パラオのタピオカ澱粉工業、パラオ、ボナペの鳳梨罐詰工業、製氷工業等であり、その他に農産品、水産物の加工業、手藝品製造等である。

水産業

本群島に於ける水産業は近年著しき發展を示し、その生産額も激增を見られてゐる。殊に鰹漁業、鮪漁業はその最も主なるもので、鰹節生産量に至りては全日本生産額の約五割を占める勢ひを示してゐる。

南洋群島は廣大なる海洋に多數の島嶼が碁布星座し赤道流及赤道反流がその間を浣洗する爲、各種洄游魚族及熱帶水族豐富に群棲し、多岐廣範なる生産面を爲してゐる。

各島とも太平洋深海部數千米の海底より聳立するを以つて沿岸より直に深海となり、底魚漁業には適せざるも、之に反して表層洄游性魚族は豐富にして漁期周年に亙り、永續的に大量生産を爲し得る事情にある。

南洋廳に於ては之等各種の漁業を對象として各種の調査試驗を爲し、指導奬勵に努めたる結果、最近數年間に於て群島水産業は著しき發展を示し、更に群島を據點とする外南洋への遠洋漁業も漸次發展しつつあり、ニューギニア近海、セレベス海、アラフラ海、バンダ海、更に南進して南太平洋各方面の各資源目指しての進出は、國策上及經濟上より見るも一層重要性を有する處にして、その將來は大いに期待を懸けられてゐる。

「鰹漁業」　群島中第一のものにして魚群到る處豐富に棲息し、現今動力を有する漁船約三百五十隻、漁獲高約三百五十萬圓と稱されてゐる。群島離島への漁場開發及管外接續外南洋への進出等により、今後の發展は未だその前途は洋々たるものがある。

「鮪漁業」　鮪の棲息量も鰹と同樣極めて多く、將來群島水産界に鰹と共に二大漁業たるべきものなるが、鮪は鰹の如く漁獲後の處理簡明ならず、殊に本群島の如く中心市場に遠く地元消化力なきため處理設備煩雜なれば、罐詰又は冷凍冷藏の施設の完備を得るならば、本漁業の發展は極めて大なるものである。

「高瀨貝漁業」　高瀨貝は最も優良なる釦原料にして極めて重要なる熱帶水産物である。從來ヤツプ、パラオ等にのみ産せるも、昭和二年以降パラオよりトラツクへ移植の結果良好なる成績を擧げ、更に群島各島へ移植增産を計畫されてゐる。

其の他の漁業、玳瑁はヤツプ、パラオ、トラツク、ボナペ並にその離島に産し、主として島民の漁業であり、海鼠は群島到る處に棲息す。鮫漁業は將來獨立漁業として行はれるを得べく、餘其他の雜漁業は邦人の增加に伴ひ鮮魚供給

上漸次盛になりつつある。

養殖業、從來パラオ、ヤルート等に於て黒蝶貝を母貝として眞珠の養殖事業が經營されてゐるが、近時北濠洲アラフラ海方面より白蝶貝、眞珠養殖が行はれつつあり、一方海綿養殖も群島特産品として、その將來は期待されてゐるものである。

産業施設

産業開發に就いては南洋廳に於て種々調査研究指導奨勵に當り、一方奨勵金の下附を致して各産業の增産品種の向上に努められたる結果近時群島産業は飛躍的發展を爲しつつある。産業施設としての主なるものを擧ぐれば、

「熱帶産業研究所」 同所は熱帶農産、畜産、鑛業に關する調査研究を爲し、邦人企業者の便益を計ると共に指導に當り、群島産業の開發に活躍してゐる。

「水産試驗場」 海洋資源の開發は群島産業の重要部門なるを以つて調査船小型二隻、大型一隻を以つて各群島海上の漁業調査試驗或ひは施設、製造の調査研究指導に當り、專ら水産業の發達に盡力發展を期してゐる。

「水産組合」 主なる漁業者及鰹節製造者の親睦を計り、從業員の待遇改善、施設の研究、從業員の爭奪防止並に指導等の目的を以つて、業者の組合を支廳又は出張所に設け、現在パラオ水産同業組合、サイパン鰹漁業組合、テニアン漁業組合、トラック水産組合、ポナペ水産同業組合、ロタ島鮪漁業組合等が設立され斯業の發展に努めてゐる。

「水産組合聯合會」 前記の各水産組合の施設の完備及業務上の指導發展に當る中心機關として、群島水産界の向上發展に官と協力活潑なる活動を續けつつある。事務所は南洋廳水産課にある。

「財團法人南洋眞珠貝採取業組合」 本組合はアラフラ海眞珠貝採取業者を以つて組織され、漁獲物の共同販賣、共同運搬、用具の購入、その他組合員の福利施設を行ふ目的の基に設立され、調査船、倉庫、從業員住宅等の共同施設をも設け、斯業の發展に當つてゐる。事務所は南洋パラオに在る。

「南洋群島産業協會」 本部を南洋廳内事務所に置き、支部を各支廳に設く。博覽會、品評會參加計畫、群島物産の紹介、販路擴張に關する施設、手工業授産所の經營指導等群島産業の文化施設に當り、産業の進展に當つてゐる。

「物産陳列所」 本所は群島内各種生産物並に地理、歴史、博物資料を一堂に蒐集陳列し一般の觀覽に供し、一面地方物産の販路開拓、商取引の仲介斡旋を爲す等産業開發、地方文化に努めてゐる。

島民の生業狀態

種族

概說　南洋群島に居住する種族に關しては諸說區々として一定せず、或は西方馬來半島より東遷したるものと傳へられ、或は東方ポリネシヤ族の西進したるものとも稱せられるも一定せず、數種族の混血せるものなることは推測に難からず、人類學上これをミクロネシア族と總稱し、チヤモロ族とカナカ族の二種をなす。

チヤモロ族　本島に於けるチヤモロ族は、白人とカナカ族の混血なりと謂はれ、又全然別人種とも謂ひ定說なし。本據はマリアナ群島を主として、西部カロリン群島に屬するヤップ、パラオがこれに亞ぎ、其他の群島には集團的の居住はない。蓋し該族の祖先はグアム島に在りと云はれ居るを以て、その四圍近距離の島嶼に移住したるに因るであらう。卽ち此處より海路先づロタに至り、更にテニアン、サイパンに移住したりしは地勢上自然の結果にして、往時西班牙領の頃にはサイパン、テニアンに移住し來れるチヤモロ族極めて多く、人口は可成り稠密なりしが如きも、彼等相互間の爭鬪及反逆による虐殺等により人口は激減され現在にあつてはサイパン、テニアン、ロタの三島を合して僅かに三千百餘人、之にヤップ、パラオ其他を併せてもその總數漸く三千八百餘人に過ぎない。

而もその大多數を占むるサイパン在住のチヤモロ族は西領以來比律賓の所謂タガレン族及西班牙等との雜婚により著しく變異したりと謂はる。同族の特徴は一般に皮膚黄褐色にして頭髮は黒く、性溫順勤勉にして其の容貌はカナカ族に勝つてゐる。衣食住も亦比較的進歩したるものありてカナカ族とは之等の點は殆ど趣きを異にしてゐる。上流者にありては洋風清楚の住宅に居住し、洋裝をなし、中にはピアノの如き樂器を備へ、寬活なる文化生活を營む者が尠くない。これらは一つは其の種族の素質に因るべきも、その多くは西班牙領時代より久しく宗教の感化を受けたるに因るものと認めらる。

カナカ族　本種族は布哇及太平洋諸島に住する民族にして、南洋群島住民の大部分はこの種族に屬す。然れども仔細にこれを觀察すれば、西部諸島は馬來族に、東部諸島はポリネシア族に、南方に至るに從ひメラネシア族に類する者多きが如し。三者多少の差異を存するも、一般に皮膚暗褐色若くは黄褐色にして頭髮概して黒く、中に僅かに縮卷する者もあり、眉は密生して太く、眉目の間稍狹く、眼窩

陷落し、鼻翼廣く口大にして唇厚し、鬚髯多からず容貌概して素朴溫和なり。身長は大抵中等の大なるも中に長大なる者もあり。殊に南方諸島にそれが多い。

カナカ族はその數に於てチヤモロ族の約十二倍を占め、全群島土着民五萬の內約四萬六千を占めてゐる。

風　俗

「服裝」　全群島悉く熱帶圈內に屬するを以て、自然的に殆ど衣服の必要を感ぜざるが故に、その本來の面目は裸體跣足を風とし、男子は褌樣のものを用ひ、女子は腰卷樣のものを以て腰部を蔽ふに過ぎざりしが、近時文明人に接するに依り漸次着衣の習慣に馴れ、現今に於ては男子は多く頭髮を刈り髯を剃り、大抵シヤツ、ズボン下等を着ける樣になり、而も中には洋服を常用する者も尠からず、女子は西洋婦人の寢衣樣のものを着す。然も各島水路相隔つること遠きため其の風俗も自ら異るも、その最も早く文化に觸れたるサイパン島及マーシヤル群島に於ては、その風俗略々歐米に模し、靴をはき帽子を冠り洋服を着し、その外樣に於ては文明人のそれに異らざるもの多し。然してポナペよりトラック、ヤツプに至るに從ひ服裝順次に劣り、殊にヤツプ島に在りては今猶裸體跣足の者多く、殊にこの島にて奇とすべきは婦人の腰簑にして、草木の纖維を以て造れる簑樣のものを腰部に纏束し步行毎藪々として音を爲すもの寔に奇觀といふべし。

裝　飾

彼等は元來着衣の要なく、從つてその風なかりしも、裝身の目的をもつて文身(イレズミ)を致す者が多い。其の方法は四肢若くは胸部に簡單なる圖樣を施し、又はアルファベットを以て文字を現はしたるものにて、中には四肢全部に涉りて幾多の線條を描きたるものもあり、模樣複雜にて場所廣きを誇りと爲し、又この外に瘡痕と稱するものありて、上肢上膊部又は下肢大腿部或は胸部に瘡痕を作りて一種の美容とし、自己の勇氣を仲間や婦女子に示す手段としてゐる。此の風は特にポナペに於て盛に行はれてゐる。

トラックにては裂耳といふ極めて低劣なる風あり、幼時耳朶に孔を穿ち、之に貝又は木製の輪を懸垂してこれを次第に擴大せしめ、耳朶は環形をして伸び、甚しきは頰上部に及ぶものがある。

其他に耳環、頸飾、腕輪等貝類を磨き作れるものを飾る方法も行はれてゐる。以上は男女を通じて一般に行はれる風なるも近時教育の普及に因り、青少年間に於ては漸次その跡を絕つの傾向にある。

食　物

島民の食物は自然生の果實その他を主食物と爲し、時に魚肉鳥獸肉を用ふるに過ぎず、居常天惠に依賴し、食の爲めにする勞作と稱すべきもの殆どなし。稀に蔬菜果樹等を

栽培する者あるも一般に耕耘、施肥を爲さず之を放任す。然も季節に至りて之を收穫すれば、食糧にして餘りありといふ。之偏に熱帶の恩惠と謂ふの外なし。彼等の食物の種類は島により多少の差はあるも、パンの實、クロ芋、ヤム芋、タピオカ、及椰子果實等を產物となし、ポーイ芋類、獸魚肉等を副食物となす。就中パンの實及芋類はその生產量最も多く、パンの實は每年五月より十一月に至るの候に成熟し、果實の大きさは小兒の頭大にして、燒き又は煮て食せばその味パンに似て、一顆にして優に二食に充つるに足る。又ヤム芋は山地に、クロ芋は濕地に生じ、前者は山芋の如く、後者は里芋に類し、形狀も亦山芋に劣らず、椰子果實は未成熟のものは內部にコプラ卽ち脂肪質の果肉を生じ、色純白にして一種の香味を有し、頗る口に適す。群島到る處に產し、全島民の愛用するものにして、其の他パナナ、パインアツプル、マンゴー、パパイヤ、レモン、オレンヂ、ポーイ等到る處に產せざるはなく、その產額豐富なるも單に嗜好品として用ふるに過ぎない。

魚類は其の種類頗る多く、其の量亦豐富なりと雖も、漁撈の法幼稚なる爲、漁獲高少く、獸鳥肉は豚、鷄の飼養盛にして供給は比較的潤澤なり。その他嗜好品として酒及煙草は彼等の最も愛着するものなれども、酒類は統治條項の制限ありて、儀式或ひは藥用の外飮用を許さず、又地方によりては宗敎上の關係より酒煙草共に之を用ひざる者あるを見る。椰子を嚙むの習慣はヤツプ、パラオの兩島に盛にして、殆ど男女の別なくこれを愛嚙し、少年少女にしてその風に染む者もまた少くない。

住　居

住居はその構造極めて簡單にして、外樣又貧弱なるもの多く、各島の文化に多少差あるを以て、その建築の樣式等は文化の程度により異つてゐる。サイパンに於けるガラパン街の如きは大抵木造にして、稀に石造の家屋相接し一見歐洲風にあるも、ヤツプ島に至れば、その家屋概して低劣陰濕、家居の狀頗る原始的なり。中に石を疊みて礎底となし、巨材を用ひたるものあるを見るも、其の構造に至りては掘立小屋式にして、屋根の勾配急下し、窓戶少く且狹く、室內陰濕にして白晝猶暗し。

パラオ島に至れば各戶大抵床を用ひ、窓戶やゝ備はり、建築の樣式稍々進步を見せてゐる。ポナペ島も大體パラオ島に匹敵するも、トラツク及ヤルートの兩島はその狀態最も拙劣にして大抵床なく、純然たる掘立小屋式のものが多いのである。

當局に於ては島民の住居改善には常に意を致して、補助金を下附して之が改善を奬勵し、一方島民の內地觀光團をして內地文化住宅を實地に見學せしめ、衞生思想の普及等に努められある結果、漸次その效顯はれて近時衞生的住宅を散見するに至つた。

群島到る處に共同家屋あり、所謂「オール・メン・ハウス」と稱するもの之にして、村民の集會所或は他村民の宿泊所に充てる。各村に大抵一、二を有し、何れも共同の力を以つて建て共同の用とするものにして、昔日殺伐の時代酋長間の勢力抗爭の戰鬪時代、敵の襲撃に備へたる遺物的風習なりと謂はる。そのヤップ島にあるものは殊に巨大で知られてゐる。又同島に於ては「月經ハウス」なるものありて各村に一若は二を有し、女子の月經時之に籠居するものであり、共同家屋は男子の專用物にして、月經ハウスは女子の專有物である。男子之に近づくを許さず、此の如きは同島特有の風習にして、蓋し男尊女卑の思想によるものと思はれる。

知的觀察

島民の外的生活は前述の如く極めて簡單にして、中に歐洲風を模する者あるも、總じて未だ原始時代を去る事幾許もなき狀態にあり、知識程度は極めて低級である。彼等の視界は住する狹き小天地に限られ、又その經驗は祖先傳來の範圍に局限せられ、所謂傳統は彼等唯一の精神的信條なり。偶々艦船の來航ありて、之を通じて近世の文明の一端に觸れるとするも、唯皮相の接觸のみにして極めて稀に歐米に航したる者あり、又我が國の占領以來觀光の爲來朝し近代文明の姿に接せし者も既に約千名ありと雖も、彼等は管見一過、あたかも夢の世界に在るものにして、觀察利用の方途に至りては、多くを現在彼等に望む事は出來ない。彼等の平常を觀るに、極めて少數なる優秀者を除き、大多數は僅かに百千の數字の計算に惑ひ、計算による商取引をなす事能はず、目前の利慾に迷ひて後日の計を爲す事能はず、物の眞價を認識する事出來ずして唯一時の用を糊塗するに過ぎない狀態にある。

第二次西班牙領有以來施政既に四十數年にして猶且つ此の如し。一般に見聞に缺くとは謂へ、その素質低劣にして知識發達極めて遲々たるものである。

我國施政以來島民の敎育に銳意努力せる結果の成績を見るに、兒童は記憶力、理解力共に相當の成績を示し、特に技術的科目に於てその得意なるを見る。唯數の觀念に於て著しく幼稚の程度にあるを認むるも、尠くも學校內に於ける土人兒童の精神的發達の過程は、內地兒童に比して特に顯著なる差別を認められない。その發達の最高限度は兎も角として彼等をして始終良好なる環境に在らしめなば相當程度までの啓發は得らるるものと想はれる。

社會的組織

カナカ族の社會的組織を觀るに、各島毎それ〳〵優等民と普通民の二種に分れ、その間に又幾段の階級あるを普通とす。別に酋長ありて一般は村民を率ゆ。その地域區劃には內地の村に當るものと、大字に當るものとあり、從つて酋長に大小の二種ありて互に主從の關係を確立す。大村の

酋長は聲望最も大にして一般の尊敬する所となる。酋長の權力は多くは個人的にして未だ制度ならず、勢威の消長は一に懸りてその人に存するものの如し。又地方に依りては別に相談役の存するものありて酋長を補佐し、重要事項に參與す。孰れもその在任は一代一世を普通とし、その相續の法は世襲なるものあり、或は優等種族間相互代るものもある。要するに一種の貴族的寡頭制なるもの多し。唯ヤップ島に於ては衆議制の如きものあり、多數決の習慣あるもその酋長制に至りては他島とその揆を一にするを見る。西班牙領當時までは酋長の權力絕大にして、相互相拮抗して雄視を爭ひ、その部落民に對しては生殺與奪の權を揮ひたりしも、獨逸の領有以來力めてその權力を殺ぎ、之を官憲に收めたる結果、その權威は亦昔日の如くならず、現今に於ては（村吏總村長、或ひは村長）として島民部落の村治に當らしめ徵稅及命令の傳達等に任ぜしめてゐる。素より其の勢力の頗はれたるもの尠きも、中には所謂部落の長老にして往時よりその職に在りし者あり、惰性の存する所、時に社會的潛勢力の侮るべからざるものがある。

チヤモロ族には古來よりカナカ族に於ける如き酋長制度の舊慣なく、部落民の村吏に對する觀念は全く相異るものあるを以つて、その稱呼を二者別にしてカナカ族の總村長村長に該當するものを夫々區別、助役と稱してゐる。

經濟的生活一般

全群島土人の物的生活の極めて簡朴なるは勿論にして、食は之を山野に委ね、衣は其の本來の原始生活には多きを必要とせず、甚だしきに至りてはヤップ島の如きは着衣の風甚だ薄く、僅かに一少部分の靑少年間に體裁上着衣するを見るのみなり。住は陽日、降水を凌げば足り、防寒の爲にする特種工作を要とせず、衣食住は斯の如く容易なるを以つて、その日用品の如きも極めて簡素にして家財什具その他之に伴ひ殆ど見るべきものなし。唯チヤモロ族その他の有產知識階級の者には多少家具を貯へ、樂器等を備へ文明の生活を模する者ありと雖も、之は一少部分の例外に屬す。一般には手より口へ、その日暮しの生活にして、貯蓄心なく、將來の計なく、一家子孫の計なるもの殆ど無し、貨幣は從來獨逸貨幣を用ひ、我が占領以來邦貨の通用を見ると雖も、中には貨幣の用を知らず、知ると雖も之を面倒なりとして却つて物々交換を便利とするものも尠からず、偶々貨幣を得るや求むる物は香水、煙草、罐詰等の贅澤品なり。日用品は彼等自ら給して餘りあるを以つて、新たに求むる物は外來の贅澤品に限られる結果なり。此の如く彼等の日常要する所の物は殆ど貨幣を以て購求するの必要なく、互に相給して餘りあるを以つて、物に對する執着心薄く、有無相通じて隣保相分つの風あるは畢竟彼等の社會的組織簡單にして生活餘裕あるに因る。

最近に至り彼等の物慾漸く刺戟せられ、殊に椰子樹に對する所有觀念を生じ、從つて土地所有に關する思想の發達

しつつあるを看る。尙ヤップ島には同島古有の貨幣として石貨、貝貨及俵貨あり今尙同島島民間に限り一種の交換價値を有するものである。

島民の性狀

全群島の土人の性狀は概して溫和快活なるも、祖先以來豐富なる天惠に馴れ、生活の爲にする勞働の必要なかりしを以つて、極めて懶惰安逸を好み、勤勞を厭ふの風あるも公學校教育、青年團指導等により年を逐ふて民度の向上を見つつあり、往時に在りては各島を通じて性慓悍猛にして互に爭鬪を事とす。西班牙、獨逸兩國の領有當時に在りては屢々官憲に抗し、殊にポナペに於ては殺伐なる歷史を有す。然れども爾來壓制の政策を變ずると共に、酋長の權力を殺ぎ、土人の銃器の所持を禁じ、飮酒を制限し、その兇猛性を制すると共に、一面に於て耶蘇教の普及を計り漸次その性を軟化せしめたるの結果、彼等の野生を矯め全く從順の眞を馴致するに至れりと謂ふ。

言語

各群島とも其の言語を異にし、全體を通じたる南洋語なるものなし。而も同一群島内に在りても其の主要島を異にする毎に言語を異にするのみならず、同一群島に屬するもその主要島と離島とは言語相通ぜざる場合も尠くない。即ちヤップ島に就いて言へば、その本島と離島と言語相通ぜず。又ポナペ島に就いて云へばポナペ島とクサイ島とは其の言語相異る。之れ群島の布置水煙遠く相隔り、昔日交通稀なりし結果にて、施政上の不便も大なるものがあり、我國占領以來須要地に學校を設け、離島と雖も邦人の在住する地には寺小屋式の學校を設けしめて邦語の普及に盡力したる結果、邦語を解する者次第に多きを加へつつあり、現在に於ては全群島の土人の大部分は少くも日用の些事を便じ得るに至つた。

渡航及就職事情

大正三年占領當時吾が邦人は僅かに五十餘名に過ぎざりしも、我國統治以來進出者は續出され、今や在住邦人十萬に垂なんとする勢にある。

邦人は現在群島の總ゆる方面に活躍してゐるが、その多くは南洋興發會社の甘蔗栽培及製糖關係に從事してゐるものや南洋拓殖會社その他の企業會社の從業者關係である。

現在商工業に關係してゐる人々の多くも最初南洋興發その他の企業會社の招致移民として渡航し、これらの從業者

から轉職された人が多い。雜貨店を始め諸種の商業も當初はこれらの從業者を對手として開業されたものが多く、逐年邦人の增加に伴ひ一般邦人を對手とした各種の職業が起り、又島民を對手とした商工業も次第に發展を見るに至つたものである。

群島の産業は最近熱帶南洋の特殊性を利用した特殊事業が勃興されつつあり、タピオカ澱粉製造、コーヒー、パパイヤ、カカオ、パインアップル、トバ等を原料とする加工事業が即ちこれである。

水産業は近年素晴しい發展ぶりで、その生産額も激增し殊に鰹漁業はその最もなもので、鰹節製産量に至つては我が國全生産の約五割を占めて居り、邦人の水産業從事者も約五千名が活躍してゐる。

鑛業としては燐鑛とボーキサイトの寶庫で、前者は南洋拓殖會社がアンガウル、サイパン、ロタ、フアイス、トコベ等で採掘に活躍してゐる。これを原料として東洋電化工業株式會社が化學窒素肥料として製産に當り、後者はアルミニユームの原鑛で採掘に南洋アルミ會社が活躍し、製錬に東洋アルミ會社が當つて居り、この方面に從事する邦人も次第に增加を見せてゐる。

商業は群島到る處邦人が進出して居り、洋品もあれば食糧品もあるといふ多種多樣の雜貨店が主である。現在殆んど邦人を對手としてゐるが、約五萬の島民を對照とする商戰も彼等の嗜好を研究してするならば今後も興味あるものの一つである。

南洋群島も他の植民地と同樣に資本を携行して邦人や島民を相手に商賣をやるとか、技術で發展するとか、植民地に於て農業を經營するとかいつた者にとつては見込みはあるが、唯單に出稼勞働や就職して賃銀を得る目的としての地としては群島は範圍が狹く大した見込みや期待は出來ない方面である。

邦人の收入狀態を調べるに農業はその收穫高であるが、會社員、事務員、給仕等の給料は大體内地の一、二割高が一般であり、勞働者の勞銀は内地の勞働賃銀と殆んど變りがない。一方島民の勞銀は邦人の半額前後が普通とされてゐる。

就職の事情

南洋群島への渡航發展は各自の見込みでするものであつて、自分の商賣で行く人、技術で發展される人、募集に應じて渡航する人等々である。

南洋群島より内地に募集のある時は、内地の國民職業指導所を通じて行はれるから、こられの募集に注意してゐて申込みする樣せねばならぬ。

募集のない時の方法としては現地の事業會社等の希望する方面に申込みして見る事も亦一つの方法である。大會社になると從業員も多く、人事の異動も多い譯であるから缺員でもあり、それに適當されて居れば採用してもらはれる

渡航の方法

南洋群島への渡航は内地旅行と同様でありましたが船腹不足のため就職又は確實な目的の渡航は出來ますが無用不急の渡航は制限されて居ます。渡航者は南洋廳東京出張所（東京市麹町區永田町一ノ三〇）へ渡航事情を申請の上渡航證明書を受け船會社に示して切符を買ふ事になりました。

軍籍にある方は第二補充兵までの方は渡航の時、市區町村役場の兵事部に「海外旅行屆」をする必要があります。

尚渡航者は戸籍抄本、身分證明書は持參せられる事が便利です。

渡航者の服裝

常夏の氣候ですから、服裝及その身廻りの所持品は、夏の仕度と同樣ですから、その積りで支度なされる事がよく寢具等も毛布の一、二枚も用意すれば充分であります。日用品等は南洋で幾らも買求められますから、餘分に用意して行く必要はありません。

兵役關係のある者

點呼は渡航に際し市區町村役場を經て本籍地聯隊區司令官宛「外國旅行（在住）屆」を提出すると免除されます。檢査前の方は適齡の年の一月卅一日迄、南洋廳を經由し本籍地聯隊區司令官宛「在帝國外徵集延期願」を提出すると猶豫されます。以後三十七歲迄毎年一月三十一日まで「在留申告書」を提出する。三十七歲になりますと國民兵に編入されます。中途で歸國せる場合はその時檢査を受ける事になります。

但し血族者の死亡等のための一時歸國は關係されません

回の定期船によつて發送されますからサイパンで一週間パラオで十四、五日おくれて着く事になる。

南洋廳區劃植民地移住申込手續及南洋拓殖挺身隊の申込み事情については本篇の最終に集載あり參照下さい。

旅館

旅館はサイパン、テニアン、ロタ、パラオ、トラツク、ボナペ、ヤルートの各島に整備した邦人旅館があつて、宿泊には不自由はありません。宿泊料は五圓、四圓、三圓と分れてゐるが普通は三圓位であります。

渡航後の屆

南洋群島渡航者は、先方に上陸したら、十日以內に島の支廳（內地の役場同樣）へ「島居住屆」をする事になります。島居住屆とは、內地の寄留屆と同樣のものであります。

內地群島間の交通

群島の沿岸は珊瑚礁に包まれ、海上は至つて平穩なのでカヌーによる便益は甚だ大なるものがある。之に反して島內の道路はまだ極めて不完全で、主要島の外は島民の通行を目的とする通路があるのみである。群島內各港とも三千噸級の船舶の出入にはさほど困難はないが、錨地と波止場との距離はその地質の構成上遠く不便であるため逐年修築計畫を立てこれが改良に當つてゐる。

內地群島間には命令航路がある。日本郵船株式會社がこれに當り、西廻線、東廻線、サイパン線の三線があり、毎月數回の就航を見てゐる。

離島間には同樣命令航路あり、南洋汽船株式會社がこれが命に當つてゐる。

內地・群島間船賃

（內地群島間）

▼西廻線　神戸、大阪、門司、橫濱「サイパン」「テニアン」「ヤップ」「パラオ」「アンガウル」「ソンソル」「トコベ」「メナド」「ダバオ」間往復

▼東廻線　神戶、大阪、門司、橫濱「サイパン」「トラツク」「ボナペ」「クサイ」「ヤルート」間往復

渡航線各港別運賃	島名	橫濱	門司	大阪神戸	サイパン線（各線ニ通用）
サイパン線	サイパン	三十五圓	四十圓	四十三圓五十錢	
	テニアン	三十五圓三十錢	四十一圓	四十五圓	
	ロタ	三十六圓二十錢	四十二圓五十錢	四十五圓	
西廻線	ヤップ	四十六圓	五十一圓	五十六圓	
	パラオ	五十三圓五十錢	五十八圓五十錢	六十二圓五十錢	
	アンガウル	五十六圓	六十圓	六十五圓	
東廻線	トラツク	五十圓	五十六圓	五十八圓	
	ボナペ	六十圓	六十六圓	七十圓	
	クサイ	七十圓	七十五圓	七十八圓五十錢	
	ヤルート	八十一圓	八十六圓	九十圓	

▼サイパン線　神戸、大阪、門司、横濱、二見「サイパン」「テニアン」「ロタ」間往復

従來本航路に依る外國との交通は西廻り線に依り蘭領「セレベス島、メナド港」に達するのみなりしも四年度より之を比律賓群島「ミンダナオ島、ダバオ港」に延長した。

▼グワム島への內地よりの定期航路はまだ開始されて居ませんがサイパン線が延長就航する樣になると思はれる。

船賃はサイパンより三圓位のものである。

▼南洋群島航路は日本郵船株式會社船にして各船とも神戸を基點として門司經由、橫濱を出帆する、每月四、五回就航される。

▼上記賃金は各線とも食事付三等最低船賃であります。十二歲以上の大人、十二歲未滿は半額、四歲未滿一名限り無賃外は大人の四分の一の船賃となる。

▼手荷物は大人一人一七五封度(二十一貫)迄無料、以上は有料です。手荷物として取扱ひされない物は、(一)家具商品、(二)席包、菰包、繩物、形體粗大、荷造粗雜なもの及臭氣を發するもの、(三)貴重品及危險物爆發物、活動フイルム等。

▼航海中の寢具として布團又は毛布一、二枚を要する。船內には有料の貸毛布があるから携帶するなり借りるなり出來る。

南洋廳貸下植民地移住案內

南洋廳に於ては群島中人口稀薄にして未開拓地多き地方に植民地を區劃しこれを開拓せしめるため、群島農業移住者へ一戶につき五町步を無償で貸下げ開拓者の便を計り、尙三ケ年にして一定の開拓をせるものにはこの土地を無償で讓渡する事として移住開拓を奬勵されつゝある。

今こそ群島に發展せんとする拓人進出の絕好機といふべきである。開拓に當り農業を經營せんとする方は奮つて申込みあれ！

備考

渡航の場合、船の出帆日等は何島行或は何線なるかを記載し、左記近接の所に御照會なさるとよい。

日本郵船株式會社
本　社　東京市丸ノ內郵船ビルディング
橫濱支店　橫濱市中區海岸通リ三ノ九
神戸支店　神戸市海岸通リ一丁目
門司支店　門司市棧橋通リ一番地

以下南洋廳にて定めたる規定並に手續等を記載する。

植民地移住者の資格

南洋廳に於ける植民區劃地移住許可方針は自作農を創設する目的にあるを以つて移住希望者は左の資格を有する者となつて居る。

(一)農業に經驗ある滿二十歲以上五十五歲未滿の男子にして妻帶者たる事。

(二)移住植民地に永住の意志鞏固にして自作農たる決心を以つて困苦に堪え得る者たる事。

(三)出願人は官の指定する期間內（許可の日より六ケ月以內）に家族全部を移住せしめ得る者たる事。
但し官に於て已むを得ざる事由に依り全部の家族を移住せしめ得ざる者と認めたる場合は此の限りにあらず

(四)身許確實にして成業の見込みある者たる事。

(五)渡航費の外一ケ年分の生活費及耕作資金として移住者二人の場合は二百五十圓、三人の場合は三百圓、四人の場合は三百五十圓以上、五人以上の場合は增加一人に付百圓以上を現金又は郵便貯金にて携帶し得る者たる事。

(六)身體强健にして他人に嫌忌せらるべき疾患なきものたる事。

(附)出願者及其の妻子、兄弟、姉妹の親族にして戶主の同意を得て出願者と同居するため移住する者は之を出願者の家族と同一として取扱ふものとす。

植民地移住許可願書添付書類

移住許可願書には必ず左の書類を添付する事となつてゐる

1戶籍謄本　戶籍謄本記載の家族中移住せざる者ある場合は其の氏名及事情を別紙に記載して添付すること。

2身許證明　出願中及その家族中滿二十歲以上の男子の兵役犯罪、破產又は家資分散宣告の有無に付市區町村長の證明あるものたる事。

3經歷書　出願人及その家族中滿二十歲以上の男子の職業及經歷をなるべく詳細に記入すること。

4資產調書　資產を種類別に數量及評價額を記入したるものにして現住所又は本籍地市區町村長若しくは支廳長の證明あるものたること。

5出願人及家族の健康診斷書。

6移住調書　左の事項を記載すること。
(イ)移住者中勞働に堪へ得る者の氏名。(ロ)携帶見込金（渡航費を除く）。(ハ)家族又は親戚にして南洋群島に居住する者の有無（有りとせば其氏名、續柄、住所、職業を記入する）。(ニ)出願人家族の移住豫定日。(ホ)其他參考となるべき事項。

7出願者の家族と同居する爲移住する者に付ては左の書類を添付する事。
(イ)戶主の同意書。(ロ)戶籍抄本。(ハ)出願者との親戚

關係を明にせる市區町村長の證明書。

8北海道廳の許可移民にして移住希望者は右の外に左の事項を記載添付すること。

(イ)移住者の義務を遂行せりや否や(所轄支長の證明ある事)。(ロ)移住後の經營狀況(借受又は讓受面積、開墾面積、主要栽培物の種類並反當收穫量、年平均收入及支出額。(ハ)轉住の理由。

移住者に對する許可方針

南洋廳區劃植民地貸下希望者の取扱ひ方針は次の如くされてゐる。

(一)「內地居住者」實情調査の上所定の資格を有する者は許可す。

(二)「外地居住者」朝鮮、臺灣、樺太居住者。

(イ)役所にて設定した植民地の移住者は許可せず。

(ロ)一般居住者は、實情調査の上所定の資格を有する者は許可す。

(註)但し(一)植民地移住者の子弟にして所轄官廳の承認を受けたる者は一般居住者と看做す。

(三)「群島內居住者」

(イ)群島內所在會社に於て招致したる移民は入植を許せず(但し會社の業態及移民の生活狀態を精査考察し已むを得ざる事由ありと認めたる場合は此の限りでない)

(ロ)其他の居住者は所定の資格に合致するものは精細實情精査の上許可する事もある。

移住許可願書提出上の注意

移住希望者は出願前成るべく信頼すべき人に依頼して土地其他の諸般の事情に關し充分調査し經營方針を確立したる上願書を提出することがよい。尙移住許可願を提出したる者に對しては資格を嚴密に調査鉴衡したる上許否を決定するを以つて全部許可せられるものに非ず故に出願者は必ず許可の通知を受けたる後移住することが大切である。

◇願書を提出せず又は願書の儘許否の通知を受けざる以前には絶對渡航せざる事。

貸下植民地

(1)植民地は現在パラオ支廳管內パラオ本島に瑞穗村、朝日村、清水村、大和村の四ケ所、ポナペ支廳管內ポナペ島に春木村一ケ所計五ケ所である。その區劃面積及收容見込戶數、移住許可の戶數を擧ぐれば(昭和十五年四月現在)

植民地名	區劃面積	收容見込戶數	移住許可戶數
瑞穗村	三八〇町歩	七〇	六九
清水村	七一〇	一一五	一〇一
大和村	五五三	九三	三一
朝日村	六一二	一〇六	九七
春木村	五九四	一一五	七八

右の區劃地の大部分は昭和十六年度中滿員となつた。昭和十七年度に新しくパラオ本島アイライ村に新區劃植民地二五〇町歩を設定し十七年度二十五戶、十八年度に二十五戶入植させる事になつた。

年々區劃面積及移住許可數は變化あるにより入植者は豫め所轄支廳宛照合の上致されるがよい。

(2)植民區劃地の一戶當り貸付面積は五町歩を標準とされ、內農耕地約四町歩、穀物、蔬菜、果樹工藝作物等栽培、外林業地約一町歩薪炭林、其他農產製造、畜產等を加味し自家勞力を主體とせる複式農業を經營せしむる方針とされて居る。

(3)願書は一通(添付書類共)を作成し植民地在地支廳へ提出するものである。

(4)移住者に對する特點は、(一)船賃の五割引、引越荷物の三割引。(二)移住者一戶に對し五町歩を無償で貸付し、尙貸付を受けたる土地は左の條件に從ひ借受人の請求に依り之を無償で讓與する事になつてゐる。

貸付を受けたる者は事業成功期間(三ケ年)內に其事業を成功し且借受地又は其附近に住居を構へたる事。

(移住許可願樣式)

植民區劃地移住許可願

一、移住地

何々島 何々植民地

二、目的

植民區劃地ニ移住シ國有土地ノ貸下ヲ受ケ農業ヲ經營シ以テ自作農トシテ永住ス

三、移住家族

妻 何々

長男 何々

何々 何々

右ノ通移住致度候ニ付御許可相成リ度左記關係書類相添へ此段奉願候也

昭和 年 月 日

本籍

現住所

氏名 ㊞

何支廳長殿

添付書類(一)戶籍謄本一通。(二)身許證明書。(三)經歷書一通。(四)資產調査書一通。(五)健康診斷書各一通。(六)移住調書一通(前記說明參照下さい)

其他の事情

「植民地」はこれを開墾すれば農耕に適する土地なるを以つて移住者は、先づ伐木、開墾より着手するものである。從つて移住當初は相當の勞力を要し、且收穫を得るまでの約一ケ年間の生活費の準備を要する譯である。各植民地には指導員が常駐して種々なる指導斡旋に當つてゐる。

「住宅」は防塞の設備不用なれば極めて簡單にして、これに要する材料は借受地の樹木の拂下げを受けて丸太のまゝ掘立作として周圍を圍ひ、床を設けて屋根は亞鉛板を用ひて雨水を水槽に導きてこれを飲料水として使ふもので、群島にては大抵飲料水は日々數回夕立の如き降雨あり、この清淨なる天水を飲料水として用ふるのである。

屋根はブリキ板とせば安價にて足るもその腐蝕早く不經濟なり、又椰子の葉を以つて葺けば雨水の導きがよくないから亞鉛板を用ひるがよいとされてゐる。

屋内はなるべく土間を廣く取り生産物の置場に利用するがよい。建築費は住宅の廣狹高下により差あるも普通坪當三十圓内外にてこの外豚、鷄舍の設備が要る。

「農具」としては伐木、開墾、農耕に要するもの群島にては適當なるものを買入れるには不便且困難であるから内地より携行する事がよい。差當り必要なるものゝ主なるものとしては斧、鋸、鳶口、唐鍬、鎌(笹刈と草刈用)三本鍬、平鍬、シヤベル(スコツプ)、其の他現在所有の農具、大工道具類。

「衣服」衣服、寢具、蚊帳等常夏の氣候なるを以つて内地の盛夏に於ける準備でよい。

「經營」作物種類、甘藷、タピオカ、蔬菜、陸稻、玉蜀黍、バナナ、パインアツプル、椰子樹等適當に栽培し更に牛、豚、鷄等の飼育に努め、勞力の調節自給、肥料の自足を計り猶開墾當初に於ては薪炭材の利用等により、出來得る限り副業的方面の收入の途を取る事が必要である。

(其他)

現在の植民地は國民學校、病院等少しく遠隔の地に在るが、國民學校の設備は内地と同じく教育に支障を覺えず。

移住者は絶海の異鄉常夏の地に於て開墾より着手し、所期の目的を達成せんとするには心身共に豫想外の勞苦無しとせず、故に移住者は農業に充分經驗を有するは勿論、身體强健志想堅固にして苟くも一攫千金の投機的觀念があつてはならぬ。

今日世界何處の地に於ても己が業務に專心努力するにあらざれば到底成功を期する事能はざるを以つて此の點深く熟考する所である。

特點

この區劃植民地に移住許可された家族には渡航船賃は半額、引越荷物は三割の割引證を下附される。許可を受けたら次の如き書式で南洋廳東京出張事務所(東京市麹町區一ノ三〇)宛願出るとよい。

船賃割引證交付願

昭和　年　月　日附ヲ以テ植民區劃地移住許可相成リ候ニ付家族同伴　月　日ヽ港發　丸ニテ植民地ヘ移住致度候條左記ノ者ニ對スル船賃割引證交付相成度別紙戸籍謄本相添ヘ此段奉懇願候也

昭和　年　月　日

住所
職業
氏名　㊞

南洋廳東京出張所　御中

記

戸主　氏名　年　月　日生
妻　同　同
長男　同　同

以上何名

尚植民地移住後の經營資金一戸につき三百五十圓迄南洋拓殖株式會社で貸與へてもらはれる。

新開拓地の事情

南洋群島に於ける未開拓地開發のため南洋廳に於て、パラオ本島、アイライ村、瑞穗村、清水村、朝日村、大和村、ポナペ島に春木村の計六ケ所に植民地を區劃設定し、移住者指導所、國民學校、病院その他の産業施設を行ひ、移住者一戸に五町歩宛貸下して、移住者を招致しつつあり、逐年移住者も增加され、今では立派な移住村を形成し、南洋農産業の中樞として發展されてゐる。

群島に雄飛し熱帶農産界に活躍せんとするものの進出の絶好期である。

群島の土質は安土岩の風化分物の遷積よりなり、表土比較的深く、地味も案外肥沃にして各種農作物の植栽に好適とされてゐる。

氣候は一年を通じて變化殆んどなく、所謂常夏の氣候にして、日中の最高溫度華氏八十五度乃至八十七、八度にして九十度に昇る事は稀である。降雨量は年により差はあるも大體三、三〇〇耗乃至四、〇〇〇耗の間にあり、毎年七月から九月頃までを雨期とし、一月から三月頃までは比較的雨少く乾期となつてゐる。

作物としては甘藷、タピオカ、陸稻、蔬菜、黄麻、キヤツサバ、玉蜀黍、バナナ、パインアツプル、コーヒー、椰子樹その他の熱帶特産物の栽培に好適され、これが經營に當り、牧畜、牛、豚、鷄等を飼育して勞力の調節と自給肥料の生産を圖り、猶開墾當初に於ては薪炭材をして薪炭の製造等極力收入の途を講ずるものである。

この氣候常夏、天惠の地にして住宅、衣類生活等極めて簡粗にて足りる。開墾當初一年は總てに創業時代なれば多少の資金の必要あるも、二年以降に至れば漸次收穫、收入は增加され、年と共に相當の收益をあげつつ五町歩の獨立農として活躍出來る。

瑞穗村植民地

本植民地はパラオ本島瑞穗村に區劃、邦人移住者を招致せるもので、昭和二年産業試驗場で農家經濟調査のため依嘱、移民を四戸入植せしめたるに始まりその成績良好なる

を得、その後入植者は續出され現在に至つてゐる。

本植民地は南洋廳所在地コロール島の海路五浬の沿岸にあり、コロール島との交通至便にして生産物の搬出、販賣の容易なるを以つて繁榮し、植民地の大半は耕作地として開墾され、地の利を得、生産品の需要圓滑なれば、移住者は何れも自作農として堅實なる發展を見せてゐる。新設のアイライ村植民地は瑞穗村の背後海岸に在る。

朝日村植民地

本植民地はパラオ本島アルモノグイ村カルミスカン川流域の官有地に區劃せる植民地で、大正十五年八戸の入植者ありて開墾に着手し漸く收穫を見るまで進みたる昭和二年五月、當時本島に來襲せる大暴風に遭遇して大被害を蒙り植民の受難史がある。本植民地は昔日は植民地附近に蔬菜類の需要少く、ために瑞穗村同樣生産品をコロール島に搬出販賣せねばならず、加へて當時コロールまでは海路十五浬、カルミスカン川三浬半の地にありて、月僅かに三回より便船なかりしため極めて不利の事情にありしが、現在では本島の諸産業勃興され、土地肥沃と相俟つてその後極めて活潑なる進展を致してゐる。

尙南洋鳳梨株式會社では本植民地にパインアップル罐詰製造工場を經營して居り、移住地はパインその他各種の熱帶作物の栽培極めて盛にして、その將來は大いに有望視されてゐる。

大和村植民地

本植民地もパラオ本島ガスパンに在り、未開拓地拓發のため昭和十三年初めて百町歩、二十戸分區劃せるも同年中既に申込者滿員となり、第二回は四百町歩、八十戸分を區劃設定して移住者を招致し入植せしめた。今後、新區劃地も設置される樣傳へられてゐる。

移住地には南洋鳳梨會社の罐詰工場及熱帶農產會社のカカオ、キヤツサバの原料栽培等により熱帶特產物の生產地として早くも活況を呼び飛躍されつつある。

尙南洋拓殖直營の大和村農場四百六十餘町歩があり、鳳梨、カカオ、キヤツサバ等の開墾栽培が進められてゐる。

清水村植民地

パラオ本島カイシヤル村、ガルドワク川流域にあり、近年まで殆ど餘り顧みられてゐなかつたが、最近群島の諸產業は急激なる發展をなしたるに從ひ、サイパン等より次第に未開拓地廣大なる本島への進出は開始され、產業企業も勃興されつつあるため昭和八年以來入植者は續出を見るの成績を示され、地味もよく早くも相當なる好成績を擧げ活躍されてゐる。本植民地にも「南洋鳳梨會社」では罐詰製造工場を設置、移住者の生產品の加工移出は開始されつつあり、移住者は堅實なる發展を爲してゐる。

春木村植民地

ボナペ島パルキールに在る植民地にして本植民地はその地域六百町歩餘に亙る廣大なる面積を有し一一五戸を入植收容し得らる。最近本植民地への希望者多く、既にその殆と入植されてゐる。第二期計畫として更に數百町歩を設定すると傳へられてゐる。

春木村は比較的平坦、地味肥沃にして水利の便ある所多きため開拓後水稻にも適され、作物としては水稻、陸稻、コーヒー、タピオカ、パインアップル、蔬菜、バナナ、果樹黃麻等の栽培に適されてゐる。

近時パラオ本島と共にボナペ島は群島最大の面積を有する處から今後の群島產業の發展地として一般に注目されつつあり、各種企業會社の進出漸く繁く、南洋興發會社のタピオカ澱粉工場、南洋鳳梨會社のパインアップル工場、南洋拓殖興業のトバの栽培等々各新產業事業は本島を舞臺として發展されてゐる。

本移住地は大ボナペの熱帶特產物生產の中心地としてその將來の發展は見るべきものがあらう。

南洋拓殖挺身隊

南洋拓殖株式會社ではヤップ島の同社所有の未開拓地開拓のため開拓に從來する青年を『南洋拓殖挺身隊』として募集し、內地で一ケ月訓練の上、ヤップ島の同社農場に送り開拓に從事させてゐた。大東亞戰爭前二、三年迄は每年數回募集されたが、最近では年に一、二度となつた。會員中照合も少くないので前回の募集要項を次に揭げて參考とする。

南洋拓殖挺身隊

「應募資格」（一）年齡滿十八歲以上三十歲以下の男子にして父兄の完全なる承諾ある者たる事。（二）經歷は國民學校卒業者にして農業に經驗ある者。（三）身體强健思想堅實にして南洋開拓に熱意を有し現地に於て共同生活及農耕に從事し得る者。

「應募手續書類」（一）父兄連署の志願書。（二）履歷書。（三）戶籍謄本。（四）身體檢查書。（五）市、町、村長及學校長、青年團長の推薦書各一通。

「申込場所」訓練の依託を受けた（埼玉縣與野町・農民講道會）

銓衡は志願者を農民講道館に集めて嚴密な身體檢查と人物考查を行ひ、合格者を決定し合格者は同所に於て一ケ月間精神及農事作業の實地訓練を行ひ、終了後現地の南拓道場に渡航、三ケ年間南洋拓殖の直營農場に於て開墾、農業その他の仕事に從事するもので、三ケ年間の訓練終了者は五町歩の未開拓地を受けて獨立農となる事も出來、又挺身隊の幹部として活躍する事も出來る事になつてゐる。待遇

は內地訓練は勿論自費を要しないし、渡航に際し制服、制帽が給與され、渡航費は南洋拓殖で持ち、渡航後現地訓練中は日額一圓五十錢內外の手當が給與される。以上の樣であつた。

進出する事業會社

——南洋篇——

◇南洋拓殖株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

資本金四千萬圓に增資計畫中、昭和十一年資本金二千萬圓を以つて設立された國策會社にして、同社は南洋群島の全面的に互り資源開發に乘り出し、鑛業、拓植移民、開拓栽培、水產、加工業、海運汽船、造船、陸上交通運輸等の全面的に强力なる進出を開始、燐鑛ではアンガウル鑛業所の經營を初めファエス、ソンソル、パンナ、ペール島の各燐鑛を經營する一方、群島產業の第一線に「南洋アルミ」「東洋電化」「南洋鳳梨」「南興水產」「日本眞珠」「豐南產業」「南洋電氣」「南洋汽船」「南拓興業」等の會社を活躍せしめ、或ひはパラオ、ボナペ、ヤップ島の開墾拓植を進める等、今や新鋭の勢を以つて海に陸にと全群島を事業地として群島產業界に覇を唱へ飛躍發展を示してゐる。內地事務所は東京市麹町區丸ノ內一ノ八日本興業銀行ビル內。

燐礦鑛業所

アンガウル鑛業所は、世界大戰により、我國占領當時獨逸會社により採掘されてゐたものであるが、占領以來我國の經營になり、昭和十二年より南洋拓殖會社に移讓されたもので、埋藏量極めて優良なるにより、南拓と三井鑛山その他の出資により同社が創立されパラオ島ガラマス村、アルモノグイ村フハエス鑛業所、鑛區五二萬坪、埋藏量五十英噸、投下資本三百萬圓、從業員約五百名、十二年末、採鑛開始さる。

その他にソンソル、パンナ、ペール島等である。

◇南洋アルミニューム鑛業株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

資本金一千萬圓、昭和十二年設立、アルミの原鑛ボーキサイトは、從來悉く海外輸入品に依存されてゐたが、南洋群島に豐富なる埋藏あり、その品位極めて優良なるにより、南拓と三井鑛山その他の出資により同社が創立されパラオ島ガラマス村、アルモノグイ村

募集の時は國民職業指導所を通じて行はれる一方新聞にも廣告されますから希望者はこれらに注意してゐて應募する樣致されるとよい。豫めの募集期等については南洋拓殖會社宛照合されたら判ると考へられる。

◇南洋拓殖株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

資本金四千萬圓に增資計畫中、昭和十一年資本金二千萬圓を以つて設立された國策會社にして、同社は南洋群島の全面的に互り資源開發に乘り出し、鑛業、拓植移民、開拓栽培、水產、加工業、海運汽船、造船、陸上交通運輸等の全面的に强力なる進出を開始、燐鑛ではアンガウル鑛業所の經營を初めファエス、ソンソル、パンナ、ペール島の各燐鑛を經營する一方、群島產業の第一線に「南洋アルミ」「東洋電化」「南洋鳳梨」「南興水產」「日本眞珠」「豐南產業」「南洋電氣」「南洋汽船」「南拓興業」等の會社を活躍せしめ、或ひはパラオ、ボナペ、ヤップ島の開墾拓植を進める等、今や新鋭の勢を以つて海に陸にと全群島を事業地として群島產業界に覇を唱へ飛躍發展を示してゐる。內地事務所は東京市麹町區丸ノ內一ノ八日本興業銀行ビル內。

燐礦鑛業所

アンガウル鑛業所は、世界大戰により、我國占領當時獨逸會社により採掘されてゐたものであるが、占領以來我國の經營になり、昭和十二年より南洋拓殖會社に移讓されたもので、埋藏量極めて優良なるにより、南拓と三井鑛山その他の出資により同社が創立され、パラオの移住地を中心とし栽培を進めつつあり、新興產業としてその發展は大いに期待されてゐる。

◇南興水產株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

資本金五百萬圓、事業は海產物製造販賣、製氷、冷凍、水產、罐詰等に海洋資源目指して活躍されてゐる。

事業地はサイパン、パラオ、パガン、トラック、ボナペに置き、就業漁船約五十隻、漁獲高三百五十萬貫、經節製產額六萬函、南洋節の名聲を博し、內地市場に猛烈な進出を爲す等、群島水產界に覇を唱へてゐる。

◇南洋電氣株式會社

本社　南洋パラオ

資本金五十萬圓、昭和十二年創立、南洋拓殖の主たる出資により設立せらる。群島一圓に互る電燈、電力、電熱の圓滑なる供給を目的とされ、コロールに工場を設置、採掘、運搬、撰鑛、發電、社宅、病院等諸種の施設が完備され、時局下飛躍發展中。

◇南拓鳳梨株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

資本金二百萬圓、昭和十二年設立、群島の熱帶特產物たるパインアップルは現在各島に於て栽培あるを以つて、罐詰工業の確立の急務なるに應じて設立さる。パラオ瑞穗村、朝日村、清水村、ボナペの春木村等の各移住地を初め、ヤップ島等に新式工場を設置し、移住地より原料供給を受ける一方、直營耕地の經營等により逐年擴張を進められ、新產業輸出向として發展されてゐる。

◇豐南產業株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

資本金二十萬圓、熱帶植物キヤツサバ、ヒマ、カカオ、レモングラス等の栽培は國策的見地からも重要なるものであり、海外より輸入を見てゐる時、これを群島に於て生產する目的により、南拓と內地消費者との共同出資にて設立され、パラオの移住地を中心に、パラオ、パガン、ボナペの春木村等の各移住地を初め、ヤップ島等に新式工場を設置し、就業漁船約五十隻、漁獲高三百五十萬貫、經節製產額六萬函、南洋節の名聲を博し、內地市場に猛烈な進出を爲す等、群島水產界に覇を唱へてゐる。

◇南洋電氣株式會社

本社　南洋パラオ

資本金五十萬圓、昭和十二年創立、南洋拓殖の主たる出資により設立せらる。群島一圓に互る電燈、電力、電熱の圓滑なる供給を目的とされ、コロールの對岸に火力發電所を有し、原動機ディゼル機關KW二基、パラオ附近一圓に供給、更にサイパン進出、ボナペに水力電氣經營も進行中、群島產業の立體化に進み、前途益々有望視されてゐる。

◇南方產業株式會社

本社　南洋パラオ

資本金百二十萬圓、昭和十一年設立、近時各企業の急激なる發展に伴ひ、工場、倉庫地帶の造成を必要とし、海面の埋立事業を行ひ、或ひは人口激增につれて起る住宅建設等に乘り出し、土地家屋建築方面に强力な發展を示してゐる。

◇東洋電化工業株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

資本金五百萬圓、本社は燐礦を原料とする化學窒素肥料の製產及化學製品の製造並に販賣を行ふ一方鑛業並に製鍊、電力事業にも進出し、群島に於ける化學工業事業會社として新進氣鋭の

發展振りを示しつゝあり、その將來は大いに囑目されてゐる。

◇南洋汽船株式會社

本社　南洋パラオ

資本金百五十萬圓、昭和十三年創立、群島諸產業の勃興につれ、海運事業の發達は緊急事業である。南拓ではその沿岸航海の充實を圖り、又東亞連絡線航路に南拓丸、南榮丸等を就航せしめ尙沖繩縣、臺灣及パラオ、トラック、ポナペを繋ぐ新航路の開設も進めつつあり、現在雛島航路も就航してゐる。

◇南拓興業株式會社

本社　南洋パラオ

資本金四百萬圓、昭和十四年創立、銀行なき群島に於て融資、預金手形の取扱を始め、住宅倉庫等の業務も兼ねた綜合會社として、その將來は一般より大いに期待されてゐる。サイパン、ポナペ等各主要島に支店を設置、群島金融機關として堅實なる發展を爲してゐる。

◇日本眞珠株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

資本金は四百萬圓、昭和十三年創立、從來無制限なる自由競爭狀態の統制を行ひ、綜合以つて南海の眞珠業に活躍す。主要事業は眞珠貝の採取、運搬、保管、賣買並に委託販賣、母船及運搬船、眞珠貝採取船の經營、眞珠貝採取業者に對する物資の供給、金融等に關する業務であり、母船眞洋丸二七四四噸、運搬船ニューギニヤ丸、第五アラフラ丸、皇圖丸、朝日丸、尾州丸、神州丸等で全從業員二千數百名、年產額五百萬圓。

◇南洋興發株式會社

本社　南洋サイパン島・チヤランカ

資本金一億圓、群島事業界に王座を占む。製糖事業を第一に、タピオカ澱粉、酒精、水產、製氷、海運、造船、鑄鐵事業に活躍され、サイパン、テニアン、ロタ、パカン、ボナペ、クサイ、トラック、パラオ等を事業地として群島產業に多角的發展を遂げてゐる。主力を製糖事業に注ぎサイパン（第一工場）、テニアン（第二、第三工場）、ロタ（第四工場）の三島に製糖工場を設置、甘蔗耕作地、自營農場及小作農を合して約一萬二千町歩を擁し、甘蔗耕作及びその他傍系事業に邦人三萬餘を定着せしめ從事せしめてゐる。ボナペ島に熱帶特產タピオカ澱粉事業、サイパン、テニアンに酒精工場、パラオ、トラックに水產事業、サイパン、テニアン、トコベ、ペリリユウ島に燐礦事業を經營、その他に海運造船等にも進出を見せ、群島各地に陣營を張り飛躍的發展を續けてゐる。昭和十七年南洋貿易株式會社（資本金一千萬圓）及太平洋貿易株式會社（資本一千萬圓）の二社を同社に合併の上、一億圓に增資し、積極的に外南洋貿易に雄飛する事となつた。東京事務所は東京市麴町區內幸町一ノ二東拓ビル內。

◇海洋殖產株式會社

本社　南洋パラオ・マルカル

資本金三百萬圓、昭和十二年創立、濠洲近海及アラフラ海に於て眞珠貝採取事業家、丹下福太郎氏の事業に南洋興發が出資參加して設立された會社、ダイバー船四八隻其の他四十餘隻を有し南海洋資源開拓に當る一方南方遠洋漁業に活躍されてゐる。

◇海南興業株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

資本金三十萬圓、昭和十一年南興眞珠株式會社として設立されたるものなるが、その後眞珠貝採取事業の統制せられたると同時に現在の社名と改稱し水產漁業、養殖、加工林業製材、木工工業、海上運輸等に進出を開始、堅實なる發展を示してゐる。尙日本海の鮪漁業や揚子江上の運輸業にも進出す。

◇南興農產株式會社

本社　南洋サイパン・北ガラパン

同社は興發のサイパン、テニアン、ロタ島に於ける所有地の休閑地を利用して蔬菜及適所適栽の農產物生產、生產品の加工を目指して進出する一方、移住者の栽培の指導、生產品の取引等に當つてゐる會社である。

◇南洋石油株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

資本金三百萬圓、昭和九年創立、本社は鑛油の輸送、貯藏、保管、販賣並に其他の附帶事業及南洋產業開發に資する事業にも進出を爲す。出張所はサイパン、トラック、ボナペ等に在る。

◇南洋油脂興業株式會社

本社　南洋サイパン・チヤランカイパン、トラック、ボナペ等に在る。

資本金四十五萬圓、昭和十三年創立、南洋興發系で、本社は南洋群島に於けるコプラの移出、製油に進出、製油工場は大島に工場を設置、活潑なる發展振りを示してゐる。尙同社は朝鮮煙草の群島賣捌元として商戰にも進出してゐる。

◇東洋アルミニユーム株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

資本金二千萬圓、本社は南洋群島に於て採掘されるボーキサイトを原料として、これがアルミニユームの製鍊事業に活躍し、南洋群島を舞臺として本邦輕金屬界に氣を吐いてゐる。南洋アルミニユーム鑛業會社が採掘部門を受持つてゐるが本社はその製鍊部門に當つてゐる。

◇バラオ交通株式會社

本社　南洋パラオ・コロール

パラオ、コロール島に於ける交通網の充實に先驅をつけ乘合自動車を經營する一方貨物運輸等に進出す。乘合、市街線、郊外線、貨物部とに分たれて定期運轉を行ふ。パラオ交通界に活潑なる發展を爲してゐる。（南貿系）

◇株式會社太洋商店

本社　南洋サイパン・北ガラパン

資本金二十五萬圓、支店テニアン、ロタ、パラオ、トラック、クサイ、ヤルート等に有し、群島貿易業に堅實なる發展を示してゐる。元太洋商工合資

會社を改組し、昭和三年、株式會社に改め、百貨卸小賣・貿易・コプラの取扱ひは南貿に次ぐ商網を張つてゐる。パパイン製造は群島産業に特筆すべきで、ロタ及びサイパンに直營農場を有し、製品は海外にも輸出ずる等群島の太洋商店として一般の信認大にして今後の飛躍は注目されてゐる。

◇南洋コーヒー株式會社

事業地　南洋サイパン島

資本金五十萬圓、本社を大阪市北區老松町一ノ三に置く。サイパン島タツポウチヨウ、ポートリコ、パーパコに約二百町歩のコーヒー園を有し、ポンタムに七千餘坪の工場を設置、年産約八千俵國産コーヒーとして推奬されてゐる。創立大正十五年、社長住田多次郎氏、サイパン支店長池田寅平氏。

◇南洋タピオカ株式會社

本社　南洋サイパン・サドクターシ

資本金二十萬圓、同社は昭和七年創立、合資會社たりしが同十二年株式となる。サイパンに於て、タピオカ澱粉製造事業を經營、工場敷地約六千坪、建坪千二百餘坪の新式工場を有し、製産能力四千萬斤と稱さる。會社農場と自作農業者との契約タピオカ作付約八百町歩、逐年事業擴張を企圖されつつある。

◇南洋ココア株式會社

事業地　南洋ロタ島

資本金五十萬圓、東京京橋區新川町一ノ六、ロタ島に經營所を置き、同島サバナのイイサンに約二百町歩の耕地を有し、パパイヤ、ココア、トバ等の熱帶特産物の栽培に當り、着々本格的に發展活況を見せてゐる。同社の事業は群島新企業の一つとして今後の發展は嘱望されてゐる。

◇南洋産業株式會社

本社　南洋ボナペ、コロニヤ

資本金五十萬圓、昭和十二年創立、ボナペに於て造林、製材、工場經營、土地經營、拓植、水産、鑛業、物品販賣、海陸運輸、土木建築等を營業科目として多角的に進出開始されつつあり新企業會社としてボナペ開拓の一線に活躍しつつあり、その前途は刮目されてゐる。

◇バラオ水産株式會社

南洋バラオ・アラカペサン

資本金三十萬圓、昭和十二年創立、眞珠貝、高瀬貝の養殖並に採取その他の水産業を經營、海洋資源開發に活躍す。相當活潑なる活動を續け業績を擧げてゐる。採取はアラフラ海、眞珠養殖はバラオ諸島アラカペサン・アミオンスにて經營し、珊瑚採取業も經營してゐる。

◇南洋水産株式會社

本社　南洋サイパン・北ガラパン

資本金十五萬圓、昭和十三年創立、群島水産業に進出、群島を中心として珊瑚の採取及加工の經營、經鯖の漁業及び經節の製造等各方面に活躍されてゐる。

◇大橋タピオカ製造所

本社　サイパン、製糖街

資本金二十五萬圓、昭和八年創立、大橋菊次郎氏の個人經營にして、サイパンに於てタピオカ栽培を行ひ、澱粉工場を經營、製品年産千五百噸、工場敷地三千五百坪、從業員約六十名、群居する大會社に伍して堅實なる發展を遂げ斯業に重きをなしてゐる。

◇株式會社秋山高商店

本社　南洋パラオ・コロール

本社をパラオに、營業所を東京丸ビル三七四區に、出張所をサイパン、テニアン、ロタに設け、內外煙草及各種藥品の輸出入販賣に活躍してゐる貿易業商社である。

◇南洋拓殖興業株式會社

事業地　南洋ボナペ・コロニヤ

資本金二十萬圓、昭和十一年創立、本社を東京市杉並區高圓寺五五八に置く。ボナペに數百町歩の官有地拂下を受け、農場を有し、小作農を入耕せしめ、新産業たるトバ（デリスとも稱する驅虫劑原料植物）等の栽培を進捗中である。新興ボナペの新特産企業會社として、その將來は大いに嘱望されてゐる。

◇拓南興業株式會社

本社　南洋ヤップ島コロニヤ町

資本金十萬圓、昭和十一年創立、ヤップ島を中心として椰子外皮採取、海綿採取、及土木工事事業にも進出して獨自の立場から活躍してゐる。尚同社は外南洋ボルネオ島にも事業の進出を見せてゐる。

◇マーシャル眞珠株式會社

本社　南洋ヤルート

資本金十萬圓、昭和十一年創立、ヤルート支廳管內エボン島、高瀬貝、白蝶貝、黑蝶貝、阿古屋貝の採取養殖を經營す。尚同社は群島の北端のボカー島に於て工業鹽の製造も進められつつあり、ヤルートを本據とし、水産界に獨特の發展ぶりを見せてゐる。

◇國晃産業株式會社

事業地　南洋ボナペ・ナット村

資本金十萬圓、昭和十一年創立、本社を神戸市神戸區元町六丁目に置く。ボナペ島ナット村に約百三十町歩の耕地を有し、驅蟲劑植物及キヤツサバ等の栽培に活躍しつつあり、ボナペの產業開發に當つてゐる事業會社。

◇日本酵素工業株式會社

南洋サイパン・ポンタムテア

資本金七萬五千圓、昭和十一年創立、サイパンにてパパインの製造、販賣に當る。パパインを原料として蛋白分解劑スメルチン、纖維精練劑ツルポンの製造を爲す。尚姉妹會社南洋酵素合資會社も斯業に活躍してゐる。

◇大洋眞珠株式會社

本社　南洋バラオ

同社はバラオに本社を置き、眞珠採取事業に活躍してゐて、アラフラ海方面に遠洋して眞珠貝の採取に當る一方養殖業に進出、その他の海洋資源開發に發展してゐる。

◇わかもとボナペ事業所

出張所　南洋ボナペ

製藥業わかもと本舖ではボナペ島春木村に約二百五十町歩の農場を持ち、タピオカ栽培をなし、タピオカルートの製造に活躍中である、ボナペ新興産

業として一般に注目されてゐる。

◇グリコ株式會社
事業所　南洋ポナペ

子供の菓子として知られてゐるグリコ會社がポナペにチヨコレートの原料であるカカオ栽培に進出してゐる、カカオは從來輸入に俟つてゐたがこれが自給を目指してカカオ農場を經營發展中である。

◇南洋パルプ株式會社
本社　南洋ポナペ

紙の原料たるパルプの製産に進出して先づ群島のギニヤグラスがパルプに好適されてゐる處より、同社はこれが植栽、加工、生産に發展中にして、その將來は一般に刮目されてゐる。

◇南洋電力株式會社
本社　南洋ポナペ

資本金五十萬圓、同社は東洋紡系の會社にして、ポナペに於て發電事業を起し、電動力の供給に活躍中、同島の産業の最近の勃興は目醒しいものがあり、その前途は洋々たるものがある。

◇南方超業株式會社
南洋ポナペ

資本金十五萬圓、二百五十萬圓に增資中、同社も東洋紡系の企業會社にして、ポナペ島の資源開發に進出を企圖する一方、特産物の貿易方面にも發展するものと云はれてゐる。

◇安部産業株式會社
南洋ポナペ・コロニヤ

資本金一八萬圓で同社はボナペ島の林業に發展中で、トン材とアイボレナットの生産輸出業に發展してゐる。廣島縣尾道市堂町安部肥料店木材部より昭和十六年獨立せるもの。

◇ポナペ開築社
南洋ポナペ・コロニヤ

同社は公稱資本十萬圓、ボナペ事業界に古き沿革を持てる會社で、ポナペ島ポルマンに約百五十町歩の土地を有し、農園を經營する一方、製材、椰子、纖維、製氷事業、請負業等に活躍し、堅實なる發展を遂げて居る。

◇南洋群島の新聞

南洋群島の主なる新聞としては次の如きものがある。購讀料は一ケ月一圓二十錢、外に送料十五錢（郵便局より內地同樣に送金出來る）。內地への發送は船便の關係上大體一週間毎に發送されて來るのが普通である。

「南洋毎日新聞」
南洋サイパン島ガラパン北二丁目

「南洋　新報」
南洋毎日新聞社

南洋パラオ島コロール町

「南洋　新報」社

◇サイパン信用組合
南洋サイパン

同組合は昭和八年三月の創立にして庶民金融機關として同島金融界に重きを爲してゐる。出資總額約三〇萬圓、組合員數約五〇〇名、一ケ年の收支取扱高百萬圓以上にして、一般の信認は極めて厚い。組合長は木下新藏氏。

東印度篇

位置

東印度諸島（舊蘭印）とは太平洋上赤道の南北に展開するかつて和蘭の領有せし南洋諸島の總稱にして卽ち東經九十五度より百四十一度、北緯六度より南緯十一度に及ぶ。

大スンダ群島—スマトラ、ジヤバ、ボルネオ、セレベス
小スンダ群島—バリー、ロンボツク、スンバワ、スンバ、フロレス、チモル等。
モルツカ群島—ジロロ、ブル、スラ、セラム等。
ニューギニアと屬島—ニューギニア西半部、アル、ミソイル等

の四群島から成つてゐる。總面積は一、九〇四、三四五・七平方粁で我國朝鮮臺灣樺太を含む總面積の約三倍といふ廣大なる地域を占めてゐる大版圖である。

之を大觀すると南は濠洲大陸に相對し、北は我が新南群島及亞細亞の南東部と相呼應し、大東亞海に跨り、西は印度洋に、東北はフイリツピンを經て、我が南洋群島に接してゐる。

地勢

東印度の地勢を大觀するに、ボルネオ及ニューギニアを除く外は全部火山地帶であつて、火山系はスマトラの北西端に起り、西海岸に沿ふて南走し、ジヤバの中央南方を橫貫して小スンダ列島に至り、グーメンアビ島より北に折れてテルナテ、ハルマヘラの火山列山を起し、西折してセレベスの北端ミナハサ地方の火山となり、更にサンギル列島を經て遙かにフイリツピンのミンダナオ島に及んでゐる。一方ボルネオ島の山脈は東北端に起つて西南に走り、南方で二分され北部はイラン山脈、南部はボーフエンカプアス山脈となり、北部サラワクと舊蘭領との境界をなしてゐる。セレベス島はその島なりに中央山脈があり、ニューギニアの山脈は東西に走りて數多の高峰が聳えてゐる。

高山も多く、東印度の最高峰ニューギニア島のカルステンツ山などは海拔五、〇四〇米もあり、この外三、〇〇〇米を越える高山が二十六も數へられてゐる。

河川はジヤバとセレベスに流れるものはその地形上一般

に短く大河川なく、スマトラ、ボルネオ、ニューギニアにあるものは延長大にして船舶の航行に適する。これら河川は島内の主要な交通路をなしてゐる。

四周環海の多數の島嶼や廣い內海を抱いてゐるので、海の面積が陸の面積の約三倍といはれ海岸線は至るところ屈曲をなし良港に惠まれてゐる。

沿革

東印度へ歐洲人の渡航せるは中世紀頃からで、最初アラビヤ人のこの地方を旅行せるものにより紹介されたもので九世紀頃の當時の地理書に、斷片的ながら幾つかの島が紹介されてゐる。その後マルコ・ポーロ等の地方を旅行する者もあつて十六世紀の初めポルトガル人が最初この地方に來た頃には相當詳細な地圖が作られてゐた。

一五〇九年ポルトガルの水師提督セリエラーが數隻の軍艦を率ゐて探檢せるもこの探檢隊は原住民の襲擊を受けて失敗した。そこで一五一一年、アルブルケを迓りサルタンが十分に前回の賠償をせざるを理由に宣戰して當時最も有望な香料貿易の中心地マラッカ海峽を占領して仕舞つた。

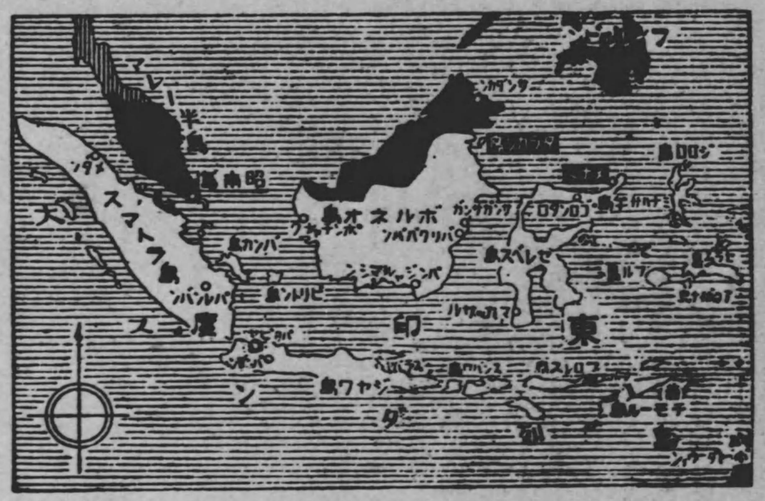
次いでこれを中心に漸次優勢を占むるに至つた。

然るに一五二一年有名なスペインのマゼラン一行の中一隻が暴風のため吹き流されチモル島に漂着しここを占領したのでポルトガルと勢力爭ひとなつたがその後和議成立しスペインはフイリツピンを領有することになりこの地の要求を棄てるに至つた。

當時ポルトガル人の勢力はモルッカ群島を中心として南部諸島に及びテルナテに總督を置いて貿易に從事してゐたがその後總督の代る度に行政は紊亂し壓政のため原住民の反亂を起し次第に勢力は衰微し始めた。

オランダの統治

オランダ人が初めて來航したのは一五九六年で、コルネリス・バウトマンの率ゐるオランダ貿易艦隊がスマトラ島のバンタムに着いた時に始まる。當初は唯貿易を行ふに始まつたが、この地方の侵略の容易なるを見るや貿易より轉



じて權力の扶植に乘り出しその先鋒として一六〇二年蘭領東印度會社なる特殊會社を設立し、これと東印度種族諸侯との條約を結び、傭兵を募り、或は行政官、裁判官の任免の權限まで與へられた絕大なる勢力あるもので、同會社は直にバング・ネイラ及テルナテ諸島の權力者と條約を結ぶに成功し、翌年バンタムに居留地を造り、進んで西部ジヤバを侵すこと。六一〇年にはボルネオの權力者と條約を結ぶ等勢力を擴大し一六一九年にジヤバのジヤガタラに本部を移してバタビアと改稱し發展を開始、一六二三年アンボイナ事件として歷史上の慘事たるオランダ人がポルトガル人やイギリス人を大虐殺した。その後オランダの勢力は益々强くポルトガル勢力を驅逐し、ジヤバを蘭領とした。一七八九年同會社は內政的事情で解散するや、ここに東印度諸島は和蘭の直轄を受け、總督を派遣してこれを統治するに至つた。

一八一〇年和蘭本國がナポレオンの爲に攻擊された間隙に乘じて英國がこの方面を一時同國の統治下に委ねられたが後ロンドン條約に基きて再び和蘭に返還された。而して一八二八年ニューギニアに進出してこれを手に收め、一八七三年スマトラ島、アチエー族が和蘭の侵略に反抗しこれが約三五年間繼續された。次いで一八九四年ロンボック、フロレスに進出し、一九〇九年アチエー族の征服を完了し斯くて東印度諸島が和蘭の主權下に服するに至つた。

我國との關係

東印度を旅行せる日本人から現住民の容貌が日本人によく似てゐた話をよく聞く處である。顏や身體の色は別として顏形がよく似てゐる事は事實であり、又風俗習慣や言葉のうちにも似通ふものが少くない。

我國と東印度との交渉は遠く足利時代に初まり、天文年間ポルトガル人が種ケ島に渡來して以來、いはゆる南蠻人の渡來に初つた事は諸君も承知のところで、其後オランダ人が平戸に商館を設置したのは一六〇九年でこれから蘭印との關係は密接を加へ、當時、日本人の勤勉實直、兵士としで勇猛果敢なるに着目したオランダ人が蘭船の歸りに日本人六十八人をつれ歸つた、この中には大工九人、鍛冶職三人、左官三人が居り他は武士と船員であつた。その後日本人は契約を結んでジャバに渡る樣になつたが元和六年に難船の悲劇が起つたので幕府はこの契約移民を停止した。

慶長十八年、當時の蘭印總督クーンがチモル島を攻略する際に日本人四十名の一隊が參加し勇戰して城塞を陷れ、また翌年バンダ島征伐の時にも遠征隊に八十七名の日本人が參加してゐた。一六一八年英國艦隊が來襲せる時、多數の邦人がジヤガタラ（バタビヤ）の築城を指揮しこれを擊破し勇名をとどろかせた史實も傳へられてゐる。

ジヤガタラの日本人中兵士以外に農園や手工業、商業を營む者もあり、一六二三年（元和九年）の市民名簿には日本人自由市民百二十二人ありと記錄されて居り、又一六一九年から一六三〇年の間に西洋人又は原住民と結婚した日本男子が二十四人、女子九名がバタビヤの文書館に殘されてゐる婚姻簿に載せられてある事實は邦人との交渉を如實に物語つてゐるものである。

その後鎖國命によつて東印度の渡航は斷たれたが、オランダ船の長崎出入によつて間接に蘭印との交渉は續けられ一度鎖國令が解かれるや南方進出は續出され、日露戰爭當時、日本軍が大國ロシアを擊破し連戰連勝の報は、南洋住民を歡喜せしめ一層の親日度を加へた。戰爭後は蘭印に渡る日本人實業商人等が急激に增加し、更に第一時歐洲大戰を契機として邦人の進出は急轉し各地に有力な商店や貿易商が雄飛し、或はゴム、砂糖、椰子、コトヒー、茶、規那等の農業企業に乘り出し日本人獨特の技術を發揮し、ジヤバ、スマトラ、ボルネオ、セレベス、ニューギニア等の開拓に偉大な貢獻をなして活躍するに至つた。

大東亞戰勃發前在留者の引揚及殘留者の抑留等のため、邦人事業商社も殆んど閉鎖のやむなきに至つたが、占領後治安の恢復と相待つて引揚者の再渡航等續々行はれ復舊された商社商店も漸くその數を增して來た。

尙戰前の對蘭輸出額は二億圓を突破し我が國にとつては支那大陸、北米、印度に次ぐ重要市場となつて居た。邦人は戰前の調査によると

農業	一四二	水產業	四〇一
鑛業	六	工業	二一一
商業	二、一九〇	交通業	二一
公務自由業	一八〇	家事使用人	七五
其他有業者	七三	無業（主として家族）	一六九
その他	三六〇	合計	六、四六九

の如くであつた。

我國の占領まで

前記の如く我國と東印度とは往時より不可分の關係にあつたが、昭和十二年日支事變以來英米の使嗾を受け援蔣政策を採り、我國の平和的通商問題には終始侮日的態度を以つて當り、或ひは邦品に強度の禁止的制限を行ひ、一方我國への石油その他の物資の輸出を禁止する等英米の傀儡となつて我國に經濟壓迫を加へ、經濟的崩壞を策し、遂には米、英、蘭、蔣の所謂ABCD線の對日進攻軍事據點となり、共同して軍備に狂奔し艦艇を集結し、在留邦人に暴行壓迫を加へる等暴擧相次ぐの狀態にあつた。

昭和十六年十二月八日遂に米英に對する宣戰の大詔は渙發された。我が無敵陸、海、空軍は壯烈鬼神を泣かしむる彼の眞珠灣の攻擊、グワム、香港、比律賓、マレー等米英の牙城を次々に擊碎し、一方蘭印各地に敵前上陸を敢行しスマトラ、ボルネオ、セレベス等占領は續けられ、遂ひに昭和十七年三月一日蘭印最後の據點ジヤバ島に上陸した我軍は破竹の進擊を續け、僅か五日にしてジヤバ島の首府バタビヤを陷落せしめた。他の隊は同夜、敵の重要軍事基地バイテンゾルグを夜襲して占領、直ちにバンドン要塞に猛進擊を行つた。

一方東方に上陸した部隊は既に三月二日ケラガン週邊のレンバン、チエブ、ツバンを占領、早くも七日午後にはスラバヤに突入、一部隊は敵中を挺身し五日ジヨクジヤカルタの敵を屠り、海岸道を突進、チラチヤツプに迫つた。

更にジヤバ島中央部のパトロール附近に上陸した一部隊は、その先遣隊をもつてカリジヤチ飛行場を奇襲奪取し、我が空軍部隊を同地に躍進させると共に、早くも五日には敵の最後の復廓とたのんだバンドン要塞の北側に迫つた。

この神速果敢な皇軍の進擊に約二萬の兵力を擁し、堅固な防禦施設を備へたバンドン要塞守備軍も遂に慴伏し、七日夜敵守備軍司令は停戰を乞ふに至つた。我が今村最高指揮官は、蘭印總督の自ら來りて交涉すべき旨を要求した。八日午後蘭印總督はバンドン附近の局部的降伏を主張して譲らなかつたが翌九日午後三時敵も遂に我が要求に服し、十萬に近い蘭印軍及米濠軍は全面的に無條件降伏し、三世紀半に亙つて侵略をほしいままにし支那事變以來飽くなき對日敵性を續けて來た蘭印も抗戰僅か九日にして、皇軍の前に屈服した。玆に昭和十七年三月九日蘭印の全領土は我が占領地となり、以來我が軍政下に統治されるに至つた。

面積人口

東印度諸島の面積とその人口及人口密度（一方粁當）を表示すれば次の如くである。

東印度の面積・人口

島別	面積（方粁）	人口	人口密度
ジヤバ及マヅラ	一三二、七四四	四一、七一八、三六四	三一五・六

スマトラ	四七五、六〇五・九	八、二五四、八四五	一七・四七
ボルネオ	五五九、四六〇・〇	二、一六八、六六一	四・〇二
メナド	八八、五七八・一	一、一五八、六五五	一二・八五
セレベス	一〇〇、四五六・八	五、〇九五、二五一	五〇・七九
モルツカ ニューギニア	四九六、四五六・五	八九五、四〇〇	一・八〇
チモール	六五、五二四・三	一、六五七、五七八	二六・一七
バリー及ロムボク	一〇、二九〇・二	一、八〇二、六八五	一七五・一八
合計	二、九〇四、三四五・七	六〇、七二七、二五五	五一・九一

（註）本統計は一九三八—九年の調査である。尙人口增加率は毎年一分五厘と見られるとよい。

次に參考として我國の面積を記載すると、

日本（臺灣朝鮮樺太含む）	六七五、五六五・〇	九七、六九七、五五五	一四五・〇

即ち東印度は面積に於ては我國の約三倍に當つてゐるが人口は我國の三分の二に過ぎない。從つて人口密度に於ても日本の約五分の一である。

東印度の人口六千萬の中その七割に當る四千一百萬人がジヤバ島に居住してゐるため統計に見る如くジヤバの人口密度は一方粁三百十五人餘に當り、我國の約二倍以上といふ世界でも一、二といふ人口密度を示してゐるが、殘りの二千萬人がその他の諸島に散在して居り、殊に資源の寶庫ボルネオの如きは我國北海道の約十倍もある大島に僅か二百萬、ニューギニアは我國位の面積に僅か八十萬內外でありその殆んどは洋々たる未開の處女寶庫である。

人種別人口

東印度の住民は大體マレー人なるも、東部にはポリネシア人を混へてゐて、總稱してインドネシア民族といつてゐる。東印度總人口六千七十二萬二百三十三人中五千九百十三萬八千六十七人はこれらネシア人にしてこれを男女別に分ければ男二千九百六萬四千二百六十人で女二千九百九十三萬八千四百五十七人にして女數が八十七萬四千百八十七人だけ多い。

戰爭直前和蘭人が約二十一萬、獨逸人が七千人、日本人は約七千人、支那人は往時三百年も以前から移住せるためその人口は斷然他國人を壓倒して百十九萬、その他アラブ人が七萬一千人、インド人が三萬人となつてゐた。

住民種族

東印度人口の殆んどを占める現住民は總稱してインドネシア族と云つてゐるが、これを分けると實に數十種族からなつてゐて比較的宗教等により文化の優れたジヤバ族、スンダ族、マヅラ族から文化低きボルネオ島のダヤク一名ダイヤ族、原住民族と云はれるニューギニアの未開の蕃族パプアまで幾十種とあり少くも各島に四、五族多きはセレベス島に十九種まであり、又種族と種族の混血族等ありて雜多な構成をなしてゐる。種族毎に言語も異にし、風習も亦異にしてゐる。

氣候

東印度はその位置赤道に接し版圖悉く熱帶圏內にある故溫帶の如く四季の別なく一年を通じて我國初夏の氣候にして所謂「常夏の國」である。

然し乍ら各島とも太平洋上に在りて海洋性氣候にして海風常に島上を訪れ涼氣を添へ、熱帶焦熱の氣候を想像して渡來する者のひとしく意外とする處である。

各島を通じて殆んど氣溫を同じくし、又一年攝氏二十六七度內外である。これを一日で見るなれば朝は春の氣候で午前から午後四時頃までが盛夏の氣候で、夜から翌朝までが秋の氣候ともいふべき氣溫である。

次に我國と東印度諸島との氣溫を比較すると次の如くである。

	平均最高溫度	平均最低溫度	平均
東京	三〇・〇	二二・三	二五・七
大阪	三二・二	二三・五	二七・四
ジヤバ	三〇・九	二三・七	二六・七
セレベス	三〇・五	二一・七	二五・一
ボルネオ	三一・八	二四・一	二七・三

（註）ジヤバはバタビヤ市、セレベスはメナド市、ボルネオはボンチアナの一年平均、東京、大阪は八月の平均を示せり。

一年について見ると大體六月から九月までの四ケ月を乾期とし、十二月から三月迄を雨期とし、四、五の二ケ月と十、十一月の二ケ月が轉換期となつてゐる。乾期と云つても全く雨を見ないと言ふのではなく、驟雨は時々訪れるも比較的少ないに因る。

東印度は海洋熱帶なれば、大陸熱帶よりも遙かに氣候は良好である。

衞生

東印度は前記の如く熱帶なりと雖もその氣候は比較的良好にして保健上にも惠まれ、風土病にして惡疾なるものも極めて少ない。

唯ジヤバを除けば、殆んど未開の處女地洋々として天然自然の原始林に蔽れて居り、住民たるネシアは文化の程度低く衞生思想又極めて低劣なる結果、地方に風土病としてマラリヤ、アンメーバ、その他南洋地方に存する風土病を發生する事がある。然るに住民は衞生思想に乏しく迷信を固持して傳染病の傳染性を信ぜず、病疾は神の所業なりと信じて治療を避くるの弊あるため原住民居住地方に散發するを時々見る。

當局にてはこれら衞生施設の完備に努め、一方原住民の衞生思想の向上を計りつつあり、次第に良好になりつつある。

言語は馬來語

東印度住民の殆んどを占めるインドネシア人はその種族も數十種よりなつて居り、從つて言葉もその地方や人種によつて差異があり、同島内でも二種三種以上の地方語がある。これをジヤバで見るならばマレー語、ジヤバ語、スンダ語、マヅラ語等ありて一樣でない如くである。

東印度一般に最も普遍化されて通用されてゐる言語はマレー語である。わが行政官の用語は勿論日本語であるが、ネシア人にして日本語を解する者未だ少きため、馬來語を加へて用ひてゐる。

宗教は回教

東印度の宗教は往時印度移民により印度教及佛教が渡來して東印度に布教されたが、その後十三世紀に回教が來て勢ひを得、次第に印度教、佛教を壓倒して東印度に普及され、今日では殆んど回教を信奉してゐる。

回教に次ぐものは十五世紀來西歐人の東漸に依つて布教された基督教がネシア人間にも相當信者をもつてゐる。キリスト教は勿論舊教が入り、次いで新教が入つてゐるが依然舊教が盛んである。バリー、ロンボックの二島民は現在でも印度教信者である。又支那人は回教もあり、佛教もあり多神教徒等色々である。その他蕃人等は自然物崇拜にして宗教と云ふべき程のものなく東印度の宗教は回教（イスラム）が主となつてゐる。

各島の主要産業

農業

東印度の産業の大宗は農業である、東印度の經濟機構は農業を根幹として行はれ、政廳の經濟も都市の生活も貿易も總ては農業を背景として行はれてゐた。

東印度はその氣候、熱帶天惠の地にして、植物の生育に好適され、殊に濕潤な暖温に作用され、日々新たなる沃土を增し、その地味は豐饒なれば、植物の成長は極めて早く米の如きも三回もとれ、ゴム、コーヒー、麻、規那、カポック等の熱帶農産物の栽培に好適され、その他大豆、煙草、甘藷等の生産も出來、一年中綠葉と花の絶ゆる事なき寶庫として農業は發展されつつある。

次に主なる農産物を擧ぐれば、

「護謨」　東印度はマレーに次ぎ世界第二のゴムの生産地となつてをり、しかも世界總産額の約三分の一を占めてゐる。ゴムの輸出額は三億盾に及んでゐた。東印度のゴムは

その品質は天惠の氣候に惠まれて優良であり、戰前まで米國を始めシンガポール、日本、英國等に輸出してゐた。生産地はスマトラを筆頭に、ジヤバ、ボルネオ等を主として居り邦人の進出も相當多く飛躍的發展を示してゐる。

「コーヒー」　はブラジルには敵しないが亞細亞では第一の生産地にて、その品質も優れ、北米市場にて一級品として好評されてゐた。その産額はジヤバにて三千九百七十萬キログラム、外領で五百九十萬キログラム。

「米」　は東印度住民の主食物にて水田を主として栽培されてゐるが、陸稻も各島住民により栽培されてゐる。現在生産額はジヤバ島を主とし、その他外領各島は未だ未開拓地多く生産量も多くない。未だ國内需要にも達してゐないので一部をタイ國、佛印等から輸入を仰いでゐる狀態なれば、この方面への邦人の進出は大いに期待されてゐる。

「規那」　マラリヤ熱の特效藥劑の原料にして東印度は世界産額の九十パーセントを産し、唯一の東印度の特産物である。

「タピオカ」　キツサバとも云ふネシア人はこれを煮て食する、歐米や我國及び南洋群島では澱粉製造の原料として工業化されてゐるが東印度のネシア人により到る處に廣く栽培されてゐる。

「カカオ」　チヨコレートの原料で原産地は南米オリーコ河の流域であり、また西アフリカ、ゴールト、コースス地方一帶も良好な産地になつてゐるが、アジアでは東印度が第一の産地である。ジヤバに栽培されるも他の島嶼は未だ少ない。

「古々椰子」　食料品、石鹼原料等に使用される。ネシア人は各戸毎にもれなく栽培されてゐるからその生產額も極めて多く世界總産額の二十八パーセントに達してゐる。ネシア人は子を生めば若干株を植ゑてその子の一生の資產として與へるの習慣がある。

「カポツク」　いはゆるパンヤで綿の高級代用品に使用されてゐる。カポツク樹の纖維からとれるもので世界生產量の七十八％を占め、ジヤバ島東部地方が主要產地である。

「胡椒」　歐米人にはなくてはならぬ調味料であつて、我國でも近來一般の家庭の必需品となつてゐる。東印度は世界生產量の約八〇％を產し、スマトラ、ボルネオ、ジヤバで主として栽培されてゐる。

「砂糖」　は現在ジヤバより生產されて居て世界生產額の約二％に當つてゐるがその殆んどが輸出され輸出品の主なるものとなつてゐる。

その外、煙草、茶、マニラ麻、棉花、玉蜀黍、大豆、落花生、甘藷、馬鈴薯等が栽培されてゐる。

東印度ジヤバは最も早くより開拓されてゐて、その人口密度も我國の二倍以上にして、島の殆んどは開拓され盡されてゐるが、スマトラは未だ開拓はその半に過ぎず、奥地森林地帶は今後の開拓を持つてゐる。その他ボルネオ、セレベス、ニューギニア等の大版圖の殆んどは洋々たる未開

の處女寶庫にしてこれら擴大なる未開の沃土は總て今後の雄飛と開拓を待つてゐる處の新天地である。

我が邦人の進出はゴム、椰子、コーヒー、規那、棉花等の農園を經營する邦人會社農園が二十餘も進出してゐるがこれは各島別の說明の部に記載する事にした。

鑛業

東印度の產業で農業に次いで主要なるは鑛業である。地下に埋藏されてゐる鑛業資源は無盡藏といはれるまでに豐富であるが未だ精密なる調査が行はれてゐないのでその埋藏量を正確に知るを得ないが、現在判明してゐるもののみでも石油を第一に、石炭、錫、金、銀、鐵、銅、硫黃、マンガン、タングステン、モリブデン、ニツケル、ダイヤモンド、ボーキサイト、燐礦等であつて、石油はゴムと共に今日世界重要資源として重視せられ列强の獲得爭覇の對象となつてゐる。東印度の石油埋藏量は約三〇億パーレルと稱されてゐる。採油資本は英米系のものが大半を占め和蘭自身の資本は極めて微弱であつた。一九四〇年の東印度石油の產額は百萬トンに及び世界第六位、東洋に於ける產油額の八二%を抱握してゐた、主產地はスマトラ四百萬トン、ボルネオ百七十萬トン、ジヤバ百萬トン等である。

最近ニューギニアに尨大なる埋藏資源が發見されたと傳へられてゐるが將來これらの開發により東印度石油の將來は大いに重視されてゐる。

石油に次いで重要なるものは錫で、バンカ島、ビリトン、シンケツプの三島が知られてゐる、年產四萬トン、またアルミニユームの原料ボーキサイトがビンタン島から產出され、鐵鑛はボルネオの南東部スゾゲードアセブリ島及セレベスの中部地方に相當の埋藏量を有してゐる。

その他ニツケル、マンガン、タングステン、モリブデン等も相當多量に埋藏されてゐるが、これらの多くは未開發の資源として將來に大なる期待をかけられてゐる。

今主要鑛產物と世界生產量とを比較すると、次の通りである。

鑛物名	世界生產高	東印度生產量
		（單位瓩）
錫鑛	二一一、〇〇〇	三九、七六〇
石油及び副產物	二七九、六六三、〇〇〇	七、二六二、〇〇八
燐鑛	一一、三〇〇、〇〇〇	二五、九九八
ボーキサイト	三、六七九、〇〇〇	一九八、九七〇
金（單位瓩）	一、〇八〇、〇〇〇	一、七五三
石炭	一、三〇七、四〇〇、〇〇〇	一、三六三、五〇六
マンガン鑛	五、九八七、〇〇〇	一一、〇八三
銀（單位瓩）	八、三〇〇、〇〇〇	一五、五四六

わが邦人の鑛業への進出は占領前までは石原產業が資本五十萬盾を以つてジヤバ島スラカルタ州で鑛山を經營、三井物產と日本石油と蘭人の共向出資になる二百萬盾の會社がボルネオのサンクリラン灣附近で石油事業を行つてゐた位のものであつた。

占領以來スマトラ島の北部油田、中部ジヤンビ油田、南部パレンバン油田。ボルネオ島のミリ（サラワク）、セリア（ブルネイ）、サンガサンガ、タラカン、バリクパパン油田等、ジヤバ島のスラバヤ、レンバン油田等悉く我が手に歸し、破壞の個所は建設部隊の活躍により復舊され、軍管經營下に採油增產に拍車がかけられてゐる。その他の鑛業資源も今や總ゆる角度から開發計畫が進められてゐる。

牧畜

東印度はその氣候常夏にして植物の成育盛んであり四季綠葉絕ゆる事なき地なれば從つて牧畜にも適されてゐる。東印度の畜產は牛、水牛、馬、豚、山羊、緬羊等にして、大體國內の需要の自給自足の狀態にある。

「牛」は多く運搬用に、水牛は米田耕作用に使用するものなれば、その地方により米田多き地方は水牛を、畑地農園多き地方は牛を多く飼育されてゐる。

「馬」は輕車用に主として使役されてゐる。豚は回教徒はこれを不淨なりとして絕對飼養せず又食しない。インドネシア人の大半は回教信者なれば、多く支那人が飼育す、これを消費するも亦支那人と歐米人とである。

「山羊」は土人間の肉食用の主たるものであり、土人は支那人の豚の如く飼育してゐる。緬羊も山羊と同樣食用のため飼育してゐる。毛用は少く、又多くは在來種にして食用を主とする關係上良くない。

而して東印度の畜產は領內の需要の範圍にして盛んなりとは謂はれないが、副產物として皮革各種動物合計輸出高は四六七、〇八九枚である。

次に各島別の畜產數を示せば

畜產頭數

	牛	水牛	馬	豚	山羊	緬羊
ジヤバ	三、三三三、八五九	一、九九〇、八九二	二二二、六三二	一〇六、四四二	二、三二七、四二六	一、二四四、六二一
スマトラ	三三〇、六〇九	三五九、三二七	三四、五七八	三一三、五九〇	二九六、五三四	四四、五二二
ボルネオ	三〇、〇一一	三三、三一一	四四五	一四二、四八一	二〇、五八一	一、〇六九
メナド	一二三、七三四	一八、七九〇	二八、〇九五	一一九、七五一	六〇、四二六	一〇、〇五七
セレベス南部	一三、六四三	三九七、四〇九	一四四、七八四	七三、七八四	一一二、一七九	一、一二一
小スンダ チモル	五四、五七三	三一七、〇九一	二四二、九〇四	一三三、九二五	一五七、一五五	三一、〇二六
バリー ロンボク	三三三、〇〇八	八二、九二四	二〇、三三八	二四一、四〇一	三四、〇九八	三、七〇四

以上の如くである。ジヤバが最も多數なるは人口多きによる。ボルネオの如きは極めて少なきも未開拓地にして人口少數なるためである。尙右表中ニューギニアは調査が現在行屆かざるため調査資料なきにより記載してゐない。

林業

東印度總面積の約六割三分はいはゆる熱帶の多雨林に埋められ、殊に開かれざる寶庫ボルネオ、ニューギニア等は到る處鬱蒼たる天然林に蔽はれ、千古の美林は到る處に樹海を呈してゐる。

ジヤバは殆んど開發せられたる島にして栽培林のチーク林以外は、水源涵養のため保存せる原生林にしていふに足らないから東印度の森林としてはスマトラ、ボルネオ、セレベス、ニューギニア等である。スマトラはジヤバに次ぎ開拓され一方未開の原住民の亂伐と燒き拂ひ等により半ば失はれたりとは謂へ尙多大なる原始林を有してゐる。

次に森林面積を各島別に比較すれば

ボルネオ	四一六、四二〇	平方キロ
ニューギニア モルツカ	三七九、〇〇〇	〃
スマトラ	二九二、六九八	〃
メナド	六五、五〇〇	〃
セレベス 南部	四一、〇〇〇	〃

主なるものはダマル、コパル、サゴ、黑檀、白檀、籐、ラワン、野生ゴムでその他一般木材、薪、木炭、竹材等相當多數に及んでゐる。

チーク材はジヤバにて盛んに栽培され、又セレベスにも植栽されてゐる。

古々椰子は栽培物で各島住民は總てこれ等若干本を植栽するを以つて幾千萬本を數ふるも木を目的とせざるものであり、ゴムも亦栽培物にして、普通植付數年後にしてゴムの採取が始まり年々採取量は漸增し、樹齡約百年に達するものもある。

水産業

東印度は、各島とも四面海をもつて圍まれ、海中に棲息する魚類は無盡藏の寶庫と稱されてゐるが、その漁業は未だネシア人の手に委ねられ漁撈の方法が極めて幼稚であり彼等は海岸より二、三哩の沖合より出漁しないため、その漁獲物も少い。

一方ネシア人の生活にとつては鹽魚は必須缺くべからざる食料品であり、現在その大部分はタイ國から輸入を仰いでゐる。奥地の小さい町でも鹽魚屋を發見するが土人の生活に鹽魚の必要であるを示した一事であらう。海岸地方以外の奥地は氣候熱帶なれば輸送及保存上生魚は殆んどなく總て鹽詰魚である處より奥地方は魚は鹽詰魚でなければ食せざるものと考へてゐる。

舊蘭印政府ではジヤバのバイテンゾル近くに淡水魚研究所を、バタビヤに海洋試驗場を設けて漁獲の技術や漁獲の改善等に努め、ネシア人漁業の發達に專念してゐたがその進歩遲々として進まざる事情にあつた。

近時我が邦人漁業はジヤバの北部沿岸スマトラ東海岸のバガン、シシアピ、セレベスのメナド附近一帶に進出を開始し、相當の成績をあげてゐる。主なるものとしてはセレベス島メナドに邦人漁業會社が艦、鮪の漁獲に從事してをり、沖繩縣の金城組が艦、鮪、雜魚等の漁獲に當り、セレベスの東南端にあるブートン島では三菱系のブートン眞珠

株式會社が眞珠の養殖に從事してゐる。その他セレベス、モルツカ群島を中心とする方面にも沖繩方面の漁業家の進出が傳へられてゐる。

工業

東印度の工業は、東印度は幾多豐富なる資源を擁してゐるが、現在これら資源を第三國に輸出し、輸出した原料にて加工した工業製品を輸入して國内の需要にあててゐる狀態にして、工業は第三國に依存し、東印度の工業は幼稚なるネシア人の家庭手工業乃至小工業の範圍に止まりその發展は最近まで殆んど見るべきものがなかつた。

近時に至り漸く工業の發展策が講ぜられ、領内の諸工業に對しこれを促進すると共に地方新工業の誘導に全力を注ぎ、その實行策として、中小工業への金融助成に乘り出し、或ひは補助關稅や輸入制限を行ひ新工業の建設の奬勵等により最近に至り漸次發展を見せるに至つた。

東印度の工業はジヤバがその中心地で、工業企業の殆んどはジヤバが占めて居り、外領には未だ記載すべきものがない。

工業として一般に知られてゐるものではバティ工業である。バティは南洋一帶の住民が腰に卷くサロンでありネシア人の家庭手工業として發達し年一億二千萬ヤールに及び東印度工業の最もなるものである。

その他特筆すべきものなく自給の域に達してゐるのは極めて尠ない、次に東印度工業の狀態と需要の比較を示して說明にかえる。

東印度の工業狀態概括一覽

工業別	工場規範	製產高又はその對需要比率
バティ工業 (爪哇更紗)	主としてネシア人の部落工業	年一億二千萬ヤール 全需要の六〇%
織機工業	主として新設工場による	年約百萬棹 全輸入高の約十六%に當る 全需要の三分の二
セメント工業	二三の大工場がある	全需要の七十五%
ビール製造	工場の設備相當あり	年二千八百萬ギルダー全需要の七十六%
塗料ペイント工業	工場若干	
煙草工業	家庭及部落工業及び工場設備のもの多數	全需要の七十%
ベニヤ板工業	新設工場による	同六十%
南京袋製造	中規模の工場設備	同七十二%
製紙工業	二大工場あり	
陶磁器工業	主なる工場一	
耐火煉瓦工業	若干の工場その他	
ゴム製品工業 (タイヤ・チューブ)	工場十五、六	
同(ゴム・スリツパー)	工場三	
眞鍮器具、工業 (スプーン・フオーク)	ネシア人の家内工業	
同鐵金工業	支那人小規模工場多數	
革製品工業	小規模乃至家内工業	
靴製造	同右	
洗濯石鹼	同右	

各主要島案内

ジヤバ島

面積、人口、氣候

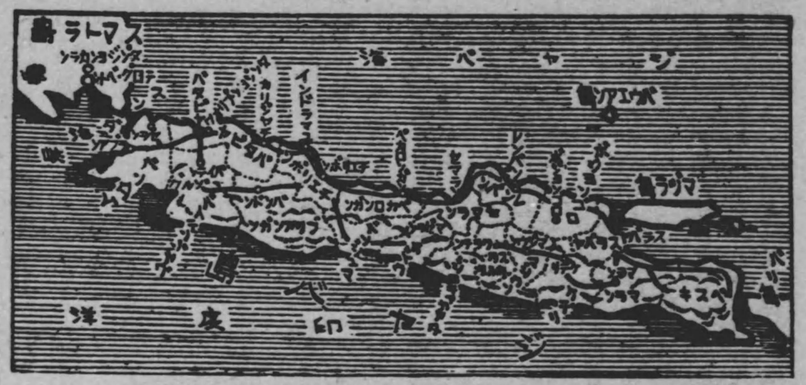
ジヤバは行政的一體をなすマヅラを加へると總面積一三二、一七四平方粁で人口四千百七十一萬八百三十六人、一平方粁の密度は三百十五人强で、その稠密さは我國の約二倍、世界でも一、二を爭ふ狀態である。人口の分布狀態を見るに島の各地方に廣く居住し都會に集中してゐない。全人口の約九割五分は地方に散布してゐる、從つて大都會が少ない代りに小都會が無數に多い。全島に亙つて道路水利灌漑の便が完備されて、各地方ともよく開發し盡されて居り全島が一つの村か農園の如く想はしむる。

東印度中ひとりジヤバだけが今日の發展を遂げたのは、文明人の進出が早く、その天惠的地形と肥沃なる土地、適順な氣候、勞力の豐富且つ低廉なること等で自然的、社會條件において遙かに他の地方を凌駕してゐるからである。

氣候は四季を通じて變化尠く、海岸地方は平均攝氏二十六度乃至二十七度位である。雨量は概して多く西部地方に於ける一年の雨量は二千粍で、日中は相當の暑さを感ずるも夜は頓に氣溫低下し、凉しさを感ずる。衞生狀態も熱帶地としては良好であり、醫療施設も割合によく整備されてゐる。

住民、風俗、言語

爪哇の住民は大部分ジヤバ族とスンダ族よりなり、ジヤバ族は二千七百八十萬、スンダ族は八百六十萬である、彼等は東印度中最も開化してゐるもので、都會にすむものは歐洲人や東洋人に比して大なる差はないが奥地に生活する住民は大部分なほ未開の域を脫してゐない。



ジヤバ人の一般の服裝は男はイカカパラまたはソンコといふ獨特の帽子をかむり、半ズボンの上に大幅更紗を着けて腰部を覆うてゐる。女子はジヤバ特有のヂロン及カパヤを纏ひ外出する時はスレンダンといふ肩掛けを用ゆる。

常食は吾々日本人同樣米である。大抵羊肉や魚肉を混ぜたカレーライスに似たものを作り香料として蕃椒や胡椒を用ひる、彼等は概ね回敎徒である處から絶對豚肉を食はない。

ネシア人でも上流の文化高き男は洋裝をするものも少くない。女子は腰にサロンを卷くが上衣は筒袖の洋裝である。

ネシア人貴族の住宅は木造、石造、或は煉瓦造りで爪哇一流の彫刻を施し仲々雅致に富んだ建物であるが中流以下は竹造りに草葺きの至つて粗末な住居に生活してゐる。

今日でも一夫多妻の習慣を存し、富者は二、三の妻を有し貴族は多數の妻妾を蓄ふを誇りとしてゐる。

この外に爪哇の原住民としてマヅラ族がある。主にマヅラ島及東部爪哇に居住してゐるが約四百五十萬で知識は概して低いが筋骨逞しく、舊蘭印政府ではアボン族と共に兵隊として使用してゐた。

言語は馬來語、スンダ語及マヅラ語が使用されるが全島に適用するものは馬來語で官廳用語及ネシア人の敎育あるものは總て馬來語である。住民の大部分は回敎を奉じてゐるが近來キリスト敎も一部に行はれて來てゐる。

主要都市

バタビヤ 東印度の首府であると共に、西部爪哇の首府でもあり、東印度第一の都會である、一九三九年の人口調査ではタンジヨン、プリオークと舊バタビヤ、ウエルトフレーデンの四都の合計が九十五萬七百三十八人、內歐洲人三萬千四百二十二人、原住民八十萬六百三十人、支那人十一萬二千百十三人、その他東洋人六千五百七十三人でありミステル、コロネルスといふ接續市が六十七萬五千三百六十人で所謂吾々がバタビヤと考へてよい範圍で百六十二萬六千人に近い大都會である。樹の街、水の街、平面の街であつて植民地都市の臭ひがない。舊バタビヤ市街は商業の繁

菓子製造　同右　同三十五%
ビスケット製造　工場一　同四十%
人造バタ製造　同右　同四十%
乾電池工業　同右　同四十%
日傘製造　ネシア人家庭工業　同三十八%

自轉車工業　新設工場　同三十五%
ライター製造　ネシア人の部落及家庭工業　同八十%
肥脂綿製造　小規模工場　同三十%
硝子工業　同右　同九%
アルミニウム工業　半官半民大工場一

盛地で銀行、會社等多く、歐洲人商賣の中心を爲して居る以外全體が住宅地であり、商業地となつてゐて、限界は判然としない。此地はまた有名な舊都であるだけ歴史的建築物や名所多くペナンゲード、ポルトガル教會等はその代表的なものである。

邦人商社として主要なるものを擧ぐれば、正金銀行、臺灣銀行、南洋倉庫、大信洋行、江商株式會社、大同貿易等の各支店及出張所があり、其他邦商にてネシア人を主としての小賣商は到る處に進出し大衆なる原住民を目標に活躍してゐる。

當市に邦人は約一千であり、軍政部、日本國民學校等がある。邦人の新聞としてジヤバに唯一つの邦字新聞である爪哇日報社發行の「爪哇日報」がある。

スマラン　東印度第三の貿易港で、中部爪哇の首都である。人口二十萬。背後はスラバヤ、バタビヤに比する豐饒なる農產物の產地を控へてゐるが、港内遠淺であり、築港設備が完備されてゐない處からその發展を阻害されてゐるといはる。街の後方に有名なチヤンヂー丘あり、海拔五百尺、住宅街として豪奢を極めてゐる。

當市には在住邦人約三百名で、商業に活躍してゐる。

バンドン　海拔二千二百呎の高原都市で人口約三十萬、バタビヤの東南になつてゐる。避暑地で、山紫水明、空氣清澄の別天地で、郊外は瀟洒な住宅街を爲してゐる。外國人にして本國に歸らず餘生をこの地に送るものが多い。此處は又學府の中心地でもあり、工科大學以下の多數の學校が集つてゐる、舊總督府官業部も多くこの地にあり、中央官衙も此處に集中されてゐた。オランダ人は東洋第一の庭園都市だと稱してゐた。當市はまた流行の中心地でもあつて、土人風俗も華美であり、スンダ美人横行の街として彼等の好みは爪哇全土に流行して行く處で、在住邦商は何れも堅固な地盤を持つて、最近、近代色ある專門店化して行く傾向を見せてゐる。

スラバヤ　は東印度第二の都會、東部爪哇の首都で、同市はジヤバ第一の貿易港都として繁盛を極めてゐる。

人口は三十七萬人、市街はカリマス河の兩岸に跨り河口に近い西河岸には貿易會社、船會社、倉庫等軒を並べ、砂糖の輸出期には數百艘の船舶が輻輳して殷盛ぶりは他に見られない盛觀を呈してゐる。

當市邦人は約八百人で、軍政部、日本國民學校を初め三井物產、正金銀行、臺灣銀行等の支店がある。邦人は多く雜貨小賣商で又理髮店等もある。

ソロ　スラカルタの別名で蘭人の爪哇領有以前に於ける爪哇の首府であつた地で、爪哇の殆んど中央に位し、人口十六萬五千、スラカルタ州の首都である。ここは純粹の爪哇ネシヤ人街で、土王ススナンの宏壯な王殿があり、今でも王朝時代の面影を殘してゐる。街は宮殿を中心として上下の二市よりなり、此地は爪哇更紗（サロン）の產地として著名である。附近土味肥沃にして多數の甘蔗園有り、煙草も產出す。これらにより繁盛を見せてゐる、邦人在住者は五、六十名に過ぎない。

チヨクジヤ　別にジヨクジヤカルタとも云はれ、此處も生粹の爪哇人の町で、ソロに近く人口十五萬、當地土侯州の首府であり、中部爪哇の一大市場である。市街の整ひ、華美なる事遙かにソロを凌ぎ、周圍四哩に亙る城壁を繞らし、嚴然たる一城廓をなしてゐる。古蹟として水城と宮殿があり名高い。爪哇更紗、煙草、砂糖、木材の物產をもつて知られてゐる。この地に於ける邦商の勢力は、爪哇小賣邦商中の最もなるものであらう、歐人や支那人商を壓して邦商が商權を握つてゐる。

邦人の發展狀態

爪哇に於ける在住邦人は約四千人である。ジヤバに於ける日本人は何んと言つても商業が主である、三井物產の支店を始め、大倉洋行、江商株式會社、大同貿易、千代田百貨店等の大資本の貿易商があり、綿織物を主とした本邦商品の輸入や、棉花、コーヒーその他の熱帶產物の輸出に力を注いでゐる。

トコ、ヤパンとして住民から親しまれてゐる邦人雜貨店がジヤバ各地方に擴がり、色々な不利な條件にも屈せず今日の强固たる基礎を築いてゐた。

邦人は會社員、店員、物品販賣業、理髮、浴場、貿易商、農園、園藝、畜產、美術家、寫眞師その他家事被傭人といふ順序である。

農業方面では大規模に經營してゐる邦人會社としては、ソロにて東印度殖產株式會社が護謨、シザル、カポックの大農園を經營してゐた。またハリムンその他で南國產業株式會社が大資本にて護謨、珈琲、規那の農園の經營に活躍してゐる。その他の邦人系の農作に當つてゐるものとしてはランポル・セウオにランポル・セウオ農園、トロナゴン市外にニヤミル椰子園、テインダリにテインダリ農園、アンバラワに南洋商會農園、ソロに根本農園、ソロカルタに山田農園等がそれぞれ大なり小なりに農作を行つてゐる。主な栽培物は甘蔗、護謨、規那、古々椰子、珈琲、野菜等である。

以上の様に農業にも進出してゐるが、爪哇は現在その殆んどは開拓され盡されてゐるから、邦人の發展の主力は商業に向けられて進出されてゐる。殊に近年貿易の進展はぐん〳〵その地位を高めて來て居り、特に最近邦人卸商が小賣に乘り出す傾向が盛んになつて來た、大信洋行が千代田百貨店を經營し、スラバヤ、バンドン、ジヨクジヤ、バタビヤ、マゲランに支店を設けて進出して東印度一流のデパートとして活躍してゐるのもその一例である。從來は主として外人を顧客として高級品を扱つてきた雜貨店が競うてネシア人本位の大衆品に轉向しつつある事は邦商の發展が一大偉力を示すに至つた處である。一部に爪哇の邦人雜貨商は既に飽和狀態に達したと云ふものあるも、四千萬土民

を本位に進出するなれば商業に關する限りまだ〳〵開拓の餘地ありといふべきである。

スマトラ島

面積、氣候、住民

スマトラはその面積四十七萬一千五百五十平方粁で我が國より朝鮮を除いた面積を有し、東印度でもボルネオ、ニューギニアに次ぐ大島である。（本島はマレーに統轄され統治されると傳へらる。）

本島は第二の爪哇として舊蘭印政府が全力を擧げてその開拓に當り、近來の發展は素晴しく、全島を縱橫にアスファルト道路が出來、通行自在で何等の不安や危險を感ずることなく想像以上に開拓されてゐる。加ふるに肥沃なる地味と、昭南島や爪哇に近い地理的關係等から各種企業家、投資家の活動が盛んであり、新しい農園が續々開かれ爪哇や昭南島方面から勞働者が多數入りこんで居り、隨つてその貿易額も近年頓に激增されてゐる。

氣候は大體において他の南洋と變りがないが、北部地方は八月中降雨量が最も多く、赤道直下にあつて一年中降雨を見ぬ事がない。

住民は主なものとしてはアチエー族八十三萬、バタック族百二十一萬、ミナンカバウ族二百萬、パスマ族百萬の四種族である。

アチエー族は山地に居るものと平地に住むものとある、彼等はアチエー王國を作つてゐた時代があり、勢ひ盛んなりし頃はマレー半島の一部を屬國としたことさへあつた。非常に强い民族で、オランダの征服に抗し實に三十餘年の歲月と五億ギルダーの戰費を費させ、一九〇四年にやうやく歸順した種族で、山地に住む者は殺伐蕃風である。平地に居る者は開化してゐるが排外の氣風を脫しきれない。今でも早婚の風を爲し男子十六歲、女子八歲乃至十歲で結婚し一夫一婦を原

則としてゐる。

バタック族は上中下三段の神の存在を信じ、かつ貴族、平民、奴隷の三階級に分れてゐる。家屋は木造で、床高く三味線の撥を倒した樣な形の屋根を造つてゐる。一家屋に二家族乃至數家族が同居してゐる。母方の從姉妹と結婚する事を好み、一種の賣買結婚である。夫が死亡した場合寡婦は亡夫血族の所有となる。夫は妻に絕對權を有し、一夫一婦である。

ミナンカバウ族は割合文化的で平常衣服を纏ひ住居も木造または竹造りで屋根はトタン葺にする所など我が農村に見る感がある。結婚しても夫婦別居し時々夫が婦家を訪問するに過ぎない。この種族は男女關係が嚴重で婚期に達した女子は家內に閉居するを普通とする。

パスマ族は東南部パレンバン附近に住居し、容貌はやや文明人に似て美しい。結婚後夫は絕對に妻に服從する奇風がある。

主要都市

パレンバン　南部スマトラ第一の都會、我が皇軍落下傘部隊により占領された處で人口十二萬、ムシ河の河口八十哩を遡る地點にある。古くから開けた地でムシ河流域一帶への物資の輸入地であり、又其の地方物產の輸出港として商業が盛んである。昭南島やバタビヤ方面との間には定期船の來往があり石油、石炭を初めその他の各土人物產を輸出する。

デヤムビー　パレンバンの北方の都會、人口一萬五千、石油の產地として名高く、又この附近はネシア人產として護謨で名高い。

パダン　人口五萬、スマトラ西海岸第一の都市、街區美麗、近代都市としての設備は完備されてゐる。一八三一年以來知事の駐在する古い町である。附近住民は頗る商才に長け、華僑に對抗して取引活潑を極めてゐる。邦商はこの地を中心に綿布、自轉車、雜貨等の販路開拓に當つてゐる。

ベンクーレン　印度洋に面する古い海港都市で英國が東印度諸島を領有した頃、ラツフルスが建設したものでその後ラツフルスも此の地に足を留めた地、人口約一萬五千で此の地方は、東印度中最も有名な金の產地として知られてゐる。

メダン　デリー會社が開いた市街で人口約五萬の新興都市でスマトラ東海岸の首府である。都市として設備完備しスマトラ第一の商業地として內外人の刮目してゐる處、外港ブラワン港には鐵道の便があり陸上交通は四通發達し、物資の輸出入多く、今後の發展は大いに期待されてゐる。

邦人の發展狀態

ジヤバに次いで邦人の多いのはスマトラで、約一千五百人で、その大部分は東海岸州に集つてゐる。北部メダンと南部のパレンバンの二ケ所に各三百名が進出してゐる。主

なる邦人の職業は商店員を第一とし、銀行會社員、旅館、料理業、家事被傭人、農業移民の順である。

スマトラの日本人の企業はゴム栽培である。次いで珈琲古々椰子等で、主なる邦人會社としてはゴムに熱帶産業株式會社、ボルネオ護謨株式會社、臺灣拓殖株式會社、南洋護謨株式會社、昭和護謨株式會社、スマトラ護謨拓殖株式會社が進出し護謨園の經營に活躍してゐる外、野村東印度殖産會社が珈琲及古々椰子の栽培に雄飛してゐる。

商業は主としてメダンとパレンバンに進出してゐるが、その數も未だ夥く盛んなりとは云はれない。むしろこの方面の發展は今後にまつものが多い。スマトラには帝國軍政部がメダンに在り、日本人國民學校、三井物産スマトラ支店等が何れもメダンにある。

ボルネオ島（舊蘭領）

面積、氣候、住民

ボルネオは世界第二の大島で我國の北海道の約十倍に相當する大島で、この中、七分の五に當る五十三萬九千四百六十平方粁が舊蘭領ボルネオである。人口は二百十六萬八千六百六十一人で一平方粁當りの人口密度は僅か四人に過ぎないから、如何に人口が少く、未開拓地が多いかが窺はれる。

舊蘭印政府ではこの地を東南州と西州の二州に分けて統治してゐたが、その開發はスマトラやセレベスより後れ、領内は鬱蒼たる森林と原野が多く、交通の便開けず、現在開拓されてゐるのは東南州ではバリト河及その支流地方とクテー河の河口地帶、西州ではカプアス河の流域と西北海岸地方である。島内の交通路は主として河川が利用されてゐる。

氣候は勿論熱帶で、陽光强く雨量が多い。海岸地方は一年の平均溫度攝氏二十六、七度である。

舊蘭領ボルネオには、バンジヤレース族八十九萬五千とダヤク（別にダイヤ族ともいふが）これが六十五萬一千で前者は南部地方に住んでゐるがダイヤ族は山中に住む蕃族である。彼等は木造で椰子葉の屋根を用ひ床を高くし階段で出入する家で二、三十家族が集つて一軒に同居してゐる。これは敵に對して防禦するの風習からである。一般に米を常食とし、早婚である。女は故意に體を弱める奇習がありいはゆる柳腰風のものが美人とされ、齒を黒く染め、胴や腰に金屬や籐を何重にも卷き肥らぬ樣にしてゐる。男女とも拔毛をする奇風を持つてゐる。男子は我が褌と同樣のものを腰部に締めてゐて上半身は裸體で下半身はサロンを着けたのを近頃見受ける、又最近は各家庭毎に家を持つ者もある。寶石を愛し、玉の鑑別には特別の判斷力を有してゐる。奥地山岳の蕃族は近年まで馘首の蕃風があつたが、現在は殆んどなくなつてゐる。平地に住んでゐるものは文化

もやう開け椰子園やゴム園に苦力として使役されてゐて性質も溫順で勤勉である。

主要都市

バンジエルマシン

ラはダイヤモンドの産地として知られてゐる。

ポンテイアナ　は赤道直下の街として著名である。人口約三萬、カプアス河支流小カプアス河に對するポンテイアナは、バリトに對するバンジエルマシンの位置と同樣その流域一帶の物資の集散地となつてゐる。當地から以北ザンベス河に至るまでの海岸地方は古くから昭南島との交通盛んであり、從つて舊蘭領ボルネオ中最も早く開けた地方である。またこの地方は支那人の在住者多く、俗にこの地方は支那郡の稱がある。

邦人の發展狀態

舊蘭領ボルネオに於ける在住邦人は全部で約七百人であつて、その職業は農耕、園藝、畜産、林業、洗濯業、飲食料品、雜貨、土木建築、大工、ペンキ職、左官、石工、會社關係者、事務員、商店員、料理業、理髮、浴場、交通業、醫師、家事被傭人等である。

この地の邦人の企業は主として護謨栽培及古々椰子栽培であり、又珈琲、胡椒、油椰子、米、茶の栽培を營んでをるものもある。

邦人企業會社として主なものは野村東印度殖産株式會社東拓の別動隊である東印度拓殖會社が各護謨栽培に活躍してゐる。

鑛業ではボルネオは石油の寶庫でミリ（サラワク）、セリア（ブルネイ）、サンガサンガ、タラカン、バリクパパン等はパリト河の支流マルタプーラ河を挾んで建てられた市街で人口約七萬、この地方の物資の集散地で將來發展を目されてゐる新興都市である。附近の住民は一體に勤勉で餘裕ある生活を營む者が多い。又この近郊にあるマルタプー

の大油田がある。占領以來わが建設部隊の手により復舊され現在〇〇萬トンが製産され我國にドシ〳〵輸送されてゐる。尙サンクリラン地方では邦人により林業が行はれてゐる事もつけ加へて置く。

ボルネオは未だ開かれざる處女寶庫にして擴大なる豐饒の沃土は總て今後の拓人の雄飛と開發を待つてゐる新天地である。

セレベス島

面積、氣候、住民

セレベスはボルネオの東部に位する島で、その面積は十八萬八千九百四十平方粁で、我が國の北海道の二倍强、本州より稍小で、ジヤバ島より少し大きい。人口は約三百六十萬で人口密度は一平方粁二十二人である。島内には山多く、兩端のマカツサ及メナド附近は自動車道路が開けてゐるが南北に通ずる貫通路なく、主なる交通は海上を汽船による外なく、而もその定期船が比較的少く旅行は概して不便である。島内で最もよく開發されてゐるのは北部半島のミナハサ地方と南部マカツサを中心とした地方である。東部地方のゴロンダロ、西海岸のドンカラ地方も徐々に開發は進められつつある。

氣候は他の東印度地方と大差ないが山脈が縱橫に走つてゐるからその影響を受ける事が多い。平地氣溫はやはり平均攝氏二十六、七度である。

住民は大部分は原住民で、その種族は約十九種に及んでゐる。主なる種族としては、トラジヤー族五十六萬が中央高原に、マカツサル族はマカツサ地方に六十五萬、ブギス族は海岸地方に百五十萬、ミナハサ族は北部高原に三十六萬がある。

トラジヤー族は迷信深く、鷄に關して面白い事は、鷄を携へて航海に出ると風波がおさまると考へ、田植には鷄の血をふりまく式を行ふ。人が死ねば布を十重二十重に巻き牛車に乘せて墓に運ぶ、墓地は斷崖に横穴を開けたもので集團埋葬である。知識程度は極めて低い。

マカツサル族とブギス族は元來同一人種であるが、言語を異にし、互にお里自慢をしてゐる。彼等は節義を重んじ尙武の氣象に富み、標悍にて海上生活に慣れ、小舟を操つて他國に渡り交易を行ふ。一般に復讐の念が强く、人に罵られたり侮りを受けると飽くまで忘れないで報復する。酋長に對しては頗る從順である。平常殆んど半裸體で夫婦は別々に財産を所有し、婦人の權力が强く、酋長の中には往々婦人を見ることがある。

ミナハサ族は最も開けた族で昔は盛んに人の首を切つたといはれるがキリスト新教に歸依し、貯蓄心に富み、勤勉で信仰の念が深い。ミナハサ族の顏形は我が日本人に酷似してゐて文化も進んでゐるので祖先は日本人と同じである

と考へてゐる、農業を營み餘裕ある生活をしてゐる。旅行者により傳へられ一般に知られてゐるミナハサ美人はこのミナハサ族の女である。

主要都市

マカツサ は一八四八年以來の開港場で本島南部に於ける物資の集散地である。一方東はモロツケン、ニューギニア、南はフロレス諸島、北西岸の濠洲、西は東部ボルネオの物資の呑吐口をなし、貿易が頗る盛んで市中は殷賑を極めてゐる。人口約九萬で眞珠、高瀨貝、コプラ香料等の島嶼物産の輸出が目立つてゐる陸上は當市を中心として自動車道路四通八達し交通の便がよい。東方ブートンでは我が三菱系のブートン眞珠株式會社により眞珠の養殖が行はれてゐる。

メナド はミナハサ地方に於ける中心都市で人口約三萬二千、農業及林業を以つて聞ゆるミナハサ州の主港として發展せる都市で風光明媚、土地肥沃、到る處に椰子樹栽培され、人家、道路共整然としてゐる、住民又開化されて生活程度も高く、陸上交通は申分なく發達し、加ふるにその秀麗な風光と清涼な氣候は南洋中の別天地をなしてゐる。氣溫は日中でも華氏で八十度乃至九十度、朝夕は七十四、五度である。

トンダノ メナドからトンダノ高原まで羊腸たる山路三十餘哩、鋪裝道路にて通じてゐる。山頂の一大平原がトンダノ平原である。トンダノ湖あり、周圍二十二哩、海拔六百米の地にあり、湖邊の平地は上等米が出來る。トンダノ町は人口一萬八千、湖邊の全住民を併すれば約十萬に達するであらう。平均溫度は高原だけに華氏六十度內外、南洋の別天地にして風光また優れてゐる。

邦人の發達狀態

セレベス在住の邦人は約七百人である。セレベスの北部メナド地方は日本人の有力な發展地の一つであつて、邦人は主として貿易、雜貨を初め護謨、椰子、珈琲等の栽培に從事する一方漁業に於ても相當の成績をあげてゐる。

主なる進出會社では南洋興發株式會社が同島の開發事業に乘り出し、マンキツトで一千餘町歩に椰子樹の栽培に當り樹數十萬本、コプラの年產約四萬擔である。東印度のコプラ年產約四百五十萬噸の中三十萬噸はセレベス地方の生產にして、同社は各地に二十數ケ所の買付所を設け、コプラの貿易に當つてゐる。尙南洋興發株式會社はセレベスのアムランに約八百町歩の椰子園を經營してゐる外コプラ貿易にも盛んに活躍してゐる。

ペーランモン、ゴドウ方面では珈琲が邦人の手により行はれてゐる。かつて獨艦エムデンの蔭れ場となつてゐたビートン附近は、今日では日本人の漁業根據地の觀があり、沖繩縣人を主軸とした漁夫が進出してゐて漁業に當つてゐるが地元のメナド中心では一日販賣高四千尾內外であるから鰹節、罐詰、燻製、乾魚として加工し他に販路を擴げねばならぬ。

南部のマカツサルは商業都市であるから、此處の邦人は大部分が商業方面に進出してゐる、南端のブートンに於ける邦人の漁業もブートンと共に邦人が進出し、鰹漁業と共に眞珠の養殖が行はれてゐる。

セレベスの東方バンガイ島には良質の雲母が多量に存在するが、これも最近邦人の手により企業化されつつある。

セレベスにはメナドに我が軍政部があり、在住邦人も相當居住し日本人國民學校も設けられてゐる。

ニューギニア島

面積、氣候、住民

ニューギニアの總面積は約八十萬平方粁であつて恰もわが內地面積の二倍强に當る世界第二の大島である。全島の人口は舊蘭領三十萬、舊英領五十萬、合して約八十萬人といはれてゐるから一平方粁當り一人の割合の密度であるから如何にニューギニアが未開な『謎の島』の名に相應しいかがうかがはれよう。

ニューギニア島は行政上からいふと東經百四十一度を境界線として、その西部が舊蘭領、東部の北半が濠洲委任統治領、同じくその南半が英領に屬してゐた。

島は東西に走る峨々たる諸山脈を背骨として、大分水嶺から發する大河は多く南北に流れてゐる。河の流域は何れも廣大な大平原を形成して處々に大低濕地があり、その上水路の安定もないので經濟的な價値に乏しい、その代り海岸線は比較的、屈曲に富んでゐて良港も多く、本島開發の基をなしてゐる。例へばゲールフインク灣には舊蘭領隨一の良港マノクワリを初めモミ、ナビレがあり、マツクリア灣にはフアクフアク、バボ、その他西海岸にはソロン、メラウケ、舊英領のパプア灣にはニューギニア第一の都市ポートモレスビー等がある。

氣候は赤道直下にあるだけ四季を通じて大體酷熱であるが地形は細長く海風の影響を受けて海岸地帶特に

舊蘭領ゲールフインク灣一帶の農耕地方面は氣候良好で、我が南洋群島のパラオ邊より凌ぎよい位ゐで、起伏緩やかな廣漠たる高原地帶の如きは恰も我が內地の初秋を想はせるものがあるといはれてゐる。

ニューギニアは今なほ千古斧を入れざる未開の處女地が多く、その主要產業は農業、林業、鑛業、水產業などであるが、その他の產業も開發の如何によつては實に洋々たる將來性を持つてゐるが、今までの統治國たる英蘭の經濟的進出殆んどなく、原住民は拱手座食に甘んじ、あたら天然の大寶庫も動植物の世界となつてゐる。

產業としては農業では棉花、ココ椰子、サゴ椰子、コプラ、陸稻、ゴム、麻、煙草などの栽培に適して居り我が南洋興發會社がモミ、サルミ地方に約六千町歩の農園を經營して成績をあげてゐる。

林業は全島巨木の密林に蔽はれてゐて、有用材に富み殊に黑檀、白檀等が無盡藏であるといはれ、またワニスの原料となるダマール樹脂の產額も多く本島の輸出品の首位を占めてゐる。

水產業は沿岸及南方のアル諸島を中心とする高瀨貝、夜光貝、眞珠貝等の採取が主で、ここでも早くより邦人が進出活躍してゐる。

鑛業は將來重要產業の一つとなるものであるが、まだ詳密なる調査はないが、金の埋藏量豐富といはれ、舊英領のルイジアード、ムルアの兩金山を初め數ケ所の金山を採掘

してゐる。尙本島の石油資源は尨大なるものと傳へられてゐる。

住民は殆んど原住民でパプア族である。この種族は頭髪がプアプアしてゐるところからその族稱が出來たといはれてゐる。比較的古くから白人に知られたので、ニューギニア島はパプア島とも呼ばれてゐる。原住民族で極めて智能程度の低い種族で大體、殆んど裸體で女子も粗惡な纖維を腰に纏ふてゐるに過ぎない。森林を切り開いて部落を作り陸上の居住者は樹上に小屋を作つて棲息し、海岸や河岸に住む者の中には河中に杭を打ち込み、バラックの家を作つて群棲するものもある。椰子、ヤム薯、タロ芋等を作つて原始生活を營んでゐる。この外カヤカヤ族といふのは西岸と南岸のフライ川、デゴール川附近等に住んでゐるもので男は體格六呎を越すものあり、女は肥滿したものが多い。

天然の果物、禽鳥、魚貝等を食用として生活する。男の中で勢力あるものは鳥の翼を頭に飾り、鼻には動物の骨や牙を刺し貫き、胸には袋鼠の牙等を月形につないで下げてゐる。狩獵は弓矢をもつて巧みに行ふ、性質は慘忍で首狩りの風を存してゐたが近來はその蕃風止み、殊に邦人に對して危害を加へることは殆んど絶無であるといつてよい。

主要都市

マノクワリ　舊蘭領ニューギニアの主都で西部第一の都會、人口は約一千五百人の小都であるが政治、經濟の中心地にして、官廳、稅關、郵便局、無線電信所、病院、學校等完備し、市街道路整然としてゐる。

東印度諸島と當地との交易船舶の出入あり海上交通の要港であり貿易港として知られてゐる。わが南洋興發會社の事務所もこの地に置かれてゐる。

我國との交通は、南洋興發會社所有のヌシ丸が內南洋パラオとを片道三晝夜で不定期に往復し內地と當地の連絡をしてゐる。

ポートモレスビー　パプア灣に面した舊英領ニューギニアの首都で、人口は約一千人、一九三九年この地が軍港となつてから港灣施設は完備され、五千噸級の船舶が自由に棧橋に橫付となる設備を有してゐる。

軍事要衝であり又貿易港でもある。市街は行政廳、稅關、郵便局、警察署等の諸官廳があり、舊英領ニューギニアの政治の中心地である。道路も整然として水道設備あり、自動車を主たる交通機關として發展してゐる。

邦人の發展狀態

ニューギニアに於ける在住邦人は附近の小島も合して約二百五十名である。邦人事業としては現在南洋興發會社がマノクワリに事務所を置き、ナビレに三萬一千町歩にダマル樹脂を栽培し、約三百名ものパプア族を使役して生産に當つてゐる。又ゲールフインク灣西岸のモミ平原に五千五百町歩からの地權を獲得して棉花の栽培に當り、棉花の生

産を行つてゐる。現在モミにはパプア人一千二百人から常傭して開墾と栽培に當つてゐる。モミ農場の一部に玉蜀黍、タピオカ、青豆、カボック、カカオ、胡麻等の栽培も行つてゐる。又近時濠洲より緬羊を輸入して試育を行つてゐるが、成功の曉にはニューギニア産業の將來を倍加せしむるであらう。

舊濠洲委任統治領であつたビスマルク群島ラバウル島には邦人の獨立農園經營者に長濱太市氏と遠藤繁太郎氏がある。長濱氏は農園と造船所を經營して居り、遠藤氏は小規模の古々椰子園を經營してゐる。

長濱氏は熊本縣の人、明治二十年生れ、明治四十五年渡航、ラバウルに於る邦人の草分けである。小嶺磯吉翁の招きに應じて渡航し、小嶺氏の事業を助けてゐたが後自ら採貝業と農業を行つてゐた、昭和五年翁の諸事業經營困難に陷り、その一切が外人の手に歸せんとするを見るや、その農園を支那人と共同で買受けその經營に當つた。その後共同者の死亡と共に農園の實權を握るに至つた。小嶺翁より讓り受けた農園はラシブチヨ、パピタラリ、ヒイアル、サウ、カリブの五ケ所で何れもアドミラルテイ島にあり、總面積一千ヘクターで古々椰子を栽培し、コプラ一ヘクター當り三千封度內外と云はれてゐる。尙この外ニューアイランド島にも農園を所有し、約五五〇ヘクターに古々椰子を栽培してゐる。

邦人團體名簿

◆スマトラ島

サバン日本人會　（會長）
　アチエ・サバン・バサー・ウエグ四五號　北村甚一郎
アチエ日本人會　アチエ・コタ・ラジヤ　池田　孫一
アサハン日本人會　タンジヨン・バリ　池田　定市
スマトラ日本人會
　メダン市コロエセン街一四號　澤村　隆

スマトラ日本人實業組合
　メダン市コロエセン街一四號　澤村　隆
テビンテンギ日本人會　テビンテンギ　山下源太郎
パダン日本人會　パダン市　近藤　鶴吉
ベンクーレン州日本人會　ベンクーレン　鶴岡　一雄
中部スマトラ日本人會　パカン・バルー　瀧本　勇
ヂヤンビー日本人會　ジヤンビー　佐久間惣次郎
シヤンタル日本人會　ペマタン・シヤンタル　佐久間　昇

スマトラ日本人栽培協會　メダン市ヨルミゲボー一一號　早川　建三

◆ジヤバ島

バタビア日本人會　バタビヤ州バタビア　センタム・チアウランウイ二九號　森　亮太郎
バタビア日本人商業協會　〃　（横濱正金支店內）

——東印度篇——

スカブミ日本人會　バイテンゾルグ州チバダ木野商店內　田邊熊太郎
バンドン日本人會　プレアンカン州バンドン　渡邊　辰次
ガロー日本人會　コツプウエニ九號
東印度日本人商業組合　〃　ガロー　河田宇一郎
チエリボン日本人會　〃　バンドン・コツプウエニ九號　安倍喜一郎
チエリボン日本人實業協會　チエリボン州チエリボン　高橋　德方
バニユーマス州日本人會　〃　〃　東洋棉花會社內　森田　信一
　バニユーマス州ブルワケート

モジヨイパイト日本人會　スラバヤ州モジヨイケート　宮坂　叔道
東印度日本人商業協會聯合會　スラバヤ州スラバヤ・チネスチ・ボー街　今川　義利
スラバヤ日本人實業協會　スラバヤ州スラバヤ・チネスチ・ボー街　掛川　眞吉
マラン日本人會　マラン州マラン　中川安次郎
マラン協和會　マラン州ルマジヤン　林　虎吉
プロボリンゴ日本人會　マラン州マラン　中川安次郎
バニユワンギ日本人會　マラン州プロボリンゴ高橋　哲二
　ブスキ州バニユワンギ　ソロノ・ベンジヤラ（前田精米所內）　前田千太郎
ボンドヲソ日本人會　ブスキ州ボンドヲソ　安部　昌雄
セレベス產業協會　メナド　姬田　亦市
ケドウ州日本人會　マカツサ・パツサー街一二八
ソロー日本人會　ソロー　小野　茂八
　高橋　正太

◆ボルネオ島

タラカン日本人會　タラカン　北村　新吉
サンガサンガダラム日本人會　サンガサンガダラム　（會長半年交代制）
サマリンダ日本人會　サマリンダ　根本俠一郎
サンボジヤ日本人會　バリクパパン・サンボジヤ　友枝　康
バリクパパン日本人會　バリクパパン　雪本範四郎
コタバル日本人會　コタバル　大瀨　房人
パンジエルマシン日本人會　パンジエルマシン（野村東印度殖產會社內）森田　謙一
西ボルネオ日本人會　ポンテアナ　本多　道弘
西ボルネオ日本人會ランダ支部　ポンテアナ・ランダ　柚木　仲助

◆セレベス島

メナド日本人會　メナド　稻垣　辰男
メナド日本人商業協會　メナド　長野　智
セレベス產業協會　メナド　江川　俊治
マカツサ日本人會　マカツサ・パツサー街一二八　菊池　武美

◆大東州諸島

ロンボ日本人會　ロンボ島アンパナ　伊藤　吉彌
テルナテ日本人會　ジロロ島テルナテ　江川　俊治
アンボイナ日本人會　セラム島アンボイナ　宇津美潤次
ドボ日本人會　アル群島ドボ　瀨戶　和藏
東印度產業組合　アル群島ドボ（眞珠採取業者）　浦中　久吉

パサーマニス常盤洋行內　松浦　定治
テガル日本人會　ペカロンガン州テガル　草刈幸次郎
ペカロンガン日本人會　〃　ペカロンガン　國井常三郎
中央爪哇日本人會　スマラン州スマラン　中村松太郎
スマラン日本人商業協會　スマラン州スマラン・スターアン三號　伊藤　健
中央爪哇日本人貿易業組合　スマラン州スマラン　草鹿　商店
中央爪哇日本人信用組合　スマラン州スマラン・ヘーレン街四五號　八木　甚五
ジヨクジヤ日本人會　ジヨクジヤ州ジヨクジヤ　須藤　金繁
　パジナン街七六號（河合商店內）
マデオン・ポーロゴ日本人會　マデオン州マデオン（チトセ商會內）　井上　友一
ケデリー州日本人會　ケデリー州ケデリー　山口菊五郎
プリタル日本人會　〃　プリタル　淺尾　兵助
トロナング日本人會　〃　トロナング　矢部　英夫
東部爪哇日本人會　スラバヤ州スラバヤ（イドナ製油會社內）矢部　英夫
スラバヤ日本人會　スラバヤ州スラバヤ・ジマートウエ十一號　山田　政八
シドアルジヨ日本人會　スラバヤ州シドアルジヨ（中井商店內）　中井清次郎

進出する事業會社

邦人會社にして東印度に進出し農園を經營、護謨、珈琲、椰子、規那或はカポツク、棉花等の栽培に活躍する主なる事業會社も十數社あり、又貿易業及鑛業その他に進出してゐる會社も數社ある。次に我國にその本社及事務所の所在するものを記載する事にした。尙多くは本案內の文中に記載あるものである。

◇野村東印度殖產株式會社

事務所　大阪市東區備後町二ノ二一　野村合名海外事業部內

同社はその資本金五百萬ギルダー、ボルネオのバンジエルマシンに本社を置き、ボルネオにて大護謨園を經營する一方、スマトラにも進出し、珈琲園及び椰子農園を大規模に經營東印度に於ける邦系事業會社として重きを成してゐる。

尙ボルネオのバンジエルマシンとスマトラのパレンバンに精製工場を有して發展中。

◇昭和護謨株式會社

本社　東京市京橋區京橋二(明菓ビル)

資本金一千萬圓、同社はジヤバ、スマトラを主たる舞臺として、ゴム、シザル、カポツクの栽培に活躍し大農場經營に當つてゐる。所有地二萬八千英反、植付面積約一萬八千英反。

◇熱帶產業株式會社

本社　東京市日本橋區室町二ノ一(三井三號館)

同社は資本金六百五十萬圓、スマトラに護謨農園一萬一千六百四十五英反を經營飛躍しつつある。

◇スマトラ拓殖株式會社

本社　東京市麹町區丸ノ內(丸ビル內)

資本金八百萬圓、スマトラを舞臺に同島各地に於てゴム農園經營に雄飛し盛んに活躍してゐる。農場五千英反餘所有地一萬四千餘英反。

◇南國產業株式會社

本社　東京市麹町區丸ノ內三ノ四

資本金三百五十萬圓、ジヤバを舞臺として護謨コーヒー、規那、茶の各農園を經營す。ウノサリー農園で茶、規那、テンボアセオ農園で護謨、珈琲、テンダリー農園で茶、護謨の栽培をしてゐる。

◇ボルネオ護謨株式會社

本社　東京市麹町區丸ノ內三ノ六

資本金五百萬圓、スマトラ島アチエー州セマントウ及パヤタンパに於て大護謨園を經營發展中である。所有面積約一萬英反。

◇南洋護謨株式會社

本社　東京市麹町區丸ノ內二ノ八

資本金五百萬圓、同社は明治四十四年創立で邦人事業の南進先驅會社の一つ、南洋馬來半島方面に進出してゐる一方、スマトラにて護謨の大農園を經營飛躍してゐる。

◇南洋興發合名會社

東京事務所　東京市麹町區內山下町(東洋ビル內)

資本金八十萬ギルダー、同社は南洋興發株式會社(資本金一億圓)がニューギニア島マクノワリに設立した姉妹會社で、ナビレに三萬一千町步のダマル樹脂林の植栽に當る一方、モミ平原に五千五百町步からの地權を獲得、棉花その他の栽培に活躍發展してゐる。

◇南太平洋貿易株式會社

東京事務所　東京市麹町區內幸町(東拓ビル內)

資本金一千萬圓、本社南洋サイパンで、元セレベス興業會社と南興との共同出資で昭和十二年設立したもの、セレベスに於て一千餘町步の椰子園を經營すると共に同島を舞臺にコプラ貿易に雄飛してゐる。今度南洋興發に合併が決定同社事業は南興に移つた。

◇南洋貿易株式會社

東京事務所　東京市日本橋區中洲町

資本金一千萬圓、本社パラオ島、內南洋に活躍する一方東印度に進出を開始し、セレベス、アムラン等で椰子園を經營活躍する一方コプラ貿易に進出してゐる。同社も南興に合併が決定。

◇臺灣拓殖株式會社

本社　臺北市榮町三ノ一

資本金三千萬圓、臺灣の產業開發に活躍する會社である事は御承知の通りであるが、同社はスマトラ、ポーロバタンに於て護謨農園を經營、發展してゐる。

◇三井物產株式會社

本社　東京市日本橋區室町二ノ一

資本金一億五千萬圓、我國では三菱と共に覇を唱へてゐる代表的の貿易會社で、東印度ではジヤバ、スラバヤに支店を置き、綿布、雜貨その他の物資の輸出入に活躍してゐる。尙同社が主たる出資の許にボルネオにボルネオ石油會社を設立し、石油事業に進出してゐるが未だ實績をあげるまでに至つてゐない。

◇三菱商事株式會社

本社　東京市麹町區丸ノ內二ノ一〇

三井と並んで我國の代表的貿易會社で、やはりスラバヤに支店を有し、南方物資の輸出入貿易に雄飛してゐる。尙同社ではセレベス東南端ブートン島にブートン眞珠株式會社を設立して眞珠の養殖事業に當つてゐる。

◇石原產業海運株式會社

本社　神戶市神戶區海岸通二ノ三〇

資本金三千二百萬圓、同社は大南洋を舞臺に鐵鑛石の輸入販賣に活躍す、海運、鑛業と多角的に進出を示してゐる一方ジヤバではスラカルタ州に銅山を經營し發展中である。

◇江商株式會社

本社　大阪市北區中之島二ノ二五

資本金千八百萬圓、ジヤバのスマラン、スラバヤ、バタビヤ等に支店を置き、邦品綿絲布、人絹等を主とした貿易に活躍、發展中。

◇竹腰商事株式會社

東京事務所　東京市日本橋區江戶橋三ノ一

資本金十萬ギルダー、本社をジヤバに置きカポツクの製造業、南方物產の輸出業並に邦品の輸入貿易に堅實な發

展を遂げてゐる。

◇大同貿易株式會社

本社　神戸市神戸區浪花町五七

資本金二百萬圓、關西財閥伊藤忠系の貿易會社で、フイリツピン及東印度諸島等を中心に貿易に活躍し、我が貿易界でも著名のものである。

◇日蘭商事株式會社

本社　東京市麹町區丸ノ内三ノ八

同社は鑛業ボーキサイトの輸入に活躍する一方、南方物産の輸入及邦品雜貨等の輸出に發展してゐる。

尚昭南島及各所に支店がある。

◇南洋倉庫株式會社

本社　東京市京橋區銀座西六ノ二東海ビル

東印度では、バタビヤ、スマラン、スラバヤ、チエリボン、マカツサ、プロボリンゴ等の各主要港に營業所を置き倉庫業に活躍する一方各海上保險の代理業に當つてゐる有力會社である。

◇南洋商事株式會社

東京市麹町區丸ノ内二ノ二

資本金五〇萬圓、支社ジヤバ島スラバヤ市パラーデ、ストラート一七に置く。南洋物産、屑鐵、機械類、綿糸布、化學製品、雜貨の輸出入業に活躍す。

◇有馬洋行

本社　東京市麹町區丸ノ内三ノ八三菱六號館内

資本金四百萬圓、支店は大阪市東區伏見町五ノ二七〇、出張所をジヤバ島スラバヤに置き、貿易業に發展する一方、仲立、保險の代理業にも進出してゐる。

◇安宅商會

本社　大阪市東區今橋五ノ一四

同社は比律賓、ミンダナオ島及東印度ボルネオ島バリクパパンに出張所を置きこの方面の重要地として南洋木材の採材とその輸出入業に活躍してゐる。

◇東印度拓殖株式會社

本社　ボルネオ島バンジエルマシン

資本金三百萬盾、ボルネオに二千三百ヘクタールの面積を有し、護謨園の經營に當る一方、椰子の栽培にも發展してゐる。內地支店は東京市麹町區內幸町一ノ二東洋拓殖會社內に置く。

◇合資會社ボルネオ物産商會

本社　神戸市神戸區海岸通十

同社は播磨造船所(資本金一千萬圓)の別動隊としてボルネオ島サマリンダ及比島バシラン島、ミンダナオ島に於て木材伐採を行ひ、ザンボアンガより南洋材を輸入してゐる。

◇ボルネオ石油株式會社

本社　スラバヤ事業地ボルネオ島サンクリラン

資本金二百萬ギルダー、社長小田政次氏、同社は舊蘭領ボルネオ、サンクリランに於て油井鑛區の探索及採油等に發展してゐる。

◇千代田百貨店

內地出張所　東京市京橋區本槇町六ノ三

資本金三十萬ギルダー、社長岡野繁藏氏、同社は東印度ジヤバに於ける第一の百貨店にして、本店はスラバヤ、支店をバンドン市、バタビヤ市、ジョクジヤ市、マゲラン市に置きジヤバ商業界に雄飛してゐる。

◇東山栽培株式會社

本社　スマトラ・東海岸ラプアンピリ

資本金四百萬ギルダー、同社はスマトラ東海岸州に於て油椰子農園を經營してゐる一方、パームオイルの製造に發展してゐる。內地支社は東京丸ノ內二ノ一四東山農事株式會社內に置いてある。

◇大倉スマトラ農場

本社　東京市京橋區銀座二ノ二大倉組本館

資本金四百萬圓、社長大倉喜七郎氏同社はスマトラ東海岸パカン・パルーに護謨農場六八八英反、油椰子二、九一二英反を栽培して活躍、邦人既設農園の主たるものの一である。

◇横濱正金銀行

本店　横濱市中區南仲通り五丁目

資本金一億圓、我國の對外銀行としてその雄を誇るもので海外各主要地に支店を置き活躍す。東印度ではバタビヤ、スラバヤ、スマラン、ペンドンに支店を有し發展してゐる。

◇千田商會

本社　東京市麹町區丸ノ內一ノ二九ビル

資本金二百萬弗、支店をジヤバ島スラバヤ市とビルマのラングーンに置き、一般輸出入貿易、石炭、船舶代理業等に發展してゐる、主なる事業地をマレーに置き護謨栽培に當つて居る。

◇東洋棉花株式會社

本社　大阪市東區高麗橋三ノ一

資本金二千五百萬圓、內地大陸の他同社はスマトラ東海岸パカン、ジヤバのスマラン、チエリボン、印度カラチ等に出張所を置き、棉花、綿糸布、人絹布の輸出入貿易、棉花の輸出事業に發展してゐる。

◇日本棉花株式會社

本社　大阪市北區中之島二ノ一〇

資本金一千二百七十五萬圓、南洋ではジヤバのスラバヤ。印度のカラチ、カルカツタ、モンバサ、濠洲のシドニー等に支店を置き、棉花、綿布、生糸、人絹織物、羊毛の輸出入及棉花壓搾業に發展してゐる。

◇古河合名會社

本社　東京市麹町區丸ノ內二ノ八

資本金三千萬圓、同社は我國鑛業製鍊事業會社として著名であるが、スマトラのボーロ・バダンに於て同社殖產部が護謨栽培に進出し相當の成績をあげ發展してゐる。

◇大信洋行

神戸市神戸區浪花町六四

ジヤバのスラバヤに本據を置き、綿糸布、雜貨食料品等日用雜貨貿易に進出し、一流會社に亙して、ジヤバ各地方都市にもよく商網を張り活躍中。

◇華南銀行

臺北市表町二ノ二

資本金二百五十萬圓、支店をジヤバスマラン。マレー昭南島及南支廣東に置き、南洋地方に於ける邦人、華僑及原住民等の中商工業者に對する金融事業に發展してゐる。

舊英領ボルネオ篇

舊英領ボルネオ

舊英領ボルネオとは舊英領北ボルネオのほかにブルネイ王國及サラワク王國の二つの獨立王國があつて、何れも英國の保護國又は保護領となつてゐたもので、舊英領北ボルネオとは純然たる英國の舊領土で、唯この領域は英領北ボルネオ會社が英國の特許を受けて行政權を行つてゐた。倫敦にある同會社の重役會が最高の行政機關となつてゐたが實際の統治は英本國の植民大臣の承認を經て重役會が任命した總督が當つてゐた。その領域は北緯四度十分から七度二五分、東經一一九度二〇分より一一五度二〇分のボルネオ北端七萬六千四百三平方キロ、人口は約二十七萬人。

ブルネイはサルタン（ブルネイ人の王樣）が居て國を治めてゐた。英國はこのブルネイ王國を自國の保護領として取扱ひ、州知事を駐在せしめてブルネイ王國の行政を悉にしてゐたもので、その領域は北緯四度五分から五度二分、東經一一四度七分から一一五度二二分で面積は僅か六千四百七十五平方キロ、人口は三萬六千人。

サラワクは英人をラジヤ（王樣）に戴いてゐた馬來人の獨立國であつて、北緯一度から五度、東經一〇九度四〇分から一一六度に亙る。面積は十二萬九千四百九十五平方キロで人口は四十四萬人。

以上が舊英領ボルネオと云はれてゐたものである。我國占領後は舊英領ボルネオと舊蘭領ボルネオを一體として全ボルネオを一元的に軍政下に置き統治してゐる。

氣候

氣候は熱帶常夏の氣候であるが、我々の想像する程の暑熱ではなく、いはゆる南洋性の氣候で、平均溫度は華氏七十八、九度で一年中殆んど變りがない。一番熱い時でも九十度を越す事は稀で、又一番溫度の低い時でも六十七、八度位である。

一日中春、夏、秋のある氣溫ともいふべきで早朝は春、日中は盛夏、夜中は秋の氣溫で夜中は毛布なしでは寢られぬ程であるから、我國の盛夏の氣候より比較的凌ぎよい。

雨期は大體十一月下旬から翌年二月上旬頃までであつて

この時期が一年を通じて一番涼しい。雨量は一年平均一二〇ミリ內外で、地方により、また年により多少の相違はあるが、雨は雨期でも一日以上降り續くことは稀であつて、極めて强く降るが普通三、四時間で止み、後はカラリと晴れる。雨期以外の時期に降る雨は、大體三十分以上續く事は殆んどない。乾期は大體三、四月頃であつて、この時期は雨は大體夜中かまたは夜明けに夕立の如くきて晝間に降る事がまれである。

衞生

南方一帶の病氣としては一番多いのはマラリヤである。最近は豫防藥が出來て相當效果をあげて居り、またキニーネ等の特效藥があつて犧牲は極めて少ないが、南方一帶の病氣であるマラリヤが北部ボルネオにもある。又渡航者の注意すべきは脚氣である。水質や食物の變化等により最初はかかりやすい。衞生知識の全然ない原住民部落には、天然痘やコレラも散發するから渡航者は豫防注射をよく受けて行く事が大切である。

（一）舊英領北ボルネオ事情

舊英領北ボルネオは舊英領ボルネオの最北部で面積は七萬五千平方キロ、我國の北海道の面積にやや等しい。人口

は約二十七萬よりなく、人口密度は一平方キロに約四人であつて、領土の殆んどは未開の處女寶庫にして、氣候は熱帶の天惠に浴し、地味極めて肥沃なれば農業に好適されて居り、總ては今後の開拓の手を待つてゐる。

地勢

北ボルネオの地勢は概して高燥で、大小無數の山嶽が領内を走り、全體として山地が多い。北西角の海岸に近いキナバルウ山峰は海拔一萬三千六百九十八呎で、ボルネオの最高峰である。沿岸地方北部は熱帶樹木鬱蒼として茂り低地を交へてゐるが、北西岸になると低地が少く、山の裾がすぐ紺碧の海に浸つてゐる。

内領一帶は人跡未踏の原始林に覆はれた、いはゆるジャングル地帶となつてゐる。

河川は、東、北、西の三方面に流れて海に注ぐ、中でもキナバタンガン河、セガマ河及びバダス河の三河の流域地帶は地味肥沃な沃野が展開され、比較的開拓されて居り、護謨、煙草等の栽培が行はれ、海岸線地方には古々椰子が林層を成してゐる。

主要産業事情

舊英領北ボルネオはその面積七萬五千平方キロの廣大なる面積を有するも、人口僅かに二十七萬よりなく、住民の多くは原住民にして、總じて未だ原始時代を去る事幾許もなき狀態にあり、智的程度も低く、性質概して懶惰、安逸

住民

住民の人口は約二十七萬强で、そのうち歐洲人は二、三百人を數ふるに過ぎない。住民の主なるものは、デュスン族、バジョウ族、ミュレツト族及支那人等である。デュスン族は全人口の半を占める約十二萬人で彼等の性質は極めて溫順で、平和の生活を愛好し、米作や煙草などに從事してゐるものが多い。大多數は北海岸及西海岸地方に居住してゐる。

バショウ族は約三萬四千人で、極めて勇敢な種族でマレーから移住して來たもので、かつてはボルネオ方面を荒した海賊であると云はれてゐる。彼等は漁業や薪など集めて生計してゐる。

ミュラソト族は多く奥地の丘陵地帶に住んでゐて、原始的な生活を營み、狩獵やジャングルの生産物を蒐めて暮してゐる。この他にイラナン族、ケダヤン族、ベサヤ族、ダイヤ族等が若干住んでゐるがその數は詳かでない。支那人は約四萬八千人住んで居り、到る處の地方に居住し、商人や農耕勞働者として生活してゐる。

を好み、勤勞を厭ふの風が少くない。

氣候は熱帶の天惠により、衣は殆んど裸體跣足を風としし食は自然に多くを委ね、僅かに放任的栽培を行ひ、耕耘、施肥等を爲さず、これを收穫すれば食するに餘りあり、住また雨露を凌げば足り、便、不便を意とせざるの狀態なれば、從つて産業として發展は未だ殆んど見るべきものがない。僅かに産業としては椰子の他、外來人により行はれてゐる護謨、麻の栽培と、木材、水産等を數へるのみ、鑛工業としては總て今後に待つものにして見るべきものは殆んどない。

農業

「護謨」ゴムは地味肥沃、加へて氣候好適してゐる處から支那人及邦人等により企業化され、同國輸出物の重なものとなつてゐる。

「麻」はマニラ麻にして、フイリツピン産のマニラ麻と同樣の品質にして、タワオに於て邦人により盛んに栽培され、同國新興農産物として飛躍的發達を示しつつある。植付後一年半にして高さ三十尺前後に成長し、氣候またこれに適し麻栽培の將來は大いに有望視され注目されてゐる。

林業・牧畜

領土の大半は山地にして、鬱蒼たる原始林に覆はれ、無盡藏の資源を有してゐるが、國内の交通路開かれず、都市附近を除いては道路もなき狀態なれば輸送の困難に起因され、多くは未開發のまま殘されてゐる。現在サンダカン、ゼセルトン、タワオ附近に於て木材事業が漸く企業化され建築材、家具材、造船材として海外に輸出されつつあり、我國にも此の地より相當輸入されてゐる。

牧畜は、水牛、黃牛、馬、豚、羊等が農家により副業的に飼育されてゐるが、人口僅か二十七萬なれば、その數もいふに足らず、畜産業の發展も特筆すべきものがない。牛馬は交通は河川と半馬の背による處から、耕耘役畜、運搬用に、豚、羊は食用にされてゐる。尙その頭數は現在詳かでない。

水産業

舊英領北ボルネオは北はボルネオ海に、西部はスル海及セレベス海に面し、近海は各種洄游魚族及熱帶水族が豐富に群棲し多岐廣範なる生産面を有してゐて、漁期周年に亙り永續的に漁獲なし得る事情にあり、所謂水産資源の寶庫であるが、住民の漁撈方法は極めて幼稚にして原始時代の域にあり、漁業は僅かに河川、港灣内の魚獲により附近部落の需要に應ずるの範圍にあり、領内人口僅か二十七萬を參照として行はれてゐる。近時タワオの入口にあるシヤミル島には邦系のボルネオ水産株式會社が進出し、ここを舞臺に沖繩縣人及高知縣人を主軸とする邦人數百名が水産漁業に活躍し、漁獲物を以つて、罐詰及經節の製造を行ひ製

品は戰前まで盛んに歐洲市場に進出してゐたもので、水産業は輸出貿易の主要產業の一つとして同圖に重要視される

主要都市

サンダカン　蘭英領北ボルネオの首都、サンダカン灣の入口にあり、人口約三萬五千で中、支那人一萬餘が居住してゐる。古くから貿易港として知られ、昭南島との間には週二回香港の間には二週一回の定期船が寄港してゐた。我國からは南洋海運會社の臺灣廻りが二週間で到着する。

此處は政治の中心地となつてゐて各官衙を初め銀行その他諸會社事務所、病院等あり、我が國領事館もこの地にあつた。市附近は護謨、椰子その他が栽培され林業が行はれ地方物資の集散地となつてゐる。

タワオ　北ボルネオ東海岸の一番南に在り、蘭領と境を接してゐる。先方人は「日本人町」と呼んでゐるが、タワオには既に邦人が約二千名から居住してゐて、開拓事業に活躍し、護謨、椰子、マニラ麻の栽培に當る一方、林業及水產業にも目覺しい發展を示してゐる。市街には支那人に亙して邦人商店が散在して邦品を販賣してゐる。

當地には邦人兒童教育のため日本人國民學校も施設されてゐる。尙當地には我軍政部が置かれてゐる。

ゼセルトン　蘭英領北ボルネオの西海岸にある主要港であつて、人口約二萬五千、蘭英領北ボルネオ中、鐵道の敷

町一、日產館內）が進出して居り、ここに沖繩縣人及高知縣人を主軸とした數百名の邦人が、經濟及罐詰、經節の製造に活躍發展されてゐた。

現在タワオ附近に邦人は現在約二千名を突破され、農業では護謨、椰子、マニラ麻栽培に活躍中で、邦系の事業會社としては三菱系のタワオ・エステート・リミテッドが護謨、椰子、麻の農場を大規模に經營發展してゐる他、日產農林工業株式會社（資本金二千萬圓、本社東京市芝區田村町日產館內）がタワオ農園、二萬七千百エーカーで、椰子、護謨、マニラ麻の大農園を經營してゐる。尙同社は木材業にも進出し開墾前の原始林を伐採搬出し、我國にも輸出してゐる等邦系事業は同地方を中心に發展されつつある。又最近ボルネオ殖產株式會社がサンダカンに近きキナバタンガン河の上流七十哩にあるビリツツと云ふ所でジュートの栽培に發展してゐる。この他農業、商店等に活動してゐる邦人も少くない。この在住者によつて作られてゐるタワオ日本人會では日本人國民學校を經營し、第二世の教育に力を注ぐと共に病院も設け、邦人に限らず一般の保健にも少なからぬ貢獻をなしてゐる。

我國とタワオとの連絡は、南洋海運のジャバ航路が月三回寄港する外日本郵船の內南洋航路も寄港してゐた。

首都のサンダカンは、濠洲、比島、昭南島を結ぶ重要な商業都市であり、從つて本邦商品の市場として少なからぬ價値を有してゐる。稅關の調査が不充分なため正確な數字は判らないが、綿製品、雜貨類の半は本邦品で、番傘、足袋等が歡迎され、藥品はこの國の免稅品であり、到る處メイド、イン、ジヤパンの賣藥が進出してゐた。この方面は支那人が多く人口の一割を占めてゐて、市街の商業は多く彼等が占めてゐる。邦人は現在極めて少ない。

（二）サラワク事情

サラワクはボルネオ島の北西部で面積は十二萬九千四百九十五平方キロで東西南の三方は蘭領ボルネオと境し北東方はブルネイに接し、北西方は支那海に面してゐる。

國境に沿ふて多くの山脈が走り、ボルネオ諸大河の分水嶺をなしてゐる。當領には大型汽船の航行を許す二、三の河川がある。內陸には山岳が多いが、海岸地方及諸河の流域には平野が擴けてゐる。

住民

サラワクの住民はその大多數はマレー人である。また智能は低いが、前記の蘭英領ボルネオの住民に比べると多少進歩してゐて、サラワク政廳でも官吏はこの住民より相當採用登用してゐた。宗教はこの方面はマホメット教を信奉してゐる者が多い。サラワクの住民はマレー人支那人の他にダイヤ族、メラナウ族、カヤン族、ケヤン族、ヒサヤ族等二十種からの原住民が居住してゐる。人口は全部で四十

四萬五千人である。

マレイ人の多くは農業に從事してゐるが、中には奥地の住民對手に商店を開いてゐる者もあつて、殊にクチンではマレイ人や支那人と軒を並べて商賣してゐるものも比較的多い。彼等は大體クチン及その奥地のシマガン地方ラジヤン河上流附近及北部地方のバラム川、リンバン川流域地方に居住してゐる。

ダイヤ族は海ダイヤと陸ダイヤとに區別されてゐるが、海ダイヤとは海岸近くに生活し、陸ダイヤは山岳地帶に居住して居る處から來てゐるもので、兩方合して十五、六萬人居住してゐる。昔は人間の首を蒐めたといはれるが、今日では溫順となつてゐる。その住居も色々他よりの襲撃に備へた用心堅固な構へをしてゐて、男女とも大抵半裸體の生活をしてゐる。海ダイヤは海邊に住んでゐて文明に接する機會が多いから、ダイヤ中でも進歩してゐる方である。

サラワクには華僑は約八萬が居住して居り、福建人、潮州人、廣東人が多く、クチンをはじめ全國に亙つて住んでゐて多くは商業に從事してゐるが、中部地方、ラジヤン河流域、北部バラム河流域には農業に從事してゐるものも少くない。

サラワクの歴史

サラワクの古き歴史は必ずしも明瞭ではないが、サラワクの全領域はその昔はブルネイ領土であつた事は確實である。一八四〇年ブルネイのサルタンの權勢が著しく衰調となつた時、サラワクに於て、マレーやダイヤ族が叛亂を起してブルネイから獨立を計つた。これを鎭壓するためにブルネイのサルタンの伯父に當るムダ・ハシムをクチンに派遣したが叛亂軍の勢力は强く、益々惡化して鎭壓收拾が困難となつた。ジエームス・ブルツクがサラワクにやつて來たのは丁度この時であつた。

ジエームス・ブルツクは、印度で相當資産を作つた英國商人の子で、十六歳の時、東印度會社に入つたが、第一ビルマ戰爭で負傷し、休養中、ピナン、マラツカ、シンガポール方面の旅行を志し、東印度會社を辭してその希望を實現した。一八三五年その父の死後、大きな野望を抱いて再びシンガポールに來た時、當時のシンガポール總督からサラワクのムタ・ハシムに贈物と書翰を屆ける事を頼まれ、かくて一八四〇年クチンに來た彼は、素早くムダ・ハシムと親交を結び、叛亂鎭壓に助力して成功し、その功勞により一八四一年同地方のラジヤとなつた。

當時のサラワクはクチンを中心とする小さい領域に過ぎなかつたが、その後彼はブルネイの勢力の衰退につけ込み一八六一年にサドング河からケデユロン岬に至る領土をブルネイから割讓せしめ、その領域の擴張に成功した。ジエームス・ブルツクは一八六八年死亡したので、その甥に當るチヤールス・ブルツクがその後を享けて二代のラジヤとなつた。彼も亦領域の擴張を企て、遂に一八八二年及一八

八五年の二回に亙つてブルネイの領土の大部分を侵略したのでブルネイの領域は、蘭英領北ボルネオとサラワクの兩方より侵略され遂に小領域となつた。

サラワクが英國の保護領となつたのは、一八八八年で、英國は國內行政に干渉せざる事を約すると同時に、サラワク王の王位繼承に關する問題及諸外國との國際關係に關しては英國がその衝に當る權利を獲得し、英國海峽植民地となつてゐた。

我が國の占領當時、サラワクのラジヤとなつてゐた英人はジエームス・ブルツクより丁度三代目に當る者であつた。

主要産業事情

サラワクもその殆んどは未開の原始林に蔽はれてゐる處女新天地である。

サラワクの住民は蘭英領ボルネオの住民に比較してやや民度が優れてゐるといはれてゐるが、その多くは原始的生活を營み、智能も低く、天惠に馴れ、生活に對する勞を厭ひ、努力の熱意薄きため、洋々たる大富源も眠れる寶庫として、邦人の雄飛と開拓を待つてゐる。

農業

サラワクの住民の大半は農業に從事し、當地産業の大宗を占めてゐる。農産物としては護謨、胡椒、トバ、甘蔗、麻、鳳梨、椰子、米等が主たるものである。

「護謨」 は到る處植栽に好適されて居り、その殆んどは輸出に向けられて居り、一九三九年にはその輸出額三十六萬ピクル、一千百五十萬弗に達した。

「胡椒」 はその多くは支那人により栽培され、主として西部地方に産する。植付面積は四千エーカーであり輸出はその年により差異あるも十五萬ピクル內外である。

「サゴ椰子」 は中北部海岸地方に在り、主としてメラナウ族が栽培して居り、植付面積約八萬エーカーである。サゴ粉を椰子の幹から製するが之れが販賣は支那人が大部分を占めてゐる。古々椰子はその植付面積二萬エーカーで、このうち八割は支那人が栽培してゐる。

「米」 栽培法は極めて遲れて居り、大部分はタイ、佛印等より輸入を仰いでゐる。米作付面積は六萬エーカー、粗生産高約七〇萬石と推定されてゐる。輸入米はタイ及佛印よりしてゐるが最近十年間の平均輸入高は三十八萬七千ピクルに及んでゐる。

米の不足に惱むサラワクでは米作に優秀なる我が邦人移住者に栽培を爲さしめる事にして日沙商會を介して、一九三二年日本人米作移住者を入れ耕作に當らせた。これら邦人は良好なる成績をあげ、現在ではサラワク住民の注目の

的となつて活躍してゐる。今後邦人のこの方面への發展は大いに期待されてゐる。

鑛業

サラワクの鑛産物中最も重要なものは、石油である。石油はアジアでは東印度（蘭印）に次ぐ生産高を有し、かつては英國東洋艦隊の重要な供給地となつてゐたミリ油田がある。

ミリ油田は山の上から海岸にかけて約二百の石油吸出坑があつて吸出された石油はパイプでミリ市の北四哩の地點にあるロトンの精油所に送る裝置となつてゐる。

石油の産額は一九二五年五十五萬トン、一九三〇年は六十九萬トンであつたが、その後漸減し、一九三五年以降は二十五萬トンに下つた。然し同年セリア油田（ブルネイのクアラ・ベライト北西約十哩）より輸送した原油量四十四萬トンあり、これを加へて約七十萬トンに達する。全英帝國中第三位を占める主要産地となつてゐたものである。皇軍の占領後は、これら油田は皇軍の軍管理經營となつて發展してゐる。

金は十九世紀の初頭、當時蘭領サンバ地方に錄行した支那人が鑛脈を追つて當領に入り、遂にサラワク河上流のバウ地方に豐富な砂金床を發見し熾んに之れが採取に從事し彼等は秘密結社を利用し、前記ジエームス・ブルツクの時代叛亂を起した。バウ地方の金は主として河床に沈澱した砂金床である。支那人の採金はその後間もなく放棄され後ボルネオ會社に移り莫大の利益を擧げたが、同社特許期限後又支那人が採掘したが極めて不振を來した。近年金相場の昂騰に伴ひ、サラワク河上流に支那人の企業續出され、一時は百五、六十を數へたが興廢常なく、一九三五年には二十八に減じた。産額は一九三九年には三百七十八萬八千オンスに及んだ。大部分はバウであるが、一部分クチンからも産する。

その他アンチモニーはサラワク上流より産出されてゐる。また石炭も埋藏されてゐるがその産出數及埋藏量は詳かでない。

林業

森林は海濱內陸共に多く、全部官有となつてゐたもので特許に依つて伐採されてゐたが、近年濫伐の虞れあるために住民の薪炭用以外には大規模の拂下を行はざる方針がとられてゐた樣である。樹種は海濱森ではマングローヴ、蛭木科に屬するものが多く、薪材と木炭の良材となる。內陸では最優良材として龍腦科、荳科、樟科の三種類が多い。

熱帶の通有性として多種多樣の樹木が密生してゐるから近代的伐木事業は適しないと見られてゐる。

現にミリの油田會社附屬木工所でミリ油田用材供給のため新式法の伐木をしてゐるのと、クチンに在るサラワク木材會社の事業位のものである。木材産額は許可に基き伐採

されたもの約壹萬五千トン、薪材二萬一千トンの外、林務局の伐採したもの壹萬六千トン、薪材六萬六千トンである。輸出は近年增加し四、五萬トンとなつてゐた。

主要都市

クチン　同市は現在クチン州の州都で我國の軍政部が置かれてゐる。人口は約三萬餘、サラワク河を遡る二十三哩の地にある。往時サラワクと呼ばれて居たが、第二世ラジヤの時クチンと改稱されたもので、建國當初は千人に滿たないマレー人の一村落に過ぎなかつたが、サラワク建國後官廳の所在地となり、政治、經濟の中心地となつて漸次發展した、市內には水道、電燈及電話等の施設があり、家屋もコンクリートのものが多い。

クチンの博物館にはボルネオに於ける自然科學の資料が豐富に陳列されてゐるので有名である。東端に競馬場、市の南端に邦人先驅者の日本人墓地があるから旅行者は詣でるがよい。

シブ　レジヤン河はサラワクの經濟交通の要衝をなしてゐるが、シブ市は同河の流域の中部に位し、地方政治經濟の重要な地點とされてゐる。人口は六、七千人でマレー人及華僑が多い。華僑はレジヤン河流域に發展し、同地方の産物の取引に當つてゐる。當地は物資の集散地として發展してゐる。

ミリ　古くから油田所在地として有名な町で、附近一帶の油田の開發と、石油の輸出港として近年目覺しい發展を遂げ、クチンに次ぐサラワク第二の都會で、人口は約八千名で住民は華僑が非常に多い。文化的娛樂機關は相當備はつてゐる。市街の後方には山上に石油開發の櫓が林立し、石油の輸出は海底輸送管で船に積込んでゐるといふ石油都市である。占領以來この油田はわが邦人の手により採油されてゐる。現在ミリ州長官が置かれ我が統治を受けてゐる。

邦人の活躍狀況

サラワクに在住する邦人は約三百人であつて、その大部分はクチンを中心としてその附近に發展し、護謨栽培や米作に活躍してゐる。サラワクに於ける邦人事業として有力なものは日沙商會と山下護謨園とがある。

日沙商會は（資本金三百萬圓、本社神戸市灘區岩屋中町四ノ二八）支社をサラワク、クチンに置き、事業地をクチンに近きサマラハン河東南二〇哩の地に三千六百エーカー餘のサマラハン農園を經營、護謨栽培に活躍し、邦人事業の王座を占め、飛躍的發展を示してゐる。サラワクの邦人の多くは同會社の關係者が大部分を占めてゐる。

同社は明治四十三年、依岡省三氏が海外雄飛を企て、サラワクに赴いて踏査し、ロックロート上流及サマラハン河支流ローバン川畔（現事業地）に、壹萬エーカーの租借をサラワク王國に願出たに初まる。依岡氏は歸途風土病に罹されて惜しくもその事業の實現を待たづして不幸翌四十四年一月京都で歿した。

サラワク國より千七百エーカーの借地權の許可を受けたのは、明治四十四年十二月であつた。氏の志を繼ぐ後繼者によりこのサラワクの開發事業は實現され、翌年クチン商會の名を以つて進出し、開拓事業を開始したのが同社の今日を築いた基礎である。後、日沙商會と改稱し護謨栽培に活躍、大正二年及同七年の二回に各千エーカーの假借地權を獲得して發展し、藏野を拓きて沃土となし、事業は順調に進展し、サラワク政廳より前記三千七百エーカー全部の永代租借權を附與されるに至つた。これが現在のサマラハン護謨園である。昭和四年我國觀光のため來朝したサラワクのラジヤは、日本人の農業に優秀なるに驚嘆し、同社に邦人農家による米作をサラワクに移植することを慫慂したので、同社はサマラハン農園の隣接地に千七百エーカーを租借し、昭和七年我國より第一次邦人移民二十數家族を入植せしめた。この邦人移住者が現在では水田六十エーカーを完成し、これを中心として、この附近一帯は日本人村を形成するまでに發展してゐる。日沙商會はサラワクの信賴を博し、その事業に對しては、諸種の便宜を供與され、同地では日本人の代表者として認められてゐた。サラワクに邦人の勢力扶植を計り、その間營々四十年沈默して闘つて來た同社の功績は沒すべからざるものがある。

山下護謨園は山下汽船の山下龜三郎氏の個人經營の農園であつて、クチン郊外及マクンの二ケ所に八百エーカー以上の護謨園を經營してゐる。その他邦人個人農園は多くクチンの水源地であるマクン山麓に通ずる道路方面に集つてゐて、それぞれ三十エーカーから二、三百エーカーの農園を經營し、何れも生氣潑溂として邦人の南方發展の前線に活躍してゐる。

(三) ブルネイ事情

ブルネイは舊英領北ボルネオとサラワクとに挾まれた領土で、その面積は僅か六千四百七十五平方キロ、我が四國の約三分の一に當つてゐる。

人口は一千九百三十八年の概算によれば、三萬六千五百六十一人で、大多數はマレー人でこれが三萬四百三十一人、支那人が四千八百七十一人、インド人が三百七十八人である。

ブルネイの住民は以上の樣にマレー人が多數であつて、英國の保護領當時より英國人に反感が顯著であつて、その例を擧げると、ブルネイ王國の政廳には常にブルネイ王國の族が揭げてあつて、英國の監督官が登廳すると英國族に

代へたが、その監督官が退廳すると直ちに英國族を引下してブルネイの族を揭げて、常に英國の壓政に反感を示してゐたものである。

ブルネイの歷史

支那南宋朝の史書の中に、ジヤバを距る帆行四十五日ブウニー國と記してあるのはこのブルネイを指稱したものと推意される。西曆十三、四世紀の頃ブルネイ國は、國勢は至つて振はず、ヤジヤバイト國、マラツカ國に對し交互に朝貢した史實がある。その後十六世紀の初葉になつてサルタン、ナコダ・ラガムの施政宜しきため國威大いに振ひ、ボルネオ島の北海岸全體及全スールー島、フイリツピン群島の一部をもその領有に歸せしめたことがある。

歐洲人が初めてブルネイ國を世に紹介したのは一五二一年同國を訪れたヒガフエツタを以つて嚆矢とするが、ヒガフエツタのブルネイ訪問記には、當時の首都ブルネイ市は約三萬五千を擁する都市で、その宮殿の輪奐美、市街の景觀には彼は勿からず驚異の眼を睜つたと記してある。以上に徵して見ても當時のブルネイが如何に殷盛を極めて居たかを想像するに難くない。

十六世紀の末葉に衰兆漸く現はれ、十九世紀の中葉頃には國運全く衰ひ、その領土の大半はサラワクと、舊英領北ボルネオのために侵略されて小領域となつたものである。一八八八年、英國の保護領となり、サルタンと英國政府間に取極めた協定により外國交涉は英政府により代行されてゐたが、英國は內政にも干涉し、英國海峽植民地として暴威を擅にしてゐた。

我が皇軍の上陸以來ブルネイは我國の軍政下に施政されてゐる。

主要產業事情

ブルネイの產業として擧ぐべきものは現在農業と鑛業である。

農業

農產業の主なるものは、ゴム、サゴ及米であらう、當領は小區域であるが海に沿ひ交通が比較的便利であるのと且從來の施政方針が企業家を當地に進出せしたる如くで、外來者の護謨園が少くない。

「護謨」ゴム栽培は約一萬五千エーカーで、その中の三分の一に當る五千エーカーは歐洲人諸會社の開拓せるものにして、殘餘はアジア人小企業者の占むる所であつた。近來護謨價好調なるため護謨栽培者は非常に活氣を帶びて、

その輸出も一千六百トン、價額六十七萬一千弗に上つた。

「サゴ」　サゴ椰子は領内原産植物でその生産品たるサゴは領内住民の主要食物にしてその栽培は一般住民が行つて居り、年産は二千五百トンから二千八百トンである。

「米」　米は領内産額はその消費量の一小部分に過ぎない現狀にあり、從來より産米增加に銳意指導が行はれてゐたが、米種及その栽培方法拙劣にして成績あがらず、因襲久しきに亙る住民に勸奬することは中々至難視されてゐる、最近の産額は約六十萬ガンタン、米田面積約五千エーカーで、ブルネイ住民消費量の約六分の一であつて、タイ及佛印から年々四萬八千ピクル內外の輸出を見てゐる。

ブルネイは小領土なるも人口また少く、開發されてゐる地域はブルネイ市附近及海岸地方の一部に過ぎず、その殆んどは未開の沃土であり、今後邦人の發展地として有望視されてゐる處である。

鑛業

ブルネイの鑛業としては石油である。昭和十六年十二月十六日、皇軍が奇襲上陸を敢行し、その確保に成功したセリア油田は、ボルネオの油田中最も生産量の豊富なもので

主要都市

ブルネイ　は人口約一萬二千、首府で政廳、諸官衙の所在地、ブルネイの政治、經濟の中心地であり、貿易交通のあらう。

ブルネイに石油の初めて發見されたのは、一九一四年ベライト郡のラビに始めて發見された。一九二四年英領馬來石油會社がその附近一帶のコンセツションを得た。次で一九二九年クアラ・ベライトの北西八哩の地にセリア油田を發見し、同地に會社の本部を置たもので、本油田はサラワクのミリ油田に匹敵する大油田なる事が判明したので、一九三〇年から三一年に亙り準備を完成し一九三二年以來採油してゐたものである。

セリア油田は、南支那海に臨み、油坑百數十で在り、その一部を除いては大部分が自噴油坑で、地下より自然に噴出してゐる狀況は全く生産量の旺盛なる事を示してゐるもので、從來英國側は北ボルネオの油田の內容は、ひた隱しにかくしてゐたため、詳細不明であるが、セリア油田生産能力（英軍による破壞前の生産能力）は若し全能力を活用すれば一日一萬トンの噴油を得られるものであると云はれ油田の壽命を永く保つために、從來實際の生産額は一日三千五百トン內外に制限してゐたと云はれる。

我が皇軍の占領以來軍管理經營として邦人により採油されてゐる。

要衝である。

市街は美しい溪谷の間を流れるブルネイ河岸にあり、住民は河上に建てられた水上家屋に住んでゐる。陸上には外來人や政廳官吏等が居住してゐるが大部分は河上の家屋に生活してゐる。

住民のマレー人の銅及その他の金屬類の手工品は獨特のもので有名である。

邦人團體名簿

邦人は占領當時はまだ發展してゐなかつた。

クアラ・ベライト　はバラム河の河口に在り、その東八哩の地點にセリア油田があることによつて、最近その存在を認められてきた小都であつて、街はセリア油田關係者の建設せる瀟洒な建物が多く、石油の町の觀を呈してゐる。

占領前邦人は僅か數名であつたが、現在セリア油田は我が邦人により採油されて居る。

◆北ボルネオ（舊英領）

タワオ日本人會	タワオ	前田　惟智
タワオ殖産組合	〃	奈良原太一
サンダカン日本人會	サンダカン郵函三六號	後藤　米吉

進出する事業商社

◆ゼツセルトン

橫山商店	雜貨商	ゼツセルトン
岩田護謨園	農業	〃
橫山護謨園	〃	〃

ゼツセルトン日本人會	ゼツセルトン	酒井東方作
ブルネイ日本人會	ブルネイ・クアラベライト	鈴木多三郎
ミル日本人會	サラワク・ミル	鈴木　武次
クチン日本人會	サラワク・クチン	栗林甚三郎

◆サンダカン

土山護謨園	農業	ゼツセルトン
後藤米吉商店	雜貨商	サンダカン郵函六一
下田商店	〃	〃

山田椰子園	椰子栽培	サンダカン郵函六一
安谷椰子園	椰子栽培及請負業	〃 〃
林椰子園	椰子栽培	〃 〃
ボルネオ殖産株式會社	護謨栽培	〃 〃
ボルネオ水産會社		〃 〃
サンガカン駐在所		〃 郵函三五

◆タワオ

奈良原商店	洋服商	タワオ
上原商店	雜貨商	〃 〃
和泉商店	直輸出入商	〃 〃
昭和商行支店	食糧輸出入	〃 〃
タワオ病院		〃 〃
太平齒科醫院	齒科醫	〃 〃
前森旅館	旅館	〃 〃
タワオ護謨園	護謨栽培	〃 〃
ボルネオ水産株式會社	罐詰製造	〃 〃

◆サラワク　クチン

島田商店	ゴム靴外卸小賣	マーケット街三
栗林濟生堂	賣藥商	インデア街五三
山下汽船會社	護謨栽培	タンジョンパー
日沙商會	〃	サマラハン
石原護謨園	〃	ミルマタン路五
林護謨園	護謨栽培	ミルマタン路五
西和田護謨園	〃	ミルシマンガン路一六
西田護謨園	〃	〃 〃
立岡護謨園	〃	タブアン
中川護謨園	〃	スンゲイマウ
前田護謨園	〃	ミルマタン路二
駒形護謨園	〃	〃 四號四分一
諏丸護謨園	〃	〃 四
木村護謨園	〃	カブ
栗原護謨園	〃	バトカワ
清水護謨園	〃	ミルマタン路五
島田護謨園	〃	スンゲイサラワク
森內護謨園	〃	タブアン
中川齒科醫院	齒科醫	ハンザン街 六

◆サラワク　ミリ

丸五貿易商會	輸入業	ミリ郵函一〇〇
峰商店	雜貨商	〃 四九
鈴木商會	〃	〃 六七

◆ブルネイ

鈴木寫眞館	寫眞業	クアラ・ペライト二二
重松齒科醫院	齒科醫	〃 五
高橋ヨッ	洗濯業	〃 一五

マレー篇

地域・面積

新たに我が新領土となつたマレーとは、マレー半島の南部、卽ち北緯五十五分から一度十六分に亙る部分と二、三の小島嶼とから成つてゐる。英國がここに勢力を扶植したのは一七八六年ケダーよりピナン島を譲り受け、次いで一八一九年、ジョホール王と條約を結んで昭南島（シンガポール）を割取したのに端を發し、爾來この地を東亞侵略の根據地として機會ある毎に附近の小國を侵略して建設したものである。

面積は五萬二千五百二十八平方哩で、政治的にはイギリス王直轄の海峽植民地、マレー諸州聯邦およびマレー非聯邦の三群から成つてゐた。しかしイギリス直轄地でないマレー諸州も聯邦と非聯邦たるを問はず、いづれも英國の保護領であつて、海峽植民地總督の支配下におかれてゐた。

海峽植民地はその廣さこそマレー全土の三十分の一に過ぎないが、昭南島をはじめピナン島及その對岸地域、マラッカ地方のマレー三要點を包含し、且ジャワ西方のクリマス島、ココス群島や、ボルネオ西北のラブアン島をもその施政下におく大掛りなものである。

マレー諸州聯邦はマレー全土の五割三分に及びセランゴール、ペラー、ネグリスムビラン、パハンの四回教土侯州から成り、主として半島の中部及西部一帶を占めてゐる。他の非聯邦とは半島の最南端のジョホール、泰國境寄りのケランタン、トレンガヌ、ケダー、ペリスの五つの回教土侯州である。

各州とも英國の保護國として英人の知事又は顧問が州內統治に參與し、外交は一切英國が行つてゐた。各州の間に相互的關係はなく非聯邦州の稱呼も聯邦州に對する一般の呼び方に過ぎないものであつた。

地勢

この地方は地勢學上大昔、舊スマトラ、ジャワ、ボルネオ等と接續し、廣大なる陸地を形成してゐたといはれるがマレー半島の山脈系を見ると數條の山脈が北から南走して海に入る。中央山脈やタハン、ブノム、クレダン、ピンタ

ン、ナコーン等の諸山脈がそれであつて、中央山脈には七千呎以上の高峰が五つもありタハン山は半島第一の高峰で海抜七千八十四呎である。是等山脈と山脈との間の土地は一般に低く陸地深く入つた山脈地帯ですら四百二、三十呎の高度を有するに過ぎない。

マレーの山岳の特徴は一種特有な石灰岩の山が諸處に散在し、波狀をなす平地から絶壁の形をなし屹立してゐることであり、旅行者のよく氣づく處である。

河川はマレー半島一帯が密林を持つて覆はれてゐた頃には河川が最も主要な交通路となつてゐたものにして、現在でも未開拓地は河川を唯一の交通路として利用されてゐる。マレー半島の河川は西海岸に注ぐものと、東海岸に流れるものとではその狀態を異にし、西流するは泥土を以つて滿たされ、マングローヴその他の熱帶特有の單調な種類の植物の密生する濕地を形成し鰐の棲息を見ることがあるが、東海岸に注ぐ諸川は、常に强風に見舞はれる處から自然河口に砂洲を作り一般に西海

岸の河床より淺く航行に妨げを見る事が少くない。錫は西海岸に於けるよりも遙かに少ない。ペラー河、パハン河及ケランタン河など主なもので、このうちパハン河はマレー最大の河で、キヤメロン高原に源を發し全長三百二十粁で河岸はカスアリナ樹の密生する大長砂汀となり、所々に潟を作り、陽光に美しく輝く、大波は砂濱を洗ひて、その風景一幅の繪の如くである。西海岸のマラッカ海峽は、水面油を流した樣に穩かである。

マレー半島の地勢の概略は右の樣であり、中央山脈の東西兩岸に擴がれる丘陵地帶は地味肥沃にして、農耕に適し米、護謨、古々椰子の栽培に好適されて居り、殊に西海岸一帶の平野は、マレーに於ける護謨の主なる生産地となつてゐる。

住民

マレーの人口は約五百五十萬で、うち第一位を占めるは支那人即ち華僑で二百三十萬、これに次いでマレー人が二百二十八萬、印度人が七十四萬、歐米人が戰前僅か三萬に過ぎなかつた。我が邦人は戰前約七千名であつたが戰爭のため引揚や監禁等で激減したが現在目醒しい勢ひで增加されつゝある。

支那人は二〇年前は半數しかなかつつが、自然增加率の旺盛なると、年々支那本土及その他から來住する者が增加したもので、未開地方といはれるケランタン及びトレンガヌ州以外のあらゆる地域に於ける間屋、小賣業等の經濟部門ならびに勞働者の大部分を占め、わけても都會地において絶對多數を擁し、例へば昭南島には八割近く、ピナンも六割七分は支那人である。マレー諸州において錫鑛山勞働者の殆どは支那人である。主に福建及び廣東出身で彼等の中には錫山經營、護謨栽培などで大資本を築き上げたものも少くない。

土着のマレー人は多く農事栽培に從事、極めて少數が漁業を行ひ、商業に從事するものは稀れで、從つて經濟的にはすこぶる無力である。尙印度人はその過半は南部印度地方から移住したもので、大部分が錫山や護謨園や官公衙の下級勞働に從事してゐる。

氣候・衞生

マレー半島の氣候は熱帶であるが、他の熱帶地方に於けるが如き高溫度を見ざる點に於て惠まれてゐる。華氏百度以上に上る事は甚だ稀で、夜分は大抵華氏八〇度以下で、一ケ年の平均溫度は八〇度七分、最高最低の平均溫度は七四—五度から八七—八度の間を上下してゐる。半島を圍繞する海溫は七七度內外である。

各主要地別氣溫

	最高	最低	平均氣溫
コタ・バル	八七・八	七二・八	七九・八
キヤメロン高地	七二・六	五六・三	六三・〇

クアラ・リピス	八八・一	七一・一	七八・一
クアラ・パハン	八五・七	七四・二	七八・九
クアラ・ルムプール	九〇・三	七一・八	七九・四
マラッカ	八五・四	七三・四	七八・三
昭南港	八六・一	七五・七	八〇・〇

衛生狀態は熱帶地である上に、住民の大部分を占めるマレー人、支那人、印度人等は衛生思想が幼稚であるため、僻地、農村には、赤痢、マラリヤ、脚氣等は彼等の間に少くなく、時にはペスト、コレラ等も散發するを見るが、これらのため犧牲となるものは大抵マレー人、支那人、印度人等であり、衛生思想の發達してゐる邦人や歐米人には極めて少ない處である。

マラリヤは所謂南方風土病と云はれるもので、南洋各地方ともに見られるものである。我が當局では巨費を投じて極力これが撲滅策を講じ、一方住民の衛生思想の啓蒙に努力してゐるため、次第に減少されつつあるも未開發地方には散發流行を見てゐるが、最近醫療機關も次第に完備されつつあり漸次減少されて來てゐる。

言語・教育・宗教

「言語」は一般にマレー語が通用して居り、これさへ出來れば何處に行つても不自由を感ずる事はない。尙タミール語、支那語等も一部に行はれてゐる外英語も極く一部分通じる。新たに東亞共榮圏に抱擁されたマレーは皇軍の上陸以來各地に日本語が流行して居り、又初頭教育は日本語をもつて行つてゐる。

「教育」マレーに於てマレー語を使用する學校の設立は西暦一八六七年度より眞面目に考究されてゐたが、一九〇一年ネシア學校に使用する馬來語古典の出版に依つて一大刺戟を與へられた。然しその發達は遲々として進まず、住民中文字を解するもの四割、女子に至りては元來馬來人は女子を閉居せしむる風習があり加ふるに女子が教育を受けることに對する一種の偏見をすら持つと云ふ陋習あり、文字を解するもの全圏子女の一割內外といふ狀態にあるから殆んどは文盲とも云ふべきであるが我が領有後は奬勵政策がとられてゐる。

「宗教」マレーは人種的に複雜を極めてゐると同樣に、宗教も複雜してゐて現在行はれてゐる宗教は、回教、ヒンヅー教、基督教、シーク教等で、マレー人の大部分及び北方印度からの移民は回教を奉じ佛教及儒教は支那人の大部分、ヒンヅー教は南印度人の大部分が信じてゐる。基督教は在留歐米人及混血兒によりて信奉せられ、マレー人及印度人の一部はシーク教を信仰してゐる。

主要産業事情

農業

マレー半島は西海岸及東海岸地方の一部を除けば、未だ開拓せられざる洋々たる沃土がジヤングルを形成して居りその前途は、護謨と錫の寶庫のマレーであり、豐饒未開のマレー新天地として大なる期待をかけられてゐる。マレーに於ける農産物は大作物としては護謨が第一位を占め、次いで古々椰子、米、油椰子、鳳梨。中作物としてはタピオカ、檳榔子、デリス、珈琲、茶、カムピール、煙草、芭蕉等で、小作物としては雜穀物、產油作物、纖維植物等多種多樣である。

「護謨」はマレー農產物の王座を占め、實に全世界需要量の約五割をマレー產護謨が握つてゐる。マレーの護謨は一八七七年ブラジルより初めて持つて來た苗木二十二本が活着したものにより初まり、地味が護謨栽培に好適され、僅か數十年にして今日世界第一の護謨園として發展を見るに至つた。今日では半島到る處洋々たる護謨園と變り、幾千萬本の護謨樹が林立してゐる光景は實に壯觀である。邦人にして護謨園の經營に活躍する者も相當多い。尙一九三九年輸出高五十五萬三千三百トンで米國、英國、日本等に向けられ、その中五四パーセントは米國に輸出されてゐたが大戰後輸出禁止のため米國はゴム饑饉に惱んでゐる。

「椰子」には古々椰子と油椰子とあり、マレー全土到る處に植栽され、マレー住民にしてこの二、三本を植えてゐない者は殆んどなく、これを彼等は子供の出生日を知る所緣として植える風習がある程で、一方食料、飲料、薪材その他の自用必需品を得る天惠物として彼等の極めて親しみ深い植物で、山地方面は家屋の周圍に二、三本を見るも河岸には極めて多數栽培され、これより產するコプラは植物油として石鹼、化粧品、蠟燭、食用油等に需要廣く、糟は家畜の飼料となる。

「米」はマレー主要農產物の一つで、住民の九割九分は米を主要食物としてゐる。栽培面積は約七三萬英反にしてその產額は國內需要量の約四割を充たすに過ぎない、不足額はビルマ、タイ、佛印等からの輸入に仰いでゐる狀態にある。產米の九割餘は水稻で、陸稻は極めて少ない。この水稻も灌漑の便未だ發達せず加ふるにマレー人の栽培法は小規模且原始的栽培方法なれば、氣候常夏、地味肥沃のマレーにしてこれが自給自足を得るは至難にあらずとされてゐるこの方面への邦人の發展も亦有望視されてゐる。

「鳳梨」(パインアップル)の生產中心地は昭南島七・五〇〇英反、ジョホール州三五・〇〇〇英反、及セランゴー

ル州七・〇〇〇英反で一九三四年に於ける總植付面積は約五四・五〇〇英反であつた。牧種果實は罐詰用として生産されてゐる。右の外全領到る處に栽培され、その面積約二・〇〇〇英反と推定され、生食用に供されてゐる。鳳梨は護謨樹の間作として植栽される事多くその植付面積は三、四割に及んでゐる。

牧畜

マレーの牧畜業を見るに未だ盛んなりとはいはれざる現狀にあり、政府はこれが諸種の奬勵策を講じてゐるが、未だ國内の需要を充すに足らず、猶多くをタイ國よりの輸入により需要を充してゐる。マイーに於ける主なるものをあぐれば水牛、牛、豚、山羊及羊、家禽等で、水牛はタイ國より入つた種類で水田の耕作用として、或ひは木材運搬用としてマレー人は多數利用してゐる。牛は南部印度種とタイ種とあり、前者は大型で足が強く早く道路上の使役に好適され、後者の小型は主として農園作業に適され、毎年タイ國より多數輸入され、ケダー、ケランタン、トレンガヌ州に多く飼育されてゐる。豚は住民の半數を占める支那人間に專ら飼育され、特にペラー、セランゴール、ジョホール、昭南島にては相當大規模の養豚業も少くない。山羊は印度勞働者間にて好んで飼育され、その數は約四十萬頭内外、家禽としては鷄が主で、マレー人間にあつては一戸數羽を飼つてゐるからその數極めて多く、家鴨も相當飼育されし又支那人は家鴨を飼ふものが非常に多い、その他七面鳥、鴿鳥も少數飼育されてゐる。

次に各地方別の家畜數を擧ぐれば

家畜統計

	牛	水牛	羊及山羊	豚
昭南島	二、九六一	七七七	六、四六一	二七、四六八
彼南及プロビンスウエムズレー	八、一八四	六、三六九	二、七二五	五〇、八九八
マラッカ	三、三九七	一〇、三三七	一〇、一四六	二〇、四〇三
ペラー	二六、七三九	一四、七八五	四八、八一六	五八、三三八
セランゴール	一九、七〇〇	二、六八一	三三、一九一	一二五、七五五
ネグリスムビラン	一〇、六五五	一〇、二四九	二〇、六八五	三三、三五〇
パハン	四、九〇八	二三、四〇五	二三、〇九七	一四、二六六
ジョホール	一四、四五一	八、三四七	三五、〇八九	二〇三、三三〇
ケダー	六六、八三四	六二、三三〇推定六〇、〇〇〇		不明
ペリス	九、六七六	三、七三四	二、九二〇	一、一〇六
ケランタン	二一〇、〇三九	三四四、八二九	三六、三八二	不明
トレンガヌ	二三、六〇〇	三〇、二三〇	八、三〇〇	四、三〇〇
馬來全領合計	三〇〇、三八五	一九七、四〇三	三二三、八〇八	六三三、三八一

林業

皇軍上陸以來我々にジャングルのマレーとして傳へられた如く、千古斧鉞の跡蒼たる密林に覆はれて居り、恐らく百年を出でざる往時に於ては全マレーは實際上森林を以つて覆はれて居た事は想像に難くない。マレー全面積五萬餘

平方哩中、四萬餘平方哩は森林地帶であり如何に森林が多いかを窺ふ事が出來る。

樹種は殆んど二羽柿科の樹木にして、是等の中、主なるものを擧ぐれば、チエンガル、カプア、クルイン、ムランテー、ムランテーバハン、ルサク、スラヤ等で、これ等の外商業的價値あるものとしては、ビンタンゴール、クラトクレダシ等十餘種に及んでゐる。

「チエンガル」はタイ、ビルマ等に於ける代表材がチークであると同じ意味に、マレーの標準材木であつて、マレー全土に繁生して居り、木質重く堅く、甚だ强靱で、建築材及家具用材として需要多く、又鐵道枕木として需要極めて多い。

「ルサク」はマレー各州に産し、立木直徑二呎半乃至三呎半、無枝七〇呎乃至八〇呎を普通とし、その丸太は外形頗る端麗にして、用途はチエンガルに比し强固で良質なれば丸太材として體裁優り、木材としての利用途も廣い。

「ムランテイ」は比較的軟質種に屬し、半島中最も豐富なる樹種で、全林量の一割五分はこの木が占めてゐる。用途は建築、家具、壁板等に使用せられてゐる。マレーにて使用せられてゐる板は多くこの木であり、木目美麗なるはマホガニーの代用に使用せられてゐる。

「クルイン」は印度地方のガーヂヤン、ビルマのカンインと相似たもので、材質は非常に堅硬で、用途は前記二種の中間に當つてゐる。その他は餘り重要でないが籐、ガタパーチヤ、ダルマ及シエルトン等が林產物として知られて居る。

鑛業

地下資源としては世界第一を誇る錫を始めとして、鐵、金、タングステン、イルメナイト、マンガン、ボーキサイト、石炭等の鑛物資源の寶庫にして殊に錫は世界總產額の四割を占めてゐる。從來はその大半はアメリカに軍需生產原料として輸出されてゐたが、大東亞戰爭以來、アメリカへの輸出は杜絶され、米國軍需工業の生產に一大支障を來さしめるに至つてゐる。

「錫」はマレー聯邦州を中心として殊にペラー州が最も盛んであり、次いでセランゴール、パハン、ネグリスムビラン州の順である。マレーの錫は含有量七二・三%といふ極めて優秀なるものにして、昔日は支那人の舊式採鑛法により始められ、三〇年前までは殆んど八割は支那人の手により採鑛されたものであるが、その後歐人會社の大規模なる浚泥式採鑛法がとり入れられ今日の發達を見たものにして、一九三九年世界總產額二十萬八千噸の中マレーは七萬七千噸（三十四%）を出してゐる。

「鐵」は現在ジョホール州とトレンガヌ州の兩州より產出して居り、これら鑛山は日本人會社の手により開發されつつある。卽ち石原產業公司はジョホール州バトパハ、スリメダンの鑛脈を、又トレンガヌ州ケママン、マチヤン、

サタウンにて鐵鑛、滿俺の鑛石採掘に活躍し、日本鑛業はトレンガヌ州ドングン近くのブキパシに鐵鑛山を有して居るマレーの鐵鑛の大部分は金屬鐵平均六四%を含有する富鑛で、良質の赤鐵鑛であり正確なる產額は憚るが年產〇百噸以上である。

「タングステン」は以前ケダー及トレンガヌ州より有用なウオルフラム鑛を出し、ペラー州のタツパの近傍及ネグリスムビラン州よりも產出されてゐる。

「金」はパハン州のラウブ鑛山が有名なものであり、その他パハン州、セランゴール州內の數ケ所より產出を見て居り、年產約五萬五千オンスと云はれてゐる。

その他石炭、イルメナイト、マンガン、ボーキサイト等の埋藏も少くないが總て今後の開發に待つものが多い。

水產

マレー半島を繞る海は一體に淺海をなし、西海岸マラツカ海峽沿岸は總て五〇尋以上に達する處なく、一方東海岸にても同樣の淺海が延海二五〇哩も續いてゐるから無限の漁場を有してゐると考へられるが決してそうでなく、これらの淺海の大部分は大した魚類を產せず僅か沿岸一〇尋線內外の處がマレーの魚食民に必要な魚類を供給してゐるのみである。動力船を有する邦人漁師を除いては、漁獲は多く帆船或ひは操櫂船によりて行はれてゐる。マレーの漁業はマレー人、印度人等により小規模に行はれて居る。近時邦人にして漁業に從事するもの增加し、約千二百名に達して居り、昭南港を根據地として從來の漁場カリモン海及リオー群島より遠く赤道を越え、スマトラのリンガ群島、シンケツプ島附近よりバンカ海峽入口方面に、東はマレー半島東岸の支那海より佛印沿岸、タイ灣等六、七百哩の地點から西はマラツカ海峽、スマトラ沿岸、印度洋、メルグイ群島の廣大な地域を舞臺に活躍してゐる。マレー人の漁業は近海に於ける幼稚なる技術と無資力に近いため遠洋漁業は殆ど邦人の企業による獨舞臺の觀を呈してゐる。昭南島に於ける魚類は殆ど邦人の手により供給されてゐる。

マレー海產魚の主なるは鰆、イカン・パラン、鯖、鯵、鰹、鯛類、鰭、魴、石首魚、鰡、鮸、太刀魚、鰯、鱶、蝦、烏賊、蟹等にして我國の魚類と大同小異である。又貝類としては眞珠貝、高瀨貝、夜光貝等で昭南港が取引の中心となつてゐる。その他玳瑁、海綿、燕巢、黑珊瑚、鰐魚皮等を海產物として產する。

工業

マレーに於ける工業は、護謨工業、錫精煉工業、鳳梨鑵詰工業等が最もなものであり、これに次ぐは椰子油の製油事業で、その他に電氣事業、石油精製工業、機械工業及鐵工業、護謨タイヤ、チューブ製造業、淸凉水製造、製氷、煉瓦、石鹼製造業、麥酒釀造業等であるが未だ大なる發展なく、その總ては今後の發展を待つ狀態に置かれてゐる。

次に主なるものにつき說明すれば

「護謨工業」護謨は實に世界產額の過半量を供給してゐて護謨の消長はマレー全土の景氣を左右する重要性を持つてゐる。輸出向パラ護謨製造は盛んであり、各護謨園內には殆んどパラ護謨製造工場を設置して製造して居り、マレーより輸出される護謨の中、僅か四十分の一はラテツクスのまま輸出されてゐる外は全部パラ護謨となり、輸出されてゐた。

「錫製煉工業」錫は護謨に次ぐ重要輸出產物で、世界產額の約四割を占めてゐる。而して各鑛山より採掘される原鑛は Sn4% 以上の含有品は、何れも領內の錫精煉所で精煉の上輸出されて居り、これは地方工業の保護の目的のためであつてマレー產鑛石のみならず廣く東印度のバンカ、ビリトン島及タイ等より原鑛の供給を仰ぎ精煉して海外へ輸出してゐた。

「鳳梨鑵詰工業」マレー鳳梨鑵詰は世界第二位にしてハワイに次ぐ產額をあげてゐて、六萬六千英反の栽培地より製產される年額は六萬六千噸、これが輸出高は七百萬弗で護謨、錫と共に重要產業の地位にある。

「製油工業」は古々椰子、油椰子より製產するもので、マレーの好適の地味と相まつて相當盛んである。その他工業としては電氣事業、護謨加工業、製氷工業、機械工業、鐵工所等あるが發展してゐない。機械鐵工所は主として華僑の手により經營されてゐるが邦人の手により昭南島方面にて經營されてゐるものもある。

主要都市

昭南島（舊稱シンガポール）はマレー半島の先端にある東西四四粁、南北二四粁の昭南島上に建設された海港都市で、西曆一八一九年英人スタンフオード・ラツフルスの炯眼に依つて創設されたもので、それまでは淋しい一漁港に過ぎず、マラツカやピナンにその繁榮を奪はれてゐた。英國がこの地を領有するや同島はその位置歐洲と濠洲、東洋と歐洲、支那、印度洋等に到る航路の咽喉を扼する要衝として軍事的重要據點たるに着目し、ここに英國は東洋艦隊の海軍根據地を建設し、以來東亞侵略の據點として、東洋のジブラルタルたらしめてゐた。

南洋の交通の中心地で、歐洲及米國と南洋諸地域との經濟的關係は年々濃密を加へつつあり、これが貿易に出入する各國船舶は大小多數にして、一年の出入船舶數は約四萬五千隻を數へ、世界に於ける最も殷賑なる貿易港となつて居り、我國の歐洲、印度、近東、南米航路等の寄港地で、不定期船を加へれば每月日本船は數十隻を數へ、日本內地

とは殆んど隔日に便船があつた。

貿易はマレー半島の輸出入貿易の七割は總て昭南港を經由して行はれてゐるから如何に盛況を極めてゐる事が判る。ヒンターランドからの護謨や錫を始めとして各種農産物の生産が盛んで、これらの輸出や、北ボルネオ、タイ、佛印、東印度等各地の産物もこの地から海外各地に出て行く。又以上の諸地方が輸入する各種貨物も、當港を經由して取引される事が多く、當港をして東亞の代表的貿易港たらしめてゐる。

人口は島全體で百萬、昭南市は八十萬で、そのうち八割は支那人で、その他マレー人、印度人、アラビヤ人、歐米人、日本人、歐亞混血兒等で、昭南島をして人種の博覽會と稱されるも宜なる哉である。實に黃・白・黑等多種多樣の風俗をした人種が多く、細別すれば五十數種に上つてゐると云はれ、從つて宗教も基督教各派を始め、回教堂、支那寺、印度寺院など各種の堂宇あり、風俗習慣も渾然としてゐる。

今やこの英國百年の東亞侵略の基地たりしシンガポールも、東亞の昭南港として甦生され、共榮圈の對外貿易の中心港として新たなる發展を示してゐる。

ピナン(彼南)　昭南港より海路三百七十浬鐵路十一時間の小島で、全島人口約四十萬、內ジョージ・タウン市街が約二十萬、マレー半島第二の都市で、昭南港に次ぐ貿易港にしてマレー半島及北部スマトラの物資の集散地として海外各地より出入する船舶は年約一萬八千隻、集散物資一千三百五十萬である。

島の中央に二千七百呎のピナン・ヒルを有し、ケーブルカーあり、頂上クラブ・ホテルは眺望雄大にして砂白く、椰子茂る郊外海濱の風光明媚の地である。極樂寺や蛇寺等の名所もあり、わが二葉亭四迷氏の墓もここにある。對岸プライからはマレー半島縱貫鐵道により三十時間でタイ國の首都バンコック(盤谷)に行かれる。

創設者ライト大佐の碑銘既に苔蒸して、この地に居住する華僑にすら一種の彼南風俗を形作るまでの落付きを偲ばせてゐる。

マラツカ(馬拉加)　昭南港から百十八浬、鐵路二百哩、市內の人口約五萬、八百年の榮枯盛衰の跡をさながらに語る古風な町である。附近に護謨園多く、郊外には米作も行はれてゐる。

聖ジョンズ丘に聳えてゐる葡萄牙の古城も今は僅かに城壁の一部を殘すのみ、街の內にフランシス・ザビエー寺院あり、ザビエー師は舊教日本最初の傳道に最も床しい思出を殘してゐる一人である。マラツカ政廳は昔日和蘭東印度會社であつた由緒ある建物內におかれ、歐人の渡來時代を想はしめ、そぞろ遊子の懷古の情をそそるものがある。

クアラ・ルムプール(吉隆坡)　ここはコーランポとも書かれてゐたが、セランゴール州の主府である。マレー半島の中央に位し、人口約十五萬、クラン河口を溯ること二五

哩、セランゴール平野に殷盛を極むる新興都市で、附近は錫の採掘事業の發展地として知られて居り又地方物資の集散地となつてゐる。郊外二〇哩の地にセランゴール州王の居るクランあり、その近くのスウエナム港は當市の咽喉として榮えてゐる。

イポー(一保)　ペラ河を挾んで新舊兩市街に分かれ、人口約七萬、クアラ・ルムプールの政治都市なるに反し、當市はキンタ地方の錫鑛を控えた錫の都であり、華僑の成功者富豪が多い。ペラー王の居るクアラ・カンサーの町へは鐵路二五哩で到着する。

タイピン(太平)　はイポーに次ぐペラー州第二の都會で人口約五萬、マレー中最も美しい街で且健康地として知られ、街路樹の優美と、タイピン公園及博物館は有名なものである。附近は錫鑛業及護謨栽培地の中心でもあり又避暑地としても知られてゐる。昭南市より四二九哩、鐵道は當市より岐れて支線にて西部海岸の貿易港ボートウエルドに達してゐる。

スレムバン(芙蓉)　ネグリスムビラン州の首都であつて人口は約三萬、昭南港より鐵路二百哩、森の都で、落ついた感じのよい清楚な町である。初めは錫の都として開けたが今では護謨の都となつてゐる。

當地には大東亞戰爭前より數百名の邦人が活躍して居りマレーでも最も堅實な成功者を多數有して居る地として紹介されてゐた處である。郊外約五哩の地にネ州王の純マレー型の瀟洒な居城が在る。

ジョホール・バルー　昭南市より僅かに一八哩ジョホール州の首都である。

ジョホール河の沿岸は邦人の護謨栽培業の發祥の地で、バルーから二五哩のコタテンギーには、日產農林工業、興植護謨、昭和護謨、南洋護謨、稻田護謨を始めとし、クライには三五公司、東洋拓殖の各護謨園、ムアにはパリジャワ護謨、渡邊、本多、池原、野田、下田等の各邦人護謨園があり、一方商業方面にも相當進出して居りジョホール河沿岸諸都邑は邦人の活躍地として知られてゐる。

バトパハ　昭南市より陸路百哩、自動車で約四時間、ジョホール州の主な都邑であつて近郊に、昭和護謨、三五公司、日產農林の護謨園や、久保田、三笠、守田、松村、大場等々の邦人護謨栽培業が多い。尙バトパハ河を溯る一八哩の地に石原產業公司の鐵山があり、當地はこのため開港場となつたもので、この地は邦人が產業の中樞を把握してゐて、戰爭前よりマレーで邦人の最も勢力ある地とされてゐた。

コタバル　マレー半島の東海岸地方は、海上波が高いため良港に乏しく、從つて西海岸より都市が少い、その開發も餘程遲れて居る　只北方タイ領近くのコタバル附近が開け、鐵道、自動車道路など交通の便がよい。コタバルはケランタン州の首府で、ケランタン河の河口近くにあり、人口一萬餘の小都會、ケダ州と共に華僑少く、住民はマレー

人であり、純マレーの風俗文化を保持してゐる、附近から米やコプラの產出がある。在留邦人は全部で百名內外である。

近くのケランタン河上流には南洋鐵鑛經營の鐵鑛山があり、その關係邦人が三、四十名在住し、また日本鑛業のタンドウ鑛山もこの附近にある。

邦人の發展狀況

マレーに於ける邦人の發展は、一時は八千五百四十八名の多きに達したが、住民の過半數を占めてゐる華僑の日貨排斥、或ひは第二次歐洲大戰の勃發等により、在留邦人の活動に對する制限等による諸種の障碍により多難時代を現出し、昭和十四年十月には在留邦人數は五千四十三人に減じ、更に昭和十六年十二月大東亞戰爭發生直前には、次第に英國官憲の壓迫が强まり、遂ひに引揚げ者續出され、三千臺に減少されるに至つたが、皇軍占領後再渡航者及その他軍關係農業關係及經濟方面の關係者の渡航が日を追ふてその數を增してゐる。

マレーに於ける邦人は如何なる方面に發展してゐたかといふと、その職業別は四十餘種類に及んで居り、各方面に進出してゐるが、その中主なるものを大別すれば、商業に發展してゐる者が最も多く、次いで護謨栽培、水產漁業、鑛業で、その他に醫師、齒科醫、寫眞屋、理髮、旅館、大工木工職、洋服屋、靴屋等々である。

「商業」 輸出入貿易業に活躍してゐる商社は約六十軒、雜貨小賣業者は約百五十軒であり、昭南市を中心として發展し、その他マラツカ、スレムバン、クアラ・ルムプール、イポー、ビナン等に進出して活躍してゐる。マレーの大抵の市街には邦人商店の進出してゐない處はない程よく發展してゐる。

「護謨」 邦人のゴム栽培は日露戰爭前後より着手され、ジョホール州は邦人の護謨園の發祥の地と云はれるだけに邦人の護謨栽培地の中心となつて居り、第一次世界大戰當時はその最盛期であつたが、戰後の不況に際し、大部分は統合された、現在主なるものとしては、三五公司、昭和護謨、南洋護謨、日產農林、熱帶產業、眞植護謨、馬來護謨等の諸會社が活躍してゐる外、個人經營のものもマレー半島全體を通じて百以上に及んで居る。

「漁業」 海國日本は世界的に漁業に有名であるだけに南洋各地とも邦人が漁業に覇を唱えてゐるが、マレー半島でも水產漁業は邦人の獨占的發展を示し、一九三五年の昭南港市場は邦人漁業者の水揚がその大半を占め、一千六十三人からの邦人が活躍してゐたが、その後、國際關係惡化の影響により英國官憲の壓迫を受け、大東亞戰爭まで、その活動は年々困難となり凋落されつつあつた。

今やマレーは皇軍の占領下におかれてゐるが、四圍の海上が安定されるに至れば、再びこの方面への邦人の活躍は開始され、素晴らしい發展を示すであらう。

「鑛業」 マレーの鐵鑛は殆んど邦人の經營に係るものであり、鐵の外、滿俺、ボーキサイトの採掘に當つて居り、トレンガヌ州のトングン鑛山は日本鑛業が、ジョホール州のスリメダン及びトレンガヌ州のケママンの兩鑛山は石原產業、ケランタン州のタマンガン鐵山は南洋鐵鑛が採掘に活躍してゐる。

その他に醫師、寫眞、理髮、旅館業等はマレーの各主要都市に進出して居り、大工、木工所、鐵工所等は昭南市に活躍してゐる。

今から二十年乃至三十年前、シンガポールと云へば邦人娘子軍の根據地と云はれたこの地が、幾多邦人先驅者の血に滲む樣な苦闘により、近々三十年內外にして今では邦人商社が到る處に櫛比し、堂々歐米人を壓して商業に、水產に、或ひは護謨に、鐵にと發展して既に今次戰爭前にして南洋でも邦人發展數はフイリツピンに次ぐ雄飛數を示し、わが邦人の南方發展の足場として極めて主要なる役割を果してゐる。

英國の東亞侵略の牙城シンガポールも、昭和十七年二月十五日皇軍に帽伏し、ここに全マレーは我が國の新領土となつた。

かつては英の東亞攪攪の據點シンガポールは、昭南島と改稱され、新たに東亞建設の據點として塗りかへられ、日章旗を靡し、新らしきアジアに躍進の歩を進めてゐる。

邦人團體名簿

◆昭南島

（會長）

昭南島日本人會	セルギ路一〇七號	大內 恒
昭南島日本人商工會議所	ハイ街六五號	德田 富二
百姓會	ハイ街六五號	山村 四郎
貿易組合中央會昭南島貿易斡旋所	ハイ街六五號	吉岡 恒
昭南島日本人實業同志會（金融部）		
北海道廳貿易調查所	ウオーターロー街八〇號	中塚保次郎
昭南島日本醫師會	ウイルキー路二〇號	村上 圭昭
昭南島日本齒科醫師會	ノースブリッヂ路六號	西村竹四郎
西部日本海產物輸出組合聯盟販賣所	ノースブリッヂ路三三八號	山本 政八
	ロビンソン路六〇號	上山 重雄

西有寺　ベンクーレン街四〇號　岡野　潮淳

◆マレー半島（西海岸）

バトパハ日本人會
ジョホール州バトパハ
ジヤラン、サバンダー十一號　増田壽太郎
ジョホール日本人會
ジョホール州ジョホール、バル
ジヤラン、イブラヒム五五號　牧野　紫朗
ムア日本人會
ジョホール州ムア
ジヤラン、ミリアム九七號　池崎　臻
ムア日本人護謨栽培組合
ジョホール州パリジヤバ
マラツカ日本人會
マラツカ、ミリ路三一號　中村　千誠
ネグリスミラン州日本人會
ネグリスミラン州スレバン市
テミアン路二〇二號　小岩井　靖
セランゴール州日本人會
セランゴール州クアラ・ルムプール
チヨキ路一二號—A　勅使河原一郎
セランゴール州日本人青年會
セランゴール州クアラ・ルムプール
バト路二〇九號　藤本　正義
ウル・セランゴール日本人會
セランゴール州クアラ・クブ、バル　吉村　仁德
ペラ州日本人會
ペラ州イポー、ブレウスター路一四四號　山下　均
タイピン日本人會
ペラ州タイピン、マイン路五七號　佐藤源次郎
テラクアンソン日本人會
ペラ州テラクアンソン、キング街　森川庄之助
ケダ州日本人會
ケダ州アロースター・ジヤラン、ラジヤ三八號　飛石　清一
ピナン日本人會
ピナン市ピナン路五四號　稲置勝太郎
ピナン日本人商業組合
ピナン市ピナン路五四號　稲垣勝太郎

◆マレー半島（東海岸）

カメロン日本人會
パハン州カメロンハイランドレンレツト　後藤　甚吉
カメロン日本人農産組合
パハン州カメロンハイランドレンレツト　柳橋　正二
クワンタン日本人會
パハン州クワンタン、ワル街七號　龜川　軍一

ラオブ日本人會
パハン州ラオブ、ビブデ路六七號　田中　常吉
ベントン日本人會
パハン州ベントン　辰元　安造
トレンガヌ日本人會
トレンガヌ州コーラ、トレンガヌ　山田辰之助
ドングン日本人會
トレンガヌ州ドングン　木下　乃輔
ケママン日本人會
トレンガヌ州ケママン（石原産業公司内）　木村　政雄
ケランタン州日本人會
ケランタン州コタバル
ジヤラン、ソルタナ、ザイナブ三四五號　巌眞　璉

進出する事業會社

◆昭南島

横濱正金昭南島支店	銀行業	メーアーチヤムバース	株式會社千田商會
臺灣銀行昭南島支店	〃	ラフルスプレス三一	株式會社野村商店
華南銀行昭南島支店	〃	〃　〃	大倉商事昭南島支店
日本郵船昭南島支店	船會社	メーアーチヤムバース	加商株式會社
大阪商船昭南島支店	〃	デ・ソーザ街九	西山商會
日本鑛業會社出張所	鑛山業	ボンハム路ボンハムビル三	沙加乃公司
石原産業公司	〃	ロビンソン路ボースミビル	日華公司
飯塚事務所	〃	ユニオンビル内	山田商店
日沙商會	〃	エースト・コースト路三一六	江畑洋行
三井物産昭南島支店	輸出入業	KPMチヤムバース内	南洋商行
三菱商事昭南島支店	〃	マラツカ街ヌネスビル	比留間商會
			山中商店
			大同洋行

輸出入業	アケービル三九	株式會社千田商會
〃	メーアーチヤムバース	株式會社野村商店
〃	セシル街二五號	大倉商事昭南島支店
〃	メダバースビル	加商株式會社
〃	ライデラアビル	西山商會
時計蓄音機	ロビンソン路六八	沙加乃公司
物産輸出商	セルギー路六五	日華公司
美術雜貨商	ウインチスターハウス二五	山田商店
寫眞材料	ノースブリツヂ路六六	江畑洋行
陶器及雜貨	ノースブリツヂ路一一九—A	南洋商行
皮革及雜貨	〃　三三四	比留間商會
酒類食糧品	ノースブリツヂ路三三四	山中商店
綿製雜貨卸	ハイラム街二〇號	大同洋行
	ブラスバサ路七四ノ一	

大安洋行	陶器雜貨卸	プリンセツプ街一〇八
花屋商會	書籍文具	ミツドル路七五—七七
株式會社越後屋呉服店	呉服商	〃 一三一
三鼎商會	自轉車卸商	ウオーターロー街八〇
新大昌	機械船具商	ビーチ路一〇九
三喜商會	機械類鑛山	プリンセツプ街一〇〇
大福公司	製氷冷凍業	タンジヨンルー路三三〇
元浦鐵工場	鐵工業	ミツドル路一七七
寺下鐵工場	〃	カラン路二三八
株式會社馬場百貨店	雜貨食糧品	ミツドル路一四九
有坂製袋會社	帆布ゴム袋	〃 一七六
小笠原商店	製函製本業	〃 一二四
京屋時計店	時計蓄音器	ブラスバサ路四二
葵南堂	菓子製造商	ベンクーレン街一〇九
南洋日日新聞社	邦文日刊紙	ミツドル路二四一
昭南日報社	邦文日刊紙	ロビンソン路一一〇
友林堂	印刷業	ウオーターロー七八
福田商會	護謨園用達	ビーチ路一七
南洋倉庫株式會社	倉庫運送業	ライデラアビル内
ユニオン自動車店	貸自動車業	ミツドル路一八二
富士自動車工場	自動車修理	ピナンライン七六
都電氣商會	電氣請負業	コールマン街二三—一
昭南島運動具店	運動具一切	オーチヤー路一七一
昭南島製靴店	靴製造販賣	〃 一一六
スタンフオード製靴店	靴製造販賣	スタンフオード路
龜屋博物店	動物剝製	ミツドル路五五
奈良屋商店	土産物商	〃 一二八
山下組	建築請負業	クキン街一五
安藤醫院	醫院	ミツドル路一七一
同仁病院	病院	〃 二六〇—A
西村醫院	醫院	ノースブリツヂ路六
日本賣藥公司	藥品醫療器	〃 四九
日本藥房	ゴム凝固劑	〃 三八四
山本齒科醫院	齒科治療	ゲイランド路七七五
朴木洋服店	洋服裁縫	ミツドル路一二三
松浦洋服店	〃	ベンクーレン街二八
宮田洋裝店	婦人服裁縫	ミツドル路一八〇
白洋舍	洗衣業	ベンクーレン街一八三
中島寫眞館	寫眞業	ブラスバサ路九一
モダン製版所	ブロック眞鍮看板製造	タンク路二一七
メーソンオザキ	理髮業	スタンフオード路六三
ユニオン理髮店	〃	オーチヤー路
水田國松	潛水業	ブリンセツプ街一一五
大昌公司	漁業	ビーチ路一〇九
金城組	〃	マライ街三號
柔術スクール	柔道及接骨	キイアペーラス一〇
碩田館ホテル	旅館	ビーチ路二一
東洋ホテル	〃	クキン街二〇八

東洋電鍍公司	電氣鍍金業	オーチヤー路一三四
三五公司昭南島事務所	護謨栽培	ビーチ路一七
南進公司昭南島事務所	〃	ユニオンビル内
三浦養鷄場	養鷄業	エースト・コースト路二二二
日本國民學校		ウイルキイ路一五五

◆マレー半島ジヨホール州

岩谷商店	雜貨商	パトパハジヤラン・サビダ六八
二宮商店	〃	〃ジヤランラハマ二九
福岡齒科醫院	齒科治療	〃 〃 一〇一
英齒科醫院	齒科治療	〃 〃 三一
岡本理髮店	理髮業	〃ジヤラン・エンガン一四
渡邊建築請負所	建築請負	〃 アヤンパンガラン二〇
吉村寫眞館	寫眞業	〃 ジヤランイブラヒム一〇
北島寫眞館	〃	〃 〃エンガン一四
岩株藥房	醫院	〃 〃ジナン二〇
辻洋服店	洋服仕立業	〃 ジヤランロガヤ一四
平山洗衣店	洗衣業	〃 ジヤランイスマイ一〇
石原產業公司パトパハ鑛業所	鑛山業	パトパハ
石原產業公司スリメダン鑛業所	護謨栽培業	〃 スリメダン
大場護謨園	〃	〃 スンゲイボツコ
金原護謨園	〃	〃 スリガデン
木村護謨園	〃	〃 〃
三五公司パトパハ植林地	〃	〃 ピンルー
龜川護謨園	〃	〃ジヤラン・ジンドー
曾護謨園	〃	〃 スンゲイラヤ
日產農林工業ジヨホール護謨園	〃	〃 スンガラン
三笠農園	〃	〃 〃
昭和護謨會社	〃	〃 〃
松村護謨園	〃	〃 〃
三五公園パトパハ第一植林地	〃	〃 〃
同第二植林地	〃	〃 〃
同ジヨラ植林地	〃	〃 ジヨラ
日產農林工業パトパハ植林地	〃	〃 〃

バトパハ日本國民學校		
ユニオン理髪店	理髪業	〃ジャラン・ザビダ六四
渡邊寫眞館	寫眞業	ジョホールバル・ジャラン・イブラヒム五四
池田商店	雑貨商	〃〃四四
日本藥房	藥品業	〃〃六二
松井兄弟商會支店	自轉車商	〃ジャラン・ドビー二九
白洋舍	洗衣業	〃ジャラン・トロス一〇六
海月旅館	旅館業	〃タンホックネー七五
南洋護謨拓殖株式會社	護謨栽培	富ムアホテル ジャランスラテプラ八
日產農林スンゲイスルヨ植林地	護謨栽培	日本齒科醫院 マサイ郵便局内
同スンゲイシプト植林地	〃	山崎藥房
眞植護謨會社	〃	馬來護謨株式會社レンガ護謨園
昭和護謨株式會社	〃	井芹護謨園
南洋護謨コタテンギー植林地	〃	原田園
福田護謨園	〃	パリジヤワ護謨園
菅原護謨園	〃	渡邊護謨園
		下田園

◆マラッカ州

池崎兄弟商會	雑貨建築材料	ムア ジャランヤヤ四
須良滿商會	陶磁器賣藥	〃ジャランヤヤ六
南洋商行ムア支店	陶磁器雑貨	〃ジャランアブドラ
酒井商店	〃	ジャランスリマン一七
荒井商店	〃	〃〃一三
村上商店	綿布雑貨	〃スロム
太田商店	〃	〃パゴ
平山商店	乾物食料品	〃エーアーヒタムミレス一五
富山寫眞館	寫眞業	〃ジャランマデリ三〇
ムアホテル	旅館飲食業	〃ジャランメリアム三一
日本齒科醫院	齒科治療	〃〃九七
山崎藥房	賣藥商	〃ブキケボン
馬來護謨株式會社レンガ護謨園	護謨栽培	〃レンガ
井芹護謨園	〃	〃エヤーヒタムミレス一六
原田園	〃	〃スラム
パリジヤワ護謨園	〃	〃パリジヤワ
渡邊護謨園	〃	〃ブキガンバー
下田園	〃	〃カンポンジヤワ

志村商會	雑貨商	永野自動車修理店 自動車修理
富士商會	〃	〃 ラハン路
東商店	機械洋灰商	關洗衣店 洗衣業 〃 ジャランタンシイク一七
西田商店	洋裝業	小田美容院 美容理髪業 〃 バーチ路九九
川田商店	食料品建築賣藥商	小岩井醫院 醫療 〃 カメロン街一四
大倉商店	〃	秋澤齒科醫院 齒科醫 〃 バーチ路四
鳥居理髪店	理髪業	株式會社馬來護謨公園 護謨栽培 〃 テミアン路二〇
富士モーター	自動車修繕	スレムバン日本國民學校 〃 〃二〇二
ホシミ・ホテル	旅館業	
長戸寫眞館	寫眞業	
日本醫院	醫療	
中村齒科醫院	齒科治療	
千田護謨園	護謨栽培	
石井護謨園	〃	

◆マレー半島ネグリスミラン州

芙蓉商會	直輸入業	スレムバン、バーチ路一三六—一三七
坂田商會	運動具店	〃〃一〇〇
廣谷商店	美術雑貨商	〃〃八九
江夏寫眞館	寫眞業	〃ジャランタンシイク二三
島屋ホテル	旅館業	〃バーチ路八三

◆馬來半島セランゴール州

南光商會	一般雑貨	クアラ・ルムプールペタリン街一七六
加茂商會	呉服商	〃〃一〇七
山口商店	賣藥業	〃バト路一八七
白木洋裁店	洋裁業	〃〃三〇三
メーソンイチノセ	理髪業	〃〃三〇五
日本大藥房	齒科醫	〃ペタリン街一七六
宮崎寫眞館	寫眞業	〃バト路二〇九
山下洗衣店	洗濯業	〃〃六八

吉野屋ホテル　旅館業　〃　パト路一六三
村山護謨園　護謨栽培　〃　アンパン二四

久保寺寫眞館　寫眞業　セランゴール州カジヤン
井田齒科醫院　齒科醫　〃　カジヤン

スター商會　一般雜貨　クラン、レムパウ街
稻田商會　〃　〃　〃　七六
小田商會　〃　〃　〃　一四九
小畑寫眞館　寫眞業　〃　〃　一一一
關野寫眞館　〃　ソルタン街　三四
桑山醫院　內科醫　〃　レムパウ街一〇三
溝上洗衣店　洗濯業　〃　テロガードン三一
滿留金公司　雜貨商　クアラ・クブ　マツグスウエル街一九
日光商店　〃　〃　ボウエン街九
長谷川寫眞館　寫眞業　〃　〃　三
本林護謨園　護謨栽培　〃　〃　一一

◆マレー半島ペラ州

芳村商會　雜貨商　イポー、ヘグロ街八八
日本藥房　賣藥商　〃　〃　九四
吉田洋服店　洋服業　〃　〃　一五五

南洋商行　陶磁器硝子　アロースター　ジヤランランガー三五
榛名商店　自轉車　〃　〃　五二
椎葉商店　一般雜貨　〃ジヤランラジヤ三八
篠崎製菓店　製菓販賣業　〃　セビランパーク
宮本寫眞館　寫眞業　〃ジヤランカンチウ五
清水看板店　眞鍮具製作　〃　セビランパーク

伊藤寫眞館　寫眞業　〃　ビルフイルド街一〇一
PK寫眞館　寫眞業　〃　ブレウスタ路一七六
東京理髮店　理髮業　〃　〃　二〇一
山下齒科醫院　齒科醫　〃　ハル街　一一
山本洗濯店　洗濯業　〃　ブレウター路一七八
オーシスホテル　旅館業　〃　アンダーソン路

野村商店　雜貨商　タイピン　マイン路五五
TK寫眞館　寫眞業　〃　〃　二〇
メーソン　理髮　〃　〃　一八
タイピン　パーマネント
同仁齒科醫院　齒科醫　〃　〃　三九
千歲旅館　旅館業　〃　マラツカ路　七〇

◆マレー半島ケダ州

太田理髮店　理髮業　〃ジヤラン・カンチウ四
飛石齒科醫院　齒科治療　〃　〃　二
川原齒科醫院　〃　ケダ州パダンセライ
高雄請負業　各種請負業　〃スンゲイ・パタニ

神戸海陸產貿易　食料品卸商　ビナン　キング街九九
彼南出張所　〃　〃　チウリヤ街四二四
稻置商店　雜貨商　〃　ビナン路一七七
大阪屋商店　〃　〃　チウリヤ街四〇四
東京商店　〃　〃　ビナン路一三二
南洋商行　陶器卸商　〃　プマ路二〇三
三和公司　機械機輸出　〃　アーゲル路一五一
園部時計店　時計商　〃　クキン街五三
綿華公司　自轉車卸商　〃　ビショップ街八五
都電氣商會　電氣器具商　〃　チウリア街三九三
日本藥房　賣藥商　〃　ビショップ街六八
時札寫眞館　寫眞業　〃　〃　四
長田齒科醫院　齒科醫　〃　〃　三
山下理髮館　理髮業　〃　ビナン路八七
東洋染工廠　洗衣業　〃　トランスフアー路三
朝日旅館　旅館業　〃　チウリア街三六八
彼南旅館　〃

◆彼南

遠藤寫眞館　寫眞業　カメロン　タナラタ
竹內茶園　茶蔬菜栽培　〃　レンレット
ハッピー茶園　〃　〃　レンレット
後藤農園　蔬菜栽培　〃　〃
結城農園　〃　〃　ウルテロム
柳橋農園　〃　〃　ウルテロム
小澤農園　〃　〃　レンレット
高原農園　〃　〃　ウルテロム

大榮商會　雜貨商　クワンタン　マイン街三三
丸山商店　〃　〃　ウオル街七一
柳本寫眞館　寫眞業　〃　ジエン路
下田護謨園　護謨椰子　〃　チエアリンキチ
龜川養鷄場　椰子及養鷄　〃チエアリンプツサー

◆馬來半島パハン州

大南商行　一般雜貨　クアラ・トレンガヌ　ケダイパヤン
山田商店　〃　〃　二四一—二四二

◆馬來半島トレンガヌ州

高見商店　一般雑貨　〃ケダイパヤン二四五
國華洋行　〃　〃ジヤラン・パンタイ
深田商店　〃　〃クアラ・ピサー
大島時計店　一般修理　〃ジヤラン・タンジョン三〇
西田商店　菓子商　〃　〃　三六

―マレー篇―

水野商店　氷菓子製造　〃ジヤラン・ケダイヒラヨ
佐藤商店　洋燈金具商　〃ジヤラン・ケダイ一四
宮里理髪店　理髪業　〃ジヤラン・パヤン
松下組　請負業　〃カンポン・ダイ三
寄木鑛山周旋業　周旋業　〃ジヤラン・マスジ
名嘉商會　雑貨商　クアラドンダン　ジヤラン・スンゲイペナガ一六三A
大東商店　食糧品雑貨　〃ペキペシ
出羽屋商店　〃　〃ジヤランパサー二〇
日本理髪店　理髪業　〃　ジヤラン　スンゲイペナガ四三
佐藤農場　養豚野菜園　〃　ペキペシ

早瀬商店　飲食店　〃　ペキペシ
木下商會　旅館業　〃　ジヤラン　スンゲイペナガ三二
龍運館ホテル　〃　〃
大東旅館　〃　〃
エビス屋　〃　〃

森内商店　雑貨商　ケママン　テンゴ・ジヤランカムポン一七〇
松本商店　雑貨及質屋　〃パンタイキジヤル二八
鈴木鐵工廠　機械商修理　〃　ジヤラン　スライマニ二二三
石原産業公司ケママン出張所　鑛業　〃
西垣商店　護謨栽培　バンダーケマシー九六
順記號　質屋運輸業　〃ケマシー

◆マレー半島ケランタン州

佐竹商店支店　雑貨商　コタバル　ジヤラン・ニューマーケット一一八五A
古賀商店　〃　〃ジヤラン・テンクペトラスメラ五九一
南洋商行支店　琺瑯業　〃　ジヤラン　テメンゴン三四九
小野田洋行　雑貨商　〃　〃　二七一一

谷商店　雑貨商　〃ジヤラン・ソルタナザイナブ三九二
福丸理髪店　理髪及雑貨　〃　ジヤラン　トハキム二五二四
岩下洗衣店　洗衣業　〃ジヤラン・ソルタナザイナブ四〇〇
平岩齒科醫院　齒科治療　〃　四九二
太郎洋服店　仕立業　〃ジヤラン・テンクペトラ五八九

―マレー篇―

東和洋行　鑛山業　〃ジヤラン　ソルタナザイナブ
鈴木商店　雑貨商　ケランタン州　グアル・ペリオ
東和洋行支店　〃　〃タマンガン
寶商會　〃　〃トムパ
南光商會　請負業　〃パレパン
日本鑛業會社　鑛業　〃グアル・ペリオ
タンドウ鑛山
南洋鐵鑛會社　〃　〃タマンガン
タマンガン鑛山
波壽滿護謨園　護謨栽培　〃スンゲイケラデイ

◆ペリス州

寺上商店　一般雑貨　ペリス州アラウ
中本商店　〃　〃カンガー

フイリツピン篇

地位・面積・氣候

フイリツピンは、我が臺灣の南方、北緯四度四十分より二十一度十分、東經百十六度四十分より百二十六度三十四分の間に散在する大小七千八十三の島嶼よりなつてゐる。その內面積一千平方哩を超えるものは僅かに十一島である。全群島の面積は二十九萬六千平方キロで、わが國の全面積の半分よりまだ四萬一千平方キロ程小さい。

この國はわが國の如く火山國で地震も屢々あり、また溫泉、鑛泉にも富んでゐる。土地は肥沃で農業に適してゐるがまだ一部分を除いては充分に開發されてゐない。

氣候はいはゆる南洋の常夏の國で、一年を通じて大體雨期と乾期となつて居り、暑氣の一番高いのは四月、五月で、六月から九月までは概して雨期であるが、十一月より二月までは乾期で、一年中最も快適の季節である。氣溫は平均溫度華氏七九・三度、時として六〇度に下降する事があり最高でも九十度以上は少ない。

沿革

「發見」 フイリツピン群島の發見せられたのは十六世紀の頃で、卽ち西曆一五二一年にポルトガルの航海者フエルナンド・デ・マゼランによつてセブー島が發見せられたのが群島發見の濫觴と云はれてゐる。

マゼランは一五二一年三月十六日、サマール島の山影を望み、四月七日セブー島に上陸した。彼はセブー酋長を征服すべく對岸のマクタン島に於て戰鬪中不幸にして斃れた。比島が一代の冒險兒マゼランによつて發見せられた報一たび歐洲に傳はるや、風雲兒の東洋を目指して來るもの踵を接し、中にもスペインは屢々兵船を艤し比島遠征を試みたが終にレガスピー將軍に依つて一五六五年セブを、次いで一五七〇年マニラを占領、斯くて比律賓は全くスペインの領有に歸した、時のスペイン王フリップ第二世の名を冠してフイリツピンと名付け、廣く世界に知られるに至つた。

「獨立運動」 フイリツピンは以上の如く十六世紀の中葉から十九世紀末に至るまでスペイン領であつたが、その間大小二十六回もの獨立計畫があり、數千のフイリツピン愛國者はその運動に生命を捧げてゐる。

最後の獨立戰爭の起つたのは丁度わが明治三十一年に當り、アギナルド將軍が總指揮官となり各地に奮戰した。その眞最中キユーバ問題に因を發して、米西戰爭が起り、遂にスペインはフイリツピンを米國に割讓する事になつたので、フイリツピン軍は米國を相手にして戰つたが、利あらず明治三十三年米領となつた。

この獨立運動には當時憲政會の領袖であつた中村彌六博士一派が原敬大尉を指揮官として多數の義勇兵を送つてフイリツピンを援助した事は今でもフイリツピンの老兵間に感激新たなるものがある。占領當時の大統領であつたケソン氏も、當時一少佐として原大尉と同じ陣營にゐたものである。

その後三十餘年間、フイリツピンの獨立運動はケソン、オスメニヤ等により續けられ、昭和十年十一月十五日、米國はフイリツピンに聯合政府の樹立を容認し、昭和二十一年には完全なる獨立を與へる事を約した。然しこの完全獨立の手形を渡した米國は、老獪にも、對日軍事據點なるを理由に、軍備を增强する一方、獨立を空文化せんとする運動が續けられてゐた。

「皇軍占領」 米國はフイリツピンをして對日進行の軍事基地として軍備を增强し、この地を據點として東亞侵略に强奔し我國の國力を過少視し、米、英合作の上、對日壓迫を加へるに至り、遂に我が國は昭和十六年十二月八日米、英に對し宣戰した。

フイリツピン攻擊部隊は十二月十日フイリツピンに壯烈なる敵前上陸を敢行し、以來各地の要塞を攻略、米軍の最後の據點と恃んだコレヒドール要塞も昭和十七年五月六日遂に敵將ウエンライトは我軍に降伏を申出て、翌五月七日フイリツピンの敵全軍は皇軍に降伏した。

米西戰爭後、米國がフイリツピンを領有してより四十四年、米國の東亞侵略の最大據點は脆くも潰え去り、フイリツピンは我國の占領に歸し、今や南方共榮圈の一翼として新たなる發足をするに至つた。

人種と言語

フイリツピンの人口は全部で一千六百五十萬人で、その

約九割がいはゆるフイリッピン人で、馬來系に屬するもので、在留外人は約十萬で中、支那人は最も多く、これに次いで日本人、米國人、西班牙人、英國人といふ順序である。四世紀間スペイン領であつた關係上スペイン人との混血兒が多く、男子はこれを「メスチソ」女子は「メスチサ」と呼び、自からその混血兒たる事を誇としてゐる。また支那大陸との交通が早くから開けてゐたので支那人との混血兒も少くない。混血兒は概して純マレー系人よりも文化の程度高く、且進取的である。

言語はタガログ、ビサイヤ、ビコール、イロカノ等二十餘の地方語が使用され、スペイン語と英語が標準語となつてゐたが、我國占領後は官廳の告示、裁判所等の用語は日本語とフイリッピン語が使用される樣になり、又國民學校の初等教育書はフイリッピン語の外昭和十七年六月より日本語が正課として併せて行はれてゐる。

主要産業事情

フイリッピンの産業は西班牙領時代は產業として見るべきもの殆んどなく、本格的發展を見たのは米領となつて以後の事である。商業上の地の利もよく、地味また肥沃でありまた四面海の國として水產業に好適され、一方地下埋藏の鑛業資源も豐富な、所謂寶庫の國であるが現在未だ各般の產業は發展の域に達せず、今後の開發を待つてゐる國となつてゐる。

農業

比律賓は農業國であり、農業は同國產業の根幹である。即ち比島輸出貿易の約九割が、農產物によつて占められてゐる。

耕地面積は三百七十一萬三千ヘクタールで全面積の一二・五%に相當するが、未墾地はなほ約九百萬ヘクターを有してゐる。農產物として主なるものは米、甘蔗、マニラ麻、煙草、玉蜀黍、椰子等である。

「米」は邦人と同じく住民の主要食物で、政府でも極力增產を奬勵し、自給自足の域に達せしめやうと努力されてきた結果、現在大體自給の域に達してゐるが、尙一部を佛印及タイ國より輸入してゐる。

「甘蔗」は主としてネグロス、ルソン、パナイ、ミンドロ島でその植付面積約二十六萬ヘクタール、產額は約五十五萬トン、その大部分は分蜜糖で米國へ向けられてゐる。粗糖は支那方面に送り出されてゐる。

「麻」はいはゆるマニラ麻で、植付面積は約五十萬ヘクタール產額十八萬五千噸である。主產地はダバオ州にして

全產額の六割はわが邦人移住者の生產であり、邦人の比律賓產業に貢獻してゐる事極めて大である。

「煙草」はマニラ煙草の名をもつて世界に著聞である。大部分は葉卷として海外に輸出され、近年日を逐ふて栽培面積は增加される傾向にある。

「玉蜀黍」は比律賓穀類作物中第二の地位を占め、群島到る所に栽培されてゐる。セブ、オリエンタル、ネグロス、ボホール地方では住民の常食として用ひられてゐる。

「椰子」比律賓の椰子は世界需要の約三〇%を產して氣を吐いてゐる。土壤石灰質に富み、海岸線が長いため、その發育も完全で、人工に依らざるも尙相當の收穫がある。高さは普通十五六呎から三十呎、稀には五、六十呎を越すものもある。

林業

全面積の約六割の千六百萬ヘクタールが林業區であるから、如何に比島の林業の洋々たるかを知る事が出來る。全島四十八州中イロコススールとセブの二州を除く外は有用林の密生であり殊にコクバト、ダバオ、パラワン、サンボアンガの諸州はその八割が森林地帶で各百萬ヘクタール以上を藏してゐる。主なるものは產額の七割を占めるラワンを第一に、テインダム、アピトン、ラムバヤウ、ナラ、イビル、モラベ等の建築材、造船用としてはラヌタン、ギーホ、ワルガイ等である。

牧畜業

島内到る處牧草が繁茂して自然的條件に惠まれ、肉類の需要並に家畜の使用も逐年旺盛なるに拘はらず、その割合に畜產業の發達はおくれて居り、近時政府により銳意、發展に努力されつつある。

主なるものとしては、牛、馬、山羊、羊等であり、牛は比島牛、印度牛、ムルタニ、その他雜種の大體六種であり馬は比島馬、濠洲馬、米國馬が主な種類である。水牛は耕作用又は運搬用として盛んに用ひられてゐる。豚は群島到る所に放し飼ひされて居り相當旺んである。

鑛業

比島の鑛業は第三世紀から着手せられて、金は當時既に採掘され、裝飾品に用ひられてゐた。鑛業資源としては、金は山嶽州、マスバテ島、カマリネス、ブラカン、ミンダナオ等に埋藏され一九三九年の產金額は一億五千萬圓を超えてゐる。次は鐵鑛で全島各地にあり、鑛石として我國へ輸出されてゐる。鐵鑛中一番大きいものとしてはスリガオでその埋藏量約五億噸と推定されてゐる。この外クロームマンガン、銅、ニツケル鑛等も埋藏されて居り日本へも年々相當輸出されてゐる。

水產業

四面海の國にして群島到る處、幾多の漁場に富み、天惠的環境にあるも水產業の發展は遲々として進まず、漁撈法の如きも幼稚にして原始的域を脱せず、僅かに港灣の魚獲により附近部落の需要に應ずる程度なれば、却つて年々四十萬ペソからの魚貝類を外國より輸入を仰いでゐる。若し近代の科學的漁撈法をもつて發展を圖るならば、自給自足はもとより水產國としての發達も決して困難ではない。ここに於て邦人にして水產業に進出するもの次第に增加し、殊にマニラ灣附近の漁業は魚獲高の五割餘は邦人の掌握する盛況となり斯業又大いに發展の途を辿つたが、その後舊比律賓政府の外人漁業禁止法が施行された結果、新らたなる進出發展が抑止されてゐたが、今や我國の占領以來邦人發展の舞臺となつた。遠からず邦人の手により自給はもとよりの事、尙且海外輸出に轉じ得るものと推定されてゐる。

工業

比律賓に於ける工業は近々二十年の間に相當の發達を遂げてゐるが、比律賓そのものが原料生產を中心としてゐる關係上、槪して不振の狀態である。これは西班牙時代の植民地政策として植民地は原料國として搾取し、加工品は自國品を供給するの政策を傳統的に執り來つた結果、その領土民は工業的進出の餘地を與へられなかつた事により、これが今日迄、この方面の發達を遲らした誘因ともなつてゐると云はれてゐる。

現在僅かに製糖、製油、煙草、洋灰、製綱、製帽、酒製貝釦製造業が比較的發達されてゐる。

邦人の發展地ミンダナオ島

フイリツピンに於ける在留邦人二萬五千のうち、二萬の邦人が雄飛活躍してゐる大寶庫ミンダナオ島とはどんな處であらうか。

面積は群島中ルソン島に次ぐ第二の大島で、その面積は三萬六千九百平方哩、我が北海道と略同じであつて、人口は僅か八十萬人餘、一平方キロ僅か二十二人の密度よりなく、島内はその殆んどは未開の處女寶庫であり、地味肥沃、幾多の資源に惠まれてゐる大寶庫である。

邦人はこのミンダナオ島のダバオ州を中心として發展してゐる、ダバオ州の人口はフイリツピン人約十一萬、モロ族等の未開人が八萬人、米國人が百五十人、支那人が二千五百人で、わが邦人は二萬餘人から發展し、その八割はマニラ麻の栽培に活躍してゐる。主なる農企業としては、太田興業株式會社、古河拓殖株式會社、バト拓殖株式會社、ピソ農牧株式會社、松岡興業株式會社、ミンタル拓殖株式會社、バヤバス拓殖株式會社等々數十の邦人企業會社がダバオを舞臺に發展し、マニラ麻の栽培に雄飛、フイリツピン全產額の六割は實にダバオに於ける邦人の手により生產されてゐる。邦人無くしてフイリツピンのマニラ麻は語られない優勢を示してゐる。

商業

一方商業界にも邦人の發展は素晴らしく、ダバオ市の商店の大半は邦人經營の店であり、先方人を壓倒して根强い商網を張り發展してゐる。

林業

ミンダナオ島は至る處森林に蔽はれ、無盡を誇る寶庫にして、ダバオ州だけでも面積一九二萬一二〇ヘクターの中九〇%は處女林で、農耕適地百三十萬二千六百八十ヘクターの中開墾地が僅か十萬ヘクター、その中邦人が五萬ヘクターの開墾に當つてゐる。未開の沃土百二十萬ヘクターは千古斧鉞の原始林として開拓の手を待つてゐる。

林業には、わがテブンコ木材會社、ダゴン商事會社、比律賓木材會社、太平洋木材會社等が進出し、林業界に萬丈の氣を吐いてゐる。代表的の木材としてはラワンを第一としてアプトン、ナラ、イツペル、ヤカル、モラベ等である。

水產業

邦人の漁業に進出するもの近時增加されつつある。かつては邦人の漁業は幾多の法律的制肘を受けてゐたにも關はらず、占領當時既に船持二百人、漁師一千人、二十隻の船を持ち、組合を組織して、一年三十五萬ペソの水揚高を示し、ダバオ市內外の邦人の手により供給してゐた。魚類も豐富で、まぐろ、さはら、いか、えび等は殆んど無盡藏といはれ、將來鰹節、鑵詰等に進出するならば目覺ましい發展を示すであらうと云はれてゐる。

×

ダバオを中心とする二萬の邦人が、占領前土地問題をはじめとして森林法、漁業法、營業取締規則、移民制限等のあらゆる排日的壓迫屈辱を忍んで築いてきたこの地も今こそ我等の前に門戸が大きく開かれた。

ミンダナオはフイリツピンの持つ最大の未開の寶庫であ

り、マニラ麻、米、椰子、コーヒー、棉花、タピオカ等の農産に、林業に、牧畜に、水産に、商業にとあらゆる資源を擁する大寶庫として邦人の雄飛を待つてゐる。

太田恭三郎氏の功績

フイリツピンを訪ねる人は誰もが、ミンダナオ島ダバオのミンタル原頭に太田恭三郎氏の記念碑を見るであらう、これこそ我が邦人の、ダバオ開拓の功績を物語る金字塔である。

氏は兵庫縣朝來郡竹田町の産、明治九年二月生る。東京一ツ橋高商に學び、學半ばにして海外雄飛を志し、濠洲、木曜島を視察し、歸途香港に寄港の折り日比貿易の有望に着目し、マニラに渡航、雜貨貿易を計畫したのが抑も氏がフイリツピンに足蹟を印した第一歩であつた。

當時空手空拳にて敢闘し、よく邦人の中堅として活躍した。彼のベンゲット道路開發に入工した千數百名の邦人を指揮し、明治三十八年ミンダナオ島のダバオに進出し、血の滲む樣な苦闘を續け、未開の蕃人と闘ひ、原始林を開拓し、ともすれば挫折せんとする同胞を指導する等幾多の茨の道を切り拓き、麻栽培をなし、ダバオをして今日の邦人の發展地たらしめたのであつた。氏の着眼は遠大にして雄渾、眞に植民人の面目を發揮し、氏の事業は見事なる成果を擧げ、今日の太田興業の基礎を築いたのであつた。比島の大學教授を聘して水道工事を完成し、又は要路を動かして植民的諸施設を實施せしめたる等、特筆すべき功績は枚擧に遑がない。惜む可し快男兒太田恭三郎氏は遠大の雄圖を抱きつつ病を得て大正六年四十二歳の壯齡を以つて不歸の客となつた。氏が如何に內外人に偉大なる信望があつたかは、大正十五年ダバオ州知事の建碑の趣意書が之を物語つてゐる。曰く

社會的地位に於いては敢て高きに居らざりしも、その抱懷する理想は崇高且偉大なりし太田恭三郎氏の形骸土に歸してより既に七星霜を經過せり。ダバオに於て氏を知らざるものありや、氏は實にダバオ現在の發展を創成せるものの一人なりき。氏は日本人の特性を享け卒直勤勉、不屈不撓の性格に加ふるに先見の明識あり、職蜂の如き不撓の努力を以つて此の地方に擧を起し、天然資源の開發に努力し曠野を拓きて沃野となし、以つてその無盡の生產を興し、國の爲め、又市の爲め地方經濟的繁榮の基礎を築けり。氏は不幸その事業の完成を待たずして業半に殪れしが其熱心なる後繼者は氏が嘗つて夢見し計畫を實現し遂に今日見るが如き諸般の農企業を實見せり、吾人は氏の遺業が今や本地方民衆に對し偉大なる恩惠を與ふるの顯著なるを認識し體驗せざるを得ざるなり。吾人此地方に住するもの內外人の別なく決して氏を忘れる事なく却つて日を追ふて益々敬慕の念を生じ氏を記念すべく責任を感ずるに至れり。

太田氏の功績を語りて餘す處なし、吾人特筆して太田氏の植民的功績を記錄すると共に我が植民事業の上に第二の

太田、第三の太田が出現せんことを祈つて止まぬものである。

主要都市

マニラ市　は人口六十萬、フイリツピンの首都にして、政治、文化の中心地であると共に、商工業都市でもある。市街はラグナグ湖よりマニラ灣に注ぐパシグ河口に跨り、東北六哩に亙つてゐる。

マニラ市はパシグ河を境として北が商業區、南が住宅區となつて居り、埠頭附近は倉庫地區にして近くにスペイン時代を偲ぶ古色蒼然たるイントラムロスの舊城がある。一五九〇年頃土匪に對する防備のため築造せるもので高さ二十呎乃至三十呎、周圍約二哩に及ぶ。域內には政府官廳、議事堂、學校、水族館、教會、兵舍等がある。

市內で見るべきは、ルネタ公園、憂國の志士リサールの碑、熱帶植物園、水族館、博物館、邦人旅行者が必ず參詣し、南進先覺者に額く日本人墓地等がある。

バギオ　マニラ市の北方二百五十キロに海拔千五百米の高山都市バギオがある。マニラ市民の避暑地として風景絶佳、夏季は官廳主腦部が此處に避暑するので一面政治の中心もまた此處に移る。平時人口約一萬、夏期になると約二倍に達する。マニラからここに到るベンゲット道路は實に邦人勞働者千五百名が開拓したものであり、フイリツピン邦人先驅者の手によるもので、沿道到る處奇勝絶景を縫ふて走るベツゲット道路こそ邦人移民にとつて忘れることの出來ない記念物である。附近に日本人が野菜栽培に當つてゐる者が多い。

セブ　セブ島の東岸に位し、マニラから三百六十八哩、人口の上ではフイリツピン第二の都會で人口約十萬、歷史的には最古の都會で、前面に橫たはるマクタン島には群島發見者マゼランの碑がある。

ダバオ　ミンダナオ島のダバオ灣內にあり、人口約十萬奧地に栽培されるマニラ麻輸出港として有名である。ダバオ市內には邦人商店が櫛比し日本街の感がある。この地方に於ける邦人の發展振りは目覺しく、ダバオを中心として麻の生產に從事してゐる勢力は絶大で、フイリツピン生產のマニラ麻の大半は邦人の手により占められてゐて、その多くはこの地を中心に生產されてゐる。現在約一萬數千名の邦人が活躍してゐる。

レガスピ　ルソン島の南端に位し、人口約五萬の都會、その背後に八千呎の秀麗マヨン山があり、美しき雄姿は我が富士山を思はせ、邦人はルソン富士と呼んでゐる。火山系で時々活動を始め豪壯な煙をたなびかせてゐる。

イロイロ市　はパナイ島の東南端、パナイ河畔に在り、

イロイロ島の首府にして人口八萬、フイリツピン第三の都會である、スペイン時代相當繁榮した町である。米領となつてから對岸のネグロス島が比島第一の產糖地に活躍したため、砂糖の輸出港として繁昌したが、最近ネグロス島のプルバンダンの開港により少なからず打撃を被つてゐる。

北岸のカビスへは鐵道が通じ島內砂糖の輸送に當つてゐる。在留邦人約五百人にして、日本國民學校があり、邦人商社も相當進出してゐる。

サンボアンガ　ミンダナオ島中第二の都會で人口約三萬スルー群島及コタバト方面に對する物資の集散地であり、附近は木材や林產物に富んでゐる。

邦人發展の狀況

發展の歷史

我が國と比律賓とは足利時代の末期から豐臣時代にかけて兩國の交通は漸く頻繁となり、倭寇も十六世紀の半ば頃から南へ〳〵と進出し、潮流の赴くまゝ進出した。天正十四年にはマニラからスペイン船が平戸に入港しキリシタン傳道師が續々渡來する樣になり、泉州堺の魚屋助左衞門がマニラに乘込み、數年にして巨萬の富を得て歸國した、また肥後の原田孫七郎、同苗喜右衞門が盛んにマニラ貿易をやつたのもこの時代であつた。殊に喜右衞門は單なる商人ではなく政治的手腕があつてスペイン人大官と幾多の交友があつた。スペインの東方政策が漸次日本を侵略すべきを觀取して、先手を打つてルソンに進出する事を秀吉に建言し、秀吉は原田を使者としてマニラ總督ダスマリニアスに來貢を勸告したが、その實現を見ずして秀吉が他界した。當時日本とマニラ間を御朱印船が往復していはゆる南蠻貿易をやつてゐた。關ケ原の戰ひで豐臣の殘黨が續々新天地を需めてルソンに渡航し、マニラ附近に居住するもの、その數三千に上つたが、その後鎖國命により本國との交通を斷たれ邦人は遂に土着するの止むなきに至つた。現在バクサンハンやタール等には邦人の遺蹟や容貌骨格の日本人に酷似したものがあり、また同地方の名家には祖先よ

り傳はつたといふ日本刀や兜などがしば〳〵見出される。

在留邦人の現狀

その後日比の交涉の始つたのは明治二十一年で、マニラに帝國領事館が開設されたが邦人は殆んど無かつた。明治三十六、七年頃マニラよりバギオに通ずるベンゲット山路開發工事に從事するため一千數百名の邦人勞働者が渡航しさしもの難工事を完成した、この完成後、太田恭三郎青年が指導者となり、これら勞働者を率ゐてダバオの原始林開拓に着手した、これがダバオを今日の隆昌に至らしめた原因である、現在ダバオには二萬の邦人が十萬町步のマニラ麻を作り、そして常に數萬のフイリツピン勞働者に臨を與へ、フイリツピン生產のマニラ麻の六割をこのダバオから產出せしめてゐるのである。

フイリツピン全體では邦人數約二萬六千であり、ミンダナオ島に二萬、その約九割が麻の栽培に從事し、マニラに約四千人で、これは會社員、商店員が約千五百人、次いで漁夫が約千人以上であり、その他は雜貨店とか色々な仕事に進出してゐる。バギオ附近には約千三、四百人で野菜作りや商人等が主で、イロイロに約四百人、セブに約三百人の邦人が居り、漁業にこの約三分の一以上が從事してゐる。全體を見ると邦人の八割は麻栽培に活躍して居り、殘りの二割が商業、漁業、會社員、商店員等でまた林業、加工業その他の方面にも活躍してゐる。

邦人團體名簿

◆比律賓

カガヤンバレー日本人會　（會長）
ルソン島カガヤン州アパリ　平吉　辰雄
バギオ日本人會
〃　マウンテン州バギオ　早川　豐平
ヌエバ・エシハ日本人會
〃　ヌエバ・エシハ州カバナツアン　安上　又一
マニラ日本人會
　ルソン島マニラ市ブラサモラガ
　インシユラーライフビル五一五號　小林茂三郎
マニラ日本商業會議所
　ルソン島マニラ市フローアートラード
　アンドコムマースビル五〇九號　山本　恒男
マニラ日本人相互信用組合
　ルソン島マニラ市ビ・パテルノ街五一七　諸隈　彌策
カビテ日本人會
　〃カビテ州カビテⅦマータース六五號　井上初三郎

ビコール日本人會　ルソン島アルバイ州レガスピ郵函十五號　後藤　清喜
イロイロ日本人會　パナイ島イロイロ市郵函一三五號　高江洲伊藏
イロイロ日本人商友會　〃　〃　中居經太郎
ネグロス日本人會　ネグロス島西ネグロス州　バコロード市郵函一三〇號　米持　寅治
セブ日本人會　セブ島セブ州セブ市郵函四三號　ザンボアンガ日本人會　〃　ザンボアンガ市郵函三〇　數森　佳一
ダバオ日本人會　ミンダナオ島ダバオ州ダバオ市郵函一三二號　小川山三郎

進出する邦人事業商社

多角的發展を遂げてゐる。內地支店をまた建築材、自動車、同部分品の販賣業にも發展してゐる。內地支店を神戸區浪速町五七大同貿易會社內及東京日本橋區吳服橋三大同貿易支店內。

◇古河拓殖株式會社
本社　ダバオ州ダバオ
資本金百五十萬比、同社は太田興業と並び稱せられてゐる事業會社でマニラ麻の栽培及椰子園の經營に活躍する一方、コプラ、麻、貿易業に進出し、

◇太田興業株式會社
本社　ダバオ州ダロモ
資本金二百萬比、明治四十一年創立故太田恭三郎氏の設立せる會社にしてダバオに於ける邦人企業會社の雄を誇るもの、マニラ麻、椰子等の栽培及生産に活躍する一方、病院、農事試驗場、發電所、製氷工場等の附帶事業を經營

◇パリンタワク麥酒釀造株式會社
本社　ルソン島ブラカン州ボロ

資本金百四十萬比、同社は大日本麥酒、三井物産、大阪貿易、それに先方人の有力者の合辨會社で、麥酒の釀造販賣に發展してゐる。

◇東洋シャツ製造株式會社
本社　マニラ市ファンルナ街四五一
同社はワイシャツ、洋品、帽子等の製造販賣に當り、獨特の方面に進出發展してゐる。資本金八萬比、社長竹本登氏。

◇大阪貿易株式會社
本社　マニラ市キャツポ區ナヤケ街三三二
資本金二百萬比、同社は雜貨、食糧品、綿糸布等の輸出入貿易に活躍する一方、小賣部大阪バザーを經營發展してゐる。

◇バヤバス拓殖株式會社
本社　ダバオ州バヤバス
麻及椰子園を經營活躍してゐる。資本金約十萬比、取引高三十萬比內外と稱され、堅實なる發展をとげてゐる。

◇株式會社岩井商店
本社　大阪市東區北濱町四丁目
資本金千五百萬圓、出張所をマニラ市ビノンド區インシュラー、ライフ、ビルディング四〇四郵函二〇二四に置く、輸出入貿易業に發展してゐる。

◇合資會社稻田兄弟商會
本店　マニラ市アスカラ街一七四九
第一支店をリサール街、第二支店をタボラ街に置き、邦品の輸入販賣に活躍してゐる。創立昭和二年、資本金十三ノ二に置いてゐる。

◇オーラッカ製菓株式會社
本社　マニラ市パラカ街郵函一九
資本金五十萬比、同社はキヤラメル、チョコレート、ビスケット類一切、玩具類、製菓機械、印刷用インク、香料、其の他製菓工場用品等の販賣に當つてゐる。

◇呂宋飲料株式會社
本社　マニラ市サムパロク區ジー・トワソン街一六五
清涼飲料水製造販賣に活躍し、マニラ、バギオ、ミンドロ、ダバオ等各方面に販賣網を擴げ發展してゐる。

◇パシラン興業株式會社
本社　サンボアンガ州パシラン島アトン・アトン
資本金四十萬比、同社はパシラン島に於て椰子の栽培に發展、コプラ製産に活躍してゐる。

◇合資會社ルソン鐵工所
マニラ市ニチヤゲ街八一四ノ五〇
農工業船舶用機械、製造及修理、鑄物、酸素鎔接、砲金其他一般鐵工業に當つてゐる。昭和十四年創立、資本金二萬五千比、代表者は川上常好、藤井早見。

◇角川貿易商會
マニラ市サンニコラス區サントス街一〇二九
一般雜貨卸小賣業、昭和十二年創立內地出張所東京市芝區田村町二ノ一及神戸市神戸區海岸通リ五丁目に置く。

◇横濱正金銀行マニラ支店
マニラ市ビノンド區セルバンテス三四
資本金一億圓、本店横濱市、我國に於ける對外爲替銀行としてはその雄を

誇るものであり內地主要地をはじめ海外各地に支店を置いてゐる。

◇臺灣銀行 マニラ支店
マニラ市ピノント區ナシヨナル街シテイ銀行ビル一階

資本金壹千五百萬圓、外國爲替業務其他一般銀行業務、同社は臺灣各地又內地五大都市、支那各地、南洋、印度、倫敦、紐育に支店を置く。

◇大平鑛業株式會社
支店 マニラ市 イサタ ペラール街八六八

資本金五十萬圓、創立昭和十一年、同社は比島鏡山の開發、並に比島ベースメタル輸出を目的として設立されたもの、取引高年三百萬比、本社大阪市北區中ノ島三丁目朝日ビル。

◇大同貿易株式會社
支店 マニラ市ダスマリニヤス街

一般輸出入貿易、本店神戸市神戸區浪花町五七でフイリツピンではマニラの外セブー、イロイロ、ダバオの各主要都市に支店網を張りて活躍す。

◇ダバオ商業株式會社
ダバオ州ダバオ市郵函一四一

資本金十萬比、同社は製氷、冷藏、清涼飲料製造、代理店業、椰子栽培等に活躍す。創立してから二十數ケ年にして堅實な發展を示してゐる。

◇ダバオ農商株式會社
ダバオ州シガボイ郡ラウニオン

資本金七十萬圓、マニラ麻を栽培してゐる一方牧畜にも進出し、牢固な地盤を築いて發展してゐる。

◇ナショナルゴム工業株式會社
マニラ市外パサイ町ルナ街二〇一五

資本金五十萬比、同社は日・比・支の合辨會社にして、社長は金ケ江清太郎氏。副社長はエル・アール・アギナルド、同吳筥來、ゴム加工品製造に發展してゐる。

◇マニラ石原產業株式會社
本社 マニラ市ファンルナ街ウキルソンビル三〇四

資本金壹百萬比、同社は我が石原產業海運株式會社の姉妹會社で、昭和十一年創立、鑛業開發及鑛物の輸出業に活躍す。

◇金貨メリヤス株式會社
本社 マニラ市トンド區アスカラガ街五二九

資本金六十萬比、同社は大阪の金貨メリヤス株式會社の傍系會社で第一、第二、第三工場を有し、綿製品製造、メリヤス類の製造及び販賣に活躍してゐる。

◇三井物產マニラ支店
マニラ市ナシヨナル街シテイ銀行ビル二階

一般輸出入貿易業及代理業、フイリツピンではイロイロ市、ダバオ市等各主要地に出張所を置いてゐる。

◇三菱商事マニラ支店
マニラ市ナシヨナル街シテイ銀行ビル四階

一般輸出入貿易業、フイリツピンにも出張所を置き、日・比貿易に發展してゐる。我國では三井物產と共に代表的のもの。

◇南ミンダナオ興業株式會社
ダバオ州ダバオ市ローヤン

資本金一五萬比、同社はダバオに於

てマニラ麻の栽培に活躍してゐる一方食料品の販賣も經營し、發展を遂げてゐる。

◇南ダバオ興業株式會社
本社 ダバオ州タゴン郡ラサン

資本金二十萬比、ダバオ州ラサンに於てマニラ麻農場を經營、麻の生產に發展してゐる、創立以來三十年餘、社長は赤峰三郎氏。

◇株式會社 森自轉車商會
マニラ市サンタクロス區リサール街七一三

資本金三十萬比、同社は自轉車及附屬品直輸入製造販賣に當り製作工場をリサール州サンフアン・エスパニヤ街に置き活躍す、支店セブ市、マガリアネス街。

◇ピソ農牧株式會社
ダバオ州ピソ

資本金十七萬五千比、實際投資額は數十萬比と云はれてゐる。椰子株數十萬本、コプラ生產高七千ピクル、牧場を經營、牛をやつてゐる。

◇バト拓殖株式會社
ダバオ州バト

同社はダバオ州バトに於て麻栽培に活躍する一方、牧畜業にも進出し又椰子の植栽にも進出する等多角的農牧業として發展してゐる。

◇松岡興業株式會社
ダバオ州タゴン郡ラサン

資本金三十萬比、麻及椰子栽培、耕地面積約一千町歩を有し、麻六百町歩、椰子二百町歩、生產麻月一千ピクル、コプラ年產千五百ピクル。

◇サンポアンガ殖產株式會社
比律賓サンポアンガ州パシラン島

資本金六十八萬比、椰子栽培に發展する一方、護謨園を經營し、又牧畜にも進出し、食牛を放牧して獨自の方面に進出發展してゐる。

◇タゴン商事株式會社
ダバオ州タゴン郡ラサン

資本金二十五萬比、三井物產系、ミンダナオ島ダバオ州タグモに約八萬五千町歩の伐採權を持ちラワン材等の製材に活躍してゐる。

◇テブンコ木材株式會社
ダバオ州テブンコ

資本金十六萬比、同社は古河拓殖系の會社にして、四十萬比を投じて森林區と製材工場間輸送鐵道二五キロを敷き一萬町歩に亘る伐採權をもつて、伐木、搬出、製材に活躍してゐる。

◇比律賓木材輸出株式會社
本社 神戸市神戸區明石町明海ビル

支店をマニラ市ダスマリニヤス街六六五番地、セブ市マルテイレス街一五番地、ルソン島カシグランに直營山林事務所製材所を置き伐採に活躍し、フイリツピン木材の內地輸出に發展中。

◇スマギ木材株式會社
本社 マニラ市エスコルタ街レヒナビル

フイリツピン、ミンドロ島スマギを事業地として活躍、製材所を有し、丸太材、製材事業に飛躍的發展を示してゐる。

◇日比企業株式會社
本社 大阪市大正區小林町一一〇

木材輸出業、支店をマニラ市エスコルタ街サマニリオビル三階三二九號自營事業地をクヤバス州ボリリヨに置き林業に雄飛してゐる。

佛領印度支那篇

位置・面積

佛領印度支那は亞細亞大陸の南端、北緯八度から二二度東經九八度から一七〇度に亙つてゐる。北は廣東、廣西、雲南の支那諸省と、西はビルマ、タイと境を接し、南西はシヤム灣に、東は支那海に臨み、この印度支那半島の東半を占めてゐる。

總面積は七十四萬四百平方キロであつたが、昭和十六年にタイ國との失地回復紛爭が起き、戰火を交へたが、我が帝國の調停により、かつて佛印がタイ國より侵略したラオス及カンボヂヤの兩地區より六萬九千四百四十平方キロをタイ國に返還した結果、現在は六十七萬九百八十平方キロとなつた。丁度我國の總面積（朝鮮、臺灣、樺太を含む）と稍等しい。

領土は東京（首都河內）、ラオス（首都ルアンプラバン）、カンボヂヤ（首都プノンペン）、安南（首都順化）、交趾支那（首都西貢）の五地區よりなつてゐて、その中純然たる佛國の領土は交趾支那だけで、他の四土侯國は佛國の保護國となつてゐる。

地域別にその面積とその人口を示せば（一九四〇年）

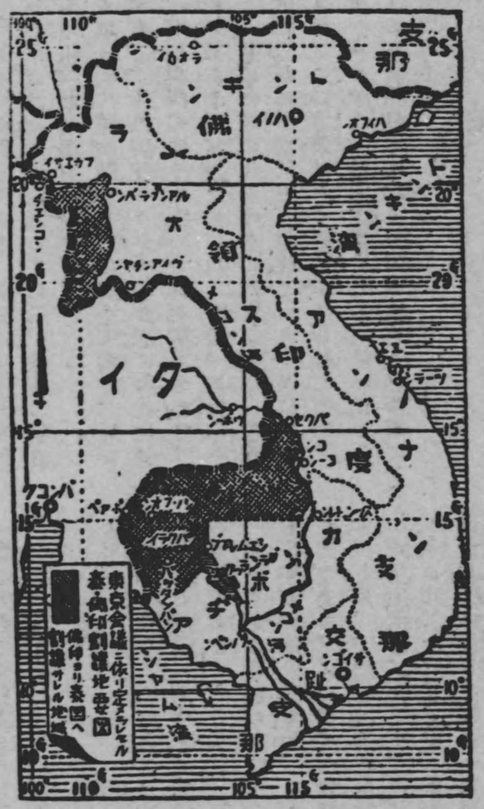
	面積	人口
安南	一四七、六〇〇平方粁	五、六五六、〇〇〇人
東京	一一五、七〇〇平方粁	八、七〇〇、〇〇〇人
東埔塞	一八一、〇〇〇平方粁	三、〇四六、〇〇〇人
老撾	二三一、〇〇〇平方粁	一、〇一二、〇〇〇人
交趾支那	六四、七〇〇方平粁	四、六一六、〇〇〇人

佛國は總督を任命して統治に當らしめ、その下に交趾支那には植民地政廳を置き、他の東京、安南、東埔塞、及老撾にはそれぞれ理事廳を置き、前者は植民地長官これを統轄し、後者は各理事官が駐在して土侯の政治を指導し二重政治を行つてゐる。

文化方面より見れば、交趾支那、カンボヂヤは概して印度文化の影響を受けてゐるに反して、安南、東京、ラオスは著しく支那の影響を受けてゐる。即ち文字の如きも共通であり、服裝も頗る近似し、風俗習慣も支那の延長と見ることが出來る。これらは地理的關係から往時より支那とは密接な交渉が續けられて來たに起因する。

地勢・人口

地勢は西藏より南走する分嶺たる安南山脈が東京の西部からラオス、更に南下して安南を縱貫し交趾支那の境に盡き、安南の南部に於ては海岸に逼つて斷崖絕壁となり、また峻嶮な岬角や島嶼を現出させてゐる。河川の主なるはリージュ河、紅河、クレーク河、タイピン河、メコン河等で舟楫の便よく、リージュ河は東京平野を潤し、メコン河はラオス、カンボヂヤ、交趾支那の大平原を灌漑し、その流域は廣漠たる肥田を造り、佛印の米產はこれによつて榮えてゐる。



人口は二千三百萬人で、その中、安南人が一千六百六十八萬人で第一を占め、カンボヂヤ人が二百九十二萬五千人タイ人が百萬人でその他はインドネシア人、ムオン、マン、モイ、馬來、チヤム等である。

人口密度は全體を通じて、一平方粁當り三十一人で、地方別にすると、安南三八人、カンボヂヤ一七人、東京七五人、交趾支那七一人で、メコン河、紅河、流域地方が最も稠密してゐる。

一九三八年調査によれば、フランス人は三萬七千人、支那人が三十二萬六千人、我が邦人は僅か二百二十三人に過ぎない。支那人は東印度及マレー地方はその數各々百萬を越ゆるも佛印には近接にあり乍らもその數少なきは、佛印が從來他國人には各方面に排他的政策を行つてゐる結果による。

風俗・言語

佛印は風俗を異にする多數異種族を抱擁してゐることでは世界でも餘り類例の尠ない位であるが、中に全人口の約七割を占めるは安南人であり、次いで一割五分はカンボヂヤ人であるから佛印を語るに安南人とカンボヂヤ人を以つて致す結果となる。その他タイ族、チヤム族、ミュオン族

マン、メオその他の未開種族等の少數族であり、その風俗や言語、宗教も色々異つてゐる。

安南人は男女ともダブ〳〵の洋袴の上に、袖の細い上衣を着け、髪は束にして頭上に巻き、それに鉢巻やうに布を巻いて、耳飾りや頭飾りをつけ、竹製の陣笠の様な型の笠を被つてゐる。一般に快活勤勉であり、言語は安南語を使用して居り、食物は大體支那に似通つてゐる、住家は掘立小屋に等しい至極粗末な建築が一般である。

カンボヂヤ人は一般に體格優れ、肩巾廣く丈高く、男女共に散髪の風がある。男は猿股やうのものの上に腰巻に似たものを巻き、女は肩掛のやうなもので胸を掩ふてゐる。家屋は極めて粗末であり、食物は米、魚、野菜、果物等を常食としてゐる。食事に箸の代りに右手の指を使ひ、食後指と口を洗ふ常習である。快活で忍耐強く一夫一婦制を嚴守してゐる。言語はこの方面はタイ語が用ひられてゐる。

タイ族は大體カンボヂヤ人と殆んど變りなく、その他の少數族はそれ〳〵の地に散住して居り風俗習慣等も多少異にしてゐる。

宗教

世界的に名高いアンコールワットが佛印にあるといふ事でも知れる通り、大體に於て佛教國であるが、地方によつて厚薄の差がある。安南人の知識階級は儒教の感化が濃厚であるが一般は祖先尊敬の風が盛んであり、また自然物崇拜の觀念が相當深く、殊に虎の崇拜は最も廣く行はれてゐる。カンボヂヤ人は佛教が主であつて、男は學校卒業後約三ケ月間は僧侶を修業するの風がある。その他バラモン教の名殘りが王廷内に今でも窺はれる。タイ族の宗教は主に佛教で、ラオティアン族は全部佛教に凝り固つてゐる。チヤム族は安南に住む者とカンボヂヤに住むものとによつて信仰を異にし前者はバラモン教、後者は佛教を奉じてゐる。

氣候

佛印の氣候は各地方によつて異つてゐるが、大別すれば北部は亞熱帶、南半部は熱帶であるが總體的に見れば熱帶の氣候である。

交趾支那は夏冬の差は殆んどなく、謂ゆる常夏の國である。年平均攝氏二十七度で最高溫度は三十四、五度に昇ることがある。カンボヂヤは交趾支那とほぼ同様で平均二十六、七度、安南は地勢が南北に長大である關係上北部のタンホア附近は二十三度、中部の順化は二十五度、南部ナントランは二十六、七度で、南北の差が三度以上である。東京は最北部に位する關係上氣溫は最も低く、乾燥期には十度から八度位まで低下することも珍らしくない。ラオスはその地形なりに安南に準じてゐる。

濕度は一般に高く、その中でも一番高いのは東京、デルタ地方及北部地方である。雨量は交趾支那及びカンボヂヤは毎年雨期が一定し、五月—十月の期間は可成り雨量を見

るけれども、その他の季節は少ない。東京地方は雨期だけでなく、乾期に入つても相當の降雨があり、安南もまた雨多く溫度の高いのはこの爲めであるが南方に行くに從つて少量となる。

主要産業事情

概說

佛印は亞細亞の南部に於いて最も物資の豐富な國であつて、フランスの數多い植民地中、東洋の「眞珠の國」として最大の寶庫とされてゐる。

氣候暖濕に惠まれ、地味到る處豐饒にて知られ、農業の天惠的樂土にして佛印の産業の大宗は農業によつて占められ、米産を第一に護謨、玉蜀黍等の産額も極めて多く輸出の大半は農産物を以つてしてゐる。

一方地下に眠れる鑛業資源は石炭、錫、鐵鑛、亞鉛、タングステン、マンガン、クローム等の多數の重要資源を藏してゐる。而して佛印の産物を消化し得る國は東洋に關する限り、日本を除いてはない、ここに大東亞共榮圈の一環として將來發展すべき素地がある。

一方我國からは、陶器、ガラス器具、雜貨、綿糸布が入つてゐるが、從來より佛印は佛國により排他的政策をとられ、佛印は佛本國の原料供給地となり、フランス製品の販賣市場として存在され、佛印住民はフランス本國の利益のためにのみ生産せられ、然して日本製品には最高關稅をかけて輸入を防止し、遙々一萬マイルも離れたフランスから粗惡なる品を高價に販賣される消費市場となつてゐた。

これは資源開發の場合も同樣な政策をとられ、産業開發のためには全然鎖國的政策により外國資本を歡迎しない。その結果外國人が佛印で各種企業を試みる時、法規上差支へなき場合でも事實上種々なる困難に遭遇する事が多かりしため總ては佛國の手による外なく、全産業は沈滯され、未だこの寶庫にして農業を除いては見るべきものなき狀態におかれてゐる。

鑛業や護謨園を經營する場合も、個人は佛人又は佛印人に限られ、法人なる場合は本社を佛本國又はその植民地に置き、重役の四分の三は佛國人又は植民地、若くは保護國人たることを必要としてゐるから、外國人はこの規定によつて先方人と合同の上でなくては、これらに從事することが全然出來なかつた。

以上の如く商業では高率關稅をかけられ、一方産業進出も亦禁止狀態にあるから、從來より邦人の發展は遲々として進まず、一部貿易銀行商社員や船會社、官吏と少數のその他居住者で昭和十五年度の在住邦人は僅か三百名内外に

過ぎない狀態にあつた。

以上の如く政治的にも經濟的にも鎖國の鐵鎖につながれてゐた。されば佛印の產業は停滯的な畸形的な發展を餘儀なくされ、今日に至るも「磨かれざる眞珠」として止り、フランス本國の利益を中心とする產業、貿易政策に支配され專ら原料と食料の供給地で本國商品の市場としての役割を强制されて人爲的に諸工業の發展は阻止されて來た。

しかし世界の秩序は今、新たなる變革期に入つてドイツに完全に屈服した佛本國の經濟力、殊に生產力が果して、從來通り佛印を自己の獨占市場として行く事が出來るであらうか、經濟的鐵鎖は佛國自身の誤まれる國策によつて自から解かれなければならぬ時代が來た。

今また、東亞に新しき世紀を劃する大東亞戰の勃發により佛印の獨善的政策はその根底から立て直しの必要を決定的ならしめた。佛をして東亞の指導國家たる我帝國の援助なくしてその存立は不可能なるに目醒め、遂に昭和十六年に我國と共同防衛條約を結び、更に十七年七月日佛印の經濟提携協定の成立を見るに至り、ここに二世紀に亙り鎖國の佛印は、東亞の佛印として甦生し、邦人の進出を呼ぶ共榮圈の一翼として今や新たなる發足を示すに至つた。

農業

佛印は農業國であり、產業の大宗は農業が占めてゐる。輸出貿易の約四分の三は農產物である。その中でも最も重要なものは米で輸出の過半を占め、次いで玉蜀黍、ゴム、コプラ、落花生、篦麻子、胡麻、カポック、胡椒等である。

「米」はメコン河流域のカンボヂヤ平原と、交趾支那の平原、特に河口のデルタ地帶と安南の高臺からトンキンのソンコイ河流域の平原までは總て米作好適地であり、前者は西貢米、後者はトンキン米と呼ばれて名高い。

トンキン地方は二回作、中に三回作もある。各地方別面積及產額を示せば

地名	作付面積（千ヘクター）	年產額（千キンタル）
交趾支那	二、〇六四	二一、一一六
トンキン	一、二一三	一四、二二四
安南	九三二	九、二〇〇
カンボヂア	七一〇	五、〇七〇
ラオス	四一三	三、二六〇
合計	五、三三七	五二、八七〇

「護謨」は一八九八年初めて佛人により移植されたものでその栽培は最初から近代的農業として發展し、一九〇六年頃から急速なる發展を示し、一九二九年には七萬八千六百ヘクターに增加した。一九三〇年世界的恐慌の打擊を受け一萬三千五百ヘクターに激減したが、その後奬勵金下附、輸出保護法の制定により恢復し、一九三七年には十二萬七千ヘクターに增加した。主なる生產地は交趾支那で東北部カンボヂヤの東南部及安南の南部で栽培面積の七七・四%は交趾支那で占めてゐる。

「玉蜀黍」は米と共に佛印住民の主要食物であり、また輸出も米に次いでゐる主要產物で、カンボヂヤ、メコン河沿岸が主なる產地で近年は品種の改良その他で政府の增產政策により著しくその產額は增加されてゐる。

鑛業

農業に次ぐ重要產業は鑛業である。採掘はフランス侵入以前より安南人及支那人により行はれてゐたが、近代的企業として發展したのは佛國資本の企業によるものである。

鑛產資源としては石炭を第一とし、次いで錫、亞鉛、鉛、鐵、銅、マンガン、アンチモニー、金、銀、タングステン、燐鑛等で、豐富な埋藏量を有してゐるが石油は未だ現はれてゐない。埋藏量も未だ正確を缺き、今後の調査に俟つものが多いが相當尨大なるものと云はれてゐる。

現在の主要鑛產物の生產高は、石炭の二百二十萬噸（中六割はいはゆるホンゲー無煙炭）錫の二千五百噸、亞鉛の一萬二千噸、タングステン四百噸、鐵鑛の一萬噸、マンガンの三千五百噸、アンチモニー一千噸、燐礦一萬噸、その他硅砂、鉛、金、銀等である。

佛印の鑛產物は殆んど東京地方より產出され、ラオスの錫はこれに次ぐ、その他の地方は地質の關係或ひは運輸交通の不便等により、未だ開發されてゐない。

佛印の鑛業は從來外國資本の企業を制限してゐた結果、その殆んどは佛國資本によつて行はれてゐた。

昭和十六年日佛印經濟協定の成立以來我が資本の進出が開始され、印度支那鑛業會社（臺灣拓殖の小會社）資本金十萬ピアストル、鐵鑛資源開發を目的として昭和十三年設立。印度支那鑛業會社（臺拓小會社）資本金百萬ピアストルがタングエンで鐵鑛をはじめ種々なる非金屬の開發を目的として昭和十六年設立、更に同社の投資によりコディンのニツケル、クローム會社は一九二七年一千萬フランの資本金をもつて設立されたが、一九三〇年以來經營不能となり爾來十ケ年間休業となつてゐたが、今回我が資本により復活され採掘を開始するに至つた。

その他老海地方の尨大なる燐礦開發に印度支那燐礦開發業は漸く資本金百萬圓が燐礦開發に乘り出す等、佛印の鑛株式會社開發の緒についた。

林業

佛印の總面積の五割七分即ち四千三百四十萬ヘクターは森林である。佛印の氣候は熱帶濕潤の氣溫にして植物の成長極めて早く、自然的好條件に惠まれて、到る處未だ大森林を形成して居り、ラオス、カンボヂヤ、安南、トンキンの山岳地帶は原始林に覆はれ、特にラオスは二千四十萬ヘクターの森林面積を占め、森林の海と稱されてゐる。材種は建築用材として適するものだけでも約八百種に達し、特にチーク、リム、トラク等が重要なものである。一九三五年の調査統計によれば總面積七千四百四萬ヘクター中、森

林面積は四千二百四十萬ヘクター、保護林區面積二百八十八萬ヘクター、伐採面積四十八萬九千ヘクターで森林收入二百七萬三千ピアストルであつた。

林産物としては建築材五十一萬七千立方米、燃料材百三十六萬六千ステル、木材四千七百四トンであつた。

水産業

佛印の海岸線はその延長二千七百粁に及び、海産物は甚だ豊富である。漁撈方法は未だ幼稚の域を脫してゐないが、漁獲高は相當の額に達し現在既に輸出品中の主要なものの一つとなつてゐる。これ地理的に恵まれ附近の魚族また豊富なる處からであらう。

漁業はトンキン灣、安南海岸一帶、及交趾支那海一帶で特にアロン灣附近に最も盛んである。交趾支那沿海は五月から九月まで南西の季節風の關係より漁業は殆んど不可能とされてゐるが、その他は好漁場と云はれてゐる。漁業は主として支那人の手により行はれてゐる。

漁獲物の大部分は鑵詰、鹽漬、燻製として輸出され、魚脂は近年化學工業用として需要激增されてゐる、その生産額二千五百トン、乾、鹽、燻魚、合計三萬五千トンをあげてゐる。

尙カンボヂヤの大湖は天然の養魚池ともいふべき魚族豊富で西貢から輸出される水産物は多くこの湖の淡水産物である。更にトンキン、安南、交趾支那の鹽田は天日製鹽が沿岸地方で營まれてゐる。

牧畜

植物の生育盛んなる地方は牧畜に適されてゐる事はいふまでもない。佛印の牧畜は未だ盛んなりとは云はれざるも牧畜は農家の副業として又役畜食用として飼育されてゐる最も盛んなるはカンボヂヤ地方である、種類は、水牛、黃牛、馬、豚、羊であつて最近佛印政府により畜産奬勵されつつあり、各地方とも近時、漸次その數を增加してゐるが未だその數は詳かでない。

工業

佛印の工業としては多少の纖維工業、製油、石鹼工業、煙草工業等があるが、極めて小規模で、特に工業として特筆するほどのものはない、たゞセメント工業が幾分發展されてゐて、トンキン地方に於て一〇萬トン程度の生産をあげてゐるのみである。

佛印は佛本國の原料地となり、佛本國の工業製品の販賣市場として育成されて來た佛印としては、その發展は殆んどなく、未だ家庭工業の域に停滯してゐる現狀に置かれてゐる。

資源豊富の佛印にして工業の發展策を講ずるならばその將來は實に洋々たるものがあらう。

貿易

貿易は高率關稅の障壁で嚴重な防衛をしてゐたから殆んど本國との取引が主になつてゐる。（單位百萬ピアストル）

	輸出	輸入
食料品	九四	一二
工業原料	三二	二一
精製品	四	五七
計	一三〇	九〇

（國別輸出入）輸出（百萬フラン）　輸入（同）

佛蘭西	四三二、七（三三%三）	四九九、九（五五%四）
香港	二二五、一（一七%三）	七一、九（八%）
支那	一九七、三（一五%二）	七〇、七（七%八）
蘭印	二八、五（二%二）	五四、四（六%）
日本	五四、〇（四%二）	二六、三（二%九）
米國	五五、八（四%三）	二一、一（二%三）

主要都市

西貢（サイゴン）は交趾支那の首都で、人口約十五萬、西貢河の右岸にあり、佛印第一の經濟都市であると共に重要な佛印の海軍根據地でもある。よく區劃された美しい都市で、總督及植民地長官の官邸、市立劇場、公會堂等の華麗な建築物や、紳商の住宅等近代樣式の建物が軒を並べ、綠蔭樂しい街路樹も調和よく、街全體が公園を想はしめてゐる。當港は印度支那第一の商港で、二萬噸級の巨船數十艘を同時に横付するだけの設備があり、繁盛を極め、西貢米の輸出港で、佛印南部地方の貨客の往來が盛んである。

堤岸（ショロン）　西貢から約五キロ、運河、電車、鐵道等により連絡されてゐる。堤岸は純然たる支那式の都市で人口約十五萬、ここは盤谷、蘭貢と共に世界三大米市場とこれを今度は各地域別に見ると、佛蘭西統治の樣式と、佛印の開發內容がよく判る。

	輸入	輸出（單位千フラン）
安南	三〇、七二三	二七、五〇四
カンボヂヤ	六、二五九	六、一五六
交趾支那	五五九、〇八五	一、〇四六、五〇五
ラオス	一二、六二三	一、四六八
トンキン	二九二、七一三	二一六、六五〇
計	九〇一、四〇三	一、二九八、二八三

從來は以上の如く佛國の經濟に緊縛されてゐたが第二次歐洲大戰で獨逸に屈服した佛國と佛印との聯絡は斷たれたここに佛印をして東亞共榮圈の一翼として立直らざるを得ない事態となり一九四一年佛印は我國と共同防衛條約を結び更に日・佛印經濟協定を締結、以來佛印貿易の大半は我國との間に行はれる樣になつた。

して著名であり、輸出米は西貢港を經由するため、西貢米と云はれてゐる。

プノムペン　西貢から西北三百キロ、人口八萬、カンボヂヤの首府で、五朝の宮殿があり、佛國理事館が駐在してゐる。國王の伽藍ワスプレア寺の名は世に著名にして、市の博物館には古代藝術の珍奇の數々が藏せられ、所々の寺院の勝景、壯麗な東埔塞王宮、古代劇場など遊子の足を止めさせてゐる。又當市は有名なアンコールの廢墟へ巡禮する人々の集まる地として知られてゐる。

海防（ハイフォン）　人口八萬、トンキン第一の商工業都市にして、東京米の輸出港として有名であり、また雲南鐵道により遠く支那雲南省をもその後背地としてゐる。市街は美しい歐人街と、古風な安南人の、支那街とに分れてゐて、各種製造工業が勃興されつつある。

河内（ハノイ）　人口十五萬、トンキンの首都で、その名の示す如く紅河の本支流に挾まれた市街、鬱蒼たる樹木に圍まれた大建築物の連なる歐人街と、安南人町とに分れてゐて、昔の王城や寺院、佛國極東學院やその附屬考古博物館等は有名なものであつて、フランス人はこの地を小巴里と呼んでゐる。尚我國とタイ國間の航空路の中繼地として知られてゐる。

順化（ユエ）　人口八萬、安南の首都で安南王の宮殿がある。昔ながらの風俗を殘してゐる。大安南山脈が市街を圍み一方にのみ海が開け、王城の地に相應しい地形を備へてゐる。市街は香河を挾み對岸には佛人街があり、佛國理事官がこの地に駐在してゐる。

佛印に於ける邦人の發展

發展の歴史

倭寇以來德川時代の鎖國まで佛領印度支那は日本人の活躍舞臺であつた。中でもカンボヂヤはその中心であつた。一六三七年（寛永十四年）和蘭人の記す所に依ると日本人八十戸カンボヂヤに在り、王室の護衞に任じ馬來人、支那人を長服せしめた、とあり。

一六〇〇年頃、和泉の國境に納屋助左衞門といふ商人があり、手廣く南洋貿易を營んで巨利を占めてゐたが、その生活豪奢を極めるに至つて遂に秀吉に家財を沒收され、彼は憮然として佛印に渡り、その地で貿易を營み後、港務官に任ぜられ、日本貿易の監督をしたといふ事も傳へられてゐる。

更に一六〇三年（慶長八年）カンボヂヤ國王書を幕府に寄せ鍮角八、鹿皮三百枚、孔雀一對を贈り、內亂鎭壓の爲め武器を求めたに對して家康は大刀二十把を送つた事が歴史に見えてゐる。

文祿元年には京都の人、角倉了意といふ者が秀吉に請ふて御朱印狀を得て安南貿易を營んで巨利を博した。これが寛永の國外渡航禁止令の出る迄五十年間續いた。當時角倉

氏の船に書記として乘組んでゐた德兵衞といふ少年があつた、彼はその後一六三〇年オランダ人ヤンヨウスの船に乘つてシヤム、安南の地方を巡遊して歸つた。當時この地方を我國では唐、天竺といつてゐたので、屋號を天竺屋と稱し、「天竺屋德兵衞物語」を著して長崎奉行に獻上した。

この外、近江の安南屋太郎右衞門、長崎の荒木宗太郎、伊勢の角屋七郎兵衞等が盛んに安南交易に活躍して名を爲した。當時安南には日本人街さへ出來てゐた。

然るに德川幕府はキリスト敎を怖れて鎖國令を出し、一切日本人の海外發展を禁じ、あまつさへ海外にある日本人の歸國をも禁じた結果日本人の跡を絶つて仕舞つた。

在留邦人の現況

佛印へ再び日本人の渡航を始めたのは明治四十年代から大正の初期にかけてであつた。華僑の優勢と民度の低位、加ふるに政府の排外的政策のために極く最近までは大した發展の跡を示してゐない。而して佛印に在住する邦人は大正四年の七百五十六人を最盛期として年々減少の途を辿り明治十一年度は僅か二百五十二人、昭和十三年度には二百二十三人であつた。

邦人は主として貿易商社や船舶關係者、個人商店等でその家族を含めた數としては、極めて不振の狀態におかれてゐた。

日支事變が開始されるや、援蔣ルートとして反日的色彩が濃厚であつた佛印も、第二次歐洲大戰により佛本國がドイツへ屈服する處となり、一方南支より援蔣ルート遮斷のため北部佛印に皇軍が進駐し、更に昭和十六年日佛共同防衞條約により南部進駐となり、次いで日佛印經濟協定成立等により佛印もその性格を一變し日、佛印の居住航海條約は日、佛印相互間に於て入國、居住、動産、不動産の所有及使用、商工業の經營、各種租稅の賦課、日、佛双方の會社の待遇に關しては主として內國待遇、若しくは最惠國待遇を與へる事となり、又關稅に關しては相互最惠國待遇を約する外、佛印の主要日本品に對する關稅免除（食糧、その他必要品四十數點）、又現行低稅率の輕減（綿布、雜貨類百三十點）を認め、その他日本品は最低稅とする事が決定され、航海、居住に關しては、先方人と同等の立場におかされるに至つた。

佛印も東亞共榮圈の一翼として新たなる發足を迎へ、友邦日本の協力と資源開發の待望により最近邦人の進出は飛躍的增加を示し、商業に鑛業へと邦資の進出も一段と明朗化されてゐる。在留邦人も現在推定一千五百と云はれる躍進ぶりを示してゐる。

邦人團體名簿

海防（ハイフォン）日本人會　海防ハウルビル四號保田洋行氣付　横山　正治
河内（ハノイ）日本人會　河内日本領事館氣付　吉井　昌平

西貢（サイゴン）日本人會　西貢テスタード路二四號　村上　竹松
西貢日本人商業會議所　西貢ジョージゲイネマー路九號　東地　正一

進出する邦人事業會社

◇佛領印度支那鑛業株式會社

本社　河内市ジャロン街

資本金壹百萬圓、昭和十六年度設立同社は臺灣拓殖の小會社にして邦系の佛印鑛業進出の先陣としてハノイ北方七〇キロの地にあるタングエン鐵鑛の採掘に躍進を續けてゐる。

◇印度支那ニッケル鑛業株式會社

事業地　安南州コデイン

資本金百萬圓、昭和十六年度設立、一千フランの資本をもつて建立されたが技術的問題より經營不能となり爾來十ケ年間も休業中の處、今度日本技術をもつて採掘開始するに至つたもの、特色は砂鑛クロームで、埋藏量數百萬トン、數十年間內地の需要を充すに足ると云はれてゐる。

◇印度支那產業株式會社

本社　河内市ジャロン街

資本金十萬ピアストル、臺灣拓殖小會社、昭和十三年度設立にして、同社はハノイ北方七五キロの地にある太原の諸地方にて鐵鑛、マンガン等の採掘に發展してゐる。

◇臺灣拓殖株式會社

本社　臺灣臺北榮町三ノ一

資本金千三萬圓、同社は佛印の鑛業界に進出して居り、印度支那鑛業、印度支那產業等の小會社を設けて、鐵、マンガン、その他鑛業資源の開發に當り、佛印に於ける邦系企業の魁けをなして發展してゐる。

◇南洋拓殖株式會社

南洋群島パラオ・コロール

資本金二千萬圓、內南洋の開發に雄飛してゐる一方、佛印にも進路を開きマンガン、燐礦等の採掘に進出を示してゐる。又東印度にも雄飛の準備を示す等同社の今後の動向は大いに注目されてゐる。

內地の事務所は（東京市麹町區丸ノ內一ノ八興銀ビル）

◇三井物產株式會社

東京市日本橋區室町二ノ一

支店を西貢に置く、我が對外貿易商社として、その雄を誇るもので、早くより佛印にも進出し、日、佛印貿易に活躍、一方鑛業方面にも進出を示してゐる。

◇三菱商事株式會社

東京市麹町區丸ノ內二ノ二〇

資本金三千萬圓、支店を西貢に置く、三井と並んで海外貿易に活躍す。佛印が排他的政策にあつた當時より、よく佛印に地盤を築き硅砂の採取及日、佛印貿易に活躍した大會社。

◇三興株式會社

大阪市東區北濱五ノ三五

資本金三千六百萬圓、同社は伊藤商事、株式會社丸紅商店、同岸本商店の同族會社を合併したもので支店を西貢に置き、綿糸布、邦品雜貨等の輸出及佛印物產の輸入に活躍してゐる。

◇大南公司

佛領印度支那、安趾支那、西貢

同社は現地に於ける雜貨商としては代表的のもので、綿糸布、邦品雜貨の輸入販賣に發展してゐる。河內に支店を置いて活躍してゐる。

◇保田洋行

海防ハウルビル四號

同洋行も現地に於ける邦人商店としては著名なもので。邦品雜貨の輸入販賣商として一般の信認も厚く堅實なる發展ぶりを示してゐる。

タイ國篇

起ち上るタイ

今より八十年程前、ヨーロッパで發行された世界地圖を見ると、東南アジアの一隅に英佛の植民地に挾まれながらも、獨りよく、白象の旗の下に獨立してゐるシャムといふ國がある。そして廣い國土に人口僅か五百萬を超えず、象の國で、產業は見るべきものなしと記されてゐる。

この時代のシャムは西歐の人々の注意を惹く樣な政治的經濟的な何物もなかつた、ただ東洋旅行者により東南アジアにおける自由の聖地として、その熱帶美と藝術的香りの高い高層な佛教寺院とが僅かに印象づけられてゐるに過ぎなかつた。

而して目ま苦しく回轉する世界歷史から取り殘され、久しく桃源の夢を貪つてゐたシャムが一九三二年六月、一靑年士官であつたピア・パホンの指導する歷史的クーデターによつて永き眠りより目覺めた。クーデターの目的は當時王宮內に政治的實權を左右してゐた外人勢力と歪曲された政治家の打倒で祖國の自由と愛國の本能に導かれ國家の興隆と國民の幸福を目標とする立憲君主政權樹立にあつた。

以來卓越せる手腕を有するこれら指導者により國內の諸制度の改革を圖ると共に、一方漸く近代的國家意識に目覺めた國民の祖國の再建といふ大旆下に團結し、着々堅實な步みを進めてきた。その後、幾年かの變遷を經、一九三九年六月革命七年記念を契機としてタイ（自由と幸福の國）と國名を變更し、東洋においては日本に次ぐ强國たらん事を目指して新興の意氣に燃え、躍進を續けてゐる。

最近に至つては、かつてフランスに侵略された國土の返還を要求して起ち、佛印と交戰し、而して英、米の策動を排して我が日本の調停を受け、東京會談により佛印より六萬九千四百二十平方キロの返還を受け國土を擴張した。

又今次大東亞戰爭勃發するや、英、米の壓迫を敢然と退け我國と攻守同盟を結び、アジア人のアジア建設大理想實現のため皇軍と共に勇敢に戰つてゐる。

位置・面積・人口

タイ國は北緯二〇度、東經九七度より一一五度の間に位

し、その面積五十八萬二千八百六十七平方キロで、わが國の二倍に稍等しく、人口は一千六百五十萬で、その密度は僅か二七人に過ぎない。假りにタイが日本の現狀と同じ國力に到達したならば、優に一億の人口を抱擁し得るであらう。

地勢は北から南へ傾き、北方と東西兩方の國境は、山岳重疊し、深山幽谷に富める高原地帶で、南下するに從つて山は漸く低く、溪は次第に廣がり遂に南部一帶は一望千里の大平原を展開し、メナムの大河はその中央を貫流し、大小の枝流と共に國の大動脈を爲してゐる。又その東には流域百六十哩のパンパコン河、西に二百六十哩のメクロン河が共にタイ灣に注いでゐる。

タイの氣候は乾雨の兩期にわかれ、乾期卽ち十一月より四月にわたり、この間降雨を見ないが、雨期には每日一時間乃至二時間位、沛然たるスコールを見る。氣候は四月が暑さの絶頂で日中室內華氏九十二度—九十五、六度に昇るが、空氣が乾燥してゐるから我が國の東京より凌ぎ易く、しかも夜になると凉氣訪れ空には南十字星が鮮かに輝き熱帶特有の淸凉な氣溫となる。一年を通じて理想的季節は十二月頃で朝夕六十二、三度—四、五度に低下し我が國の春を偲ばせる。

信仰と風習

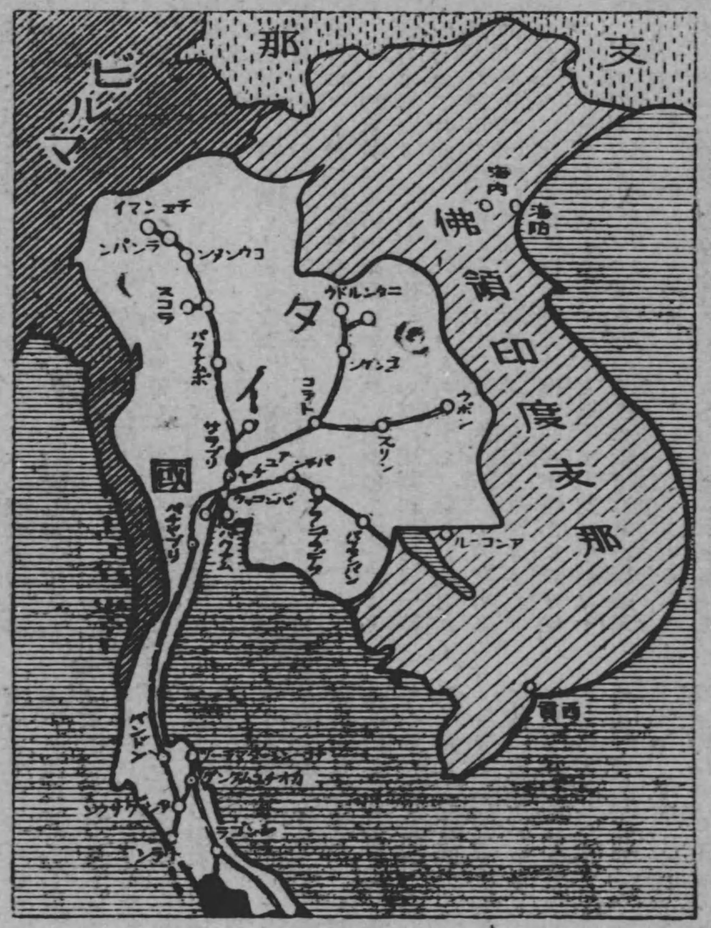
國民は一般に從順の美風を有し、自國を呼ぶにムアンタイ（自由の國）といひ、佛教はその國の敎へであつて、國王は「法の守護者」をもつて任ぜられ、國民の大多數は佛教信者である。

一名黃衣國とも云はれてゐるが、それは僧侶の着けてゐる黃衣を意味するので知られる樣に、都會は勿論、如何なる僻村に行つても立派な寺があり、僧侶が澤山ゐる。この國では一生涯中男子は必ず僧侶となつて修行せねばならぬ習慣がある。短かい人で二、三ケ月、長いものは一、二年に亙るものがある。タイ國の寺院數は一萬六千、僧侶の數は十三萬であるが、これは專門の僧侶の數でこれに修行のものを加へたら莫大な數に上るであらう。上は王族から下は農夫に至るまで、佛教に對する信仰が極めて厚く、僧侶は一般から非常に尊敬されてゐる。從つてタイの風俗、祝祭年中行事は殆んど皆、佛教に基いてをり又美術工藝も佛教を外にしては存しない。

タイ人の階級は六等に分れてをり、主として官吏や軍人に與へられるけれども、それ以外でも特に國家に功勞のあつたものに與へられる、軍人は容易にこれを得られるため都會の靑年達は何れも官吏軍人を希望する、國民の大多數は農民であるからタイの社會は貴族及官吏、軍人と農民とに分れ、前者は比較的文化生活を營んでゐるが、後者は陋屋に住み、粗衣を纏つてゐる。商人は支那人、印度人等が多い。

タイ國人は、かつてはタイ人特有の原始的パノングを腰

から下に纏ひ、又女子に斷髪の風習があつたが、熱烈たるタイ新國家建設の指導者ピブン首相は新國民運動を提唱し女子の斷髪を禁止し、一方歩行に跣足の生活を禁止する等新興國家として國民の品位向上に努め、新興國として躍進してゐる。



「言語」　泰國には泰國語があり一般の商用語として專ら國内で使用されてゐる。上流社會にては英語が通ずる。

財政・軍備

タイ國の財政は一九三二年革命政府樹立當時は不振のどん底にあつたが、漸次新政府の基礎が强固となるにつれ、鮮かな赤字財政を克服し、健全財政に立直つた。

この國の政治的動向は軍備を中心として動き、かつて常備軍が一萬であつたものが、現在數萬といはれ、また機械化部隊の性能も極めて優秀で、その裝備はドイツ、チエツコその他の國より購入せる近代科學の精粋を誇り得るものが使用されてゐる。

海軍は革命前僅か十五隻の舊式軍艦によつて編成されてゐたが、最近に於いてイタリヤ建造の五千噸級巡洋艦二隻を主力として、その他建造計畫のものまで含めて五十隻を越えんとし將來アジアに於て日本に次ぐ海軍國としての發展を期してゐる。

空軍は最近獨立軍團となり、その所有機は四百機を超へチーマン爆撃機、ヴレタ戰闘機などの優秀機である。

タイは青少年の愛國思想普及を計りつつあり、現在十一歳以上の青少年によつてユワチョン（少年團）が組織され義務的の軍事教育が施されてゐる。

主要産業事情

農業

泰國は「米の國」といはれてゐる國で、米は泰國の國民經濟の根幹をなしてゐる。メナム流域の沃野を初めとして幾多の平野は米田として耕され、その總面積は二千萬乃至二千百萬ライ（一ライは千六百平方米、我が一段六畝四分）に上り、全耕地面積の九割八分に達してゐて、米作に從事する農民は、全人口の八割を超えてゐる。その年産額は四百五十萬トン内外にして、その三分の二は國内の消費に充てられ、殘りの三分の一が輸出されてゐる。泰國は佛領印度支那及ビルマと並んで世界に於ける三大輸出國となつてゐて、一九三九年に於けるタイ米の輸出額は百八十六萬餘トン（一トン約七石）に達し、一億六百萬銖であつた。

ユワチョン運動の目的はタイは英佛の壓力によつて國境軍備が著るしく制限されてゐたためその對策として非常時國防に任ずべく組織されたもので、これと同時にユワナリスといふ日本の女子青年團の如きものがあつて、ユワチョン少年團員は「タイの夜明の時が來た、祖國旗の下我等の戰ふところ、斷じて守らん、若きタイの國土を」國歌を高唱し、ユワナリスの團員は「我等の傷つく勇士のために」の歌を聲高らかに歌つてゐる。

農業

これに次ぐものは護謨、ココ椰子、棉花、胡椒、煙草、豆類、胡麻等で、護謨、椰子、胡椒は南部半島地方に盛んで、煙草及豆類は北部地方、棉花は中部スワンカロツク地方から生産されてゐる。

この外熱帶特有の幸ともいふべき、ドリアン、マンゴスチン、マンゴー等の果物があり、マンゴスチンは果物の女王と稱されてゐる。

林業

タイは世界有數の森林國で、少くとも總面積の七割を占め、その殆んどは千古斧鉞の原始林である。林業資源はタイでは米に次ぐ重要資源であつて、同國經濟に重要なる位置を占めてゐる。しかもチークに至つては世界最大の供給

地として知られてゐる。

この國産出のチーク材は他國産に比し、木質特に堅く、水に對する抵抗力が強い上に、金屬と接觸するも容易に腐蝕しない特色をもつてゐると云はれ、世界市場に獨特の地位を占めてゐる。從つて船材として最も好適されてゐる。一方建築用材としても優秀といはれてゐる。第一次大戰當時の好況時代には一ケ年輸出一千二百萬銖に上つたが、その需要不振となり居れるも近年漸次恢復し一九三九年度の輸出高七百三十六萬銖に達した、この他香木、染料、テレビン油、松脂、ステークラック等が林産物として主要なものである。

鑛業

泰國の鑛業資源としては、金、錫、銅、鉛、アンチモニー鑛、石炭、タングステン、モリブデン、石油。寶石ではルビー、サファイア等が埋藏されてゐるが、從來この國は英佛の二國が深い關係を持つてゐて、英佛二國の資本によるものの外企業が許可されず、又泰國自身も開發を諸種の事情で行つてゐなかつたもので從つてその殆んどは眠れる資源となつてゐる。

企業化されてゐるのは錫のみで、これは主として南部方面にあり、その埋藏量は無盡藏と稱されてゐるが、國際錫制限協定に參加してゐた關係上その採掘量は一ケ年二百萬トン內外であつた。

その外小規模ゞが企業化された金鑛が南部トモ地方にある。含有量は一トンにつき五〇瓦を示し、有望なる將來性が傳へられてゐるが、現在フランス人によつて經營されてゐる、將來特許期限が滿了の場合これを國營に移されるものと推察されてゐる。

水產業

將來有望なる產業としては水產業である。海は淺く、河川は網の目の如く、その上魚類の食餌である浮游生物が豐富なので、魚類の繁殖生育に好條件を備へてゐる。

主なる魚族は鮫、鯊、鯉、鯛、鰯、カニ、エビ、青刀魚、鰻、その他の鮫類等で、漁業者は主としてマレー人、支那人、安南人である。マレー半島の東西兩沿岸、中央部沿岸、東海沿岸の三區域を主要な漁場としてゐる。特異の水產物としては鰐と海龜がある。

淡水漁業はメナム大河を初め、メクロン河、パンパコン河、その他の河川沼澤に鯉、鮫、蝦、鰻、スッポンその他の魚族豐富にして、住民の日常の副食物となつてゐる。その漁撈法は極めて原始的で、組織的企業はないが、それでも以上の沿岸漁業と淡水漁業を合して漁獲は國內需要を充して尙年額三百萬銖からを南洋諸島に輸出してゐる。

畜產

泰國の畜產業は、氣候風土と四期植物の繁殖により相當

の發展を示してゐる。種類としては農耕牧畜として水牛、黃牛が斷然多く、馬がこれにつぎ、又豚は食用に供する外輸出に向けてゐる。又象は運搬用に飼育されて珍重されてゐる。

水牛は家畜の筆頭にして米作轉耕や脫穀に使用される處から農家では二、三頭がら數頭は飼育して居り、五百五十萬頭といはれてゐる。

黃牛は役畜でもあるが、又食用としても重きを置かれて居り、高原地方では輸送用にこれを使役して居り、五百五六十萬頭を數へ、輸出家畜として豚に次ぎ、又牛皮も重要な輸出品となつてゐる。

象は泰では法律で保護されてゐて、昔は戰爭に用ひたが現在ではチーク材の搬出に用ひてゐる、國內現在數は約一萬頭で、價額は千五百銖內外となつてゐる。

馬はポニー種で丈は四尺內外であるが、比較的健脚で暑熱に對する耐久力は强いが、力量少く運搬に適せず乘馬用が主で全國で三十萬頭內外である。

豚は輸出家畜として第一位にあり、百萬頭以上といはれて居る。

主要都市

サラブリ(新國都)　當市はバンクツクの東北約百二十キロ、メナム河の支流パサク河に沿ふ都會で、一九四二年六月二十四日(我が昭和十七年六月)同國革命記念日を期し新首府の定礎式が擧げられ、新興タイ國の國都となつた。政府各官廳等の近代的宏壯を誇る大建築物は新たに建設され、市街整然として理想的新設計により國都としての偉容を誇り、各國外交使節の公館はバンコックよりこの地に移され、かつては一小都として世に知られなかつた當市も今や新興タイ國の政治の中心地として繁盛を加へ躍進されつつある。

籌谷(バンコック)　はメナム河口より約二十五哩にあり

城内に聳ゆる王室菩提寺ワット・プラケオ寺院は、チャクリー王朝の時代のものにして壯麗な美觀を誇つてゐる。國立圖書館、博物館はタイ國の史實、稀書、寶物を集めて著名である。

アユチヤ はアユチヤ王朝時代（一三五〇年から一六七六年まで）首府であつた都會で人口約五萬、我が南進の英雄、一世の快男兒、山田長政の一黨がこの地に日本町を作り、活躍した史實がある。當時の王宮、寺院は今は廢墟となつてゐるが、我が在留邦人の手により、此處に山田長政神社が建立されてゐる。訪れる邦人は往時の同胞の活躍を偲んで感慨無量である。

市街はメナム河兩支流に圍まれ、水路縱橫に通じて交通路を形成してゐる。川上に浮家が軒を並べて、さながら水の都を形成してゐる。曩谷より汽車にて二時間、地方物資の集散地である。

チエンマイ は一二九六年メンラーイが首都とした處で標高二〇〇米の高臺上にある都會で人口約七萬、住民の大部分はラオス人である。曩谷につぐ都邑として北部タイの經濟、文化の中心地となつてゐる。メーピン河の清流が市中を貫流し、市内は綠樹多く、閑雅な古都の面影がある。郊外六キロの地にはドーイ・ステープの高峰が聳え、氣候も一年を通じて快適である。

過去數世紀に亙る文化と、隣邦ビルマとの交涉の影響は寺院、鄕土藝術、風俗、習慣等に著しく反映されて居り、漆器細工、絹織物、陶器等が有名である。

ランパン はスコタイ王朝より遙か以前に泰族が建設したもので、タイ國最古の都市といはれてゐる。人口約二萬五千、ランパン市は新舊兩市街に分れてゐる。ランパンからチエンライ及チエンセンを經由して泰國北部國境に通ずる道路が開設されて以來、佛印ラオスやビルマ等との交通が盛んとなり、これら地方との農產物、林產物その他の物資集散地として活況を呈してゐる。

コ・ラト は曩谷より北東線二百六十五キロにあり、東北高原の中樞地であり、交通の要衝で地方一帶への道路はこの地を中心として發達してゐる。

地方物資米、黃牛、豚、スチック・ラック、獸皮等の高原農林物產の大集散地であり、地方產業經濟の中樞となつてゐる。

舊市街には史實に殘る城壁あり、その門前の廣場に男子留守中カンボヂヤ軍が侵入した際、婦女子が男裝して戰ひカンボヂヤ軍を擊退した男裝の女傑クン・サモンの銅像が建てられてゐる。

ナコーン・シータマラーツ（六昆） 外來人はラコン（六昆）と呼ぶ。この地は千年前に建設された古都で、當時の建築になるマハー・タート寺院の黃金の延板で卷いてある塔頂が往時の榮華の夢を物語るかの如く天空を摩して聳えてゐる。

往時山田長政がアユチヤよりこの地に進擊し、叛亂を平

定善政を行つたが、翌年毒殺された長政終焉の地にして、邦人には思出深い地である。

パツタンバン は泰國が一九四一年七月に佛印より割讓を受けた新領土にある都會で、かつては泰領であつたがフランスに侵略されてゐたもので、一九四一年失地恢復國境紛爭が惹起した際我國の調停により泰國が獲得した。カンボヂヤ草原に忽然と出現した近代都市で人口約三萬、市街整然街路樹の美を讃えられてゐる文化都市、アスファルト道路が走り、ガス、電燈の施設も完備し、洋風建築が櫛比してゐる。

市内にカンボヂヤ人、安南人、泰人が雜沓し、繁盛を極めてゐる。また地方に米、黃牛、鑛物等を產し此等物資の集散地となつてゐる。

邦人發展の現狀

タイは我が國から西貢、盤谷線の航路で十五、六日で達せられる、直行なれば僅か旬日を要するに過ぎない。しかも國土の大半は未開豐饒の地にして、排水と灌漑を施せば容易に美田と化し得べく、加ふるに山海の資源に富み、殊に優秀を誇る邦人の產業技術をもつてこれが開拓に進出するなればタイの產業は著しい發展を見るに至るであらう。

然るに邦人のタイ發展の現狀を眺めるに英人に見る企業投資なく、米佛に見る文化設備なく支那人の如く多數の在留者なく、只年額三、四千萬圓の貿易額と僅か五百人の在留邦人を見るに過ぎない事は、往時御朱印船の活躍やアユチヤ王朝時代の山田長政等の邦人の活動を想ふとき轉た今昔の感なきを得ないのである。

英領マレーに鐵鑛を發見し、フイリツピンにマニラ麻を紹介した邦人はタイにも新たなる產業を興して共存共榮の實を擧げ、地下に眠れる先覺の英靈に對すべきであつて、いつまでも、これを歐米企業家や華僑の跳梁に委ねておくべきではない。同じく東洋に國を成す日本とタイ、それに宗教を同じくし、且つ相互扶助の精神と謙讓の美德を兼備する國民であり、しかも日タイ通商條約に依つて我は治外法權を捨て、彼は報ゆるに國內居住の自由と企業通商上の最惠國待遇を以つてした。尙最近では日、タイ友好和親條約を結びて親密度を加へ、また、佛印との國境紛爭には日本の調停を受けたところの親日の國である。

又今次の大東亞戰爭には、東亞の指導者日本と攻守同盟を固く結んで、英聯合軍に皇軍と共に戰つてゐる弟の國である。

しかるに現在邦人企業として見るべきものは殆んどなく、僅かに貿易に三井物產及三菱商事の二社があり、その他四、五社を數ふるの狀態にして、邦人數も大東亞戰爭直前にして僅かに五百人內外であつた。邦人は主として商業に進出し、又マレー半島や昭南島と連絡して木材、米穀等の輸出貿易に從事してゐた。

最近に至り邦人のタイ國進出の氣運頓にあがり、邦系資

本の進出計畫も種々傳へられつつあり、タイ國自身も邦人の資本と技術による產業開發を要望し、到る處邦人の雄飛を呼んでゐる。

邦人團體名簿

進出する邦人事業會社

◇南洋企業株式會社
本社　東京市麹町區丸ノ內二ノ二丸ビル
支店　タイ國ナラヂバス州パーパイ
資本金二百萬圓、社長加來佐賀太郎氏、同社は事業地タイ國ナラヂバス州パーパイ及ヤラ州ベトンの二ケ所に有し農園の經營と林業に進出する一方、生產物の加工販賣等農林に多角的進出を示し、堅實なる發展を續けてゐる。

◇臺灣棉花株式會社
本社　臺灣臺北市榮町三ノ一
資本金三百萬圓、社長加藤恭平氏、同社は臺灣に於て棉花事業に雄飛してゐるが、タイ國ナコンパトムに棉花事業地を有し棉花栽培に活躍してゐる。尙同社は海南島にも事業地を有して居り將來南方方面に於ける棉花事業に發展すると傳へらる。

◇三井物產株式會社
本社　東京市麹町區丸ノ內二ノ二丸ビル
泰國日本人會　泰國日本人
バンコク、ソル、サブ、スリウングス路二二七八　（會長）
泰國日本商工會議所　高月嘉右衞門
同　シカペイアスリ二四　新田　義實

同社は泰國にも進出し、日泰貿易に雄飛してゐる。支店は泰國バンコック市に置いてゐる。

◇三菱商事株式會社
本社　東京市麹町區丸ノ內二ノ一
三井物產內
同社も三井物產と共に貿易に發展し大半はこの二社が占めてゐる。支店はバンコック市にある。

◇大同貿易株式會社
本社　神戸市神戸區浪花町五七
資本金四百萬圓、支店を磐谷に置く。同社は綿糸布雜貨、食糧品、機械類等の邦品輸出及先方物資輸出貿易に發展してゐる南洋貿易の著名の會社にして東印度諸島及比律賓等にも支店を有してゐる。

◇東洋商工株式社
本社　東京市日本橋區室町二ノ一
三井物產內
資本金壹百萬圓、同社はタイ國各種事業に投資を目的とした三井物產の別動隊ともいふべき會社にして、設立以來日淺く、實際事業には未だ着手されてゐないが、日タイ貿易及タイ國產業開發に相當廣範なる進出を示さんとしてゐる。一般に同社の進出は刮目されてゐるものである。

ビルマ篇

ビルマの歷史

ビルマの歷史は、アノラータ王に始まるといはれて居る。この王の現はれた十一世紀のはじめ、ビルマには多數の小王國が互に覇を爭つてゐたが、その中で有力なものは東部の山地に住むシヤン族、南部イラワヂ河の三角洲からマルタバン海岸に蟠居するラタイン族、西南の海邊に王國を持つアラカン族、中部盆地のパガンを都とするビルマ族の四種族でアノラータはビルマ人のパガン王國の君主であり、彼によつてはじめてビルマ制覇が成し遂げられたのである。このパガン王時代がビルマ文化の黃金時代ともいふべく、佛教美術を中心とする文化の花が爛漫と咲いたが、不幸十三世紀の末、支那統一の餘勢を驅つて進攻した元の忽必烈の大軍のため蹂躙されて敢へない最期をとげた。元軍の撤退後シヤン族が一時勢を振つたが、十六世紀の半にビルマ人タビンシュエチがトングー王朝を樹て、シヤン地方とタライン王國を除いた全ビルマを從へたが、まもなくタライン族に滅されてしまつた。その後百五十年を經て十八世紀の半にビルマ人の中から三度目の英傑が現はれた。これがアランパヤで、北方シュエボより起り、宿敵タライン人を討ち破つて一七五四年完全に征服した上、更に各地を攻略してここに始めてビルマ王國を建設した。これがコンボン王朝で、二代目の王の代に東はシヤムを滅し、西は印度を攻めて、モニプール、アツサムを支配し、北は清の乾隆帝の遠征軍を邀撃してこれを破るなど、勢威四隣を壓したが、その後歐洲人の魔手に侵され、遂ひに執拗な英國の侵略を受けて滅び去つた。

英國の侵略

ビルマに最初訪れた歐洲人はヴエニスの商人ニコロ・デイ・コンテイで十六世紀の初め南方テナセリムの海岸に上陸して商業をはじめた。それからポルトガル人、オランダ人、イギリス人と次々に渡來し、海岸地方に商館を設けて貿易に從事したが、中にもポルトガル人の進出は目覺しくマルタバン灣に臨むシリヤムと云ふ町など事實上彼等に支配されるまでになつたので、當時威勢を誇るトングー王朝

の忌諱にふれ、一六一〇年その艦隊は激滅され、これと同時にビルマの外人勢力は一齊に掃蕩されてしまつた。

その後イギリス人は一七〇九年、當時ポルトガル人の基地シリヤムに東印度會社を設け、爾來着々商權の擴張を計り、百年後の十九世紀には彼等の勢力はビルマ人の經濟生活を支配する程强力なものとなつてゐた。ビルマ人は度々工場、商館等の燒打等を行つた、かくするうち一八二二年アンヘラ人の叛亂事件をきつかけとして第一回の英緬戰爭が起り、五年に亘りビルマ軍はよく戰つたが優秀な武器を持つ英國に破れ、印度寄りのマツサム、アラカン、モニプール及東南のテナセリムの諸地方をイギリスに割讓し、賠償金

英貨百萬磅をとられた。ビルマ人は失地回復の念に燃え反英熱は次第に高まり、遂ひに一八五二年イラワヂ河の英艦燒打事件を起し、再び戰禍を交へたが利あらず、結果イラワヂ河の三角洲を割き取られた。英國は第一、第二の戰爭で獲得した領土を併せて英領インドの一州としてラングーンに政廳を置いた。この新領土は上ビルマから海へ出る唯一の口であつたので、ここを抑えたイギリスはマンダレーを都とするビルマ王國の運命を掌握した形となつた。

その後三十年、ビルマは不滿を抱きながらもイギリスとの關係を維持し侵略の口實を與へなかつたが、一八七八年王の死後庶子セパウ・ミンの王位繼承を繞つて內訌を起し、王族高官を殺害し、また事毎にイギリスに楯ついて摩擦を起してゐた。

當時フランスは印度支那の東部に於けるイギリス勢力を排除して次第にシヤムに進出の態勢にあつた。一方ビルマ

王はフランスの力に縋り英國に當らんとして一八八四年フランスと攻守同盟條約を締結した。このビルマ內外の情勢は遂に英國をしてビルマ併合を決意せしめるに至りイギリスはフランスとの條約取消をビルマに要求したがビルマはこれを拒絕した結果、一八八五年英軍は首都マンダレーに兵を進め、一八八五年十一月二十八日、ミン王及その一族を捕へ島流しにした。ビルマ人最後の王朝は十一代で滅亡し、同時にビルマ全土はイギリスの手中に歸した。この時は我國の明治十八年である。

英國の壓政統治

合併後イギリスはビルマ人の武裝を解除し、全ビルマを英領印度の一州として印度總督の下にある副總督を派遣して統治せしめたが一九二三年、副總督を總督に昇格せしめ同時に總督の指名と公選による立法院を置き、更に數名の大臣の制度を作り、議員の中から任命することにした。

次いで一九三五年、ビルマ統治法なるビルマ憲法を制定して、一九三七年四月一日ビルマを印度より分離し、英國皇帝直轄の準自治領として英帝の名代たるビルマ總督を置き、總督の補佐の機關として內閣を置き、上下二院の議會を設けた。この印度よりの分離と前記の政治機構をとるに至つたことは、印度併合以來ビルマ人の反英感情を愈々激化し、獨立運動にまで進展して來たので、これを緩和せんために採られたものであつて、ビルマ人の參政權を擴め、政治に携はせることによつて政治上の紛糾が起つた場合、その責任をビルマ人の大臣や、議員に轉嫁せんためのものであり、一方政爭によつて獨立運動の力を分散させる政策によるものであつた。

議會の構成は下院の議員百三十二のうち、ビルマ人九十五人、カレン人、印度人、支那人、イギリス人が合せて三十七人となつてゐた。ビルマ人は大多數を占めてゐるが、ビルマ人以外の議員は結合して自分達の利益を擁護し、ビルマ人の利益になる政策にはあげて反對をする。上院は定員三十六名のうち半數が下院議員中から選ばれ、殘り半數は總督が任命するもので、この全部が親英分子によつて占められて居る。以上の如き議會であるから、ビルマ人の利益になる法案は殆んど通らない。又萬一通過しても總督には否認權があるから總督が「ノー」と最後に一言いへば否決され、一方總督の提出した議案は議會が否決しても總督の否認權で通過するといふものであつた。

反英獨立の叫び

ビルマ人の反英の運動は英國の侵略以來繰返されてゐたが、果然これに烽火を點じたのは明治三十八年の日露戰爭であつた。日露戰爭に於ける日本の大勝利は、長い間歐洲人の鐵鎖に喘いでゐたアジア民族の覺醒と奮起を促した。其頃ビルマにウ・オツタマと云ふ傑僧が現はれた。彼は日本に學び一九一五年祖國へ歸ると、日本は强敵ロシヤを破

り得たが、それは日本人が擧國一致外敵に當つたからである。我々ビルマ人も獨立を欲するならば、日本に倣ひ、全ビルマ民族が一致して起て、と國内を行脚し、ビルマ大衆に向つて、祖國を英國の鐵鎖から解放せよと絶叫した。亡國以來二十年、イギリスの壓政に雌伏を餘儀なくされてゐたビルマ人は、この傑僧の情熱によつて沸騰し、彼の運動は忽ち全ビルマに擴り、若きビルマ人にして獨立を口にせざるものなきに至つた。現在ビルマ獨立運動の中心勢力となつて居る佛教青年會等は、當時ウ・オツクマを盟主とする青年僧によつて結成されたものである。このビルマ獨立運動の父ともいふべきウ・オツクマは、その後總督のため國外追放の憂目に遇ひ、今は既にこの世を去つた。然し彼の精神は若きビルマ人のうちに殘された。以來獨立を目指すビルマ人の反英運動はその後幾度となく繰り返され、尊い人民の血を流して來た。

ビルマ人のビルマ

ウ・オツクマの精神を承け繼いで「ビルマ人のビルマ」を絶叫して起ち上つたのはバ・モ博士である。彼は印度より分離されたビルマの第一次首相に選ばれた。その後野に下つて獨立運動の闘士となる。佛國大學に學びドクターの稱號を持つ知識人であり、熱血の指導者である。バーモの背後には、タキン黨々主タキン・ミヤ、同幹部タキン・トンオク、幹部ウ・ラ・ペ氏等あり、また全ビルマ青年黨のタキン・バ・テイン等の青年層の外、宗教、政治兩方面に絶大な力を持つフシユエータ・パゴダのサリーンネ大僧正、マンダレーヒルの大僧正ウワローカなどの佛教界の支援を受けてゐる。

彼は英國が援蔣ビルマ・ルートを開設するやその反對を唱え、禁絶を要求して英總督に迫り

「支那事變は全アジア民族の解放の戰ひである、我々アジア人である以上、日本の行動を妨ぐるものあれば、進んでこれを撃滅すべきである。ルート禁絶は東亞民族結集の一歩であり、全ビルマ人の希望である」と

叫び、ために議場は萬雷の拍手やまず、全議員は起立し議場は騒擾として收拾出來なかつたといふ。

彼の闘志は火となり、かつてはビルマを窒息させた佛教を逆にビルマ興國の力として燃えあがらせた。壓迫に屈せずビルマ獨立を絶叫して、捕えられ投獄された。

皇軍が英軍撃滅の軍を進め、ビルマに入るや彼は脱獄して起ち、全ビルマ青年を號令しビルマ民衆をして皇軍の作戰遂行に協力せしめた事は、當時の戰線よりの通信によりもたらされた處である。

今やビルマは熱血兒バーモ氏を中心とする指導者が、全ビルマをあげて日本に協力してゐる。英國の壓政五十九年の鐵鎖より解放され「ビルマ人のビルマ」建設は我が國の協力下に着々進められてゐる。

面積・人口

ビルマはアジア大陸の西南に位し、東は印度支那及泰國に、北は雲南、西康の兩省に接し、西は印度と境し、南はベンガル灣に面して居る。

その總面積は六十萬五千平方キロにして我國の全面積よりやや狹く、人口は千五百萬人といはれてゐるが、住民の八割五分までは地方に分散されてゐる。

地勢

ビルマの北端、カチン高原、パタイ連山、ナムキン山脈は、ヒマラヤ連峰に續いて聳え、イラワヂ、サルウイン、シツタンの三大河が北から南に流れ、その流域は繞の大平原沃野を形成して居り、また西部シヤン高原には肥沃な廣野が展開されてゐる。このシヤン高原とアラカン・ヨマ山地帶との間の中央低地帶は沼澤地をなし、沖積層の草原となり、中部以南は乾燥地帶とデルタ地帶となり、多くの地方には灌木や森林が點綴してゐる。これら平野をはさんで西部には三千呎から九千呎の高山が聳え立つ、アラカン・ヨマの連脈が連り、それと並行して中央に一萬呎以上の雲表を摩するガンガウ山脈が連つてゐる。

河川・湖沼

ビルマの山系が多くは北から南に走つてゐるため、河川の大部分も亦北から南に流れてゐる。その源を西藏に發し延々九百哩、ビルマを縱斷するイラワヂ河はビルマ最大の河川にして、ビルマ全土を東西に分ち、ビルマ人から「惠の川」と稱されてゐるほどビルマ農業に限りなき天惠を與へ、また道路及鐵路の未だ發達なきビルマの主要な交通線となつてゐる。イラワヂに次ぐ大河は、支那雲南省から發するサルウイン河、延長六百五十哩と、シツタン河三百五十哩がある。このサルウイン河に架してゐた橋は、かつて援蔣ルートの要地として我國によく知られた地である。

インダウヰ湖は長さ十六哩、幅六哩でビルマ第一の湖にして、三方は森林で覆はれた丘陵に圍まれてゐる。この湖上には人口史談に喰炙され、幾多のビルマの秘譚を傳へてゐる島々が浮んで居る。

ビルマは雨期に氾濫し、低地に流れた河川の水がそのまま殘り一時的湖沼を作り、この湖水が乾期には灌漑用水として耕地を潤し、また流れ込んだ多數の魚類は農民の糧となり生活に少なからざる役割をなしてゐる。

氣候

ビルマは大部分熱帶圏に屬してゐて、一年が雨期と乾期に分れてゐる。雨期は五月から十月に亙り、印度洋から訪れる季節風が強く猛しい雨をもたらす。乾期は十月中旬から翌年の五月初旬までであつて、このうち二月までは比較的涼しく凌ぎやすいが、三月から五月、ことに雨期のはじ

まる前の四月頃が暑さを増す。雨量は西南の季節風の直接當るアラカン山脈や、テナセリム山脈の西沿岸地方が最も多く、年雨量四、五千粍に及ぶ。イラワヂのデルタも多いが、その量は減じ、更にマンダレー附近のイラワヂ河中流部になるとずつと少く、五、六百粍程度である。イラワヂ河流とテナセリム海岸地方を下ビルマと云ひ、それより北部地方を上ビルマと云つてゐるが大體上ビルマは乾燥地帶であり、下ビルマは濕潤地帶と稱されてゐる。

住民

人口は一九四一年の調査によると一千六百八十二萬餘であつて、人口の增加率は一ケ年二十萬人を示してゐる。

このうち約六割五分の一千一百萬がビルマ族で、イラワヂ河とサルウイン河の兩河の間に擴げてゐる平原地帶に居住し、主として農耕に從事してゐる。十一世紀に創立されたパガン王朝以來、幾たびか王朝の興亡はあつたが、大體に於て他種族を支配して來た民族で、文化的にも最も進歩してゐて、彼等は常にビルマの中心をなして來てゐる。

シヤン族は約百四十萬で、彼等は主にシヤン高原に住んでゐる。その他、西部アラカン山脈地方に住むアラカン族、東南モールメイン地方に住むモン・クメール族、カレニの山地に住むカレン族、イラワヂ上流の山地に住むカチン族等合せて約二百三十萬である。

外來人として多いのは印度人の百萬と支那人の二十萬で印度人は西部と南部に多く移住してゐて、ラングーン市の過半數が印度人である。彼等は商業か金融業者としてビルマの米を左右し、かつては英國のビルマ搾取の仲立をしてゐたため、常にビルマ人から排斥の的となつてゐた。支那人は雲南から移住したもの多く、鑛工業や商業に從事してゐる。英國人は戰爭直前まで約一萬人であつたが、現在はその大半は引揚げて仕舞つてゐる。

宗教・言語

ビルマ人は熱心な佛教徒で、彼等の住む至る處に佛塔と僧院がある。佛塔はパゴタと呼び、佛陀への奉仕として建立したものであり、僧院は僧侶の住居であると同時に、民衆の初等教育の機關でもある。從つて僧侶の數は非常に多く、ビルマ全土では約二十萬と稱されて居り、ラングーン市丈けでも人口の約一割は僧侶であるといはれてゐる。

小乘佛教で發祥地はセイロン島である。僧院が民衆に開放され、俗界と深く結びついてゐるため、僧侶の影響力も強く、彼等は常にビルマ民族の中心をなしてゐる事は前記の歴史にて述べた如くである。

ビルマは女性の勢力は強く、西歐キリスト教國の「かよはい婦人を勞はる」と云ふのとは違つて、ビルマでは「男は氣が短かくて意氣地がないのは家庭で婦人の導きが足りないからだ」と云ふ自覺から來てゐるらしく、南部地方では家系は女子が相續する。家内行政も一切細君の承諾がな

ければならないといふ風がある。地方の民間團體や公共團體でも婦人の發言權は非常に大きく、かつては二人の下院議員が出た位ひである。ビルマには尼僧も相當多い。

ビルマの地方語は數十に及ぶといはれてゐるが、その大部分は中心勢力をなしてゐるビルマ人の使用する西藏支那系統に屬するものがビルマ語となつてゐる。皇軍の占領以來、ビルマ人間に日本語熱が旺盛となりつつあり、又初等教育の必修課目に日本語をとり入れて教育されてゐる。

主要産業事情

ビルマは南洋諸地方と同樣農業、林業及鑛業の原料生産國にして、これら生産品が輸出の九割を占めてゐる。中でも農業はビルマ産業の王座を占め、人口の九割までは農業に從事し、農業が國民經濟の根幹をなしてゐる。

ビルマの既耕地面積は約二千二百三萬ヘクタール（內耕地一千八百十六萬、休耕地三百八十七萬）で未耕地はまだ一億一千百六十八萬ヘクタールでこの中未開墾地約六千萬ヘクタール、不毛地五千萬ヘクタールとなつて居り森林地帶は二千二百十二萬ヘクタールであるからビルマにはまだ未開の處女地は洋々としてゐる。

農業

ビルマ農業を代表するものは米作である。米作面積一千二百五十萬ヘクタールと云はれて居り、肥沃な土壤、加ふるに天惠的氣候と理想的條件によりビルマを米倉たらしめ、收穫量は日本の石にして穀年産約三千萬石にのぼり、支那、印度、日本につぐ世界第四位の產額を示してゐる。

その約半量は過剩となつて輸出されてゐるが、その輸出量においては世界第一位を占めラングーン米として名聲を高からしめてゐる。

米の他に農產物としては上ビルマの乾燥地帶に豆類、胡麻、落花生、棉花、テナセリム、海岸の多雨地高濕地帶に於ける護謨等である。このうち豆類、胡麻、落花生は國內消費に充てるに止つてゐるが棉花と護謨が對外輸出されてゐる。

「米」はイラワジ河の三角洲、バッセイン、マンダレー、バーモなどから戰前年約七百萬トンを產出してゐた、これ等はラングーンに搬出、精米されてゐたが、中でもバーモの米は日本米に劣らない優秀品であつて、殆んど肥料を使はず植付のみで年に二回（一回のところもある）收穫する。從來は產出量の約六〇パーセントを印度および支那へ輸出してゐたが、ビルマの產出額だけで今後日本內地のみならず東亞共榮圈の食糧問題を解決し得る程である。棉はキヤンギヤン方面から年約一萬二千トンを產出する、シヤン州

も產地として好適であるが、印度と競爭されると困るので英政府は棉の增產を中止してゐた。

「護謨」はマレー寄りの海に面したテナセリム海岸のマグィ地方がその中心であつて、產額は約一萬トン餘で殆んど生ゴムのまま海外に輸出されてゐる。

鑛業

ビルマの地下資源は未調査のものが多く資料も乏しいが過去の實績、情報を綜合するに實に驚くべき豐富さである。殊にシャン州から南方テナセリム東方にかけては優秀な鑛山地帶でビルマ全土が鑛物で埋まつてゐるといつても過言ではない。また鉛はボードウイン鑛山から產出するが同鑛山は世界的に有名なものである。タングステンはモチ鑛山（年產五千八百トン）とダボ鑛山（年產四千トン）から產し從來年產一萬トンはあり、品質も五十六パーセント以上の良好なものである。銅はボードウイン鑛山で六千乃至七千トン精銅にして三千トン、ニツケル鑛は全東亞においてビルマのみに產出する貴重鑛で含有量五十パーセントのもの三千五百トンこれもボードウイン鑛山から產する、アンチモニーは一千トン、その他鎢、コバルト、雲母、水晶、石炭、ダイヤモンド等枚擧にいとまない狀態である。これら鑛產物は戰前その大部分を輸出し年額五千萬ルピー（一ルピーは邦貨約六十七錢）米、石油に次いで第三位を占めてゐた。今やボードウイン、モンチの二大鑛山はほとんど損傷なくわが手に歸し、その前途は實に洋々たるものがある。

「石油」はエナンジョン地方が主產地で、戰前年產十一萬トン（輸出金額一億七千萬ルピー）オクタン價百乃至百廿の最良質のもので航空用揮發油、航空用潤滑油として期待される。なほ石油はエナンジョン地方のみならずシャン州にも埋藏されてゐるといはれてゐる。

林業・畜產

ビルマの林業はチーク材で知られ、ビルマをしてチークの寶庫といはれてゐる程豐富なる資源を擁してゐる。

チークはビルマ輸出貿易上主要な役割を持つて居り、輸出貿易總額の約一割はチーク材が占めてゐる。年產四十萬トンで、これは殆ど英資本が獨占してゐたもので、ミイトキーナ附近、シャン州トングー附近が主產地であつて、チークは船材、鐵道材として從來その九割以上が輸出され、三千七百萬圓の輸出をしてゐた。

畜產は牛（農耕用黃牛）が五百萬頭で畜產の第一位を占め、皮革、食糧資源として友邦タイ國の牛と共に全東亞の需要を充すに足りる、牛革の輸出のみでも七十萬トンに上つて居り、これに次いで水牛が百十一萬頭、山羊が三十萬頭、豚が五十萬頭、馬が五萬頭等である。

貿易

總論すればビルマは工業國ではなく原料國である、戰前の貿易狀態を見ても輸出米二億ルピー、原油一億七千萬ルピー、鑛物五千萬ルピー、チーク材三千七百萬ルピー、その他計五億五千萬ルピーであり、これに比し輸入は綿製品四百萬ルピー、機械一千四百萬ルピー、食料品一千三百萬ルピー、ガソリン一千三百萬ルピー、その他計二億七千萬ルピーとなつてをり、約二倍の輸出超過である。

かくの如き資源を擁してビルマは東亞共榮圈の一翼として新進の熱を帶びて發展されてゐて、その前途は眞に洋々たるものがある。

主要都市

ラングーン（蘭貢）　ビルマ第一の大都會であり、首府である。市街面積は三十平方哩にして人口五十萬を超ゆ、ラングーン河の河口に位し、ビルマ政治の中心地でありビルマ經濟を握る大貿易港である。當港を通じて輸出入される物資は年額八億ルピーに及んでゐる。

市街は舊市街と港灣地區から成つてゐて、商業地帶は河の北岸にあつて東はパズントンから西はケメンタインを經てアローンに達してゐる。河の對岸ダラの郊外は住宅地として發展を見せてゐる。

市街は整然としてストラント街、マーチャント街、タルジ・フレザー街等が繁華の中心となつて殷賑を極めてゐる。市內には宏壯なる行政各官廳、電信局、裁判所等の諸官廳がある。

郊外一哩半にダルージ公園、西方の丘上にはビルマで名高いシュエ・ダゴンの金塔が聳え、湖の南に記念公園及ビクトリア動物園がある。

マンダレー　一八八五年までビルマ王朝の王都であつた舊都である。ビルマの中央部でイラワヂ河の東岸に位してゐる。當市は海拔三百十五呎の高地傾斜面に擴け、東西三哩、南北六哩に亙り、人口約十五萬、ラングーンにつぐビルマ第二の都會である。

市の中央にマンダレー丘があり、丘上の石の堂宇には釋迦が安置されてゐる。丘の麓に舊王城がある、城は約二十町の正方形の一廓にして高さ二十六呎の赤煉瓦の城壁を繞らし、周圍に十二の門を備え、幅二十五呎の外堀で圍まれてゐるが、城內には舊王宮、兵營、陵墓、禮拜堂、王宮內には風俗博物館等があり、舊ビルマ時代の王侯貴人の等身大の人像が陳列され昔日の繁盛、武威を偲ばしむるものがある。

市內外の名勝としては、ゼギョ市場、ダフリン城趾、四百五十塔、王妃菩提寺等がある。

メイミョ　海拔三千五百呎の高原都市で、五十年前まで

はシャン州の一寒村であつたが、盛夏の頃と雖もマンダレーより氣溫二〇度低く、印度のシムラの如く絶好なる避暑地として、一九〇〇年鐵道開通するや榮え、現在人口一萬五千人となつた。炎暑の候には政府高官の來往繁く、多數の白堊の洋館が林間に建てられ、華麗なる舊總督官邸を初めとして、各種クラブ、ポロ競技場、ゴルフ場、植物園等がある。

プローム　ビルマ鐵道プローム支線の終點でイラワヂ河の右岸に位し、山水の美、風光の明媚なることビルマ第一の稱あり、人口約三萬、地方物資の集散地で、市の南方に小丘あり住宅地としてその眺望の美を誇つてゐる。

イラワヂ河の左岸約半哩の地にドグヌナ丘あり、百三十八呎の丘上にシユエ・サンダウ寺塔あり尖塔の高さ百八十呎、塔の基を圍んで連なる八十三の壁龕があり、その中に金碧燦然たる佛像を安置しありて名高い。

尙プロームの南十六哩の地にシユエ・ナタウン寺塔があり、これまた著名の寺塔である。

モールメン　ビルマ第三の都會で人口約七萬、サルウイン河口の左岸、マルタバン灣岸にあり、サルウイン河流域一帶の物資の出入及南部沿岸地方の米、鑛、木材等の物資の集散地であり、商業都で市內外に製材、造船、精米業等が多い。

モールメンは從來良港として繁盛したが、近來サルウイン河より流下する泥土により港內淺くなり、この結果海上交通は往時の如く盛んではない。市街は三條の繁盛商業街よりなり、風光明媚にして、市內外到る處に宏壯華麗を誇る寺院、佛塔あり、市の中央のキヤイクダンラン寺、東方にウシナ寺塔が天を摩して聳えてビルマ文化を誇つてゐる。

日本人會名簿

マイミヨ日本人會	ビルマ・マイミヨ	井手	梅次
マグイ日本人會	〃 マグイ	三橋	國治
マンダレー日本人會	〃 マンダレー	山田	秀雄

進出する事業商社

◇横濱正金銀行
本社　橫濱市中區南仲通り五丁目

資本金一億圓、我國對外爲替銀行として、確固たる基礎を築いてゐるものにして、皇軍占領後逸早くもビルマに進出して、爲替、金融、銀行業務に活躍發展中、ビルマ支店をラングーン市舊チヤーター銀行跡に置く。

◇三井物産株式會社
本社　東京市日本橋區室町二ノ一

資本金一億五千萬圓、海外貿易業、投資業として雄を誇るものにして、日緬貿易に活躍中戰爭により引揚中であつたが、ビルマ占領なるや再進出し、發展中にして今後ビルマ產業開發方面に進出が傳へられてゐる。支店はラングーン舊ナショナル銀行跡。

◇三菱商事株式會社
本社　東京市麹町區丸ノ內二ノ一〇

資本金一千五百萬圓、三菱系の會社で我國海外貿易、事業會社として三井物產と並び稱せられてゐる。日・緬貿易に堅實なる地盤を持つて雄飛し、現地人の信認も厚い。支社はラングーンに置いてゐる。同社今後の活躍は大いに期待されてゐる。

◇日本棉花株式會社
本社　大阪市北區中之島二ノ

資本金一千二百萬圓、同社は棉花、綿布、生糸、人絹布、羊毛等の輸出入及棉花壓搾、繰綿、製油、精米等の事業經營會社である。ビルマ進出を開始し、ビルマ棉花貿易に發展してゐる。將來ビルマに於て棉作事業への進出が傳へられてゐる、支社をラングーンに置く。

◇株式會社千田商會
本社　東京市麹町區二ノ二九ビル內

資本金銀一百萬弗、支店を昭南島、ジヤバ、ビルマではラングーンに置き護謨栽培に當る一方護謨、石炭等の賣買、貿易業等に發展中にして、現在主なる事業地をマレーに置いて、ビルマにも發展中である。

印度篇

面積・人口

インドの總面積は二百五十二萬百九十九平方キロで、英本土の約十七倍である。一口に印度といつてゐるが、この印度總面積の五割五分が英領インド諸州であり、その他の四割五分はインド六百七十餘の土侯諸國である。

インドを地勢の上から眺めてみると、著しい特徴をもつた三つの地域に分けることが出來る。卽ちその一つはインドの全形を支配してゐる三角形のインド半島、他の一つは海拔八千八百四十八米の世界の屋根といはれてゐる最高峰エヴレスト山を中心として、東西二千四百キロに亙るヒマラヤ大山地、最後の一つはこの二つに挾まれてインドの富源をなすといはれてゐるガンヂス河、インダス河の兩流域の所謂ヒントスタン原野である。

この中、ヒマラヤ山地はインドの北部一帶に連なる大障壁を形造り、南部平原地帶の氣溫を緩和するとともに、昔からインドとアジア本土との交通を二分する役目を果し、この結果インドの國内に幾多の特異性を作りあげてきてゐる。

勿論かうした地理的な理由からばかりではないが、インドは極めて複雜な國柄であつて、一口にインドと云つても日本とか、ドイツといつた純一國家と異り、このインドには幾多の獨立した土王國があり、宗教があり、言語があつて、種々獨立した社會が包含されてゐる。

住民・言語・宗教

「人口」インドの人口は三億五千萬人であつて、一口にインド人といふけれども、印度住民の中には大きく區別しても、トルコ・イラン族、インド・アリーヤ族、シツオ・ドラヴイダ族、アーリヤ・ドラヴイダ族（ヒンドスタン族）、モンゴロ・ドラヴイダ族、モンゴル族、ドラヴイダ族の七種族からなつてゐて、若しこれを細分すれば數十、數百の種類に分れるものである。

「言語」從つてインドに使用されてゐる言語の種類も極めて雜多で、現在全インドで使用されてゐる言語は約二百種からで、地方郵便局等で使用を公認されてゐるものだけでも七十餘種と云はれてゐる。これらの中で最も廣く使用されてゐるのはヒンドスタスタニー語で、全人口の三分の一きではこれを使用してゐるから、大體インドの標準語と看做す事が出來る。然し全國的に法定語となつてゐるのは英語が公用語となつてゐるため知識階級は概ね英語に通じてゐる。

「宗教」これまた人種言語の錯雜してゐるのに比例して、その種類は極めて多く、その主なものでは印度教、回教、佛教、原始教、キリスト教、シーク教、拜火教、猶太教、耆那教等であるが、この中、印度教は全人口の約六割八分を占め、その分布は全インドに及んでゐる。また回教徒は總人口の二割二分に當つて居り、印度教と回教が全人口の九割を占めてゐる。

更にこの印度教社會には四種の姓階級制度があり、インド人をバラモン（僧侶）、クシヤトリヤ（武士）、ウエシヤ（平民）、スートラ（奴隷）、の四階級に分けられ、同じ印度教徒であつても他の階級との結婚はもとより、同座、食事をすることさへ禁じられてゐて、古來からの嚴格な習慣が持續されて來てゐる。

複雜な住民

インドの國内には前述の如く幾多の種族、宗教、職業の相異に基づく社會の複雜性があり、それによる民族の不一致がある。インドの政治に現はれるものに三つの有力な社會がある。全印總人口三億七千萬の六割八分を占めるインド教徒、それを代表する國民會議派、同じく二割二分を占める回教徒、その代表である回教聯盟、同じく二割四分を占める土侯國がそれである。これらは悉く異つた要求をもち、對英態度もまた異にするのである。英國の乘ずる隙がここにあり、インド獨立運動の不統一性がここに發してゐる。

例へば牛はインド教徒によつては神聖視す事の出來ない

ものであるが、これがたまたま回教徒の祭壇に生贄となることがある。インド教徒はこれはブラーマの神に對する最大の侮辱として回教徒へ復讐を誓ふといふ樣に回教徒とインド教の對立の原因はかうした宗教による風習の相違に基くものである。一九三一年、カウンプールに於ける衝突は死者四百名、負傷者千二百名、燒失家屋四百餘戸といふ宗教上の一大闘爭であり、尚、印の民族運動合同の成立は多難を思はしむるものがある。

第二次大戰勃發直後、國民會議派が自治八州の總辭職を決行して、反英運動を展開した時、回教聯盟では「インドが國民會議派から開放される日が來た」と宣言し、盛大な政治示威を行つた。獨立運動よりも對インド教即ち國民會議派に主力を注がれたのであつた。しかし回教社會派の代表者ムハメット・アリが叫んだ「神の支配する世界に於ては、吾々は飽くまで回教徒であるが、事インドに關しては飽くまでインド人でなければならない。」といふ言葉はインド回教をして會議派との聯携を作り、インド民族團結への指標を與へたものであらう。

土侯國

尙ここにもう一つ厄介な存在はインド六百有餘の土侯國である。第一次大戰當時、眞先に立つて英國に誠忠を誓つたのもこの土侯國であり、また第二次の大戰勃發に際しても三百餘の土侯が英國側に參戰を表明して獨立運動側へ脅

き、この地に城砦を築いた。これが一八二二年までにインド全體を侵略するとは當時想像だにされなかつた。この地を根據地とするや東印度會社は傭兵をもつて軍備をかためて暴威を恣いままにした。一六三九年英人の暴虐次第に募り當時、南印度の一藩王がこれに憤激して英人との間に係爭を引起すや、英人はこれを攻め、南印度の樞要地を奪ひ、城砦を築き、次第に勢力を加へて來た。一六六一年になり英王チヤールス二世がポルトガル王女との結婚なり、その引出物として英國に贈られたのは印度西海岸の要衝ボンベイ島であつた。英國はここにも城砦を築き、かくして三大據點を獲得した。英國が愈々本腰にインド侵略を開始したのは一七五六年からである。

歷政の史實

一七五六年、ベンガル王が歿し、その孫フラシ・ウド・トユラーが王位を繼承したが、王は英人の暴虐を心よしとせず、遽に英商館を襲撃し、その財產を押收し、英人一四六名を捕えた。この事件に端を發し英國とベンガル王との戰爭となり、ベンガル王の軍が優勢であつたが、英國はベンガル軍の參謀長オミチヤンドが貪婪陋劣なる男なるを察知し、三十萬磅で買收の密約をなし、奸計にかけて叛逆させ勝利を得、王を殺害した。叛逆の參謀長は賞金の約束履行を願ふや、英國は、あれは僞證文であるとして賞金を拒絕され、オミチヤンドは警戒のあまり發狂した、天罰と云ふべきであらう。かくて英國はその老獪なる本領を發揮して、うまうまとベンガルを手に入れた。

ベンガルに居住する英人は自己の望む商品は總て市價の半値で買ふ事にし、應ぜざれば死に至るまで笞を加へられ租稅の徵收には拷問と笞刑を用ひ、住民は必要とあれば無償で勞役を强制される等、暴虐はその限りを盡した。中にも今なほ人口に膾炙するはベナレスの壓政と、ダツカ地方の慘虐である。

ベナレス大藩王を脅迫して統治權を掠奪し、ベナレスの住民に重稅を課し、更に年々倍額の納稅を强要し、反すれば虐殺し、その死骸は地に滿ちたといはれてゐる。

ベンガルのダツカ地方の紡績企業は英國の利益に反するとしてこの根絕を企て、製品を沒收し、棉花畑に火を放つて燒き拂ひ、紡績を中止せざる者はその五本の指を切斷した等、その暴虐は數ふるに遑なく、壓政の歷史は讀む者をして眼を覆はしむるものがある。

一八五八年英國は東印度會社よりインドの支配權を回收したが、インドの統治は文字通り搾取と壓政の歷史に終始してゐるのである。

かりにいまインド人の生活を例にとつてみても、住む家屋は椰子の柱に竹の梁、椰子の葉の屋根、それに一尺位の厚さの泥で固めた陋屋に住み、襤衣を纏ひて貧困の極に置かれてゐる。彼等の勞働賃銀は食事自辨で大の男が一日四十錢位が相場であり、榮養のある食物をさへ攝ることが出

來す、宏壯優華なパラモン教殿堂の下に、咽ぶ樣な雜然たる土着民の陋屋こそ英國のとれる壓政を如實にみる事が出來る。

英國の統治

英國のインド統治の政治機構は、第一次大戰の直後、幾多の英印紛糾の結果、サイモン調査委員會の報告を基礎として出來上つた新統治に依つて行はれてゐる譯であるが、實はこの統治法は第二次大戰の勃發により同法の基礎をなしてゐるインド聯邦制結成に關する部分が戰爭終了まで延期されることになり、實質的には依然一九一九年の頃の舊統治法によつて行はれてゐると云つてもよい。

舊統治は表面ある程度の自治を許してゐる樣にも見えるが、實際はインド總督がインドに於ける行政機關として最高の權限を振り廻し、インド人の官吏の長にあつて巧妙に壓政を行ふ事が自由の仕組になつてゐる。例へば現在インドには上下兩院から成るインド議會があるけれども、その選擧資格は極度に制限され、官民半選である上に、重要な法案はすべて總督の內諾を得ざる限り議會に提出することが許されない。かうした微力な議會に對して、例へ議會に法案が提出されてもインド人側に有利なものは、總督の權限で否決し、英國に有利なものは通過出來るもので、事實上、財政及政策上の運營權を議會から奪ふ事が出來るものであつて、インド議會は形式的存在であつて、英國一流の名を與へて實を取るの統治法である。

獨立運動

英國の虐政に抗して反英事件は幾多の悲慘なる血を流して續けられて來たが、インド青年をして一大覺醒を與へたのは、我が國の日露戰爭の大勝であつた。日露戰爭に於ける日本の勝利は東洋人が歐米人に劣らない否優つてゐる事を如實に示した。このため果然インド獨立の志士を勃起せしめるに至つた。

果して一九〇六、七年頃より國民會議派のモウトーは單なる反英からインド獨立運動と代り、インド全土の街頭には民衆運動が行はれ、市中の威示行進は長蛇の列をなして遂ひに英國はその鎭壓に機關銃を使用し始めたのはこの時からである。次いで一九一四年、第一次大戰勃發はインドの獨立運動に絕好の機會を與へ、翌一九一五年にはラホール、ベナス、マンダレー等にインド獨立の烽火を擧げた。これに驚駭した英國は、兵站基地としてゐるインドの反抗を恐れて、英國一流の奸計を用ひ、一九一七年に戰後自活を與へると確く約束した。卽ちモンターギュ宣言を行はしめた。この宣言は反英運動を停止せしめたばかりでなく、積極的に對英援助を行はせるに成功した。大戰中インド兵の對外出兵は百二十萬、對英軍資金の援助は三十億圓に上り九十萬の戰死傷者を出したのである。

大戰終了後この血を流した奉仕に對する報酬として、イ

ンドに與へられたものは、自治でなく、獨立運動の彈壓を目的とした正式の手續はなくとも人民を逮捕し、公判に附する權利を政府に保證した一九一九年のローラット法にほかならなかつた。

陋劣な英國の欺瞞に對して、インド民衆が默過する筈がなく、遂ひに聖雄ガンヂーの指導下に三億五千萬の民衆は非協力運動の宣言を爆發せしめ、抗爭を開始した。英國の印度統治もここに於て機關銃のみならず飛行機による爆擊を行ふに至り、クシュランワラ村に襲擊した一機は五百人の婦女子を卽死させ、千五百人を負傷させる一大慘事を惹き起した。

然しその後も獨立運動は繰り返されて來た。一九三九年、第二次大戰勃發を動機に獨立運動は果然活潑となり、遂に英國は逮捕投獄の壓政を加へてその數無量數千名に達した。

「光は東方より」の敎典の敎を裏書きする如く、昭和十六年十二月八日、わが帝國は米英に對し宣戰を布告し、アジア被壓迫十億民族解放、アジア人の大アジア建設の大進軍を起し米英を各處に於て擊滅しつつ、比律賓を米國の手より救ひ、蘭印を和蘭より放ち、マレーを英國の壓政より奪ひ、ビルマを虐政より解放し、ビルマ人のビルマは建設された。ここに反英獨立運動は猛然と爆發し、全インド民族はガンヂーの指導下に起ち上つた。

氣候

インドは日本に數倍する面積を有してゐるので、その處によつては氣候は著しく異つてゐる。

インドは北回歸線を境にしてその北半が溫帶に、南半が熱帶に屬してゐるのであるが、事實はヒマラヤ山脈により區分されてゐて、ヒマラヤ山地北方が溫帶の氣候であり、ヒマラヤ山地から南にかけて全地域は熱帶的季節風に見舞はれてゐるので熱帶氣候となつてゐる。

一年の氣候は大體に於て乾期と雨期とに分かれて居り、乾期は十二月から五月へかけての頃であつて、冬期、季節風といはれる乾燥した大陸風が殆んど全インドを襲ひ、この季節は降雨は極めて少い。この乾期に反して雨期は大體五月から十一月頃までの間が雨量が多く、西南季節風が六月から九月までに全インドを訪れ、一ケ年の雨量の九割はこの期間にもたらせられる。

インドの豐かな產業はこの雨により實り、エジプトと同じく降雨量の多寡によつて農產業は支配され、モンスーンの訪れの遲いか早いかはインドの經濟に重大な影響を與へるもので、この雨をインド人は慈雨と稱してゐる。

主要産業事情

廣袤二百五十二萬三百五十平方キロの總面積と、三億七千萬の人口を擁し、氣候また熱帶、多雨に惠まれたインドの産業にはどの樣なものがあるかといふと、先づ農産物と畜産業である、これに次いで鑛業が印度の主要な産業となつてゐる。今その概略を記すると

農業

インドは古來より農業國として發展して來てゐて、いはば土壤に生きてゐる國である。

廣大なる面積、熱帶多雨の氣候、それに國土を網の目の如く縱貫橫走する大ガンヂス河、インダス河、その他の大小の河川によりその流域は豐饒なる土壤を育てあげ、インド人口の九割が六十萬農村に分布され、原始的な耕耘方法をとつて强く土にとけ着いてゐる。

主なる農産物は米、小麥、綿、茶、黃麻、護謨、珈琲、落花生等であり、米は一九三七年、生產高三三、一九一、〇〇〇トンで世界の五割を占め悠々第一位を占めてゐる。また小麥は九、八一八、〇〇〇トンで世界第三位を占め、今日世界に於ける小麥の重要な輸出國の一つに數へられ、棉花は六、二六一、〇〇〇俵で米國に次ぎ世界第二位の生產をあげ、黃麻九、六一一、〇〇〇俵は世界第一位で、その他護謨は六〇、〇六三、〇〇〇封度、茶三九五、一八〇、四〇〇封度、珈琲四一、一七二、〇〇〇封度、落花生は二、八〇九、〇〇〇トン、砂糖六、七二六、〇〇〇トンといふ生產額を示してゐる。

畜産業

インドは農業と共にまた素晴しい家畜の國である。熱帶の高溫と、濕潤の氣候は常時草木を成長させ、無限にこれら家畜を繁殖せしめ、一方農業の繁盛は役畜を增大ならしめ、その數は著しく多く、特に住民の六割五分を占めるインド敎徒にありては牛はブラーマの神の表現とされ、「お牛樣」として信仰の對照となつてゐる處からその飼育は宗敎的色彩を帶びて鄭重に扱はれ、牛に生れるなら印度の雄牛になれといはれてゐる、下手な人間より牛の方が遙かに優遇されてゐる。

牛はインドの農家には一、二頭は飼はれて居り、その頭數は一億二千萬頭で米國の二倍、家畜で知られてゐるアルゼンチンの四倍で世界第一位を占めて居り、緬羊は三千五百萬頭で世界第七位、駱駝は六十萬頭である。豚はインド敎徒も食しないが、回敎徒となると絕對に口にしないといふ宗敎的關係から少く、僅か拜火敎徒のパーシー族が豚肉

でもなんでも食するので彼等の間に於て飼育されてゐるに過ぎない。

鑛業

インドの鑛業は、從來より英國によりその重要なる資源は秘密に附されてゐたものが少くなく、その埋藏量の尨大なるを窺ひ知る事が容易に出來なかつた關係上、詳細を缺いてゐるが、鑛業資源として知られてゐる鑛物は、石炭を第一とし、次いで鐵鑛、マンガン鑛、タングステン、金、石油、クローム、銅鑛、雲母、發光石等である。

主要都市

インドは前にも述べた通り農業國であつて、總人口の九割は農村で占められ、インドには人口の都市集中といふ現象は顯著でない。

しかし大都市は割合に多く、人口十萬以上のものは約四十近くを數へる。このうち最も主要なものはカルカッタ市、ボンベイ市、ニューデリー市をもつてインドの三大都市と云はれてゐる。

カルカッタ市

カルカッタ市はベンガル州の首府、人口約百五十萬、英領中ロンドンに次ぐ大都會である。

石炭の年產額は一九三九年、三千萬トンであり、南方共榮圈ではインドをして第一位たらしめ、濠洲の二倍の產額に達してゐる。鐵鑛は二百八十萬トンでこれまた南方共榮圈で第一位を占め、マンガン鑛は百萬トンでこれも他を遙かに凌駕してゐる。石油はまだ產額少く三十二萬トン、銅は五千五百トン、クロームは四萬五千トン、金は一九三七年產額三十三萬オンス、雲母二千九百七十三萬斤、發光鑛十八萬一千トンである。

インド鑛業はまだ謎の富庫とされ、その將來は農產業と共に大いに期待されてゐるものである。

市

カルカッタが今日の盛況をみる樣になつたのは、東印度會社が創立されて以來鐵道や河川を利用してここを內地物產の中心地とし、また一方インド東海岸の海外貿易港とするため設備に努力した結果である。

ボンベイ市

ボンベイ市は西海岸の要港で、一小島上に建設された港である、人口約百二十萬、附近には十に餘る島がある。同島は一六六一年、英王チャールス二世がポルトガルの王女と結婚の時ポルトガル王より引物として送られた島で、當時より英人により建設された都市なれば印度內地の町と異

なつてゐて歐洲化し、インド氣分は餘り橫溢してゐない。

ニューデリー市

ニューデリー市はインドの中央點の上部に位してゐる、インドの首府でカルカッタに代つて全インドの政治の中心地となつてゐる。英人總督は當市に駐在して全インドを統治してゐる。人口凡そ四十五萬人、市街はさすが首都たるの偉容整ひ、總督政廳、インド議事堂、其他の官衙、學校、商社は櫛比し歐洲文化と印度文化が錯綜して華麗を極め、繁盛を示してゐる。當市は政治都市としてインド獨立運動の威示騷ぎと、英國の壓政をもつて世界に聞傳されてゐる。

セイロン島

セイロン島はインド南端の洋上最短距離四十哩の地點にある島で、面積四萬七百六十九平方キロ、マンゴーの葉に似た島である。北西岸のマナールとインド本土の南東にあるラメシワラとの間は、アダム橋と呼ばれてゐる淺い砂堤で繫がれ、マナールからは、この線に沿つてインド本土まで鐵道が通じてゐる。

中央部にはアダムス・ピークの峰をめぐつて千八百米乃至二千四百米の高峰が群り聳えその周圍は平原を形成してゐる。

セイロン島は英國の直轄植民地の一つとして印度とは別個に、セイロン島總督をもつて立法、行政の二部が置かれてゐた。

人口 は一九三九年の調査によると五百九十二萬二千でこのうち人口の約半數を占めてゐるのはシンハリース族である。

宗教 は佛教の發祥地だけに佛教が最も盛んで、シンハリース族の大部分が佛教徒である。

この他にヒンズー教、回教、基督教などがあるが、インドの樣にそれ程階級思想は喧しくない。

產業 セイロン島で最も重要な產物は茶、護謨、椰子、米などであるが、なかにも茶は、海外輸出品の主要なもので、一九三二年の輸出總額は二萬五千三百萬封度といはれる。護謨栽培の發達は近年目覺しく、一九三三年には一億一千百二十四萬二千封度が輸出された。またセイロンの椰子は第一次大戰後その產額は旺んとなつて來てゐる。

コロン米 はセイロン島の首府で、同島の西海岸に位し政治、經濟、文化、交通の中心地であるばかりでなく、インド洋の門戶を扼して世界交通上の重要な位置を占めてゐる。卽ち南は濠洲、南アフリカへ、東は日本、支那、ビルマへ、西はスエズを經て歐洲各國へ、更にインド大陸兩岸間の交通の要路に立つてゐて世界有數の港灣施設を誇つて居る。

濠洲篇

濠洲の略史

濠洲を最初に發見し、その概略を世に傳へたのはオランダ人であつた。十七世紀の頃オランダ東印度會社がジヤバ島に設立されて、この附近を航行する樣になつてから、この南方大陸濠洲が次第にその全貌を明かにされるに至つた。

最も早く濠洲を訪れたのはオランダ船デュキフヘン號で一六〇六年ニューギニアから西濠ロンドンデリー岬まで航行したが、彼自身はニューギニアだと考へて居た。エデルは一六一七年西濠のエデルランドに到り、更にレーウン號は一六二二年濠洲西海岸に到つた。その後も二、三の船が濠洲に辿りついたが、一六四四年有名な和蘭の探檢家タスマンが訪れてこの大陸にニューオランダの名を附した。

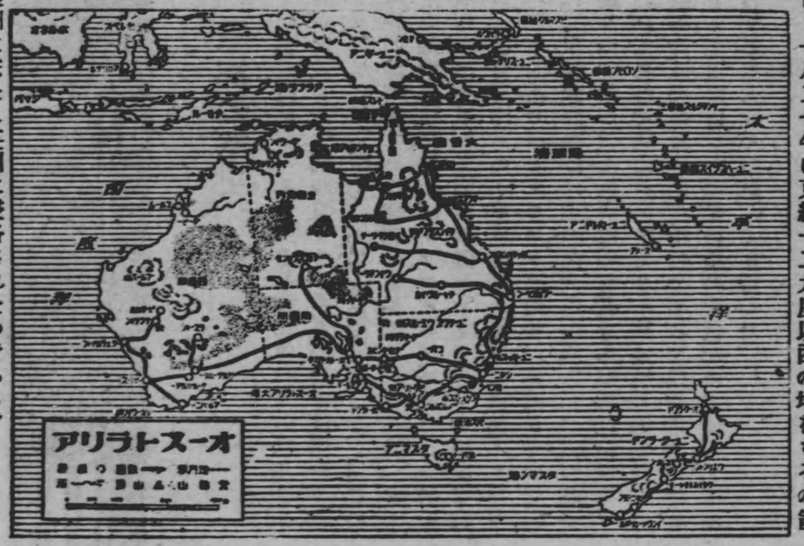
だが彼等は濠洲の最も肥沃地帶である東岸や東南岸を見究めずして茫漠たるこの地を利用の價値なき大陸として占領を宣言することなく歸航して仕舞つた。

×

その後十八世紀に入つて英人クックが一七六九年、ニュージランドを發して、彼は英國皇帝ジョーヂ三世の名の許に英國の領有を宣言し、ニュージランドを周航して西航し翌一七七〇年に濠洲の東海岸のボタニー灣に着いて英領を宣言し、次いで現在のシドニーの位置に到達し、更に北上してヨーク岬に達し、トレス海峽を通過することにより濠洲東海岸の全體を英領として宣言、これにニュー・サウス・ウエールズの名を附して南濠洲を英領とした。

一七八三年アメリカが獨立するに及んで從來の流刑植民地を失つた英國は、クックが一書を公にして『濠洲の地は雜草繁茂し、世界に於ける最良の牧場たり。加ふるに土壤濃黑にして總ゆる穀物の生產に適せり』と上奏したのに基いて一七八八年より濠洲處女地を流刑地として囚人による農業植民地とした。一八四二年探檢家フリンダースの提唱に基いてこの大陸全體より『ニュー・オランダ』の名を抹消して新たに『オーストラリア』の名稱に改められたがそれより先濠洲の眞價が次第に歐洲諸國に傳はるや、十八紀末から十九世紀初頭に亙つて、フランス人が來航して植民地を開かんとする形勢にあつたため英國は急遽各地に植民地

を建設し、一八二七年に東經一二九度以西の地をもその領域として、西濠洲と命名し、もつてニュー・サウス・ウエールズとウエスト・オーストラリアの二植民地よりなる全濠洲を英國領土たることを宣明して、ここに濠洲は完全に英國に侵略されたのである。



面積・人口

濠洲の面積は七七〇萬平方キロであつて、日本內地の約二十倍に相當し、アメリカ合衆國のそれにやや等しい。この尨大なる地域に、人口は最近やうやく六百八十萬（東京市の人口は七百萬）よりなく、なんのことはないアメリカ合衆國に東京の人口をばらまいたやうなものである。人口密度は一平方キロ僅か〇・九人でわが帝國の百四十五人に比すればいかに人口が稀薄であるかが窺はれる。しかもこの人口の大部分はシドニー、メルボルン、アデレード、その他二、三の都市に集中してゐて、これら都市の集中發達してゐる濠洲東南部を除いた地は未開の地となつてゐる。

濠洲の內陸は乾燥氣候のため大砂漠をなしてゐて、更に雨量の尠ないため人類の居住に適しない地域もかなりの面積を占めてゐるが、それでも總面積の三分の一以上の地域は未だ全く開かれざる處女地として無限を誇つてゐる。

濠洲に果して人口をどれほど包容出來るかに就いては、地理學者により幾多の議論があるが、大體四、五千萬から多い說によると二億と稱せられてゐる。

人口六百八十萬の中白人種六百五十八萬人で九割九分を占め、有色人種二千二百人、混血人種二千七百人、濠洲原住民は當時百萬から居住してゐたが、現在は五萬二千人となつて仕舞つた。

氣候

濠洲大陸の氣候は熱帶と溫帶に入つて居り、大體北部半分、ニューギニアに面してゐる地帶が熱帶圈內であつて「常夏の國」であり、南部が我國と同樣「溫帶の氣候」となつてゐて臺灣の臺北から東京の間の氣候に當つてゐる。

大體に區別すると以上の樣に熱帶と溫帶に二分出來るが、この樣な大陸はその地勢や海流等の關係に支配されてゐて、一樣ではない。

濠洲で最も氣候のよいニュー・サウス・ウエールズ州の首都シドニーに於ける氣溫の平均溫度は華氏六十二度であつて、冬でも溫暖にして常時牧羊に好適されて居り、今日の濠洲を牧羊國の寶庫たらしめた惠まれた氣候である。

濠洲大陸の中央奧地は大陸勢氣候によつて、常時熱帶酷暑の氣候にして、特に西オーストラリヤ州の中央北部よりの地帶は、海上よりの貿易風は海沿の高原により妨げられてゐるから酷熱地帶となつてゐる。

雨は東部諸高原は太平洋よりの貿易風の內陸への侵入を阻止し、また西部高原も夏の季節風の內地侵入を妨げてゐる關係上、濠洲は海洋に面してゐる周緣部のみは充分なる降雨を見るも、內陸の奧地帶は降雨量極めて少く、不毛の砂漠を形成してゐる。雨量は東海岸及北岸地方最も多く一五〇〇ミリ內外となつてゐる。

英國の壓政

英國がアメリカのヴアージニア流刑地を喪失するに及んで新たに濠洲が流刑植民地となつた。流刑者を移住せしめるや、英國はここに植民地を創設するに當つて、新たに開墾する事は困難と缺乏に堪ゆる大なる努力を必要とするが、原住民の既に居住してゐる土地を奪取する事は道義を無視すれば最も安易なる道であるとして、英國は嘗つてアメリカに於てインデアンを先住地より驅逐し、その土地を奪取した如く、濠洲に於てもその先例に洩れず原住民の先住地にして最も氣候良好、地味肥沃なる東南部の奪取を開始し、原住民の土地に闖入し、英國人により各所に於て幾多の慘劇が起され、原住民を驅逐或ひは殺戮さへした。

これがため濠洲原住民の運命は誠に憐れむべきものであつた。ポート・ヂヤクソンの原住民は、ここにフイリップの卒ひる最初の艦隊が上陸した時は二千五百人からであつたが、一八五三年には殘るもの僅か八人となつてゐた。ビクトリア州のギップスランドにおいては十五年間に八百人から僅か八十人に消滅し、ニュー・サウス・ウエールズ州のある部族は四年間に百六十四人より僅か三人、一八三五年に五百人ゐたオメオ部族は一八五三年には男二人、女三人とされた。この樣にして全濠の原住民は英人の渡來以來年々急速にその數を減少せしめられた。

就中、一八三五年のマイオール・クリークの慘虐はその

最もなるものにして、一擧に一種族全部が殺戮に遇つた事實は今尙人口に膾炙されてゐる。かくして當時百萬餘を算した原住民族は英人の絶滅政策の犧牲となつて、一九三七年には僅か五萬二千となり、多くは濠洲の熱帶不毛の地に追はれて滅亡の道を辿つてゐる。

英の濠洲原住民政策の暴露の故をもつて酷評を買つたシドニー大學教授ステフエン・ロバーツの著書に、更に濠洲の南タスマニア島の住民も同じく英人の犧牲となつた。曾つて二萬を算した彼等も、特にこの小島に隔離された最も凶惡なる英囚人のため虐殺され、また時に彼等に使嗾され同胞相噬む激烈なる民族鬪爭を行ひ、一八七六年この民族の最後の一人が死するに及んでその民族の宗教や、社會制度の數々は未知の多くのものを殘して絶滅してしまつた。

これが人道主義の假面をかぶつた英人の濠洲に於てとれる虐政を遺憾なく暴露して居る。

白濠主義

濠洲は一九〇一年、分立してゐた濠洲六植民地を打つて一丸とし、濠洲聯邦政府を作り、同時に實施された移民制限法を採用し、有色人種排斥の擧に出た。

アジアの濠洲を不法占據して、內に向つては原住民の絶滅に努め、外に向つては有色人種なりとして、アジア人の入國を禁止し英國の過剩人口の調節辨たらしめようとするのがこの白濠主義の主張であつた。

然らば何故に濠洲が有色人種を排斥して入國禁止同樣の移民制限法を施行するに至つたか、それには幾多の理由があるが最も表面に出てゐるのは、安價にして勤勉なる有色人種の勞働力は濠洲勞働者の脅威であると共に國防的脅威であるといふものであつた。

×

濠洲の移民制限以前の開發の當初は、多數のアジア人勞働者を入れ開發に努めた。そのうち最も多數であつたのは支那人で、彼等は一八五八年頃には四萬人から渡濠し、濠洲の礦山開發はこれら支那人の力に負ふところが大であつた。又英人の全く勞働に堪へない熱帶濠洲のボート・ダウインからハインクリークに至る濠洲橫斷鐵道の建設も彼等の苦鬪によつてはじめて完成を見たものである。實に濠洲の開發はアジア人に負ふ處大なるにこれに報ゆるに明治二十一年の支那人排斥運動を以つてした。

×

邦人の渡航は支那人の渡航より後れ、開發當初は盛んに邦人の渡濠を歡迎した、當時南濠政府は北部地方開發のため、明治十年、ウイルトン・ハックなるものを東京に派して、我國の自由農民の入植を交涉せしめた。我政府では三、四百名の農民を渡濠せしむるに內諾を與へたが、偶々西南役の勃發によりこの計畫は實現し得なかつた。その後明治十六年に最初の契約移民として三十七名がトレス海峽の眞珠貝採收のために渡航したのを始めとして、クインス・ラン

ドの甘蔗栽培のため約一千人が渡航するといふ樣にして邦人數は次第に增加され、明治三十三年には約四千人に及んだが、それは今に至るまで濠洲邦人の極點となつてゐる。

×

濠洲政府が有色人種の移民制限法を施行するに至らしめた理由の一に國防問題がある。

濠洲はアジア人の增加をもつて國防的脅威と考へてゐた。日淸戰爭によつて支那の國力が暴露されるまでは支那は「眠れる獅子」として世界に恐れられてゐた。濠洲の假想敵國が支那であつたことは支那人の移民制限が明治二十一年に既に施行され、邦人の渡航は歡迎してゐたが日淸戰爭で日本の大勝利を見るや驚駭し、我國を假想敵國として遂に明治三十五年、全アジア人の移民制限を行つたものである。

×

以上は表面に出た白濠主義の原因であるが、裏面のもう一つ見逃すことの出來ないのは、英國の濠洲統治政策である。

英國はかつての植民地アメリカが、國力增大するや本國離反の獨立運動が勃發され、鎭定せんとして戰つたが、植民地アメリカのため本國軍隊は敗北して遂に一七八三年獨立した。この苦い經驗より、濠洲の開發を或る限界に止めて、國力の發達を阻止し、永久に忠實なる植民地たらしめようとする政策の現れが、このアジア移民の制限法をとらしめた。

白濠主義に基く人的資源の缺乏は濠洲の工業、鑛業の發達を阻止し、また濠洲自體による國防國家完成を妨壓せしめ、濠洲をして英本國の工業に緊縛し、一方英國の艦隊なくしては濠洲は一日たりとも晏如たり得ない狀態に置くといふ老獪なる政策が白濠主義として成功し、內に住民の安逸の生活を增長せしめると云ふ巧妙なる政策によるものである。

これは濠洲現在の事實がこれを明かに證明してゐるではないか。

主要產業事情

概說

濠洲の產業は牧畜を第一位とし、次いで農業、鑛業が中樞を占め、酪農も相當の生產額を示してゐる。その他工業、林業、漁業等となつてゐて、原料資源地として育てられて來た國である。

濠洲の產業を簡單に理解するために、現在の濠洲經濟がいかなる產業部門より構成されてゐるかを、一九二九年よ

り一九三八年までの十ケ年平均の各産業の生産額と輸出額の比率を掲げる。

——濠洲篇——	生産額（千濠磅）	全生産額比率%	輸出額（千濠磅）	全生産額比率%
農業	七八、六四三八	二〇・七四	二九、五七七	二四・七一
牧畜業	八六、四九三四	二三・五一	五九、四六一五	四九・六八
酪農業	四六、四四一	一二・〇八	一〇、八一九三	九・〇四
鑛業	二〇、三三六七	五・二七	一三、四六三三	一一・二五
林・漁業	一〇、六〇七九	二・七六	一、二九四七	一・〇八
計原始産業	二四二、四三三九	六三・九一	一二四、六一五四	九五・六五
工業	一四一、八三五七	三六・九一	五、〇七九四	四・二四
總計	三八四、二四八六	一〇〇・〇〇	一二九、六九四八	一〇〇・〇〇

濠洲の産業の構成は右の諸産業より成つてゐる。次に各主要産業の概略を記載すると

牧畜業

牧畜業は現在の濠洲産業の白眉であるが、曾つて一七八八年、フイリップの率ゐる最初の艦隊が到着した時、囚人とともに齎らされた家畜の數は馬が七頭、牛六頭、羊二十九頭、豚十二頭、山羊數頭に過ぎなかつた。だが「濠洲は世界に於ける最良の牧場なり」と喝破した、かのキップテン・クックの豫見に違はず今日の濠洲牧畜業は、世界第一位の地位を占めるまでに到達した。

牧羊の數は、一九三七年には一、一三三八萬頭で、これに亞ぐソ聯の六六〇萬頭を斷然引離して世界第一位を占めてゐる。これは六百八十萬の濠洲人口に比べると實に十六倍半に匹敵してゐる。

濠洲の羊は四五%までがニュー・サウス・ウエールズ州にあり、二〇%がクインス・ランド州に、一六%がビクトリア州にあるから、羊の大半は濠洲の東南部に集中してゐることになる。元來牧羊は極端な寒冷さを持たない比較的乾燥した氣候を必要とする自然的條件に制肘されるため、北半球の溫帶では冬季適せず、南半球の溫帶が好適されてゐる。殊に濠洲東南部はその搖籃地として濠洲の羊群をして今日の「羊の國」たらしめたのである。

羊毛用の羊は本來の英種羊と、メリノ羊及びこれらの雜種であるが、雜種は羊毛のほか羊肉をも供給するに役立つ、一九三七年、冷凍羊肉として五二三萬磅、羊として四、七〇〇〇磅が輸出された。羊毛生産額は一、〇二三四萬封度で世界第一位を占め、これに次ぐ米國の四四五〇萬封度を斷然壓倒してゐる。

牛は羊ほど重要産業ではないが、濠洲では約一、三五〇萬頭で北クイス・ランド州及ニュー・サウス・ウエールズ州、ビクトリア州等が盛んであり、一九三七年には牛肉一三、三六八一萬封度が生産され、その四分の一は鑵詰牛肉として輸出されてゐる外、ミルク、チーズ、バターなどの酪農品を産し、バターは濠洲輸出品の主要品で、デンマーク、ニュージランドにつぐ世界第三位の地位にある。

この他、馬が約一八〇萬頭で耕耘に使用されるもので、豚は百二十萬頭を超え、ビクトリヤ、ニュー・サウス・ウエールズ及クインス・ランド州に於て飼養されてゐる。

農業

農業は牧畜業に次ぐ重要産業であつて、彼等の主要食たる小麥を第一として、大麥、玉蜀黍がこれにつぎ、その他馬鈴薯、甘藷、甜菜、葡萄、果實等が主作物となつてゐる。濠洲の耕地面積は、全濠の約二%に足らずといふ狀態にして濠洲の農業は人的資源の不足のため、その半は大規模な機械化耕作が行はれてゐる。

——濠洲篇——	種別	作付面積（牧羣單位千エーカー）（一九三六—七年）	收穫（單位千ブッシェル）
小麥		一三、三一七	一五一、三九〇
燕麥		一、五三五	一六、六六二
大麥		四七〇	七、三三七
玉蜀黍		三一八	七、二四六
牧草		三、一〇一	三、四七八
馬鈴薯		一三〇	四六一（單位千噸）
甘藷		三五九	五、四四六
甜菜		三	四〇九（單位千グレープ噸）
葡萄		一三三	八、五一七（單位千磅）
果實類		二七	

小麥は濠洲の農産物中最も重要なもので、その氣候ニュー・サウス、ウエールズ、ビクトリア等を主産地として、南濠洲に七五%、西濠洲に二三%となつてゐる。燕麥は小麥に適する地方よりも濕潤且つ冷涼な地方に發育し、從つてその半はビクトリア州に栽培され、大部分は飼料となつてゐる。玉蜀黍に適する氣候の地區が相當廣大であるからその將來は注目されてゐる。甘蔗はクインス・ランドの溫暖な海岸地帶に盛んに栽培されて居り、果實はその生産時期が北半球と正反對になるため、歐洲市場に供給され、ビクトリヤ及タスマニアから多く産出し、葡萄は南濠高地の傾斜地とマレー盆地の灌漑地とを特産地としてゐる。

鑛業

濠洲の鑛物資源は廣く分布してゐる。多數の白人移住者を最初に濠洲に引寄せたのは濠洲の金鑛發見であつた。黃金狂時代を現出したがその後一時低下しつつあつたが、近年再び上昇を示し、年産一千萬乃至一千二百萬磅を上下してゐる。一九三七年の濠洲の産額は、金一一九九磅、銀と鉛は一五〇磅、銅一一六磅、鐵二一四磅、錫八六磅、タングステン一九磅、亞鉛一七八磅、石炭七三三磅、其他鑛物五四八磅である。

鐵鑛は全濠に亙つて廣く分布してゐるが、今のところ最大埋藏地域は西濠のヤンピサウンドと南濠のアイアンノブであつて、その見積埋藏量は前者は一億トン、後者は一億五千萬トンといはれてゐる。